一級河川山国川築堤関係
埋蔵文化財調査報告　5

上唐原了清遺跡Ⅱ

福岡県築上郡大平村所在遺跡の調査

2000

福岡県教育委員会

一級河川山国川築堤関係
埋蔵文化財調査報告　5

上唐原了清遺跡Ⅱ

福岡県築上郡大平村所在遺跡の調査

上唐原了清遺跡出土の縄文時代遺物

序

本書は、福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局から委託を受けて、平成４年度から実施している一級河川山国川築堤工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録であります。

発掘調査では縄文時代の遺構や、弥生から江戸時代にかけての集落跡が確認されました。ことに縄文時代の遺構からは土偶や勾玉の他、多量の縄文土器や石器が出土しており、貴重な資料を得ることができました。今回の報告は平成７・８年度の２ヶ年にわたって調査を行なった上唐原了清遺跡のうち、縄文時代から古墳時代の遺構と遺物についてまとめたものです。

本書が文化財保護思想の普及や学術研究の資料として活用されることを望みます。

なお、発掘調査に際し、地元の方々をはじめ関係各位のご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げる次第です。

平成12年３月31日

福岡県教育委員会
教育長　光安　常喜

例　　言

1．本書は、平成７・８年度に福岡県教育委員会が、建設省大分工事事務所から委託を受けて実施した、一級河川山国川河川改修に伴う埋蔵文化財-上唐原了清遺跡-の発掘調査記録である。

2．本書に掲載した遺構図は木下修・近砂みゆき・三吉きよみ・高畑由美子・木下秀子・吉村靖徳が作成した。遺構写真は木下・吉村が撮影し、空中写真はフォトオオツカ及び空中写真企画に委託した。

3．出土遺物の整理は九州歴史資料館及び県教育庁文化財保護課甘木事務所にて行なった。

4．出土遺物の実測は縄文時代石器を中間研志・秦憲二・今井涼子・松崎卓郎が、その他を大野愛里・西田美子・秋吉邦子・辻啓子・原富子・丸山小夜子・江上佳子・大場佐世子・棚町陽子・若松三枝子・吉村が行なった。

5．縄文時代石器観察表は磨製石斧・打製石斧を中間が、その他を秦・吉村が作成した。

6．出土遺物の写真撮影は北岡伸二が行なった。巻頭図版は石丸洋の撮影による。

7．製図は豊福弥生・原カヨコ・中間・今井が行なった。

8．本書の執筆・編集は吉村が行なった。

本文目次

第１章　はじめに ……1
　１．調査に至る経過 ……1
　２．調査の経過 ……1
　３．調査体制 ……2
第２章　位置と環境 ……4
　１．地理的環境 ……4
　２．歴史的環境 ……4
第３章　調査の内容 ……10
　１．調査概要 ……10
　２．縄文時代の遺構と遺物 ……10
　３．弥生時代から古墳時代の遺構と遺物 ……81
第４章　総括 ……110
　１．縄文時代の上唐原了清遺跡 ……110
　２．弥生時代から古墳時代の上唐原了清遺跡 ……118

図 版 目 次

巻頭図版

図版１　１　了清遺跡全景（北から・空中写真）
　　２　了清遺跡２区全景（西から・空中写真）
図版２　１　了清遺跡３－１区全景（左が北・空中写真）
　　２　了清遺跡３－２区全景（北西から・空中写真）
図版３　１　１号落込状遺構全景（右が北・空中写真）
　　２　同上　土層（東から）
　　３　２号落込状遺構全景（左が北・空中写真）
図版４　１　２号落込状遺構最下層ピット（東から）
　　２　同上　植物遺体検出状況（西から）
　　３　同上　９層遺物出土状況（北から）
図版５　１　２号落込状遺構遺物出土状況１
　　２　同上　遺物出土状況２
　　３　同上　遺物出土状況３
図版６　１　３号落込状遺構全景（下が北・空中写真）
　　２　同上　土層（東から）
　　３　同上　遺物出土状況
図版７　１　１号住居跡（東から）
　　２　同上　遺物出土状況（北西から）
　　３　３号住居跡（東から）
図版８　１　３－１区南半部住居跡群（空中写真・右が北）
　　２　４・５・６号住居跡（北東から）
図版９　１　７号住居跡（東から）
　　２　８～11号住居跡（空中写真・右が北）
図版10　１　８号住居跡（東から）
　　２　同上　遺物出土状況（東から）
　　３　同上　遺物出土状況（北から）
図版11　１　９号住居跡（東から）
　　２　同上　遺物出土状況（南西から）
　　３　同上　遺物出土状況（東から）
図版12　１　10・11号住居跡（北東から）
　　２　12・13・18号住居跡（東から）
　　３　12号住居跡遺物出土状況（南西から）
図版13　１　16号住居跡（北から）

2　同上　カマド検出状況（南から）
3　同上　カマド（南から）
図版14　1　17号住居跡（東から）
2　20号土坑（北から）
3　22号土坑（東から）
図版15　1　29号土坑（北から）
2　30号土坑（北東から）
3　同上　遺物出土状況（北西から）
図版16　1　43号土坑（南から）
2　44号土坑（西から）
3　45号土坑（南から）
図版17　1号落込状遺構出土土器1
図版18　1号落込状遺構出土土器2
図版19　1号落込状遺構出土石器1
図版20　1号落込状遺構出土石器2・土製品
図版21　2号落込状遺構出土土器1
図版22　2号落込状遺構出土土器2
図版23　2号落込状遺構出土土器3
図版24　2号落込状遺構出土土器4
図版25　2号落込状遺構出土土器5
図版26　2号落込状遺構出土土器6
図版27　2号落込状遺構出土土器7
図版28　2号落込状遺構出土石器1
図版29　2号落込状遺構出土石器2
図版30　2号落込状遺構出土石器3・土製品・石製品
図版31　3号落込状遺構出土土器1
図版32　3号落込状遺構出土土器2
図版33　3号落込状遺構出土土器3
図版34　3号落込状遺構出土土器4
図版35　3号落込状遺構出土土器5
図版36　3号落込状遺構出土土器6
図版37　3号落込状遺構出土土器7
図版38　3号落込状遺構出土土器8
図版39　3号落込状遺構出土石器1
図版40　3号落込状遺構出土石器2
図版41　3号落込状遺構出土石器3・石製品・土製品
図版42　その他の遺構・層位出土遺物1

図版43　その他の遺構・層位出土遺物２
図版44　１・４号住居跡出土土器・鉄器
図版45　７・８号住居跡出土土器・石器
図版46　８号住居跡出土土器
図版47　９号住居跡出土土器
図版48　９・11・12号住居跡出土土器
図版49　12号住居跡出土土器
図版50　12・15・16号住居跡出土土器・鉄器
図版51　16号住居跡出土土器
図版52　16・17号住居跡出土土器
図版53　22・29・30・41号土坑出土土器・石器
図版54　43・45号土坑、その他の遺構・層位出土土器１
図版55　その他の遺構・層位出土土器２
図版56　その他の遺構・層位出土土器３
図版57　その他の遺構・層位出土土器４
図版58　その他の遺構・層位出土土器５・鉄器・青銅器

挿図目次

第１図　大平村位置図 ……4
第２図　周辺主要遺跡分布図１（縄文時代）（1/50,000） ……5
第３図　周辺主要遺跡分布図２（弥生時代～古墳時代）（1/50,000） ……7
第４図　周辺地形図・遺構配置略図（1/2,000・１/1,000） ……9
第５図　１号落込状遺構実測図（1/80） ……11
第６図　１号落込状遺構出土土器実測図１（1/3） ……12
第７図　１号落込状遺構出土土器実測図２（1/3） ……13
第８図　１号落込状遺構出土土器実測図３（1/3） ……14
第９図　１号落込状遺構出土土器実測図４（1/3） ……15
第10図　１号落込状遺構出土石器実測図１（1/1） ……16
第11図　１号落込状遺構出土石器実測図２（1/1・2/3） ……17
第12図　１号落込状遺構出土石器実測図３（1/2） ……18
第13図　１号落込状遺構出土石器実測図４（1/2） ……19
第14図　１号落込状遺構出土石器実測図５（1/2） ……20
第15図　１号落込状遺構出土石器実測図６（1/2） ……21
第16図　１号落込状遺構出土石器実測図７（1/2） ……22
第17図　１号落込状遺構出土石器実測図８（1/3） ……23
第18図　１号落込状遺構出土土製品・石製品実測図（1/2・1/1） ……23
第19図　２号落込状遺構実測図（1/80） ……24
第20図　２号落込状遺構出土土器実測図１（1/3） ……25
第21図　２号落込状遺構出土土器実測図２（1/3） ……26
第22図　２号落込状遺構出土土器実測図３（1/3） ……27
第23図　２号落込状遺構出土土器実測図４（1/3） ……28
第24図　２号落込状遺構出土土器実測図５（1/3） ……29
第25図　２号落込状遺構出土土器実測図６（1/3） ……30
第26図　２号落込状遺構出土土器実測図７（1/3） ……31
第27図　２号落込状遺構出土土器実測図８（1/3） ……32
第28図　２号落込状遺構出土土器実測図９（1/3） ……33
第29図　２号落込状遺構出土土器実測図10（1/3） ……34
第30図　２号落込状遺構出土土器実測図11（1/3） ……35
第31図　２号落込状遺構出土石器実測図１（1/1） ……37
第32図　２号落込状遺構出土石器実測図２（1/1・2/3） ……38
第33図　２号落込状遺構出土石器実測図３（2/3） ……39
第34図　２号落込状遺構出土石器実測図４（1/2） ……40
第35図　２号落込状遺構出土石器実測図５（1/2） ……41

第36図　2号落込状遺構出土石器実測図6（1/2）……42
第37図　2号落込状遺構出土石器実測図7（1/2）……43
第38図　2号落込状遺構出土石器実測図8（1/2）……44
第39図　2号落込状遺構出土石器実測図9（1/2）……45
第40図　2号落込状遺構出土石器実測図10（1/3）……46
第41図　2号落込状遺構出土石器実測図11（1/3）……47
第42図　2号落込状遺構出土土製品・石製品実測図（1/2・1/1・1/3）……48
第43図　3号落込状遺構実測図（1/80）……49
第44図　3号落込状遺構出土土器実測図1（1/3）……50
第45図　3号落込状遺構出土土器実測図2（1/3）……51
第46図　3号落込状遺構出土土器実測図3（1/3）……52
第47図　3号落込状遺構出土土器実測図4（1/3）……53
第48図　3号落込状遺構出土土器実測図5（1/3）……54
第49図　3号落込状遺構出土土器実測図6（1/3）……55
第50図　3号落込状遺構出土土器実測図7（1/3）……56
第51図　3号落込状遺構出土土器実測図8（1/3）……57
第52図　3号落込状遺構出土土器実測図9（1/3）……58
第53図　3号落込状遺構出土土器実測図10（1/3）……59
第54図　3号落込状遺構出土土器実測図11（1/3）……60
第55図　3号落込状遺構出土土器実測図12（1/3）……61
第56図　3号落込状遺構出土土器実測図13（1/3）……62
第57図　3号落込状遺構出土土器実測図14（1/3）……63
第58図　3号落込状遺構出土石器実測図1（1/1）……64
第59図　3号落込状遺構出土石器実測図2（1/1）……65
第60図　3号落込状遺構出土石器実測図3（2/3）……66
第61図　3号落込状遺構出土石器実測図4（2/3）……67
第62図　3号落込状遺構出土石器実測図5（1/2）……68
第63図　3号落込状遺構出土石器実測図6（1/2）……69
第64図　3号落込状遺構出土石器実測図7（1/2）……70
第65図　3号落込状遺構出土石器実測図8（1/2・1/3）……71
第66図　3号落込状遺構出土石器実測図9（1/3）……72
第67図　3号落込状遺構出土土製品・石製品実測図（1/2・1/3・1/1）……73
第68図　54・56号土坑実測図（1/30）……74
第69図　54・56号土坑出土土器実測図（1/3）……75
第70図　その他の遺構・層位出土土器実測図（1/3）……75
第71図　その他の遺構・層位出土石器実測図1（1/1）……76
第72図　その他の遺構・層位出土石器実測図2（1/1・2/3）……77
第73図　その他の遺構・層位出土石器実測図3（1/2）……78

第74図　その他の遺構・層位出土石器実測図４（1/2）……79
第75図　その他の遺構・層位出土石器実測図５（1/2）……80
第76図　その他の遺構・層位出土石器実測図６（1/3・1/2）……81
第77図　１号住居跡実測図（1/60）……82
第78図　１号住居跡出土土器・石器実測図（1/4・1/3）……82
第79図　３・４号住居跡実測図（1/60）……83
第80図　４号住居跡出土鉄器実測図（1/2）……84
第81図　５・６号住居跡実測図（1/60）……84
第82図　７・８号住居跡実測図（1/60・1/30）……85
第83図　７・８号住居跡出土土器・石器実測図（1/3・1/4）……87
第84図　９～11号住居跡実測図（1/60・1/30）……89
第85図　９・11号住居跡出土土器実測図（1/4）……90
第86図　12～15号住居跡実測図（1/60）……91
第87図　12号住居跡出土土器実測図（1/4）……93
第88図　12・15号住居跡出土土器・鉄器実測図（1/4・1/3）……94
第89図　16号住居跡実測図（1/60）……94
第90図　16号住居跡カマド実測図（1/40）……95
第91図　16号住居跡出土土器実測図（1/4）……96
第92図　17・18号住居跡実測図（1/60）……97
第93図　16・17号住居跡出土土器実測図（1/4）……98
第94図　20号土坑実測図（1/40）……98
第95図　22・29・30・37号土坑実測図（1/30・1/40）……99
第96図　22・29・30号土坑出土土器・石器実測図（1/4・1/3）……100
第97図　41・42号土坑実測図（1/40）……101
第98図　41号土坑出土土器実測図（1/4）……102
第99図　43号土坑実測図（1/60）……102
第100図　44号土坑実測図（1/60）……103
第101図　45号土坑実測図（1/40）……104
第102図　43・45号土坑出土土器実測図（1/4）……104
第103図　その他の遺構・層位出土遺物実測図１（1/4）……107
第104図　その他の遺構・層位出土遺物実測図２（1/4・1/3・1/1・1/2）……108
第105図　豊前地域出土土偶実測図（1/3）……116
第106図　時期別遺構配置状況図（1/400）……117

付図　上唐原丁清遺跡遺構配置図（1/400）

第１章　はじめに

１．調査に至る経過

一級河川山国川築堤工事については、平成３年度の建設省九州地方建設局大分工事事務所からの文化財に関する協議に端を発する。その後、大分工事事務所の依頼を受け、福岡県教育庁文化課（現文化財保護課）が試掘調査を行った。その結果、埋蔵文化財が確認された部分については、事前に発掘調査を実施して記録保存の措置を講じることとなった。発掘調査は初年度の上唐原稲本屋敷遺跡を平成４年４月から行ない、最終年度の上唐原了清遺跡を平成９年１月に終了している。

なお、山国川築堤にかかる発掘調査報告書は以下のとおりである。

『上唐原稲本屋敷遺跡　一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告１』1997年
『下唐原宮園遺跡　一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告２』1998年
『百留居屋敷遺跡　一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告３』1999年
『上唐原了清遺跡Ⅰ　一級河川山国川関係埋蔵文化財調査報告４』1999年
『上唐原了清遺跡Ⅱ　一級河川山国川関係埋蔵文化財調査報告５』2000年（本書）
『上唐原了清遺跡Ⅲ　一級河川山国川関係埋蔵文化財調査報告６』2001年刊行予定

２．調査の経過

発掘調査は平成７・８年度の２ヶ年に実施した。以下、調査の経過について簡単に記す。

平成７年　８月23日　重機による表土剝ぎ開始（第２次調査）。
９月４日　ユニットハウス設置。
９月５日　発掘機材搬入。
９月６日　作業員を投入し発掘作業を開始する。
９月19日　南端区の全体写真撮影。
10月31日　南端区の調査終了。
11月22日　空中写真撮影。精査開始。
12月４日　全体写真撮影。
12月11日　重機による埋め戻し開始。
12月21日　機材撤収。第２次調査終了。

平成８年　６月３日　Ⅰ区の重機による表土剝ぎ開始（第３次調査）。
６月10日　ユニットハウス設置。
６月11日　機材搬入。作業員を投入し発掘作業を開始する。
10月17日　空中写真撮影。
10月18日　精査開始。
10月21日　Ⅱ区の遺構検出開始。
12月20日　空中写真撮影。
12月21日　精査開始。

平成９年　１月24日　機材撤収。第３次調査終了。

3．調査体制

発掘調査（平成７・８年度）及び報告書作成（平成11年度）に係る関係者は次のとおりである。

	平成７年度	平成８年度	平成11年度
建設省九州地方建設局			
大分工事事務所			
所長	菅原　信二	菅原　信二	上田　　敏
副所長（事務）	林田　　信	荒田　紀雄	重松　和美
副所長（河川）	野上　昭治	加次屋義信	勝木　和徳
調査第一課長	内田　久男	内田　久男	河野　忠彰
同　　計画係長	三浦　一浩	広松　洋一	柳田　公司
同　　主任	加藤　光男		
中津出張所長	橋村　和敏	中原　鶴見	石田　隆二
同　　事務係長	丸谷順次郎	丸谷順次郎	西野　久美
同　　技術係長	田中　満昭	小野　富雄	松尾　仙彦
同　　技術吏員	苅野　家次	苅野　家次	中川健二郎
福岡県教育委員会			
総括			
教育長	光安　常喜	光安　常喜	光安　常喜
教育次長	松枝　　功	松枝　　功	藤吉純一郎
指導第二部長	丸林　茂夫	竹若　幸二	
総務部長			岩本　　誠
文化課長	松尾　正俊	松尾　正俊 石松　好雄	
文化財保護課長			柳田　康雄
文化財保護室長	柳田　康雄	柳田　康雄	
参事			井上　裕弘
課長補佐	元永　浩士	元永　浩士	角　　伸幸
課長技術補佐	井上　裕弘	井上　裕弘	橋口　達也
庶務			
管理係長	柴田　恭郎	黒田　一治	角　　伸幸
事務主査	久保　正志	久保　正志	吉武　祐二
		東　　健二	
主任主事	高田　裕康		田中　利幸
調査			
調査班総括	橋口　達也	橋口　達也	
調査第一係長			児玉　真一
調査第二係長			佐々木隆彦

参事補佐	木下　修（調査）	木下　修（調査）	中間　研志
	中間　研志	中間　研志	
	小池　史哲	小池　史哲	
技術主査			伊崎　俊秋
主任技師	吉村　靖徳（調査）	吉村　靖徳（調査）	吉村　靖徳（報告） （北九州教育事務所）

整理

主任技師	重藤　輝行（遺物整理）
整理指導員	岩瀬　正信（復元）
	平田　春美（土器実測）
	北岡　伸一（写真撮影）
	豊福　弥生（製図）

発掘作業員

井上チヨ子・坪根百代・瀬戸坂シメノ・重吉秀子・北明年枝・渡辺靖・金山幸子・榎垣弥生・村上照子・金山定子・村口フサ子・村上トミ子・東和子・高見洋子・道免アサノ・岸本八重子・藤本久子・松本愛子・吉村レイ子・白木スナエ・野間口久子・近砂みゆき・噌西操・三吉きよみ・高畑由美子・臼木スナエ・佐山彰子・木下秀子・川野礼子・田城芳美・村上ミヨ子・円入尚美・大森エミ子

整理作業員

棚町洋子・原カヨ子・土山真弓美・安永啓子・若松三枝子・山田智子・辻清子・比嘉百合野・大野愛里・西田美代子・秋吉邦子・辻啓子・原富子・丸山小夜子・江上佳子・大場佐世子・石井紀美子・窪山頼子・秋山美恵子・平塚もなみ・有馬信子・鬼木美知子・奥村千恵子・平石史子・武藤睦子・植山洋子・栗栖絹子・津田秀子・松島加代子・古賀陽子・竹田まち子・坂口好子・辻光子・渡辺ひとみ・長野勝子

なお、発掘調査にあたっては、大平村上唐原区長をはじめ、福岡県文化財保護指導員・宮本工氏、大平村教育委員会・末永浩一氏、豊前市教育委員会・栗焼憲児氏、教育庁京築教育事務所・飛野博文（現在北筑後教育事務所）氏に種々の便宜をはかって頂くとともに指導・助言を得た。また、報告書作成にあたっては教育庁福岡教育事務所・水ノ江和同氏の協力を得た。ここに感謝いたします。

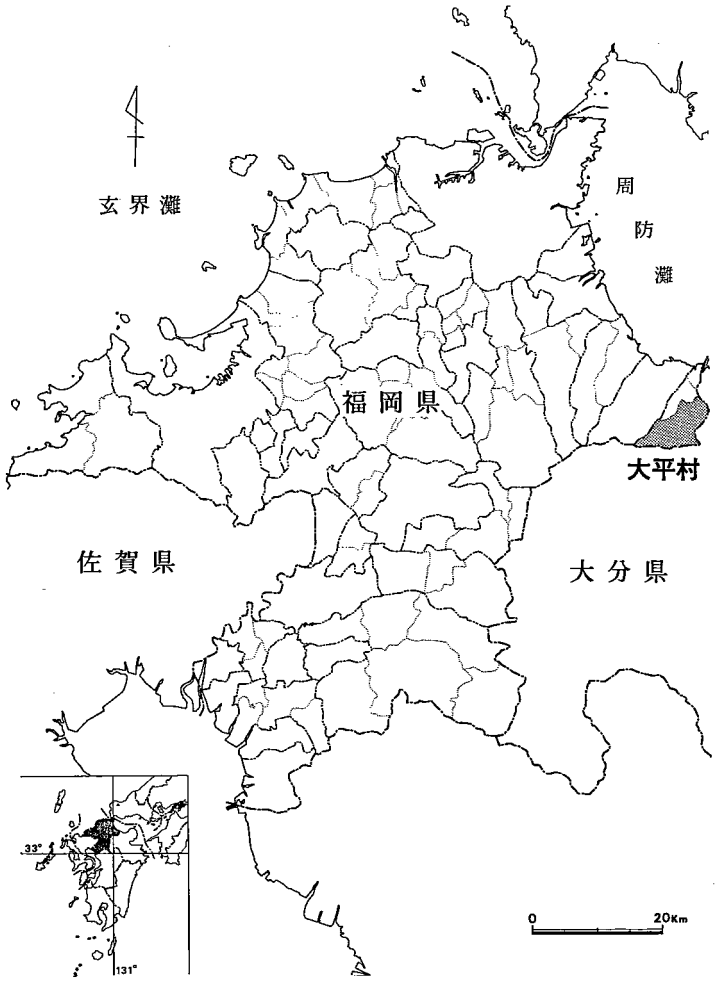
上唐原了清遺跡と築堤

第２章　位置と環境

１．地理的環境

上唐原了清遺跡は福岡県築上郡大平村大字上唐原字了清に所在する（第１～３図)。唐原の地名は多布寺という寺名に由来するという。大平村は福岡県の東端部にあたり、東は大分県中津市・三光村・本耶馬渓町、南は大分県耶馬渓町と、西は豊前市、また、北は新吉富村と接している。大平村の大部分は山地であり、雁又山を中心として北東に開けた細い谷が多数存在している。村の東には雁又山・瓦岳・大平山を結ぶ英彦山山系に源を発する一級河川山国川が北流しており、この河川は福岡県と大分県を分かっている。この山国川中流域には頼山陽に絶賛された奇岩・断崖からなる奇勝耶馬渓を擁する。また、下流域の沖積地には自然堤防が発達しており、当遺跡もまた左岸の自然堤防上に位置する。山国川の流れ込む周防灘からは７kmほど遡った位置にあたる。遺跡の中心の極座標は北緯33度33分50秒、東経131度11分30秒。

２．歴史的環境

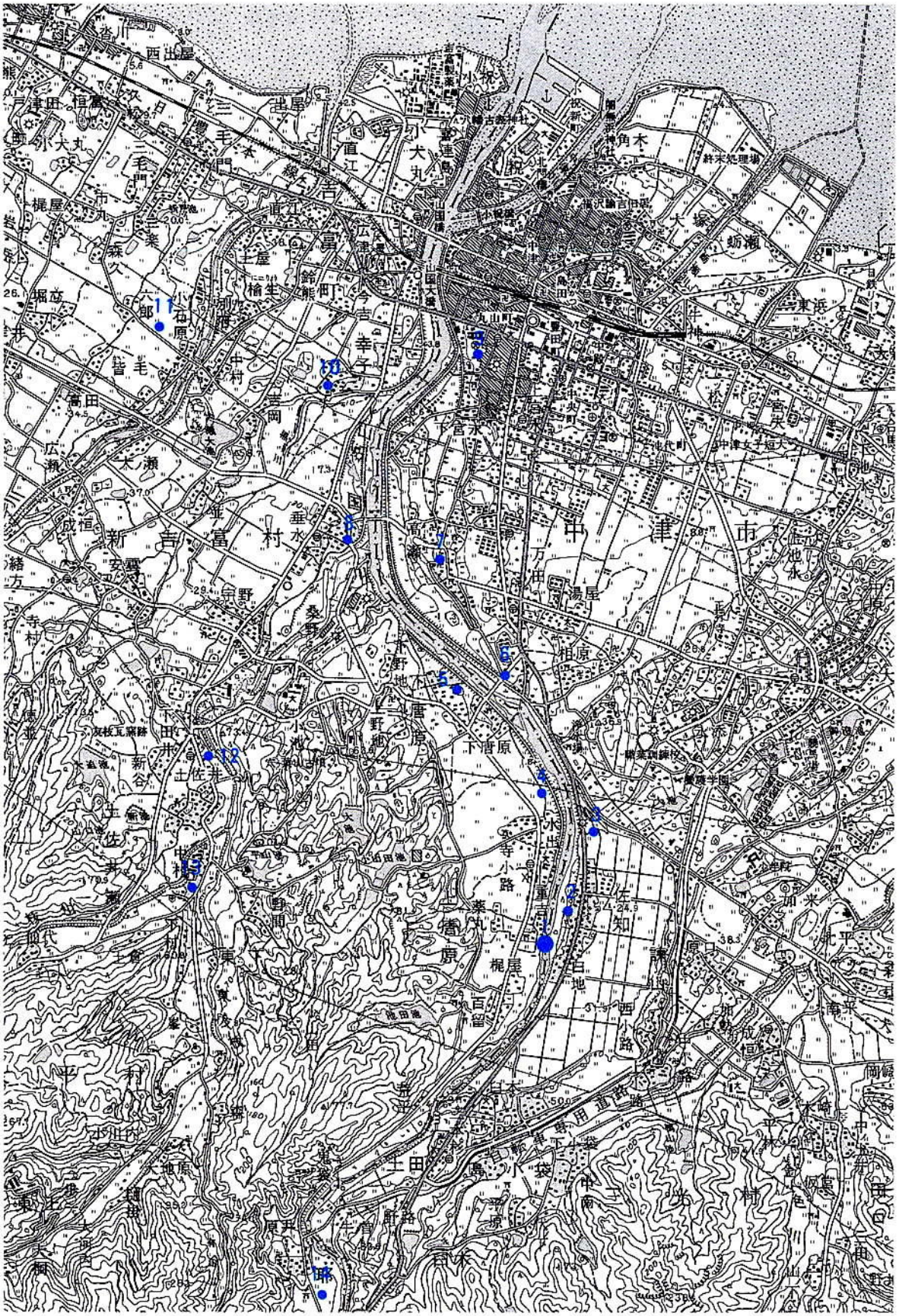


第１図　大平村位置図

近年の国道10号線豊前バイパス建設や県営圃場整備事業・山国川築堤に伴う発掘調査等の各種開発によって、各時代における様々な新知見が得られている。ここでは本書に掲載した縄文時代から古墳時代にかけての周辺遺跡について触れることにする。

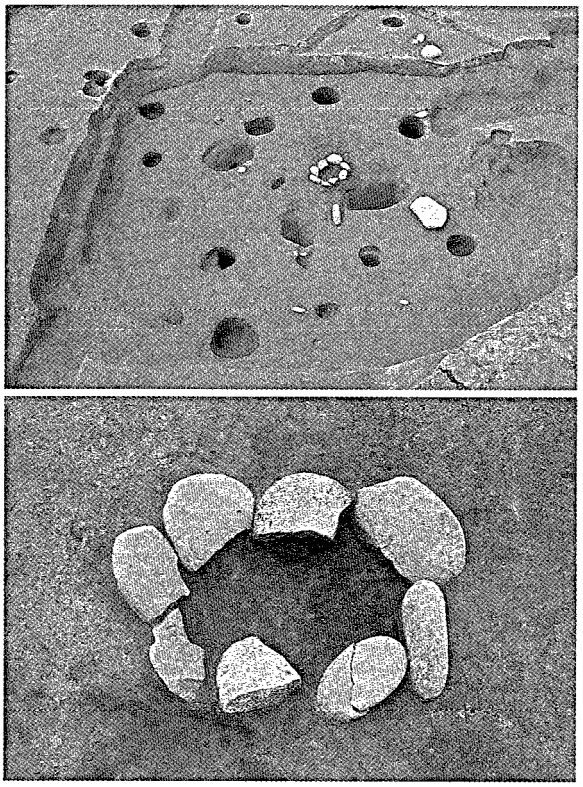
縄文時代（第２図）

縄文時代の遺跡の代表例としてはまず山国川中流域の大分県本耶馬渓町枌洞穴遺跡[1]をあげることができる。当遺跡は別府大学と長崎大学による９年間の調査において、早期から後期にかけての包含層と多数の埋葬人骨などで注目された。早期の遺跡では豊前市吉木遺跡で押型文土器がまとまって出土しており、ほかに大平村垂水遺跡でも出土している。前期～中期にかけての遺跡は数少ないが、後期になると大平村東友枝曽根遺跡[2]・上唐原遺跡[3]・原井三ツ江遺跡[4]・土佐井遺跡[5]、豊前市中村石丸遺跡[6]・小石原泉遺跡[7]、大分県三光村佐知遺跡[8]・佐知久保畑遺跡・大分県中



1．上唐原了清遺跡　2．佐知遺跡　3．佐知久保畑遺跡　4．上唐原遺跡　5．川下遺跡　6．上万田遺跡　7．高瀬遺跡
8．垂水遺跡　9．高畑遺跡　10．矢頭田遺跡　11．小石原泉遺跡　12．土佐井遺跡　13．東友枝曽根遺跡　14．原井三ツ江遺跡

第2図　周辺主要遺跡分布図1（縄文時代）（1/50,000）



上唐原遺跡の縄文時代住居跡・炉跡

津市ボウガキ遺跡[9]などで住居跡が確認されており遺跡数が急増する。後期の遺跡ではこの他に大分県中津市上万田遺跡[10]・高畑遺跡[11]・高瀬遺跡・新吉富村垂水遺跡などが知られる。また、晩期になると大平村川下遺跡[12]や吉富町矢頭田遺跡[13]などが所在する。

今回報告する上唐原了清遺跡では後期～晩期にかけての遺物が多量に出土している。これらの遺跡の分布は山国川が形成する自然堤防上や河岸段丘上に集中する傾向が認められる。また、先にあげた土佐井遺跡は、近年調査され多数の後期住居跡が確認された東友枝曽根遺跡とともに山国川に流れ込む友枝川流域に位置している。このような事例の増加により、山国川周辺では住居形態の変遷等が追えるような状況になりつつある。一方、遺物では上唐原了清遺跡をはじめとして土佐井遺跡・東友枝曽根遺跡・原井三ツ江遺跡など土偶の出土例が目立つ。

弥生時代～古墳時代（第３図）

弥生時代では早期の遺物が下唐原宮園遺跡[14]で出土している。その後、下唐原宮園遺跡・新吉富村中桑野遺跡[15]・牛頭天王遺跡[16]で前期後半から集落の形成が始まる。牛頭天王遺跡では中期前半に属する大型掘立柱建物が２棟検出されており、拠点的な集落が存在したものと考えられる。一方、墓地については大平村大塚本遺跡[17]で中期前半から中頃の特定家族墓である方形墳丘墓と列埋葬の集団墓地が形成されている。また、大平村金居塚遺跡[18]や大分県三光村佐知遺跡からは細形銅剣が出土しており、これらの遺跡は首長層を含む集団墓として位置づけられよう。後期の遺跡では大平村郷ヶ原遺跡[19]が環濠を伴う集落として著名であり、山国川の自然堤防上では上唐原遺跡や大分県三光村佐知遺跡など大規模な集落が形成される。当該期の墓地としては石蓋土壙と土壙墓群からなる金居塚遺跡や大平村穴ヶ葉山遺跡などがあり、前者からは舶載内行花文鏡が出土するなど、副葬品等から比較的優位の集団墓として位置づけられる。

百留横穴墓群

古墳時代に至っても弥生時代後期と遺跡の立地は変わることなく、やはり自然堤防上や扇状地の平坦部に継続的に営まれている例が多い。集落の代表例としては上唐原遺跡があげられ、古墳時代の初頭から後期までの住居跡等が確認されている。ただ、後期以降にまで存続する集落の例に乏しいのが現状である。墳墓では舶載夔鳳鏡と四獣鏡を副葬した大平村能満寺３号墳[20]（前方後円墳）や中津市勘助

1．上唐原丁清遺跡　2．上唐原稲本屋敷遺跡　3．上唐原遺跡　4．上唐原村ノ内遺跡　5．百富居屋敷遺跡　6．下唐原宮園遺跡　7．下唐原伊柳遺跡
8．川の上遺跡　9．川下遺跡　10．郷ヶ原遺跡　11．金居塚遺跡　12．西方古墳　13．能満寺古墳群　14．上野地八幡宮遺跡　15．甚吾久保遺跡
16．穴ヶ葉山遺跡　17．穴ヶ葉山南遺跡　18．大塚本遺跡　19．土佐井ミソンデ遺跡　20．原井遺跡　21．上桑野遺跡　22．桑野遺跡　23．牛頭天王遺跡
24．下桑野遺跡　25．垂水高木遺跡　26．池ノ口遺跡　27．原田遺跡　28．ナカヲ遺跡　29．新宮本遺跡　30．コシノ木遺跡　31．下島ヲカ遺跡
32．下島地区遺跡　33．稲葉遺跡　34．十二遺跡　35．安雲ハタガタ遺跡　36．野内遺跡　37．町ノ上遺跡　38．曲り遺跡　39．松掛遺跡　40．太田遺跡
41．宇野田遺跡　42．唐ノ本遺跡　43．宮ノ後遺跡　44．尻高畑田遺跡　45．小石原泉遺跡　46．今吉遺跡　47．皇后石遺跡　48．高瀬遺跡　49．上万田遺跡
50．勘助野地遺跡　51．佐知久保畑遺跡　52．上ノ原平原遺跡　53．佐知遺跡　54．諫山遺跡B・C地点　55．諫山遺跡

第3図　周辺主要遺跡分布図2（弥生～古墳時代）（1/50,000）

野地古墳[21]（方墳）等が古式の古墳として位置づけられる。中期では前方後円墳である吉富町楡生山古墳[22]があげられる程度である。後期になると丘陵部に大平村の穴ヶ葉山古墳群[23]等の群集墳や百留横穴墓群・上の原横穴墓群[24]・金居塚横穴墓群[25]等の横穴が造営されるようになる。また、工房跡としては新吉富村山田窯跡[26]・吉富町照日窯跡群[27]・中津市伊藤田窯跡群（須恵器窯）、大平村下唐原大久保遺跡[28]（埴輪窯）が近年調査されている。

註

（1）賀川光夫・内藤芳篤「大分県枌洞穴発掘調査概要」『考古学論叢４』1977

（2）小池史哲・末永浩一「大平村東友枝曽根遺跡の調査」『考古学ジャーナル443』1999

（3）福岡県教育委員会『上唐原遺跡Ⅰ』豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第２集　1995

（4）大平村教育委員会『原井三ツ江遺跡』大平村文化財調査報告書第５集　1989

（5）大平村教育委員会『土佐井地区遺跡群』大平村文化財調査報告書第６集　1990

（6）福岡県教育委員会『中村石丸遺跡』椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第８集　1996

（7）小池史哲「豊前地方の縄文時代遺跡」『豊前市史　考古資料編』豊前市　1993

（8）大分県教育委員会『佐知遺跡』大分県文化財調査報告書第81集　1989

（9）中津市教育委員会『ボウガキ遺跡』1992

(10) 宮本工他「山国川下流域における縄文時代後・晩期の遺跡」『九州考古学第59号』九州考古学会　1984

(11)～(13) 10に同じ

(14) 福岡県教育委員会『下唐原宮園遺跡』一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告２　1998

(15) 新吉富村教育委員会『中桑野遺跡』新吉富村文化財調査報告書第３集　1978

(16) 新吉富村教育委員会『牛頭天王遺跡　垂水高木遺跡』新吉富村文化財調査報告書第８集　1994

(17) 福岡県教育委員会『大塚本遺跡』豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第９集　1998

(18) 福岡県教育委員会『金居塚遺跡Ⅱ』豊前バイパス関係文化財調査報告第７集　1997

(19) 福岡県教育委員会『郷ヶ原遺跡』豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第10集　1998

(20) 大平村教育委員会『能満寺古墳群』大平村文化財調査報告書第９集　1994

(21) 大分県教育委員会『一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財調査報告１』1988

(22) 吉富町教育委員会『楡生山古墳』吉富町文化財調査報告書第３集　1991

(23) 大平村教育委員会『穴ヶ葉山遺跡』大平村文化財調査報告書第８集　1993

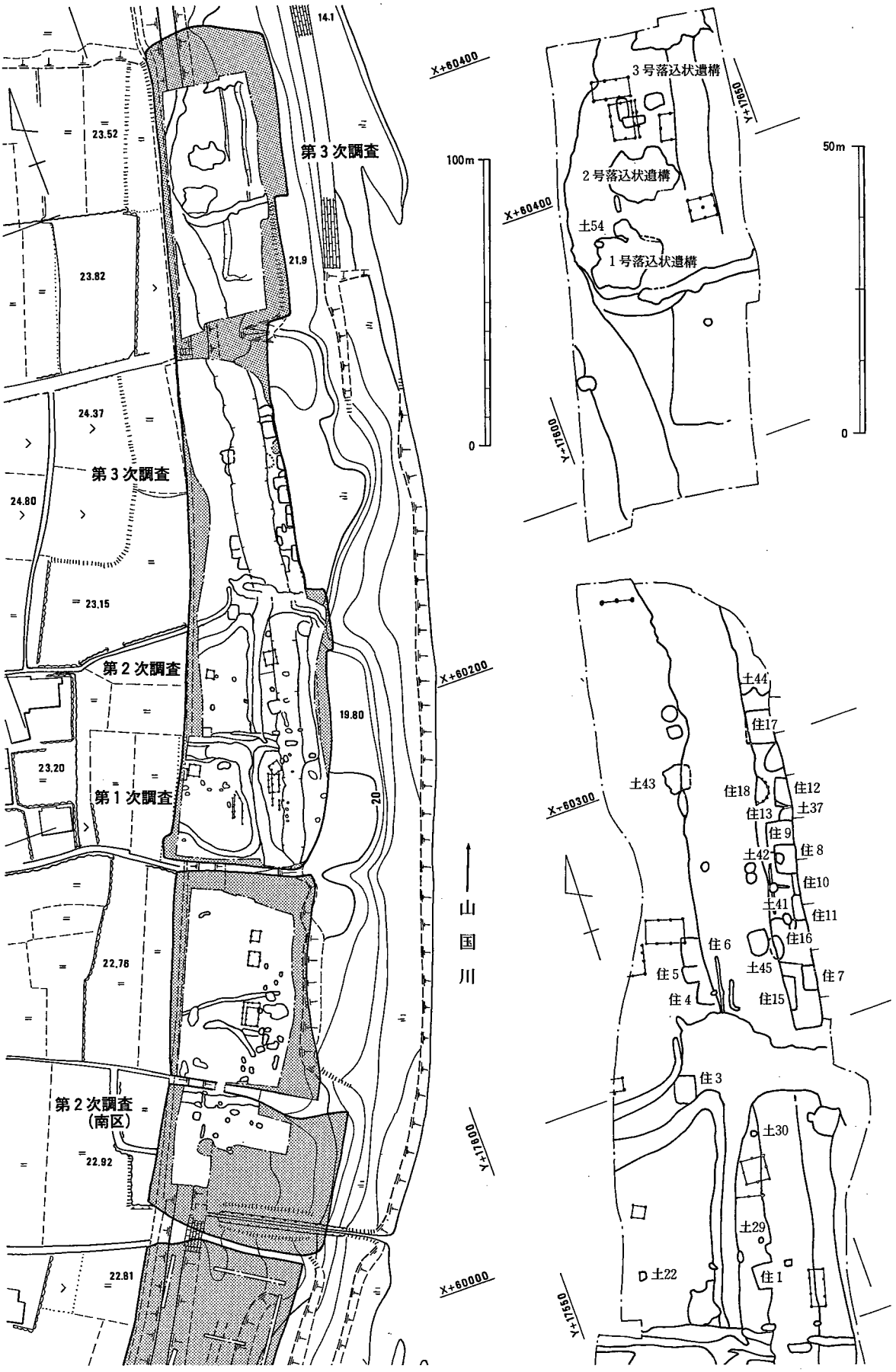
(24) 大分県教育委員会『上ノ原遺跡群』一般国道中津バイパス発掘調査報告書Ⅱ　1992

(25) 福岡県教育委員会『金居塚遺跡Ⅰ』豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第４集　1996

(26) 大平村教育委員会「山田窯跡の調査」『垂水廃寺』大平村文化財調査報告書第２集　1976

(27) 新吉富村教育委員会『照日遺跡群』新吉富村文化財調査報告書第９集　1995

(28) 平成10年度に大平村教育委員会が発掘調査を実施した。



第4図　周辺地形図・遺構配置略図（1/2,000・1/1,000）

第３章　調査の内容

１．調査概要

発掘調査では縄文時代から江戸時代にかけての遺構を多数確認した。このうち、今回は縄文時代から古墳時代の遺構と遺物について報告を行ない、それ以降については次年度にゆずる。。

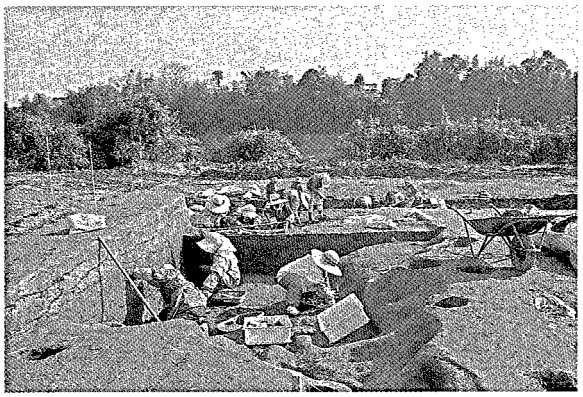
遺跡は山国川の自然堤防上に位置する。発掘区の東辺寄りは山国川の氾濫源にあたり、山国川に沿って段落となっている。発掘区の基本層序は上から黒灰色土（耕作土）→赤褐色土（床土）→暗褐色土（遺物包含層）→黄褐色粘質土層（地山）となる。地山は山側では黄褐色の粘質土であるが、川に近づくにしたがい砂質土化している。遺構面のレベルは２区南西隅部で22.5m、３区北西隅部で19.6mを測り、下流に向かって緩く傾斜する。また、川側に向かう傾斜は、３-２区では比較的緩く0.2～0.7mほどの高低差であるが、２区及び３-１区ではややきつめで、発掘区西壁際と東壁際では1.5～1.8mほどの比高差がある。

縄文時代の検出遺構は落込状遺構３基・土坑２基、弥生～古墳時代の遺構は住居跡17軒・土坑10基・ピット多数である。時代ごとの遺構分布を概観すると、まず、縄文時代の遺構はすべて３-２区北半部に集中する。一方、弥生～古墳時代の遺構は２区から３-１区にわたって確認され、特に３-１区に集中している。当該期の遺構は３-２区では検出されていない。また、縄文時代の遺構検出面は弥生・古墳時代のそれと同一面で、黄褐色の砂質（粘質）土層に切り込んでいる。

以下に使用する区割りは２区が第２次調査本体部、３-１区が第３次調査南半部、３-２区が第３次調査北半部を示す（第４図）。なお、第２次調査南区の中世以降の遺構と遺物については既に報告済みである（『一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告４　上唐原了清遺跡Ⅰ』1999年）。

２．縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構検出面は弥生・古墳時代のそれと同一面で、黄褐色の砂質土層に切り込んでいる。検出遺構は落込状遺構３基と土坑２基である。これらの遺構はすべて３-２区北半部に集中する。また、当該期の遺物の大半は３基の落込状遺構から出土しており、２区及び３-１区から出土したものは極少量あるのみである。



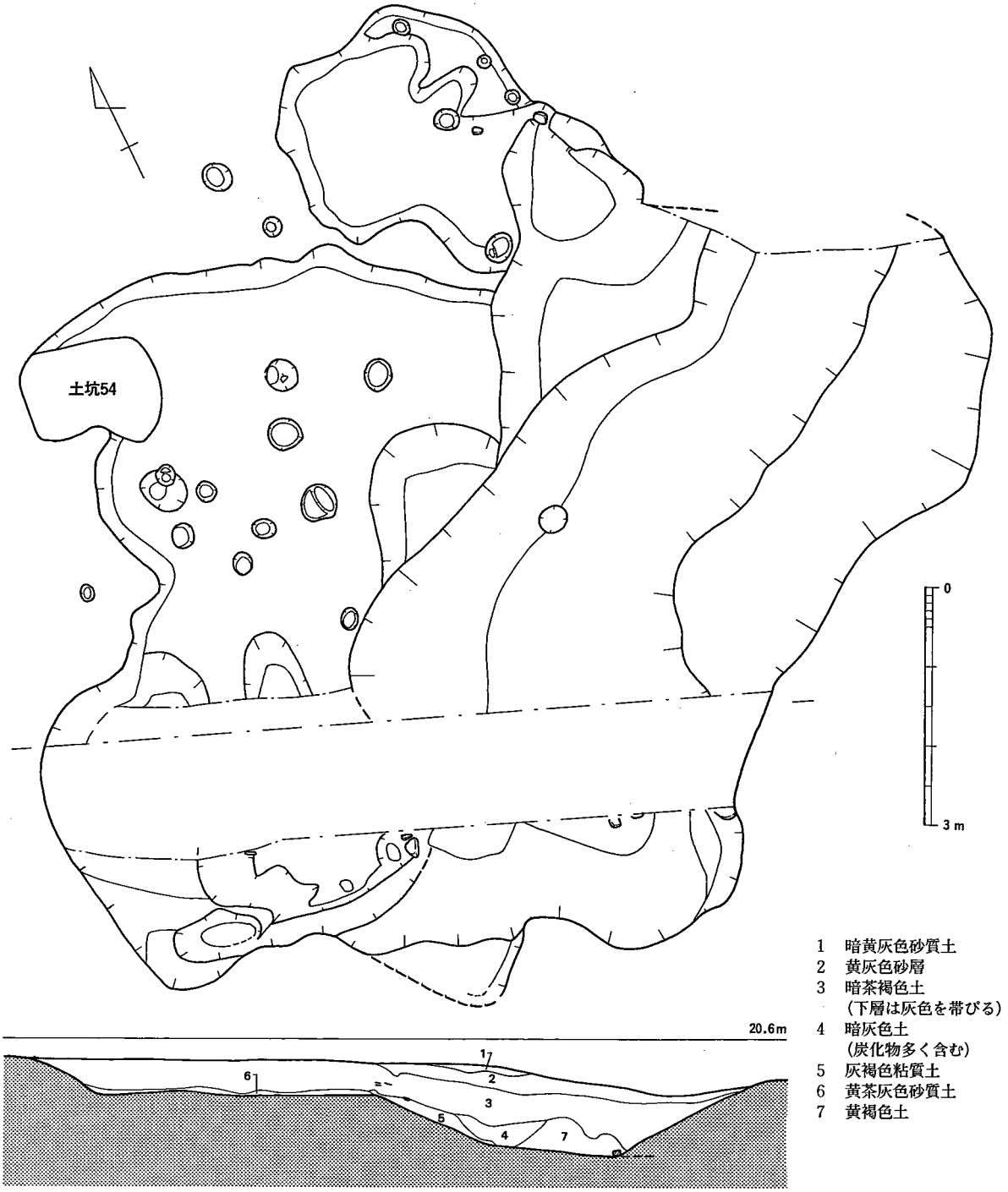
落込状遺構の調査状況

落込状遺構

第３次調査においては、以下に記述する不整形の大形土坑が３ヶ所で確認された。この落込状遺構からはパンケースにして70箱ほどの土器・石器・土製品等が出土している（土器・石器については観察表を参照のこと）。なお、この遺構の性格については後述する。

１号落込状遺構（図版３、第５図）

３-２区中央部、やや西寄りで検出した。南北長12.5m、東西長12.0mの不整形の土坑であ

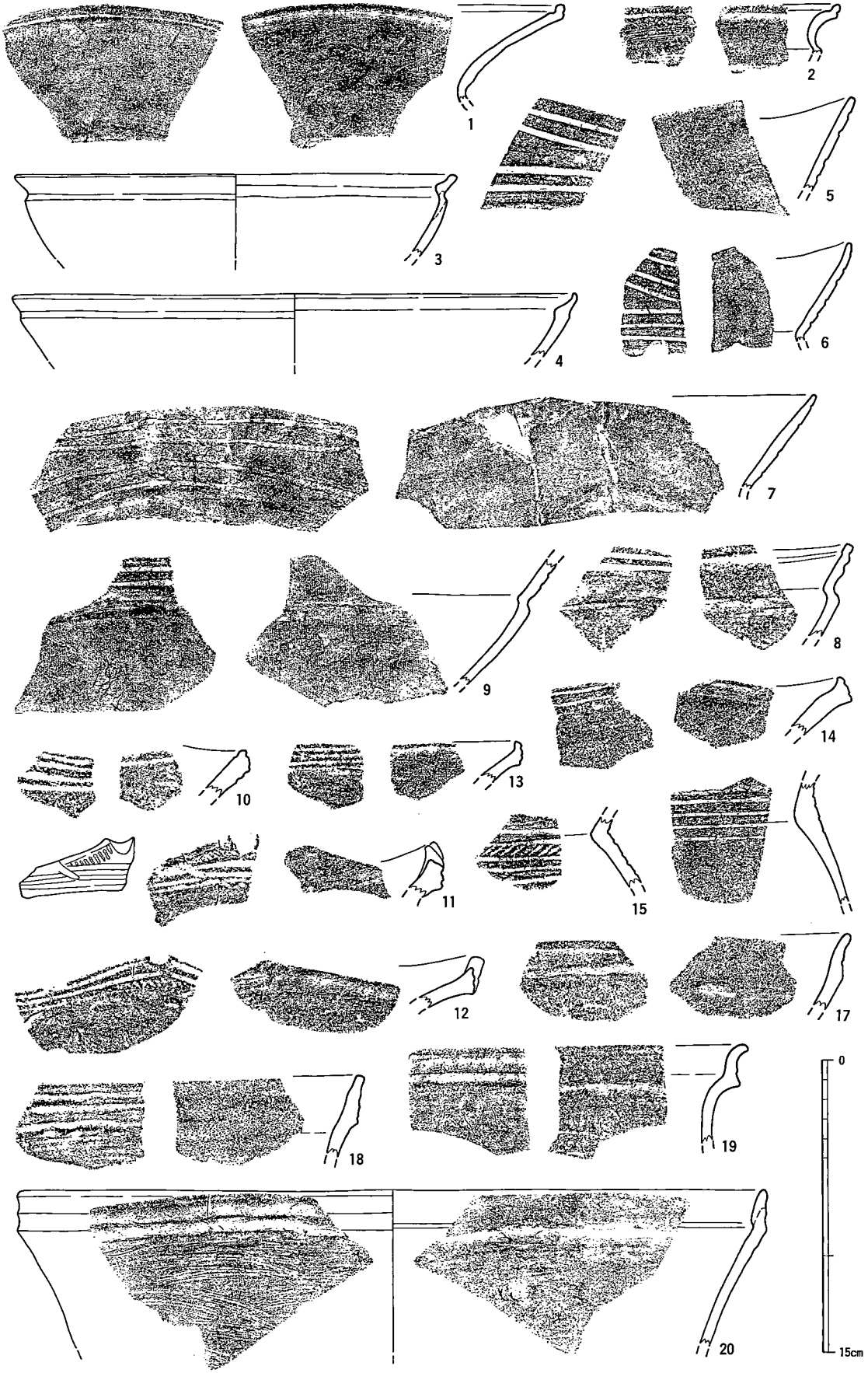


第5図　1号落込状遺構実測図（1/80）

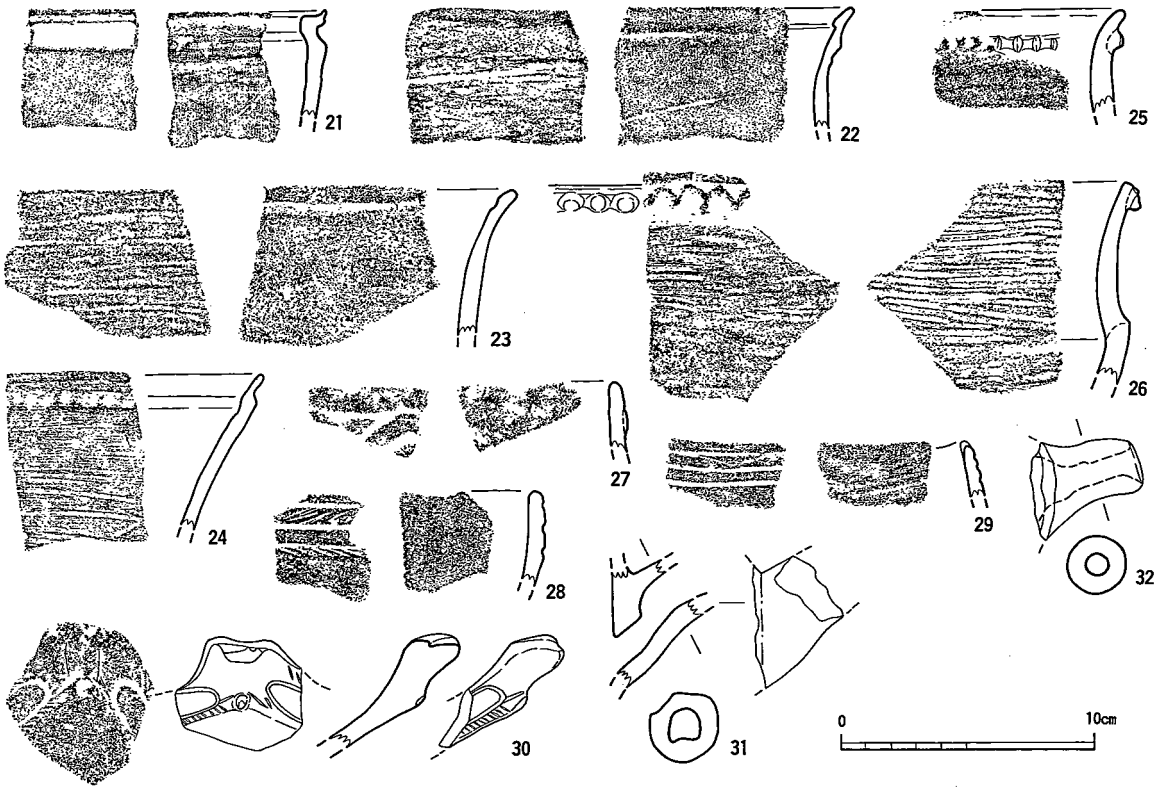
る。埋土は7層に分かれるが、大きく暗茶灰色砂層・暗茶褐色土を主体とする上層と、暗灰色粘質土を主体とする下層に分けることができる。遺構の上層には弥生時代後期前半～古墳時代初頭の遺物を含む。下層として取り上げた遺物については新しい時期のものが僅かに出土しているものの、これらは混入品と考えられ、基本的には縄文時代の埋土として捉えられる。底面は凹凸が著しい。南東部が最も深くなり、検出面からの深さは0.8mを測る。また、54号土坑を切る。

出土遺物

土器（図版17・18、第6～9図）



第6図　1号落込状遺構出土土器実測図1（1/3）



第７図　１号落込状遺構出土土器実測図２（1/3）

有文浅鉢（１・２・５～９）１・２はともに口縁部文様帯に１条の沈線を巡らせるもの。広田Ⅱ～Ⅲ式段階。５～９は橿原式系で口縁部外面に沈線ないし凹線を巡らせる。８は内面に段をもつ。６・８は波状口縁。

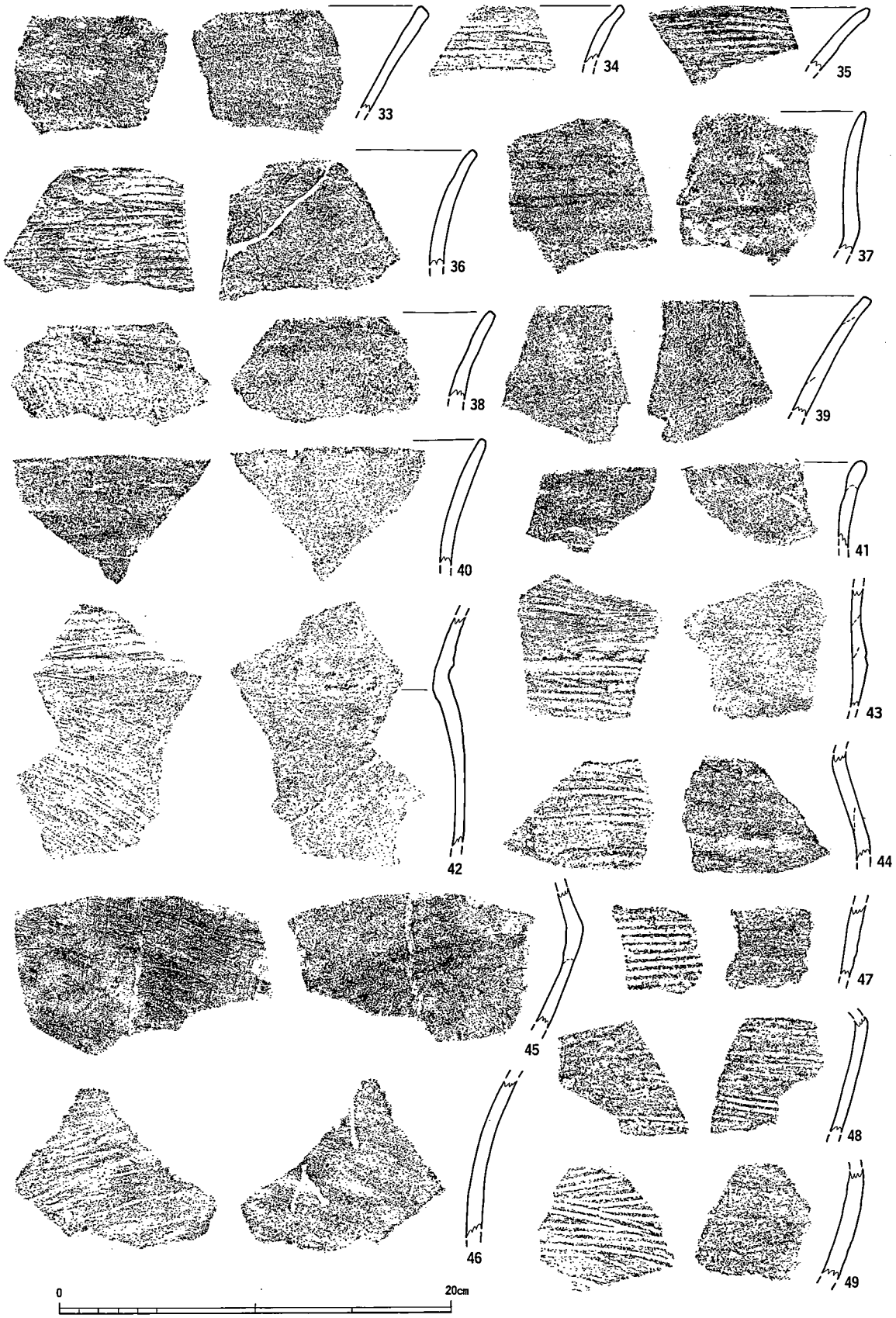
無文浅鉢（３・４）ともに口縁部の文様帯が消失し、丸味をもって上方に屈曲するもの。広田Ⅳ式段階。

有文深鉢（10～20）10は北久根山式。波状口縁で口縁部外面に４条の、内面に１条の沈線をもつ。11～16は太郎迫式。11・12は波頂部の破片。11はRLの縄文を口縁端部寄りに施す。12は貝殻による疑似縄文を沈線下に施す。13・14は口縁部文様帯に３条・２条の沈線を巡らせるもの。15・16は屈曲部片で、15は沈線間にヘラ状工具による斜位の刺突文（以下、斜位刺突とする）を施す。17～20は鳥井原式。17は沈線に近いが、他は完全に凹線化している。

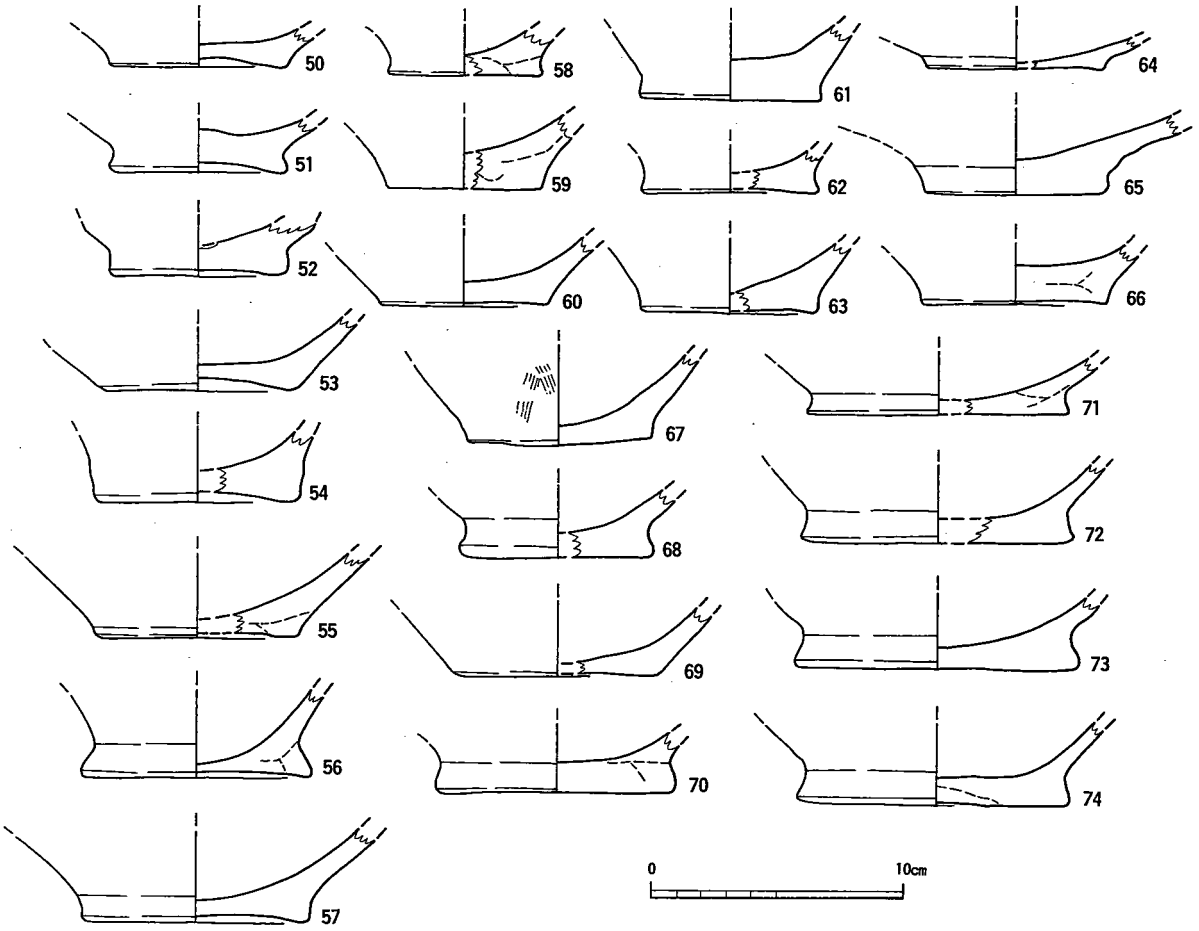
有文鉢（27～29）27を除き三万田式である。27は口縁下に山形の粘土紐を貼付する。28・29はボウル状の鉢。29は波状口縁となる。30は角鉢で脚がつくものと思われる。端部は丸く、肥厚する。外面には沈線と刺突によって文様帯を作る。

注口土器（31・32）31・32は注口土器の注口部の破片。32の傾きは定かではない。

無文深鉢（21～26・33～49）21～26は晩期の一群。21は口縁端部を跳ね上げ気味に短く屈曲させるもの。22は内面に段を、23は内面に沈線をもつ。26は口縁部に刻目突帯をもつ。33～49は粗製の一群。内外面に条痕を残すもの、外面のみに条痕を残すもの、内外面ともナデ調整するものがある。また、口縁部の形状は直線的なものと外反するものがある。口縁端部は37のように先細りになるものや、41のように丸く肥厚するものも見られる。



第8図　1号落込状遺構出土土器実測図3（1/3）



第９図　１号落込状遺構出土土器実測図４（1/3）

底部（50～74）上げ底（50～57）と平底（58～74）があるが後者の方が多数を占める。底径は前者が7.0cm～9.0cm、後者が6.0cm～11.7cmを測る。

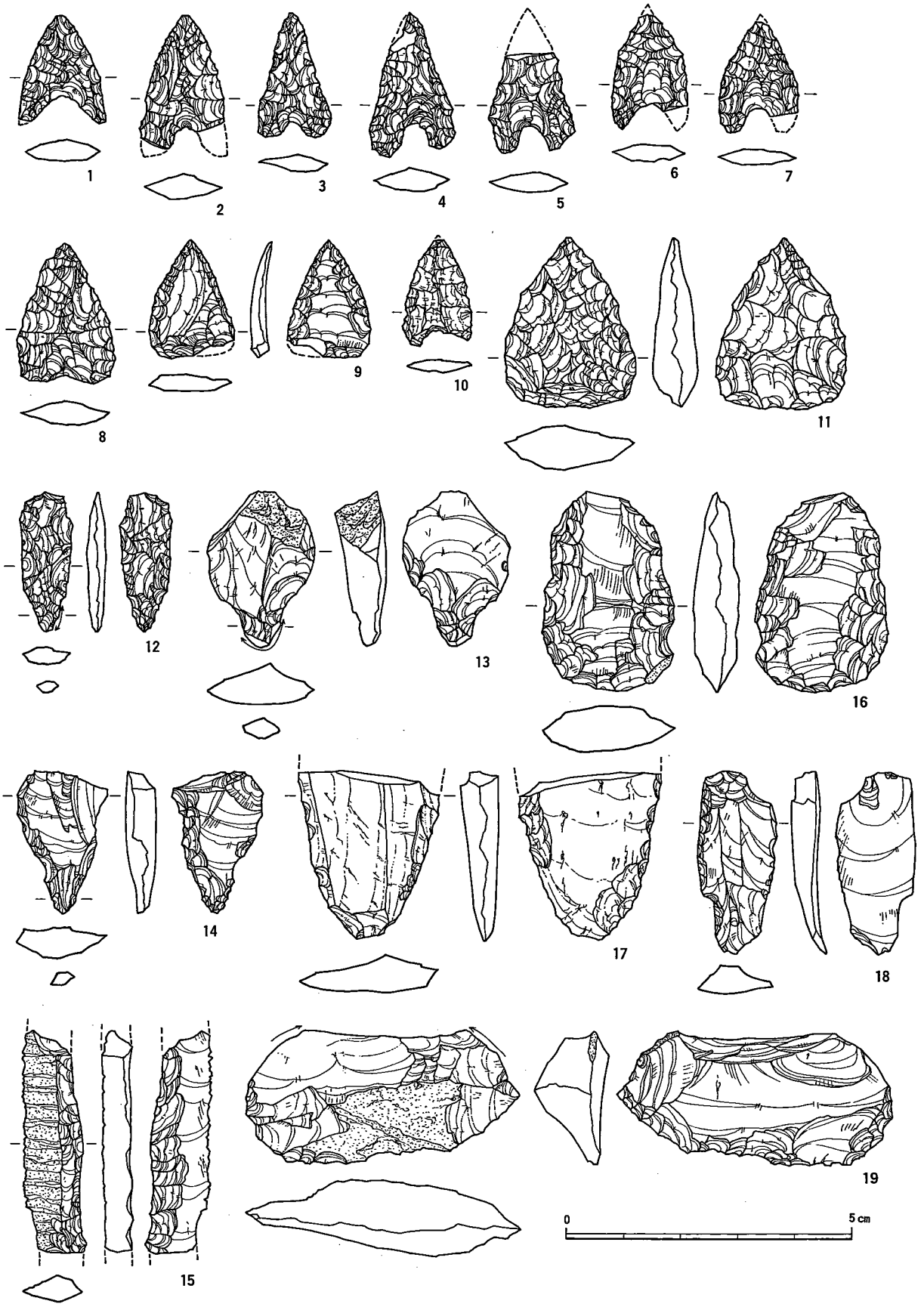
石器（図版19・20、第10～17図）

打製石鏃（１～11）11点出土した。形態的には基部に抉りを持つものが多い（１～８・10）。８・10の抉りは浅い。９・11は基部に抉りを持たない平基鏃。９は剥片鏃で表裏ともに素材となった剥片の剥離面を残し、周縁部のみに二次加工を施す。11は大形の石鏃で分厚い。石材は10が安山岩系である以外はすべて姫島産黒曜石。重量は0.４～4.1ｇを測る。

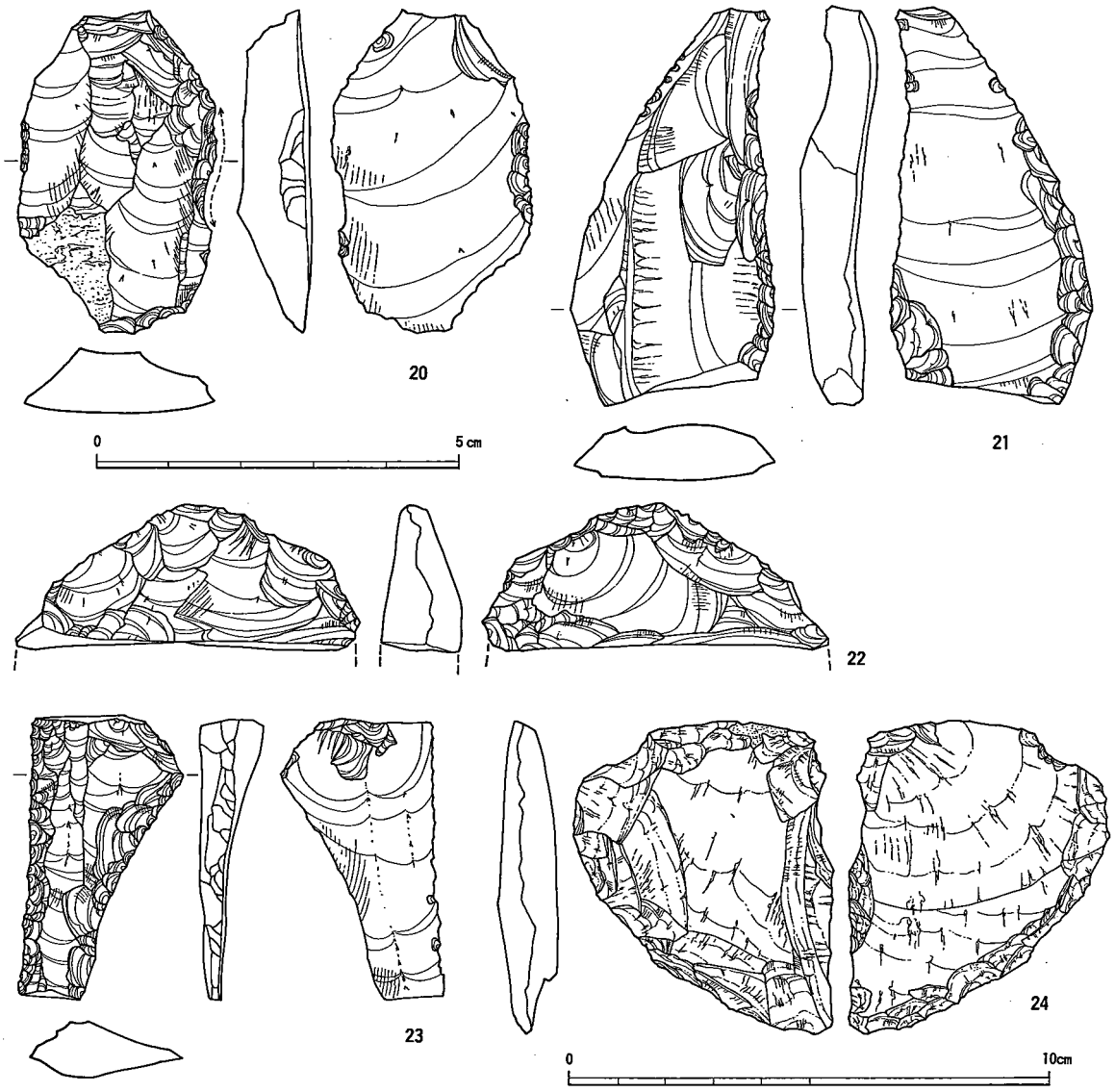
石錐（12～15）すべて裏面に主要剥離面を残す。12は素材となった剥片の全体に細かな加工を施し棒状に仕上げる。13・14は厚めの剥片に粗い加工を施すもの。13は先端部の磨耗が顕著である。15は縦長剥片の片側のみに二次加工を施す。上下を欠失しているため全形が知れず、別の器種を考えた方がよかろうか。石材はすべて姫島産黒曜石。

スクレイパー（16～24）16～18・20・21・23は縦長剥片の縁部に二次加工を施し、刃部を作り出したもの。19の素材は横長剥片で自然面を残す。22はラウンドスクレイパーか。石材は23が腰岳系黒曜石、17・24が安山岩。他はすべて姫島産黒曜石。

磨製石斧（25～31）すべて折損ないしは、刃部を欠損している。25は小形で薄手の類。30・31を除いてすべて全面に丁寧な研磨を施している。30は刃部寄りの側辺の一部に、31は基部寄りの側辺



第10図　1号落込状遺構出土石器実測図（1/1）

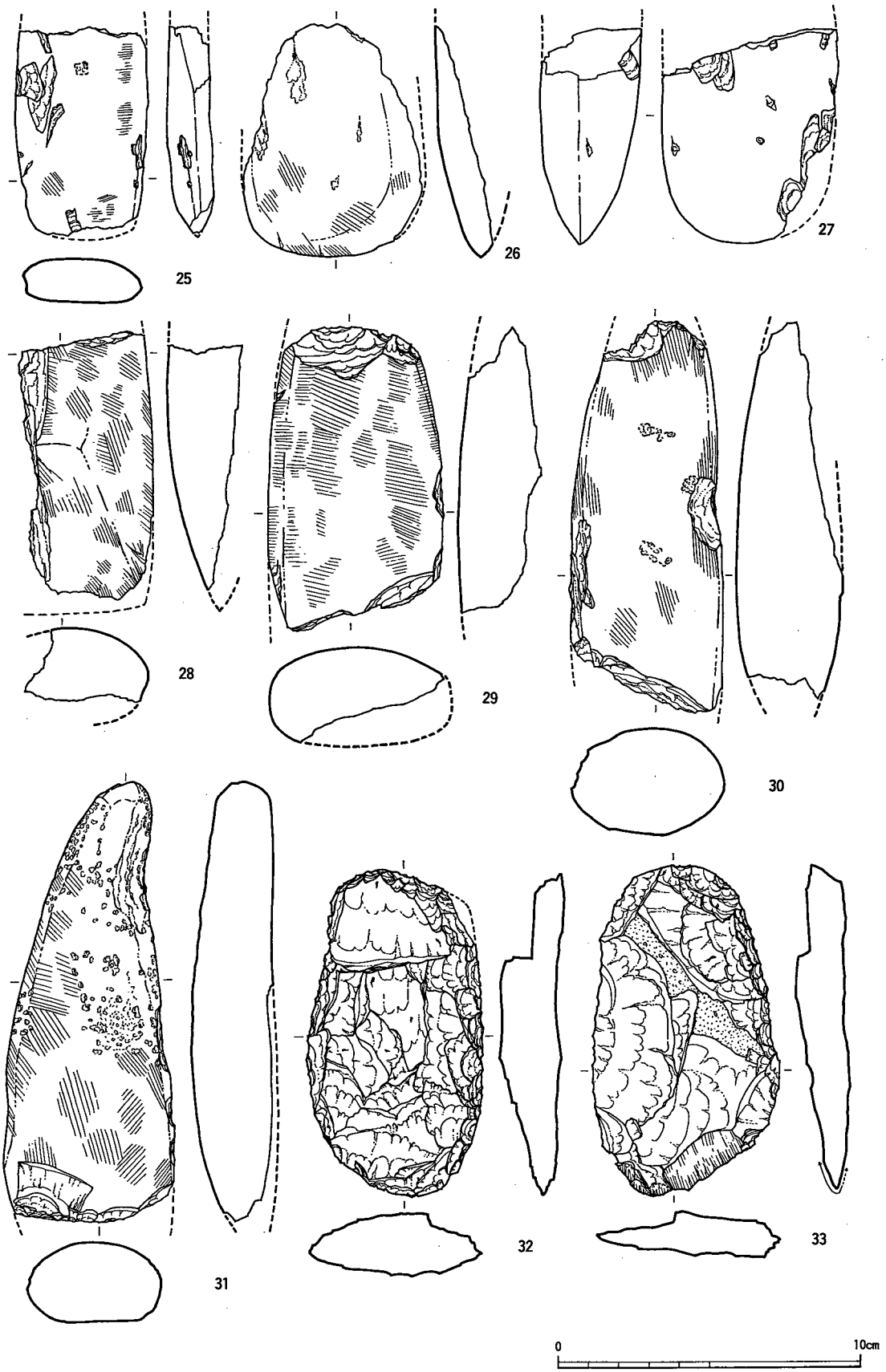


第11図　1号落込状遺構出土石器実測図2（20～23は1/1・24は2/3）

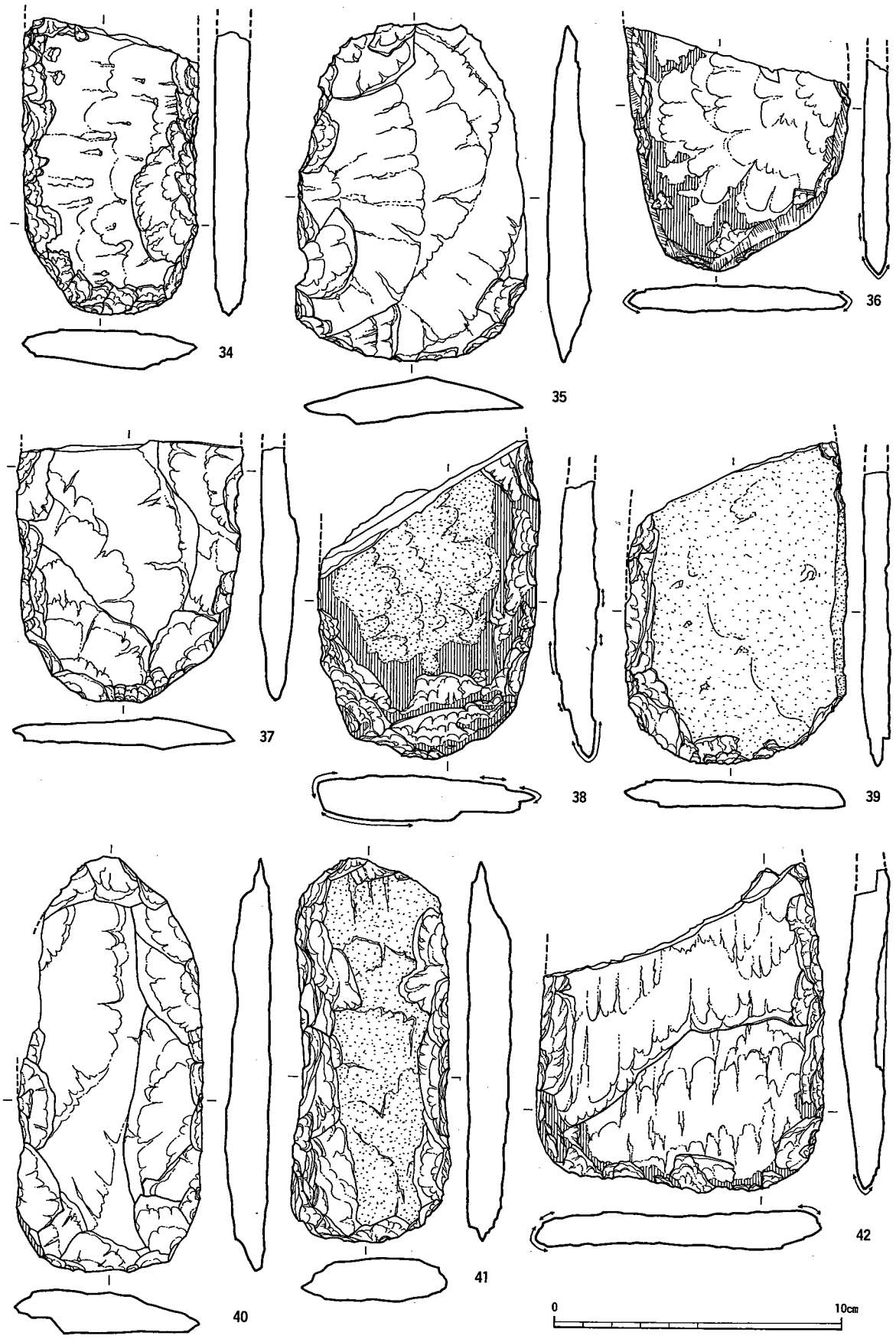
に整形時の叩打痕を、裏面には素材面を残す。石材は27が片岩、31が頁岩。他は蛇文岩。

打製石斧（32～49）全体的に簡易な作りである。表裏に素材面を残すものが多く、周縁に二次加工を施して整形し、また、刃部を作り出している。23・38・39・43・49は自然面を残す。36・38は表裏とも部分的に研磨し、後者の研磨は刃部にも及ぶ。また、33・36・37・40・42・43の刃部には使用痕が認められる。45は両側縁の上位に僅かに抉りを入れる。48は撥形となるもの。表裏とも刃部に二次的な加工はあまり施されていない。49は両側辺の上位に抉りを有する。刃部は46・49が欠損する他は完存している。また、図示した18点中、6点（33%）が中位付近で折損する。石材は45点中21点（47%）が安山岩系、9点（20%）が頁岩系、15点（33%）が片岩系。

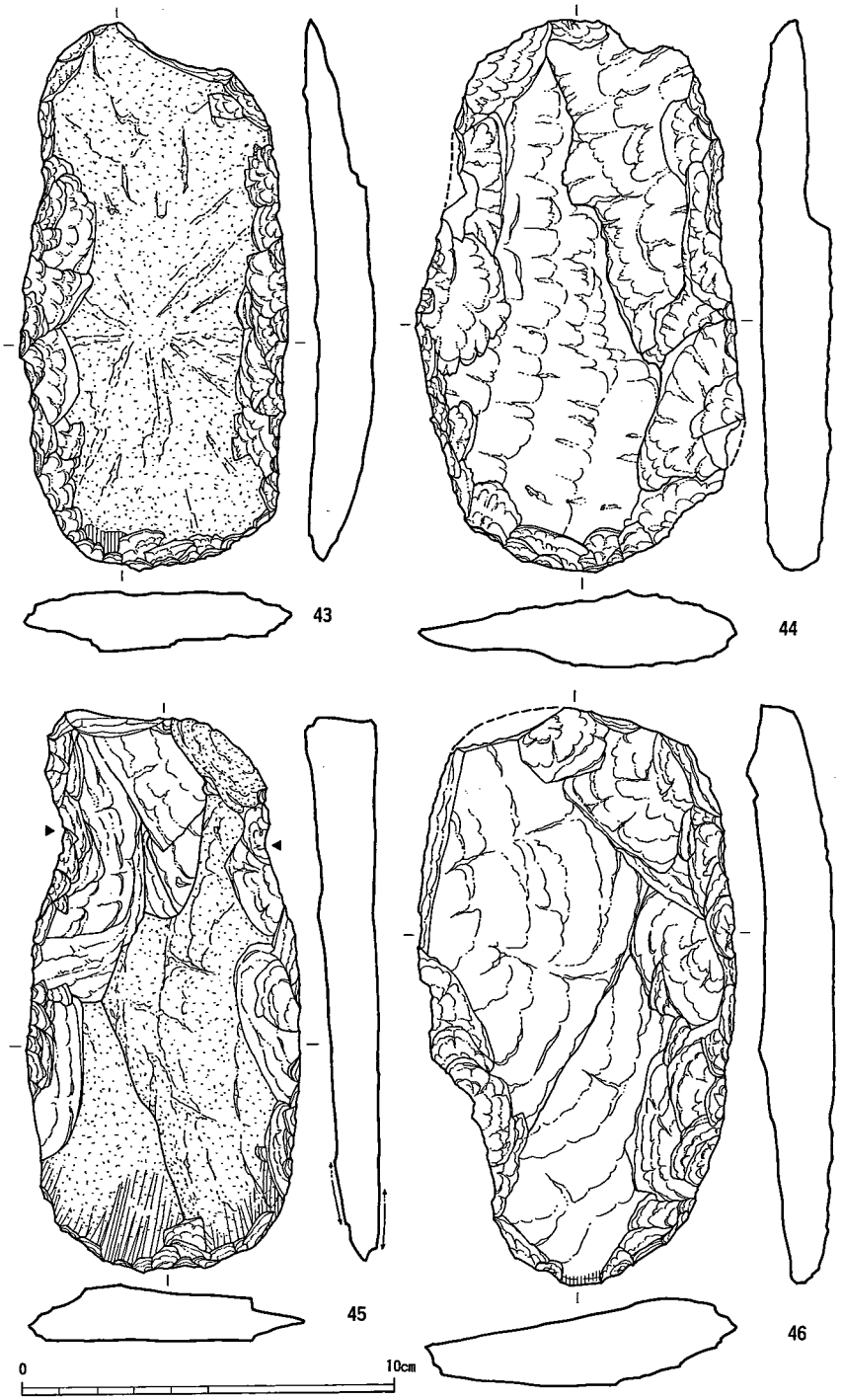
円盤形石器（50～52）50・51の素材は薄い剥片で、周縁に二次加工を施して円形に仕上げる。52は厚みのあるもので、中央部に稜をもつ。50は周縁部のおよそ半周にわたって使用による磨耗痕跡が残っている（図版20）。また、51・52も部分的に磨面がある。石材は50・52が安山岩系、51が片



第12図　1号落込状遺構出土石器実測図3（1/2）



第13図　１号落込状遺構出土石器実測図4（1/2）



第14図　1号落込状遺構出土石器実測図5（1/2）

岩系。これらの石器は、製作技法的には打製石斧と何等変わり無い。

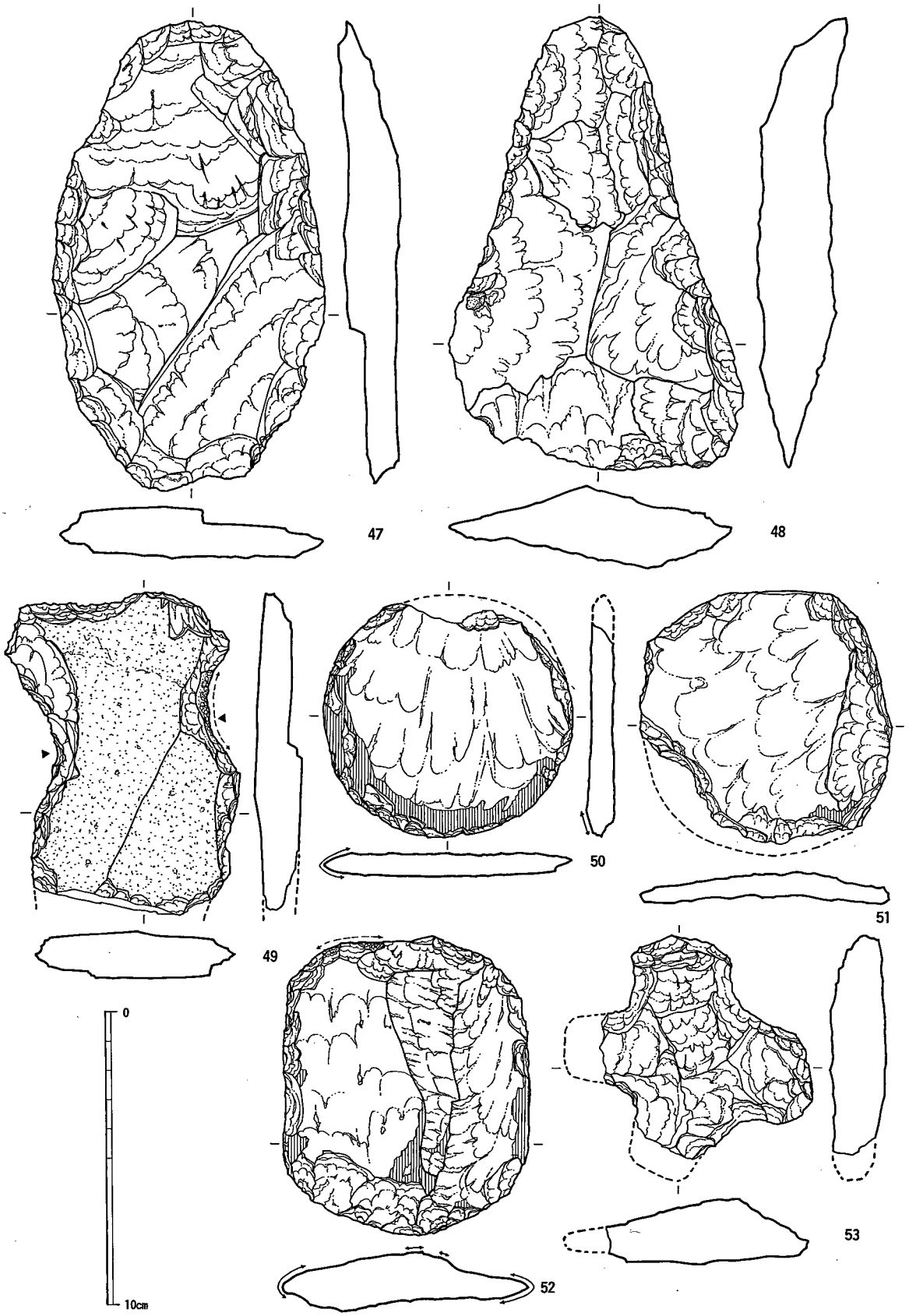
十字形石器（53）
円形の素材の4箇所に抉りを入れ、十字形に仕上げたものでどちらかというとX字形に近い。裏面には主要剥離面を大きく残す。周縁に細かな剥離は施されず、全体的に粗い作りでひじょうに分厚い。石材はデイサイトである。

打欠石錘（54～63）
扁平な円礫の両端に紐掛用の抉りを入れたもの。抉りはいずれも素材の長軸側に施している。石材は59・60・63が凝灰岩系、他は安山岩系。重量は34.7～137.2gを測る。

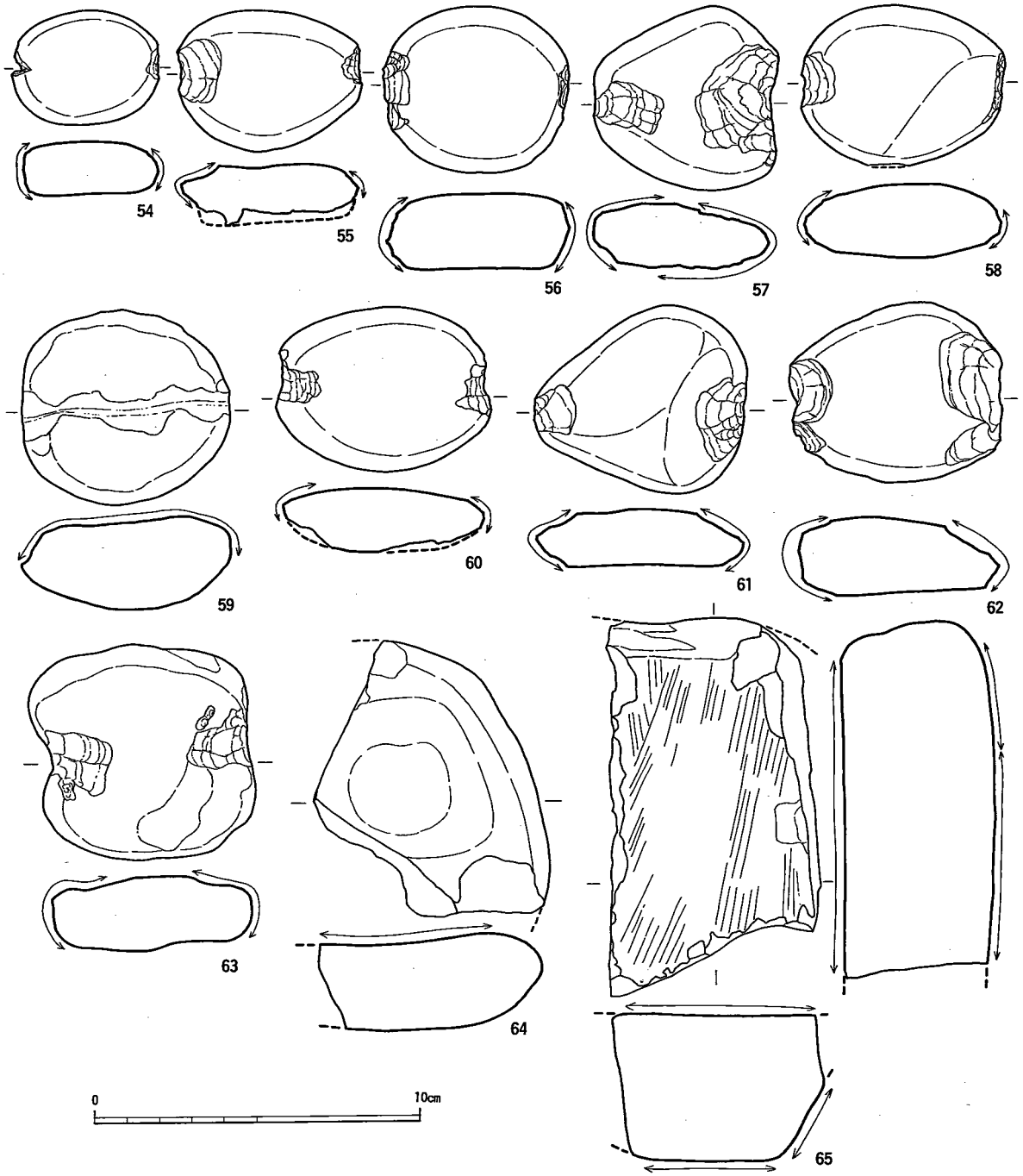
砥石（64・65）64は円形の置砥石。使用面は上面のみで、使い込みにより中央部が凹んでいる。中砥。花崗岩系。65も置砥石。使用面は3面以上。仕上砥。

磨石（66～74）9点出土した。円礫の表裏に使用による磨れが認められるもの。平面形には円形（66～71）と楕円形ないしは長円形になるもの（72～74）がある。石材は凝灰岩系が3点（33%）、他は安山岩系（67%）。

凹石（75・76）いずれも敲石に伴う台石と考えられ、表面の中央部が使用により凹んでいる。石材は75が花崗岩系、76は凝灰岩系。



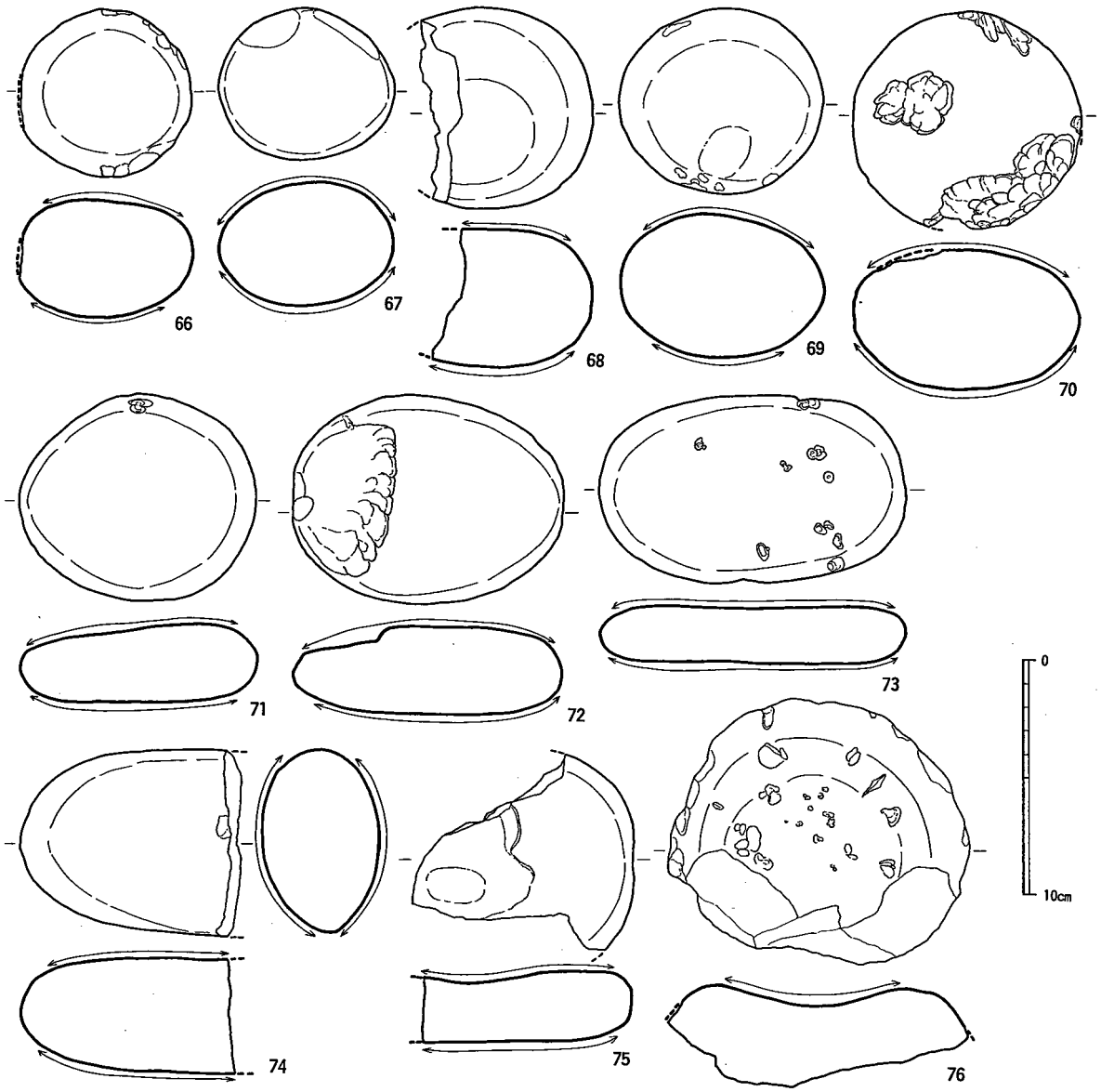
第15図　1号落込状遺構出土石器実測図6（1/2）



第16図　１号落込状遺構出土石器実測図７（1/2）

土製品（図版20、第18図）

土偶（１・２）ともに脚部である。１は左脚と考えられ、側面には腰部を表した膨らみが見られる。脚は凹脚で、先端部近くに沈線を廻して足首を表現する。調整はナデ。胎土は精良で、砂粒をほとんど含まない。色調は黄褐色。残存長7.0cm、脚部径3.0cmを測る。北側下層より出土。２も左脚と考えられる。臀部と腰部は山形に突出させて表現する。脚部は内側を欠損するが、外側に膨らみをもたせている。先端部近くは沈線状にへこませて足を作り出す。調整はナデ。胎土は精良で、砂粒をほとんど含まない。色調は黄褐色。残存長7.4cm、脚部中位の径2.0cmを測る。暗茶褐色土層

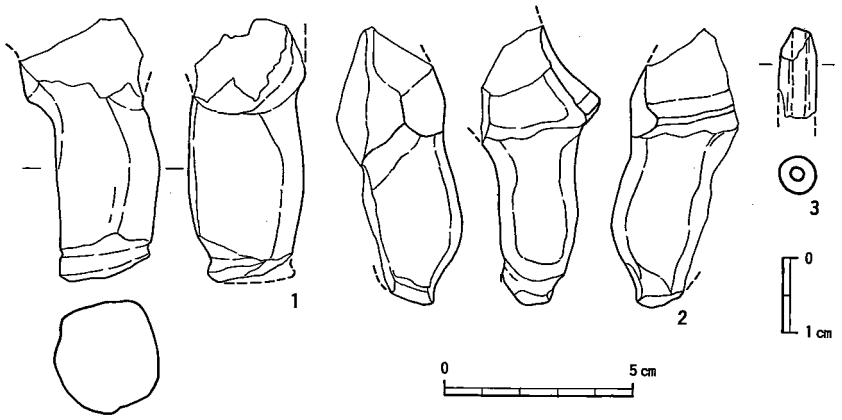


第17図　1号落込状遺構出土石器実測図9（1/2）

より出土。

石製品（第18図）

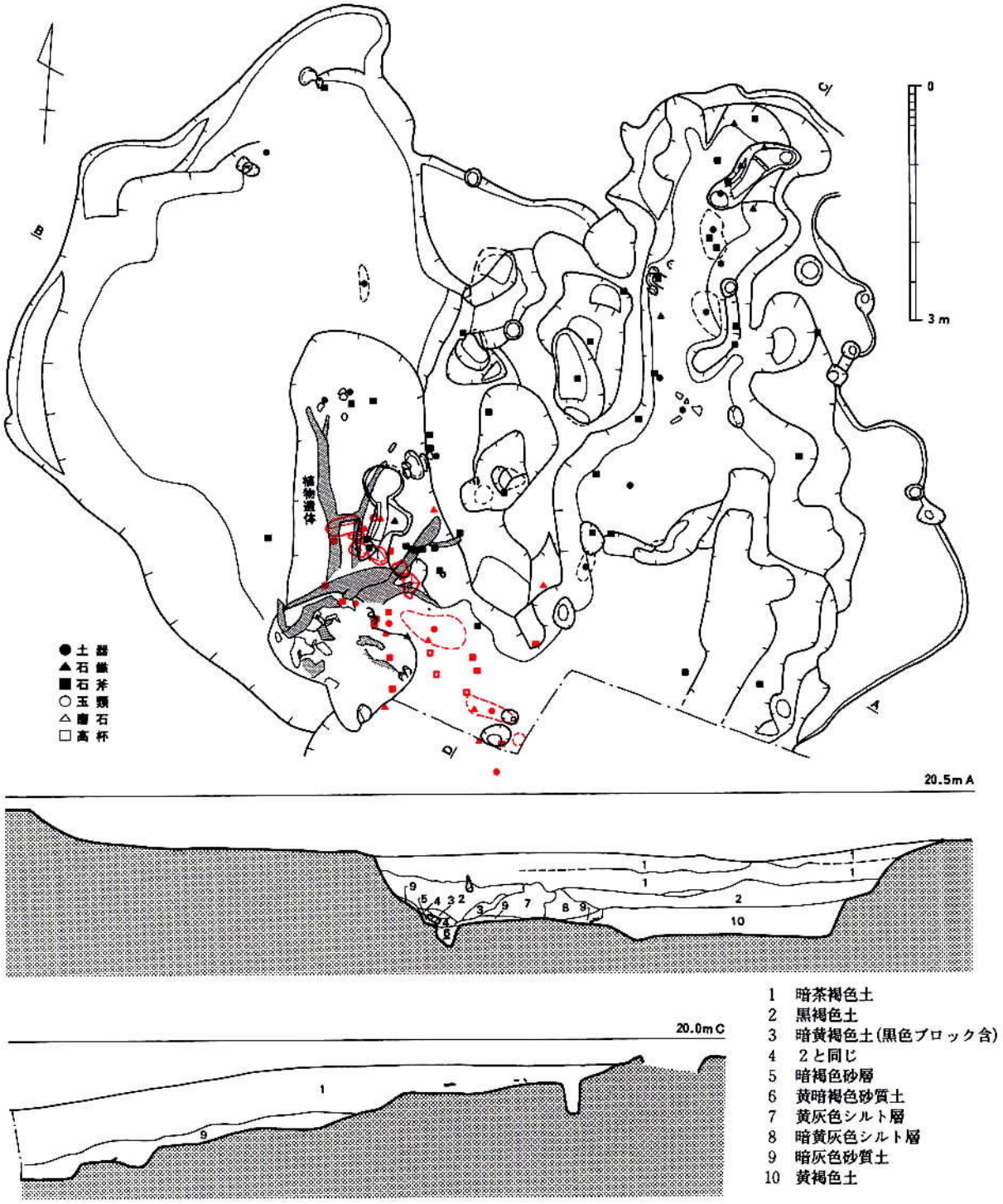
管玉（3）下半部を欠損する。頭部は丸く収めている。残存長1.2cm、径0.5cm、孔径0.15cm。ヒスイ製。下層より出土した。



第18図　1号落込状遺構出土土製品・石製品実測図（1･2は1/2、3は1/1）

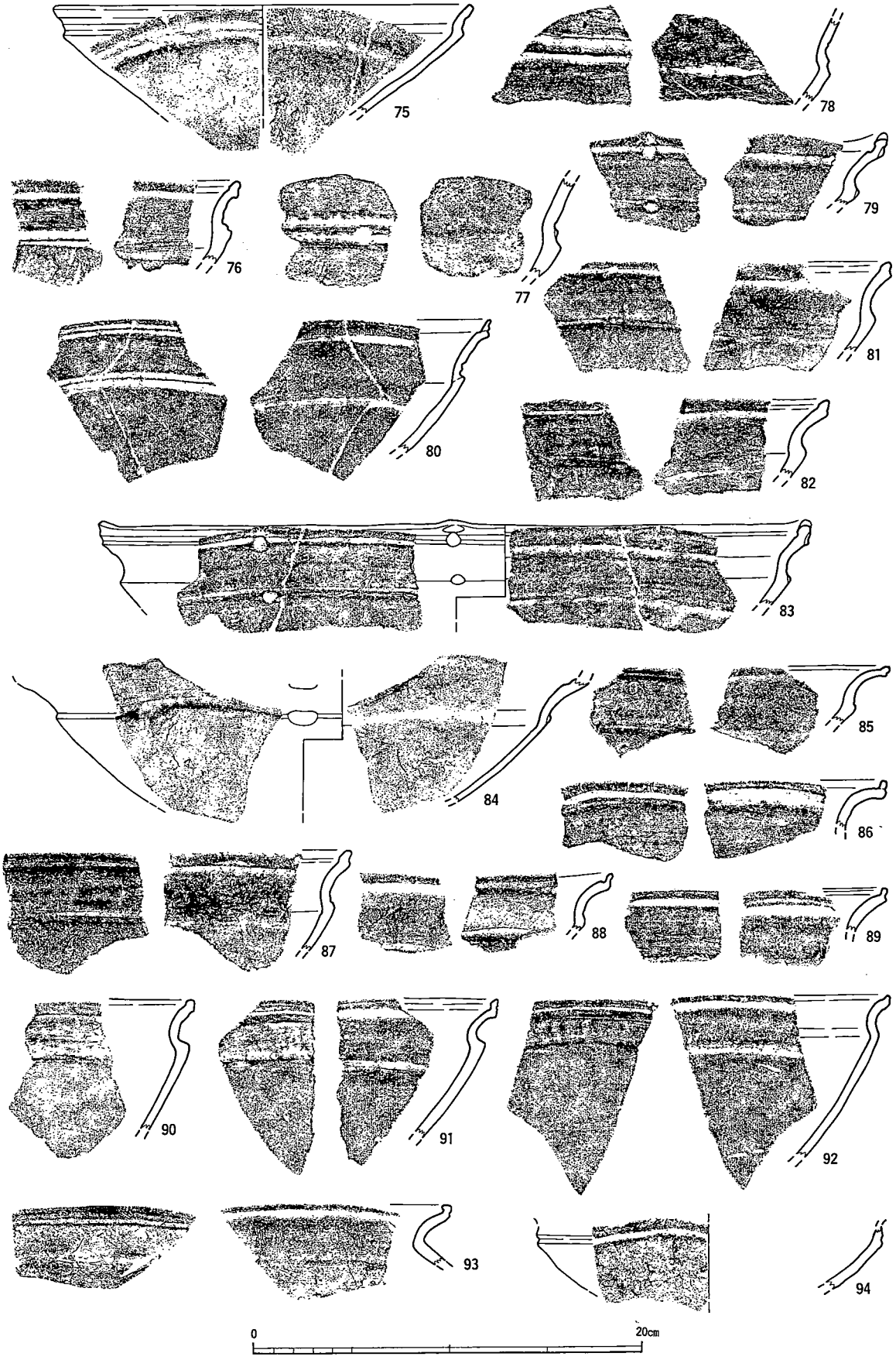
2号落込状遺構（図版3～5、第19図）

3－2区北半部で検出し

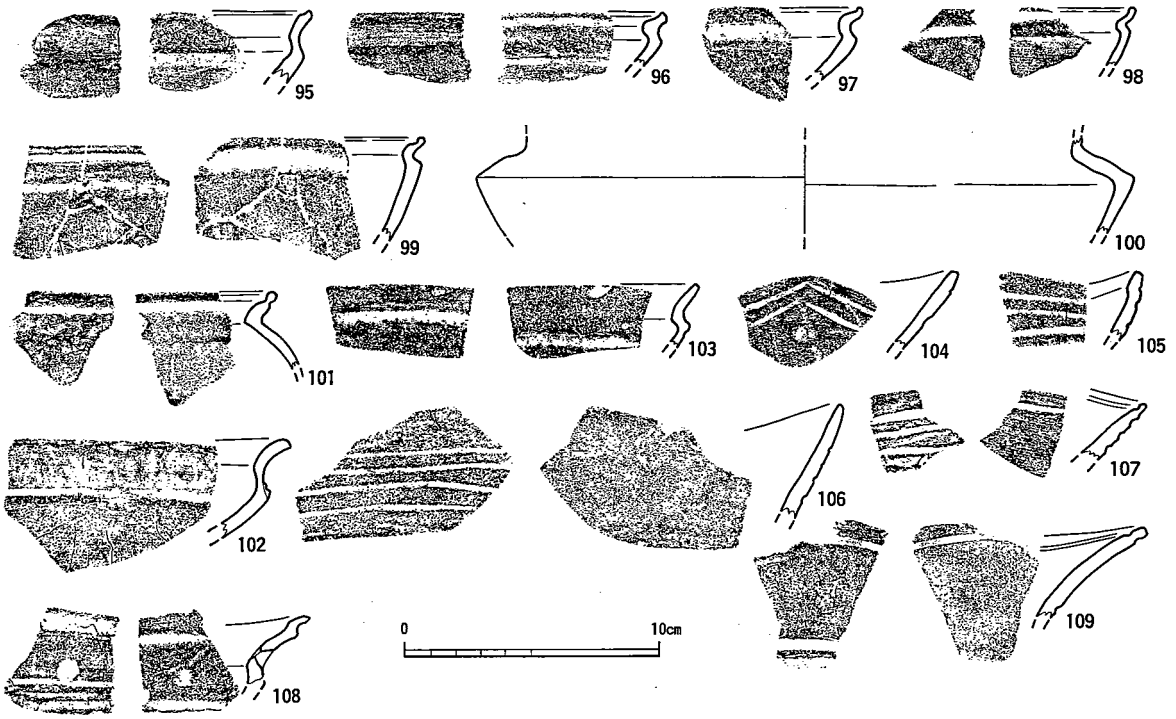


第19図　2号落込状遺構実測図（1/80）

た。南北長9.3m、東西長12.5mの不整形の土坑である。底面は西半部は比較的フラットでテラス状になり、東側に緩く傾斜する。東半部は凹凸が著しい。底面は北東隅部が最も深くなり、検出面からの深さは1.4mを測る。埋土は10層に分かれ、河原石が若干混じっている。2号落込状遺構からは大量の土器・石器類が出土しているが、このうち2層の黒褐色土及び9層の暗灰色砂質土からの出土量が目立ち、平面的には落込の東半部に集中している。なお、西半部のテラスが東に落ち込む



第20図　２号落込状遺構出土土器実測図１（1/3）



第21図　2号落込状遺構出土土器実測図2（1/3）

傾斜面部分で植物繊維体が遺存していた。また、その南側テラス部からは炭化物が出土した。なお、植物繊維体については分析結果を次年度に報告する予定である。

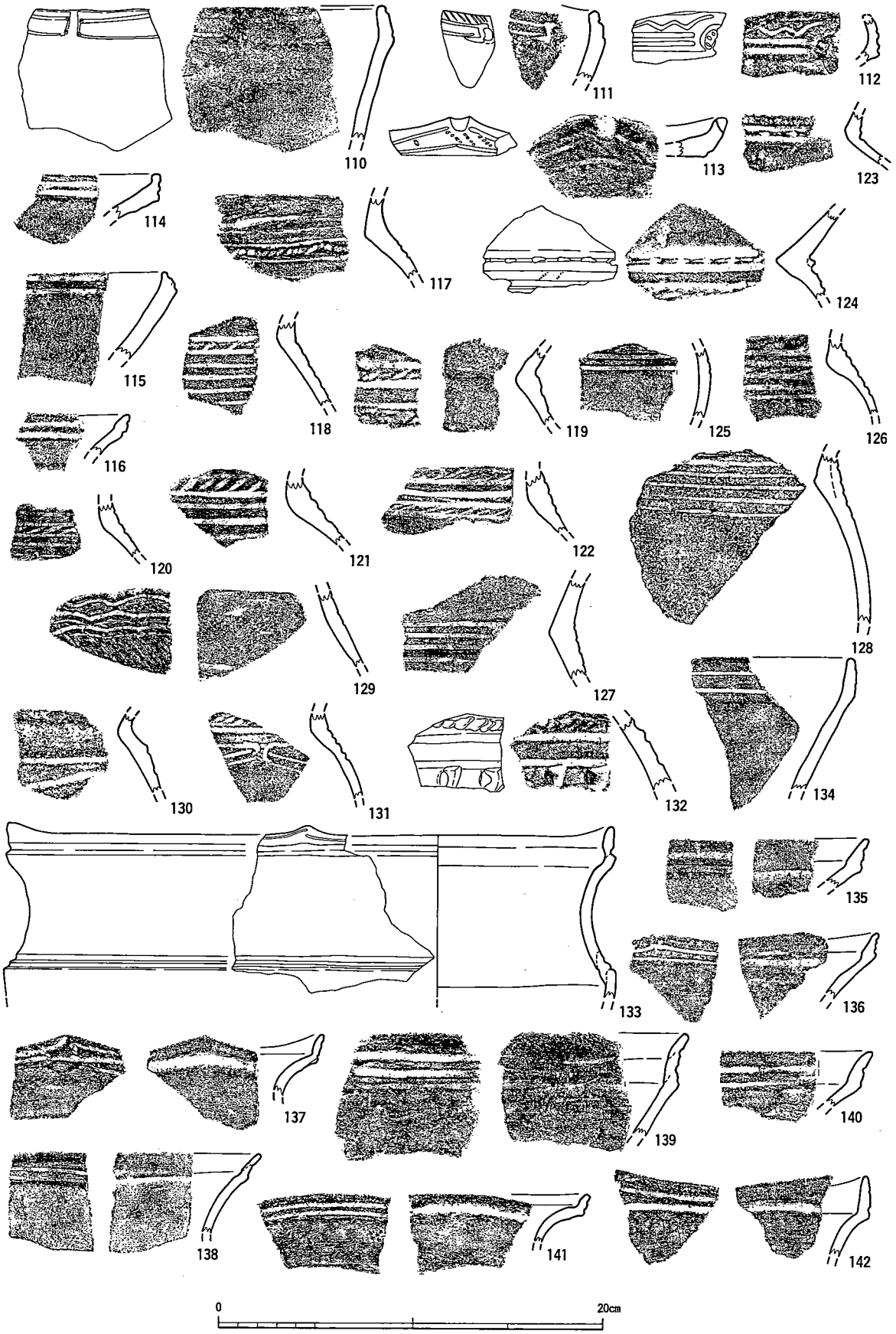
出土遺物

土器（図版21～27、第20～30図）

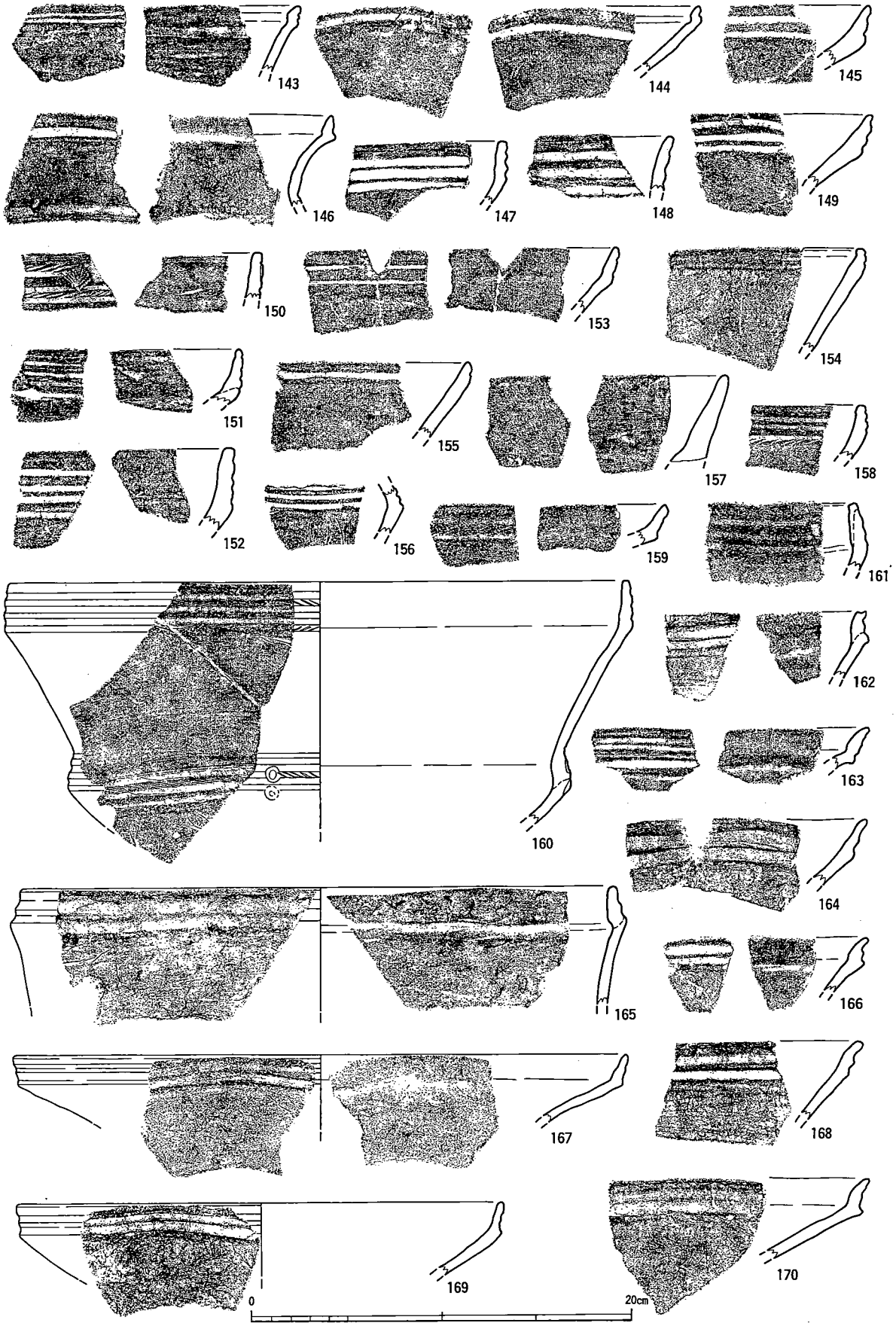
有文浅鉢（75～94、104～107）75～78は鳥井原式。75の口縁部は強く外反する。77は2本の凹線間に凹点文を施す。79～94は広田Ⅱ～Ⅲ式期。口縁部文様帯及び胴部屈曲部には1条の沈線を巡らせるものと、2条のものとがある。79・83・84は波状口縁の頂部延長線上に凹点文を施す。104～107は橿原式系。外面に沈線と刺突による文様を施す。内面に段ないしは沈線をもつものも見られる。108は口縁部が屈曲して強く外反するもの。波状口縁になる。

無文浅鉢（95～103）晩期の一群。95～99の口縁端部は上方に丸味をもって収める。内面には段をもつ。101は口縁端部が丸く肥厚し、肩が張るタイプ。

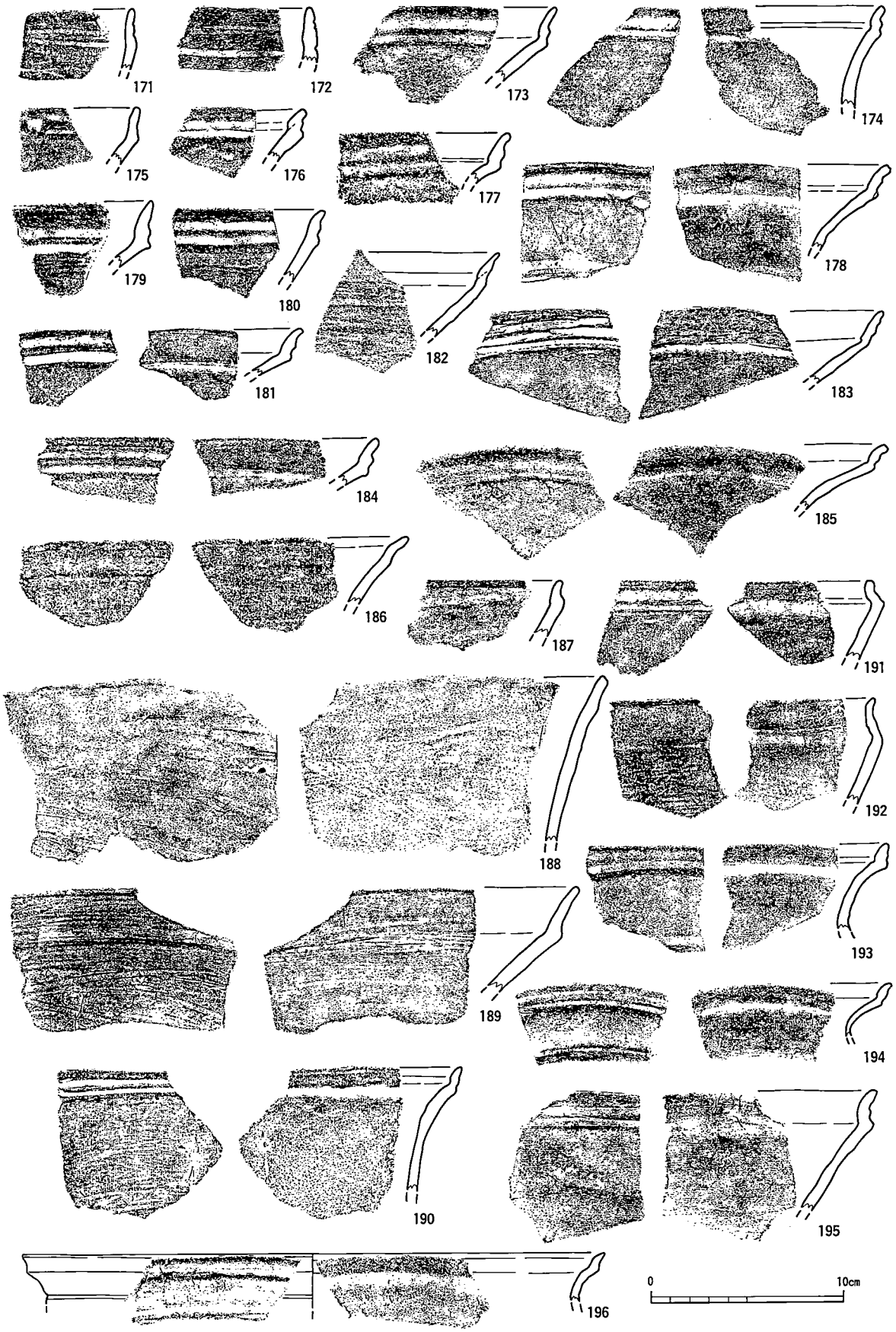
有文深鉢（110～215）110・111は北久根山式。110は口縁部文様帯に刺突と沈線により、111はさらに三日月状の粘土塊貼付により文様を施す。112～132は三万田式。112は口縁部文様帯に直線・山形沈線と長円形の粘土塊貼付により文様を施す。粘土塊には3カ所に刺突を施している。113は波状口縁の波頂部で、2条の沈線間に左上がりの櫛状工具による刺突を施す。114～116は口縁部文様帯に2状の沈線を巡らせるもの。117は沈線間に撚紐を押圧して文様を施す。118～122は3～4条の沈線間に太めの斜位刺突をいれる。刺突はすべて右上がりである。123・124は屈曲部に2条の沈線によってつくりだされた突帯状の部分に、先端の尖った工具による刺突をいれる。125～128は斜位刺突を施さない、沈線のみで文様帯を形成する一群。129も胴部上半の破片。斜位の貝殻条痕と波状沈線により文様を施す。131は斜位の刺突をいれるが、下位に対向孤文を施す。132は2本の太い沈線の下位に押引き文を施す。134～156は三万田式。口縁部文様帯に1条～3条の沈線を巡ら



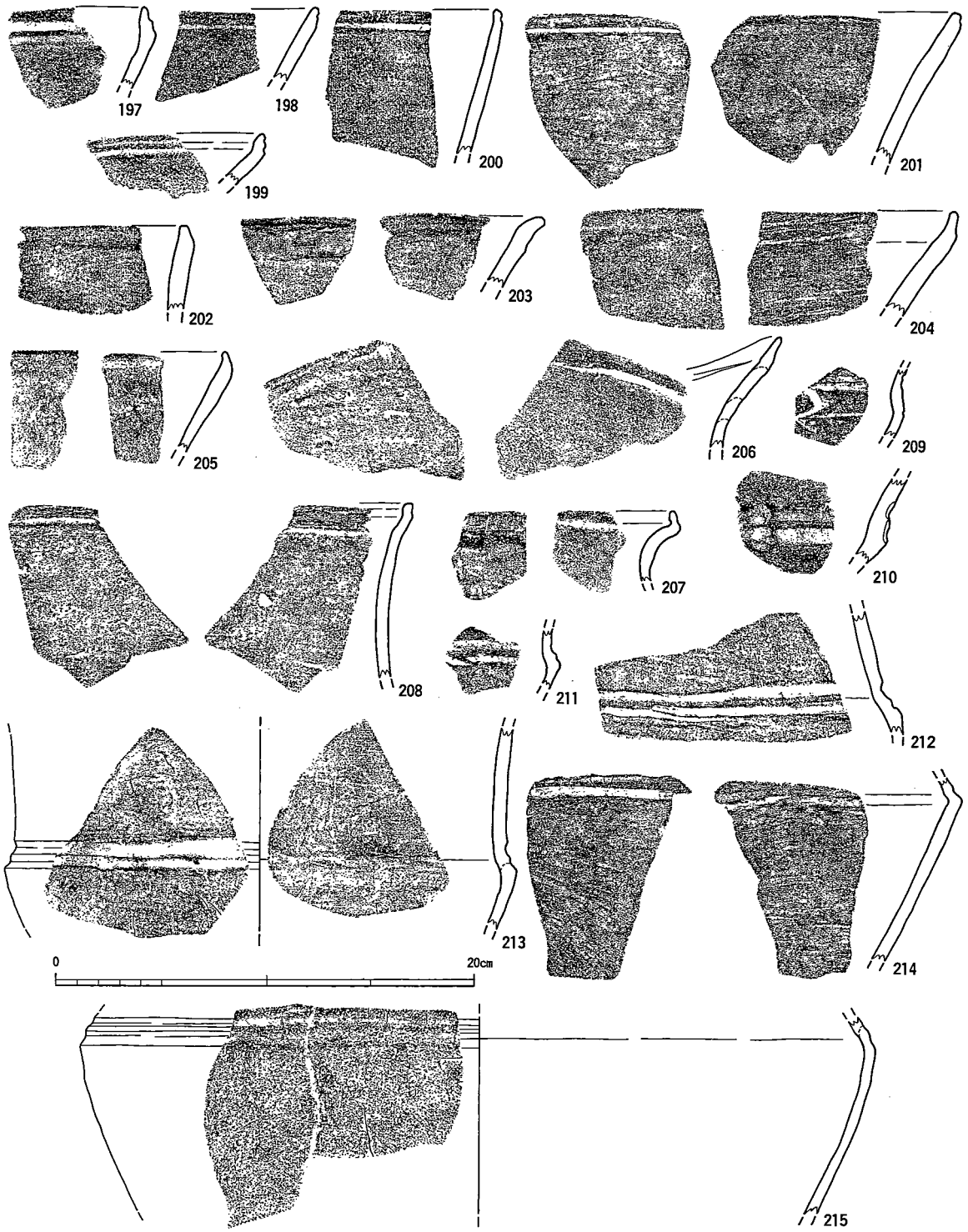
第22図　２号落込状遺構出土土器実測図３（1/3）



第23図　２号落込状遺構出土土器実測図４（1/3）

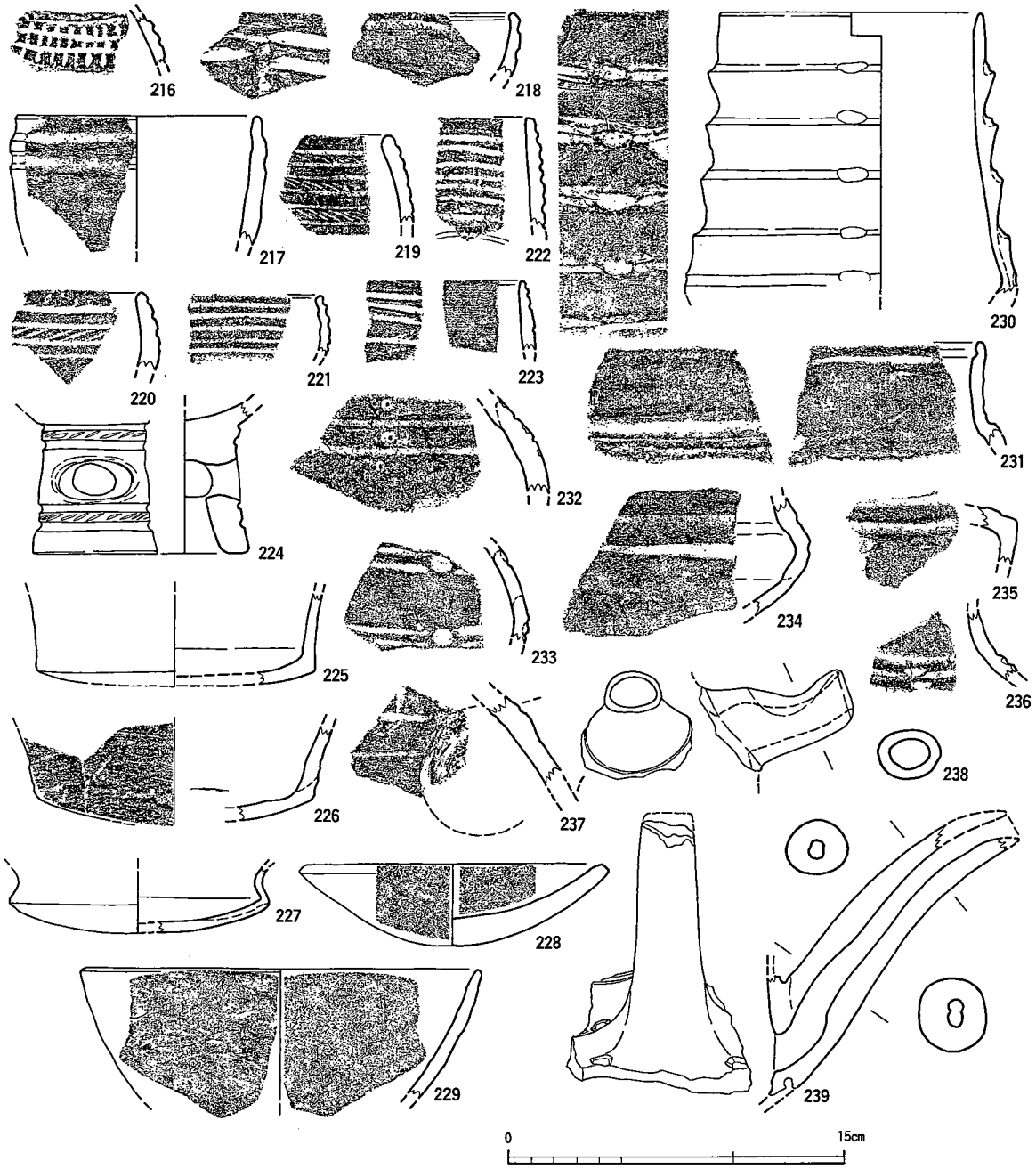


第24図　２号落込状遺構出土土器実測図５（1/3）



第25図　2号落込状遺構出土土器実測図6（1/3）

せる。150は文様帯の中位に貝殻基部による押圧文をつける。158～215は鳥井原式。口縁部文様帯に1条～3条の凹線文を巡らせる。158～160は凹線間に細位斜線文を施す。口縁部は外傾し、端部は外反するものが大多数であるが、161のように内傾するものや160のように直立するものも少数見られる。205等は口縁部文様帯にすでに文様を巡らせてはないが、口縁形態と調整からこの一群で図示している。178・210には押点が残る。171・172は三万田式に、208は晩期に含めた方が妥当で



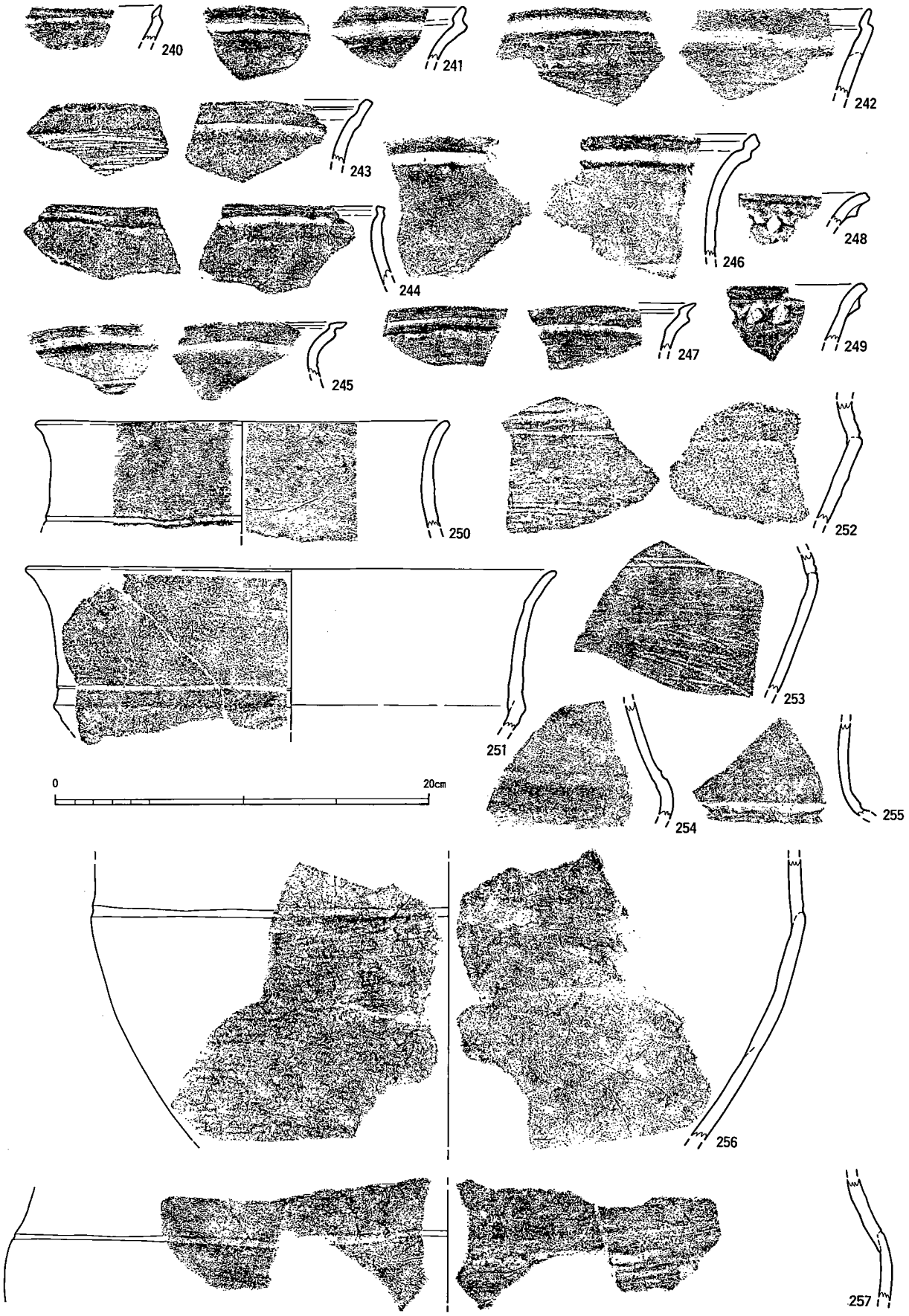
第26図　2号落込状遺構出土土器実測図7（1/3）

あろうか。

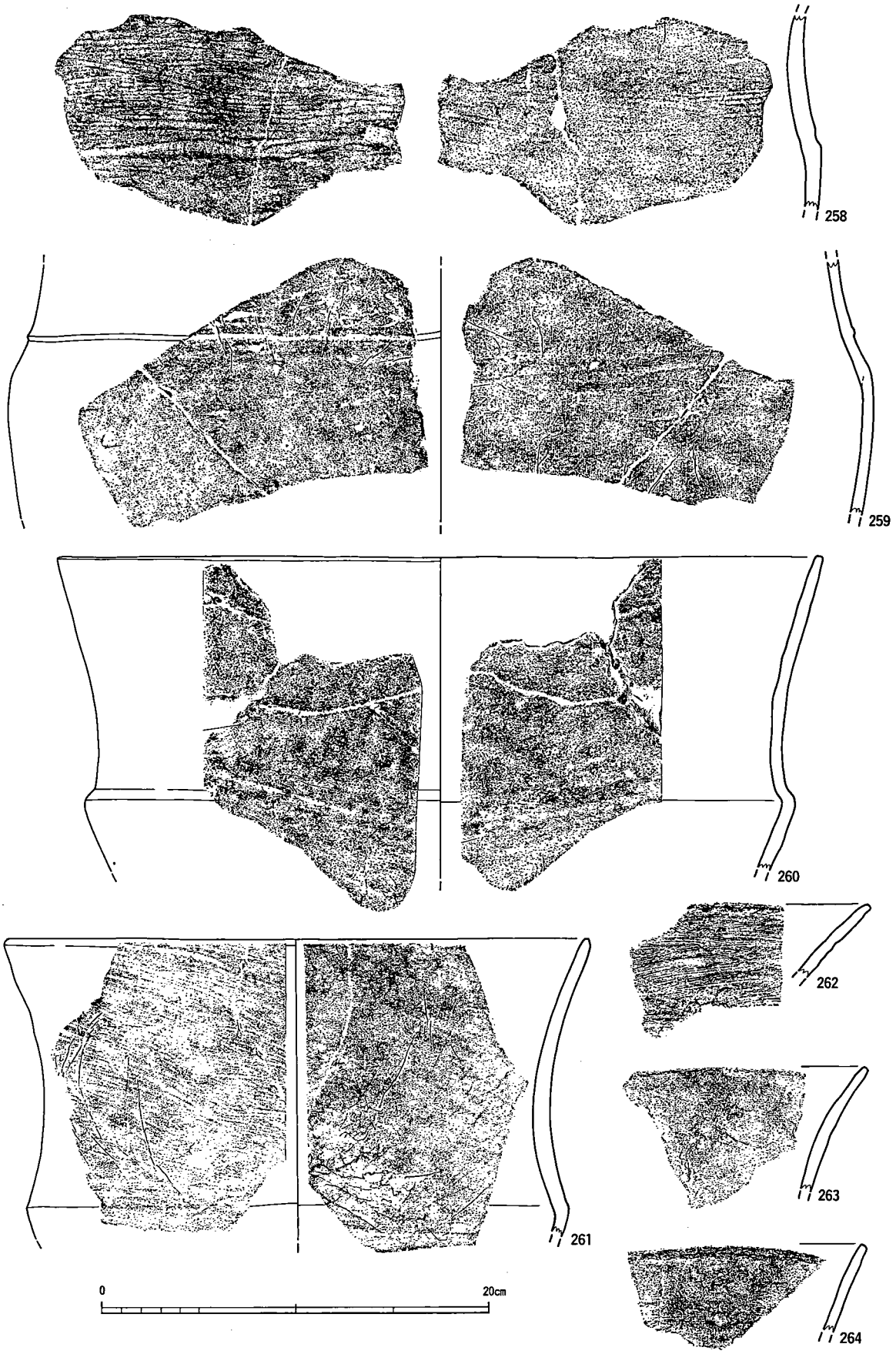
有文鉢（216～224）216は4本の沈線間に縦位の刺突を施す。太郎迫式。218～223はボウル状の鉢。217～220は三万田式。218は外面に太い沈線と刺突により施文する。219・220は沈線と斜位の刺突により、221～223は沈線により施文する。晩期。222の沈線は緩い孤を描く。224は脚付鉢の脚部。対する2方向に楕円形の透かしを持つ。透かしの上下には2本の沈線間に右上がりの斜位刺突による施文を行なう。三万田式。

無文鉢（225～229）225・226は三万田～鳥井原式と考えられる。227は晩期。

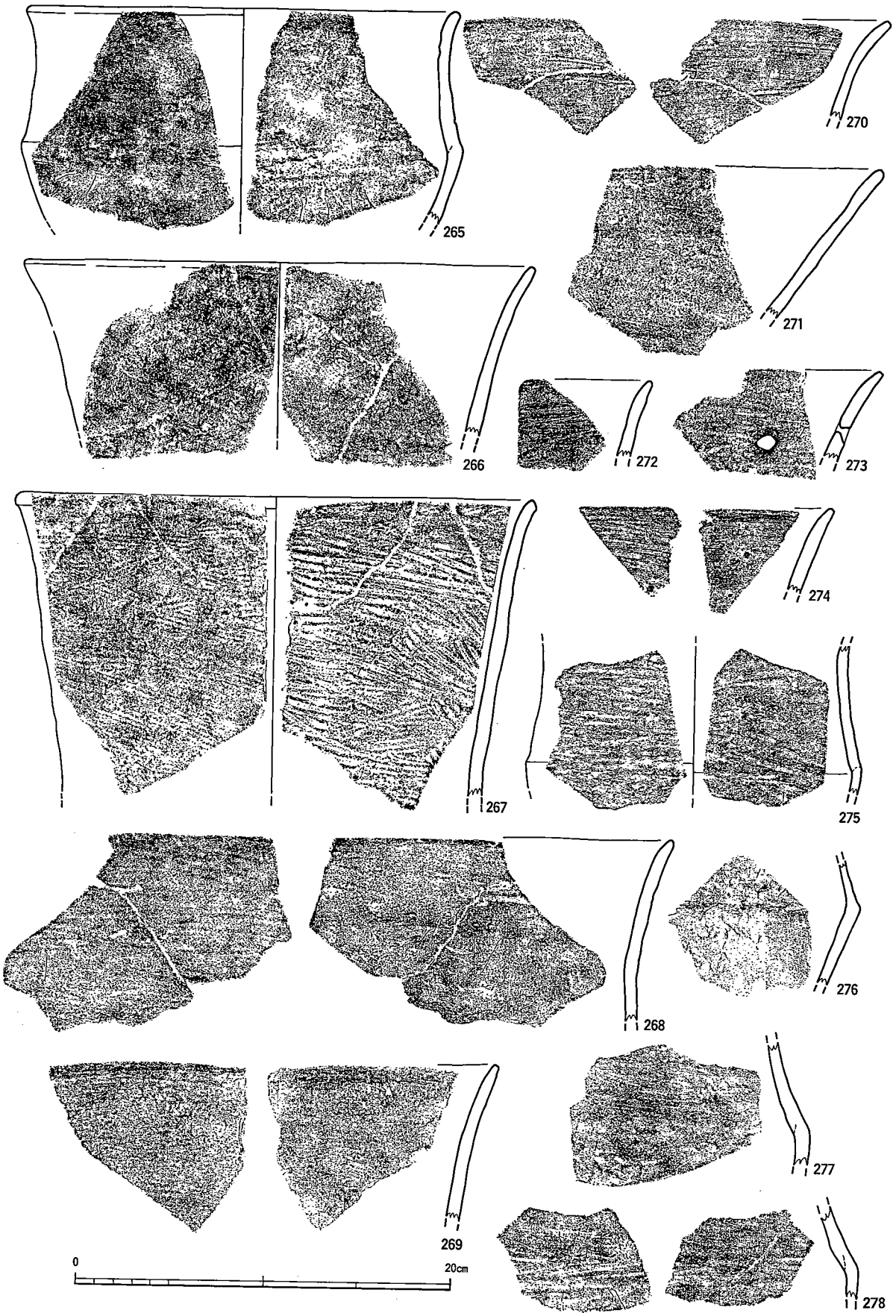
注口土器（230～239）すべて三万田式。230は口縁部から胴部上位にかけての破片である。外面には4つの稜を作り出し、稜のすぐ上位には凹点を施す。232は沈線間に竹管文を配する。237は注



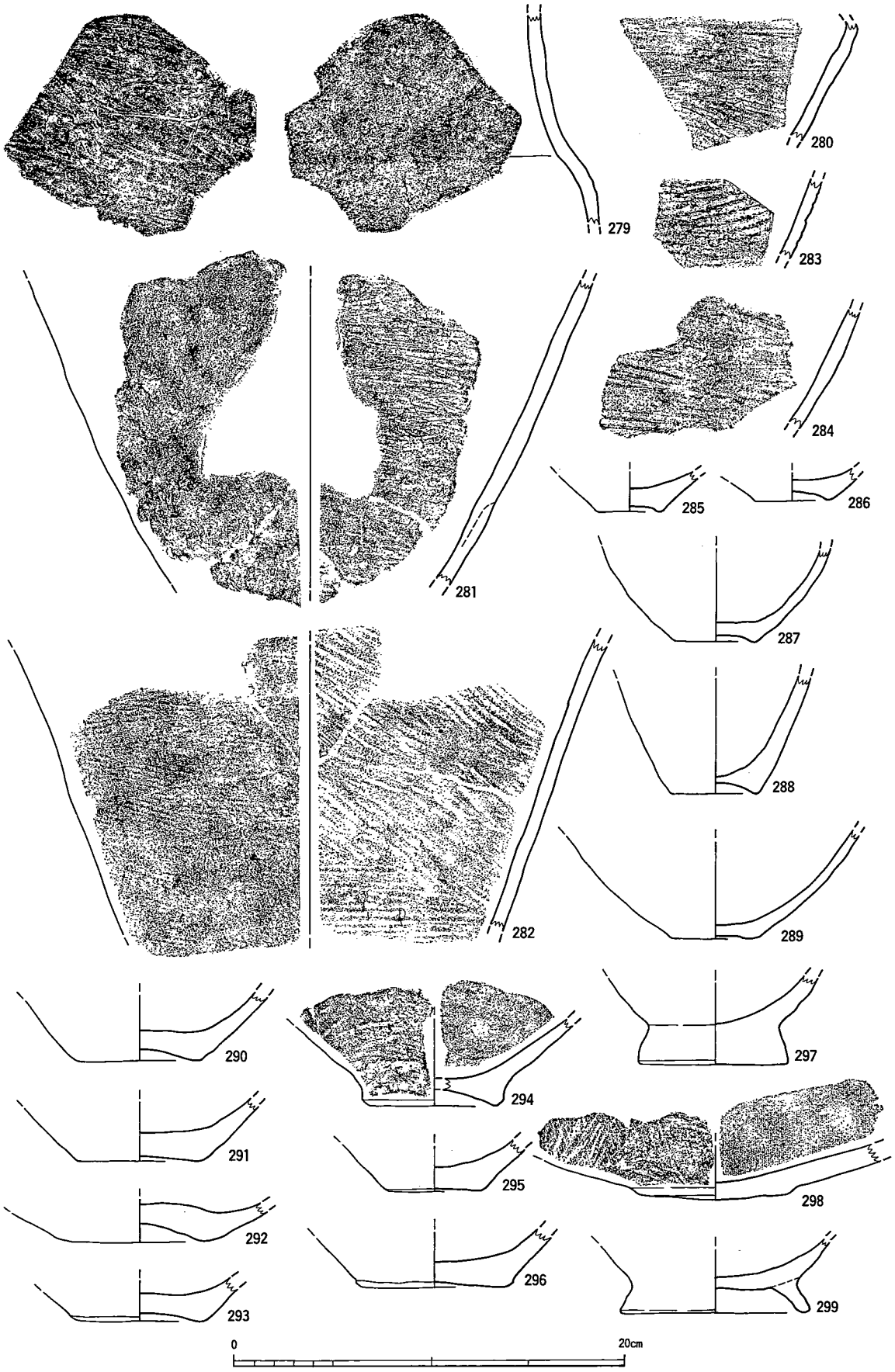
第27図　2号落込状遺構出土土器実測図8（1/3）



第28図　2号落込状遺構出土土器実測図9（1/3）



第29図　2号落込状遺構出土土器実測図10（1/3）



第30図　2号落込状遺構出土土器実測図11（1/3）

口の接合部分。238は注口部と胴部の接合部に浅い沈線を廻す。傾きは不確実である。239は注口接合部の上に2条の凹線を巡らせる。また、接合部付近にはヘラ状工具先端による刺突を4カ所にいれる。

無文深鉢（240～284）241～249は晩期。241～242は口縁部が内側に屈曲して、口縁端部が外傾するもの。248・249は刻目突帯をもつもの。250～259は肩部に1条ないしは2条の沈線をもつが、口縁部は外反する素口縁となることから、無文深鉢として位置づけた。調整は内外面ともミガキを施すものが少数みられるものの、内外面ともナデ調整するものや外面に条痕を残し内面はナデ調整するもの、内外面ともに条痕を残すものが多数を占める。273には補修孔が見られる。

底部（285～299）上底（285～295）と平底（296・297）、やや凸レンズ気味のもの（298）、高台を付すもの（299）がある。

石器（図版28～30、第31～41図）

打製石鏃（77～111）35点出土した。形態的には基部に抉りを持つものが大半を占める（77～109）。79・103・107・108の抉りは浅い。88～90・100は五角形鏃。101も五角形鏃になるものと考えられる。98・99は側縁部の中央に反りがあるタイプである。110は基部に抉りを持たない平基鏃で表裏ともに素材面を残す。111は先端部を欠損するが特異な形態。錐の可能性もある。80は裏面に主要剥離面を残し、素材は横長剥片である。102は剥片鏃で表裏ともに素材となった剥片の剥離面を残し、周縁部のみに二次加工を施す。欠損部位は先端部17点（49%）、脚部6点（17%）。石材は姫島産黒曜石26点（74%）、腰岳系黒曜石1点（3%）、安山岩系8点（23%）。重量は0.2～1.8gを測る。

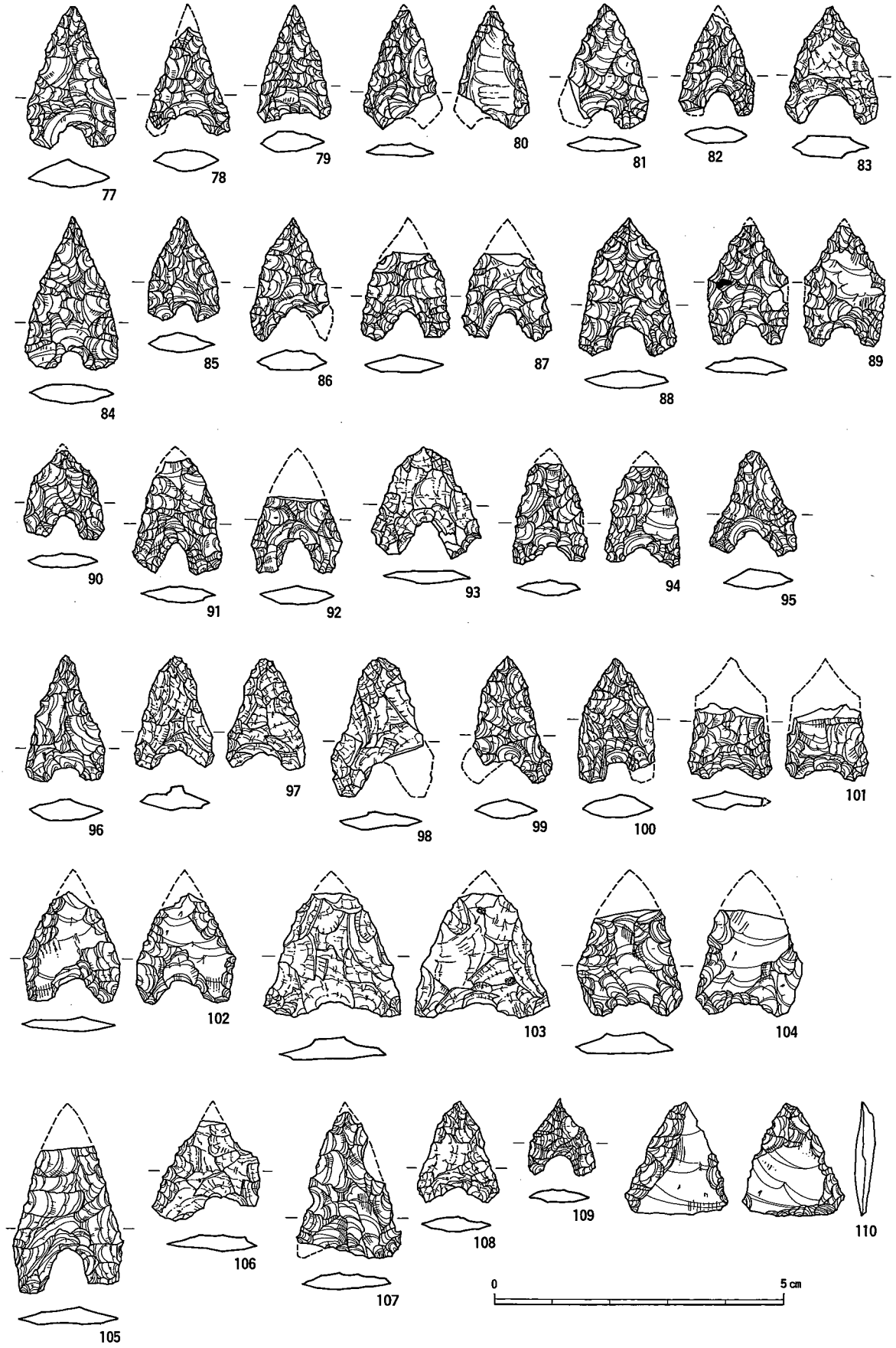
スクレイパー（112～121）112は横長剥片の周縁部に二次加工を施したもの。114・117は縦長剥片の縁部に二次加工を施し、刃部を作り出したもの。114の側縁には部分的に刃潰れが見られる。116の素材は横長剥片で一方の側縁に裏面から丁寧な剥離を施す。117・120は明確な刃部を作り出さない使用痕剥片。石材は114が腰岳系黒曜石、115・119は安山岩系。他は姫島産黒曜石。

石核（122）縦長剥片採取用の石核で、上下2面からの剥離がなされるが、上面は打面調整を行っている。側面にはわずかに自然面を残す。石材は姫島産黒曜石。

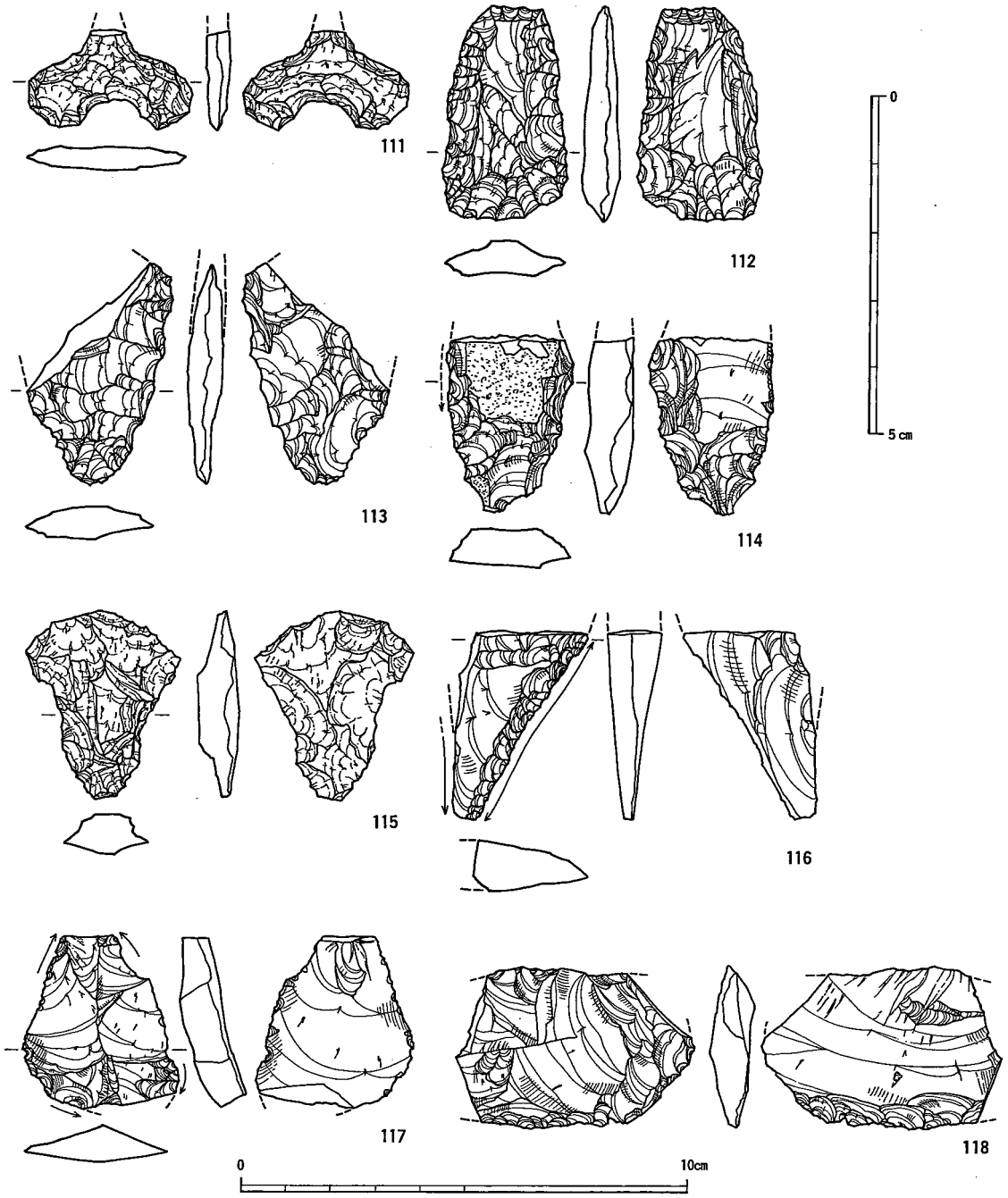
磨製石斧（123～125）いずれも折損している。123は左側縁が直線的で左右対称にはならない。124は他に比べて薄手である。

石鎌形石器（126）全面磨製の石器。長辺の一方に片刃状の刃部を研ぎ出すが、刃部端は鋭利ではなく丸味を帯びている。砂岩製。中途で折損しているが、折損部を部分的に磨いており、再利用したものと考えられる。

打製石斧（127～153）27点を図示した。全体的に簡易な作りである。表裏に素材面を残すものが多く、周縁に粗い二次加工を施して整形・刃部作り出しを行っている。127・145は表裏とも周縁部を除いた全面に研磨を行なう。135・138～142・147は表裏とも部分的に研磨する。また、132・133・135・140・142・145・152・153の刃部には使用痕が認められ、特に132・142の刃部の使用磨耗痕は顕著である。150・151は撥形となるもの。152は側辺の中位付近から刃部に向かって屈曲して開くタイプ。148は縁辺に二次加工を施すが、明確な刃部を作り出さない。また、石材も後述する「石棒形石製品」に似た凝灰岩を用いており、実用品と考えるにはやや難があろうか。153は両側縁のやや上位に抉りを入れる。遺存状況については刃部欠損が5点（19%）、中途折損が7点（26%）で、その他は完存（55%）している。ただ、完存するものでも、149のように刃部欠損後に再加



第31図　２号落込状遺構出土石器実測図１（1/1）



第32図　2号落込状遺構出土石器実測図2（111～116は1/1、117・118は2/3）

工・再使用したと考えられる個体が含まれている。石材は74点中28点（38%）が安山岩系、12点（16%）が頁岩系、33点（45%）が片岩系、1点（1%）が輝緑岩。

円盤形石器（154～158）5点出土した。156は薄手であるが、他は1号落込状遺構出土例に比べて厚みのあるものである。154～156は製作技法的には打製石斧と何等変わり無い。しかしながら158は扁平な河原石の周縁を部分的に打ち欠いただけのもので、下端部のみに刃部らしき面を作り出す。石材は154・156が緑泥片岩、155・157・158が安山岩系。

打欠石錘（159～194）36点出土した。159～193は扁平な円礫の両端に紐掛用の抉りを入れたもの。抉りはいずれも素材の長軸側に施している。194は長円形の石材を用い、3箇所に抉りを入れる。

石材は凝灰岩系が11点（31％）、他は安山岩系（59％）。重量は32.8～169.0ｇを測る。

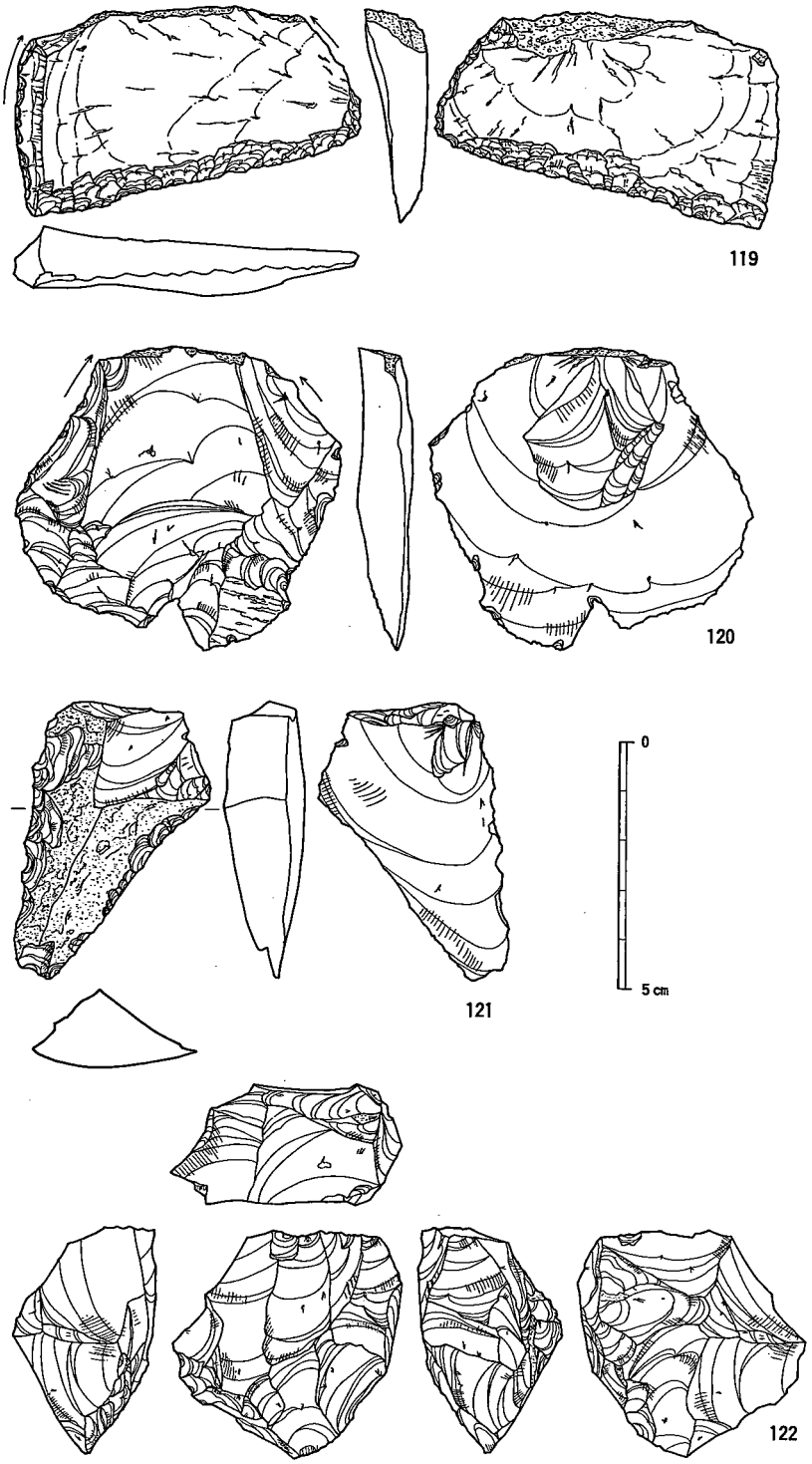
砥石（195）使用面は4面。仕上砥。

磨石（196～211）16点出土した。円礫の表裏に使用による磨れが認められるもの。平面形には円形（196～210）と棒状になるもの（211）がある。210は側縁の対する2箇所に打ち欠きがあり、石錘に転用したものか。石材は凝灰岩系が3点（19％）、他は安山岩系（81％）。

凹石（212～214）いずれも敲石に伴う台石と考えられ、表面の中央部が使用により凹んでいる。213・214は使用時に破損したものと思われる。石材は212・214が凝灰岩系、213が安山岩系。

敲石（215）丸棒状の敲石。下端部に敲打痕が残る。また、側面はよく擦れており、磨石兼用。

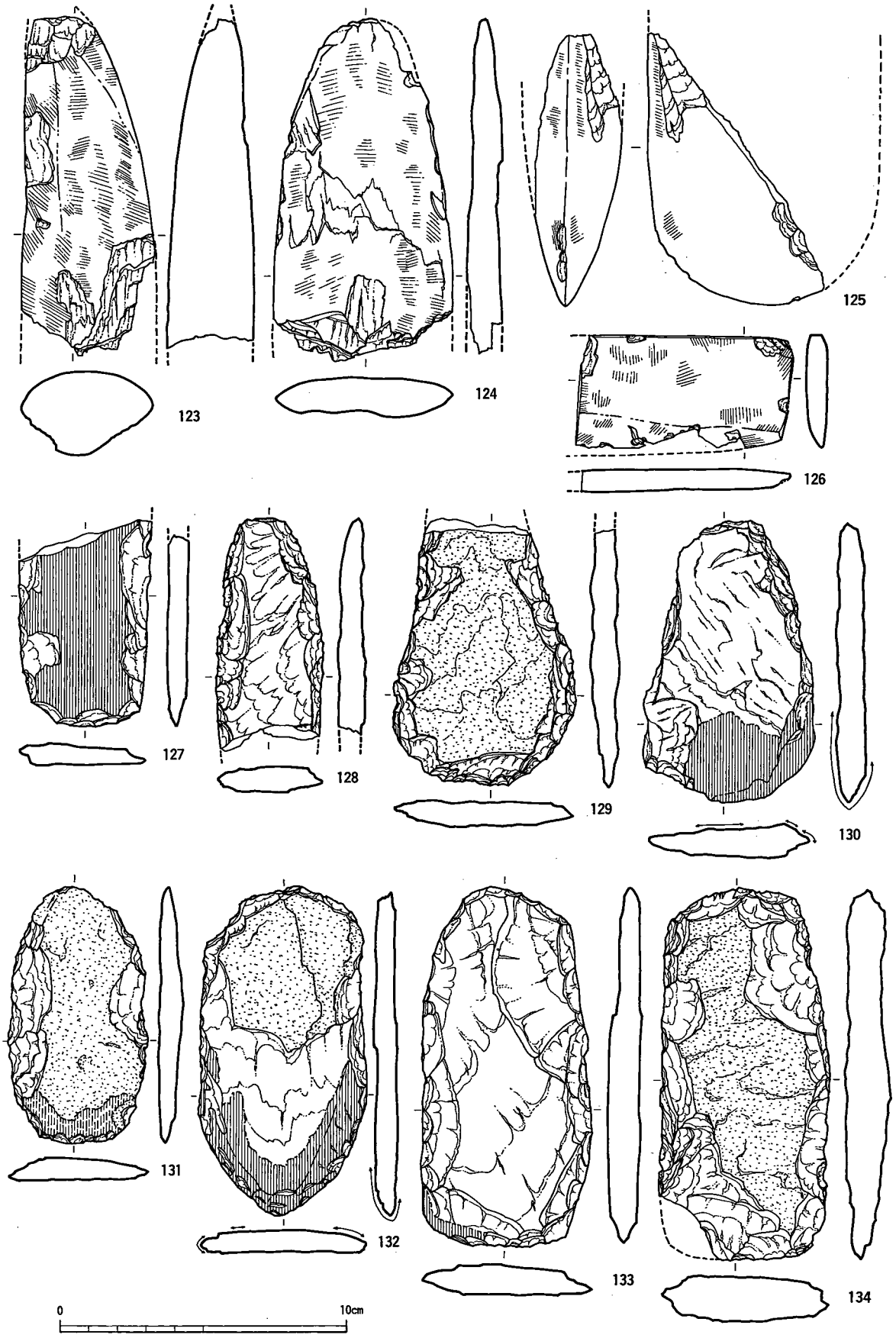
石皿（216）約4分の1が残存する。表裏ともよく擦れてまた凹んでおり、両面を使用したものと考えられる。復元すると径50cmほどになる。側面には熱を受け赤化した部分が見られる。



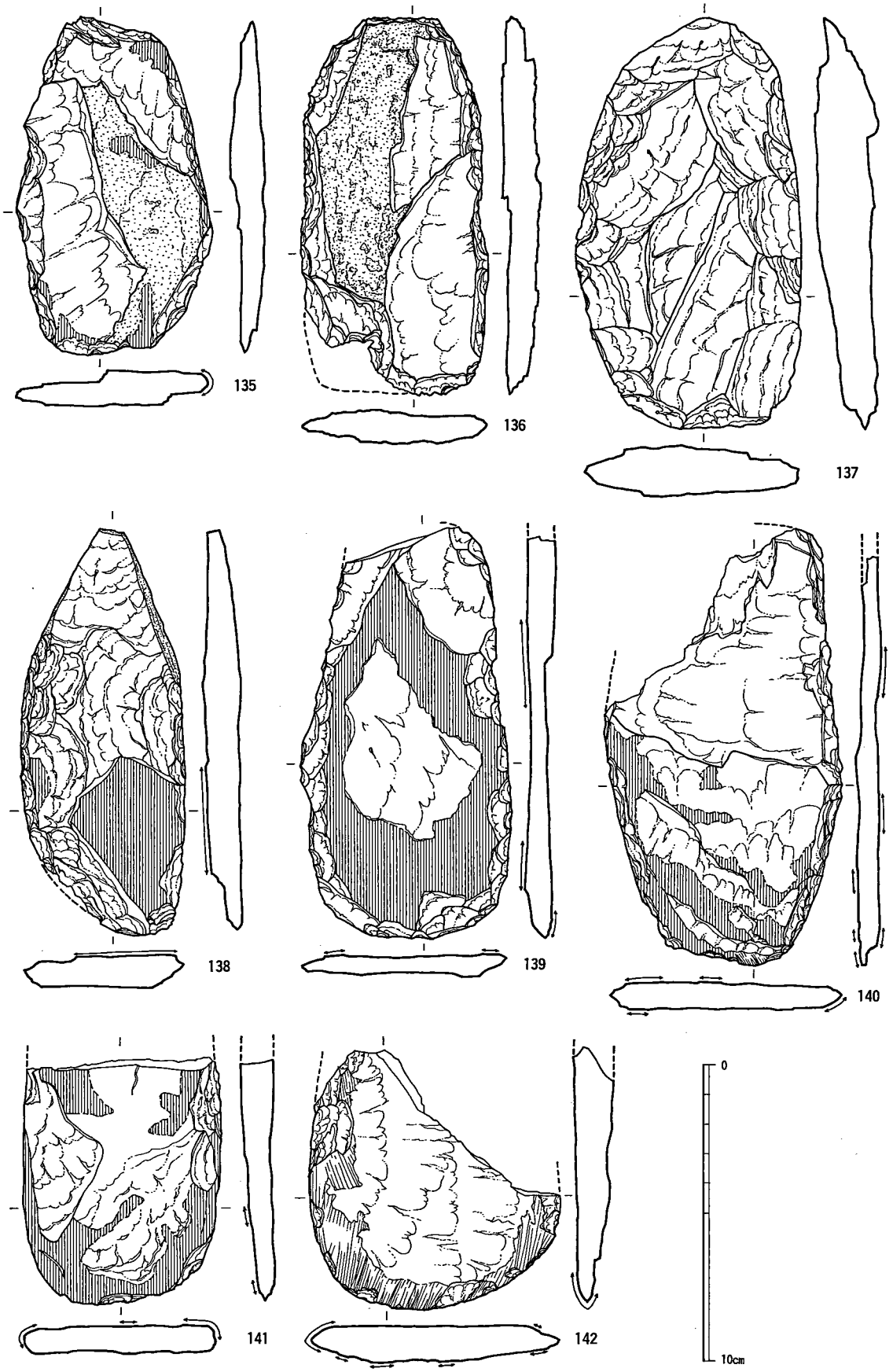
第33図　2号落込状遺構出土石器実測図3（2/3）

土製品（図版30、第42図）

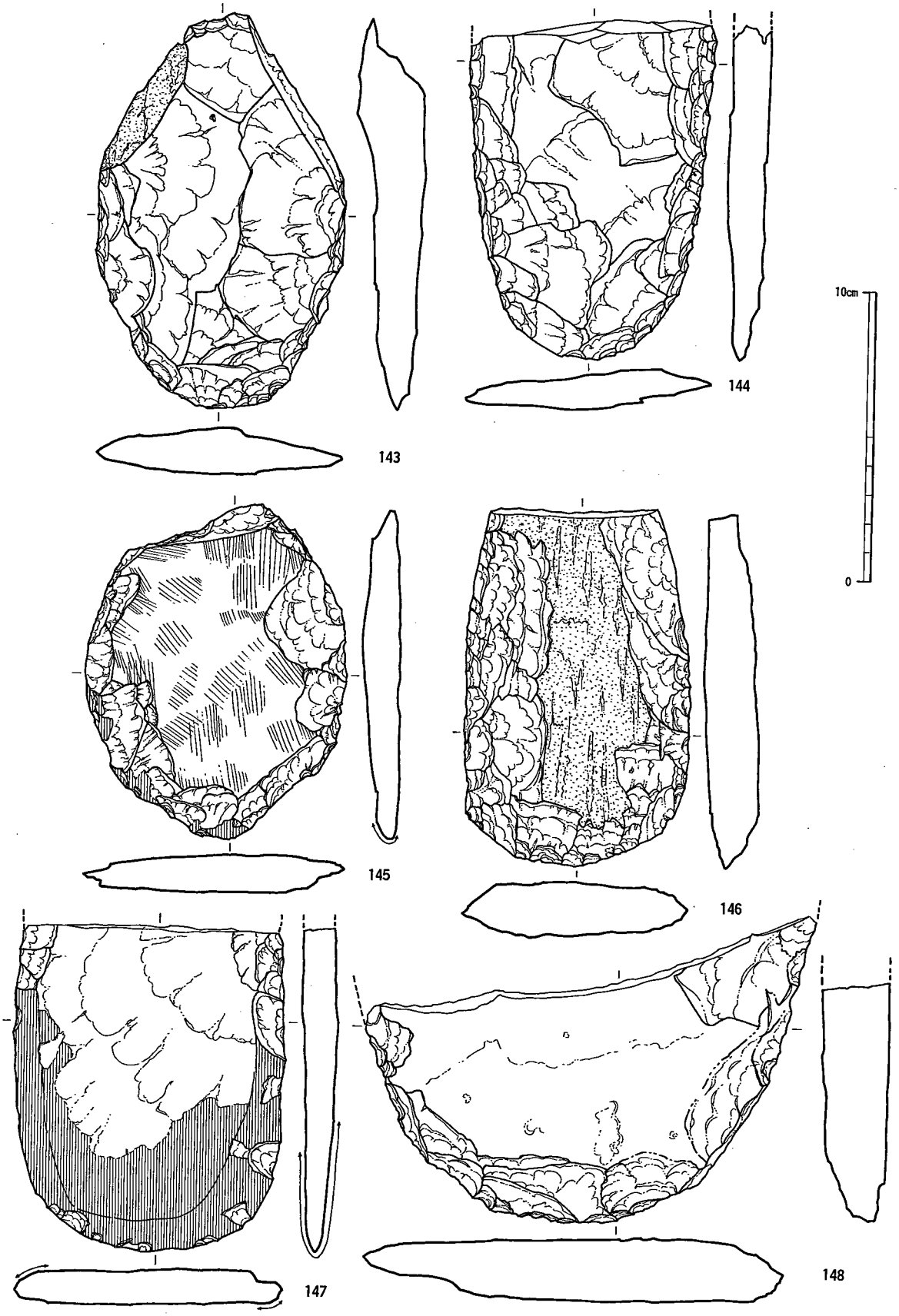
土偶（1・2）1は断面が楕円形の円柱状を呈し、先端は裾広がりになっている。上部は欠損するが、上面の中央部は窪み状に面が生きており、土偶の脚とすれば中空土偶となる。しかしながら、上部に鉢等を載せる土製品の可能性もある。胎土は精良で砂粒をわずかに含む。残存長6.4cm、裾



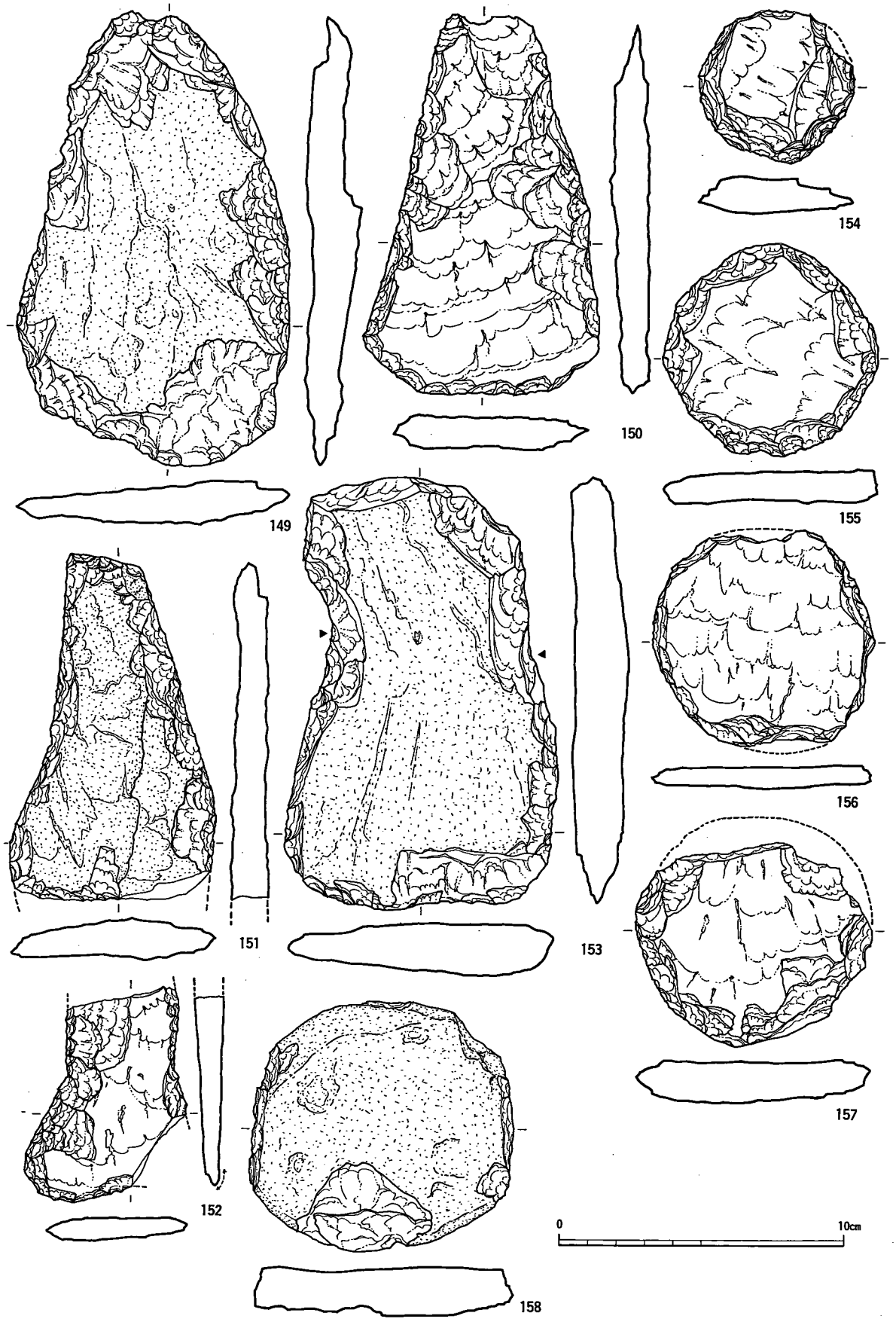
第34図　２号落込状遺構出土石器実測図４（1/2）



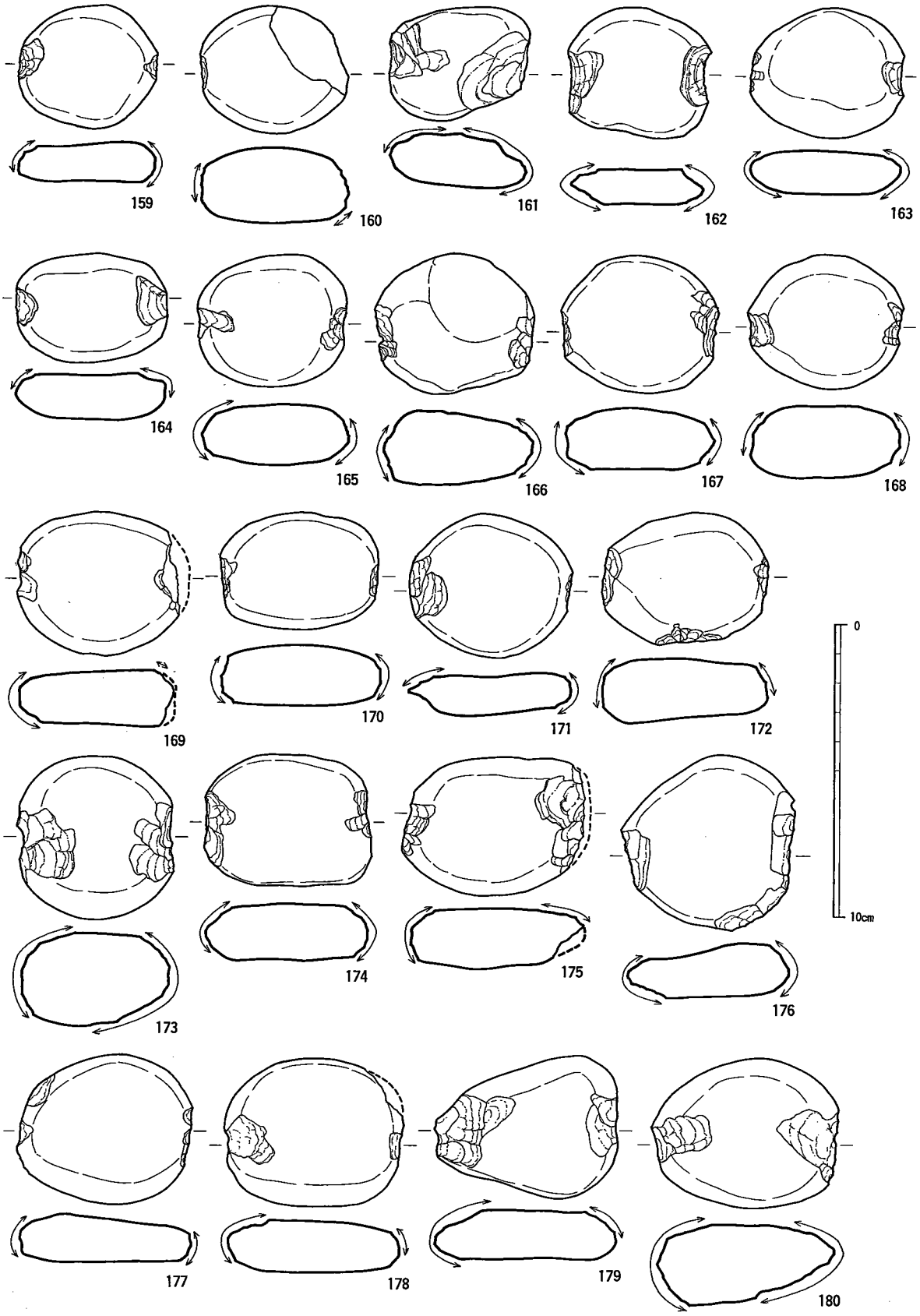
第35図　2号落込状遺構出土石器実測図5（1/2）



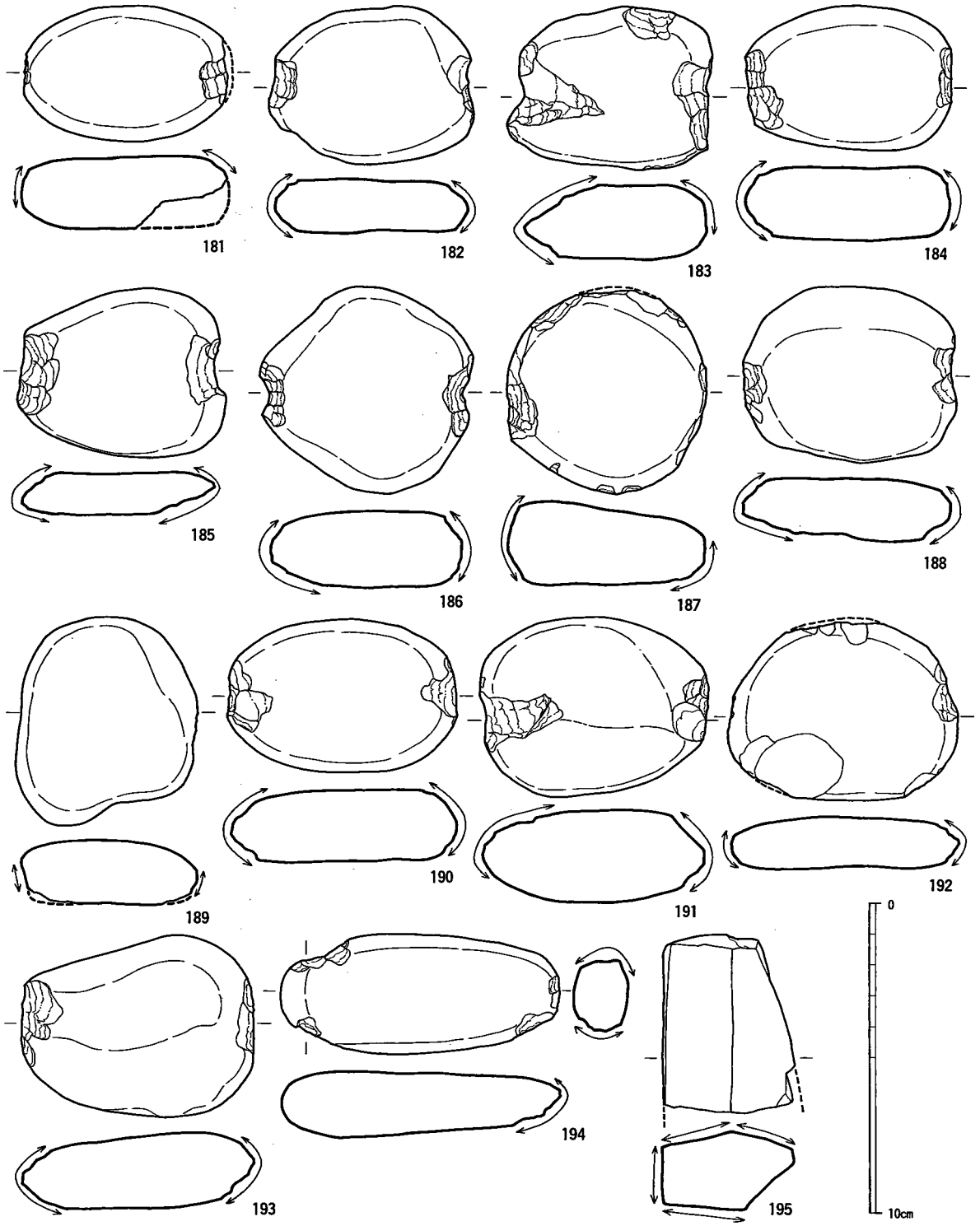
第36図　２号落込状遺構出土石器実測図６（1/2）



第37図　２号落込状遺構出土石器実測図７（1/2）



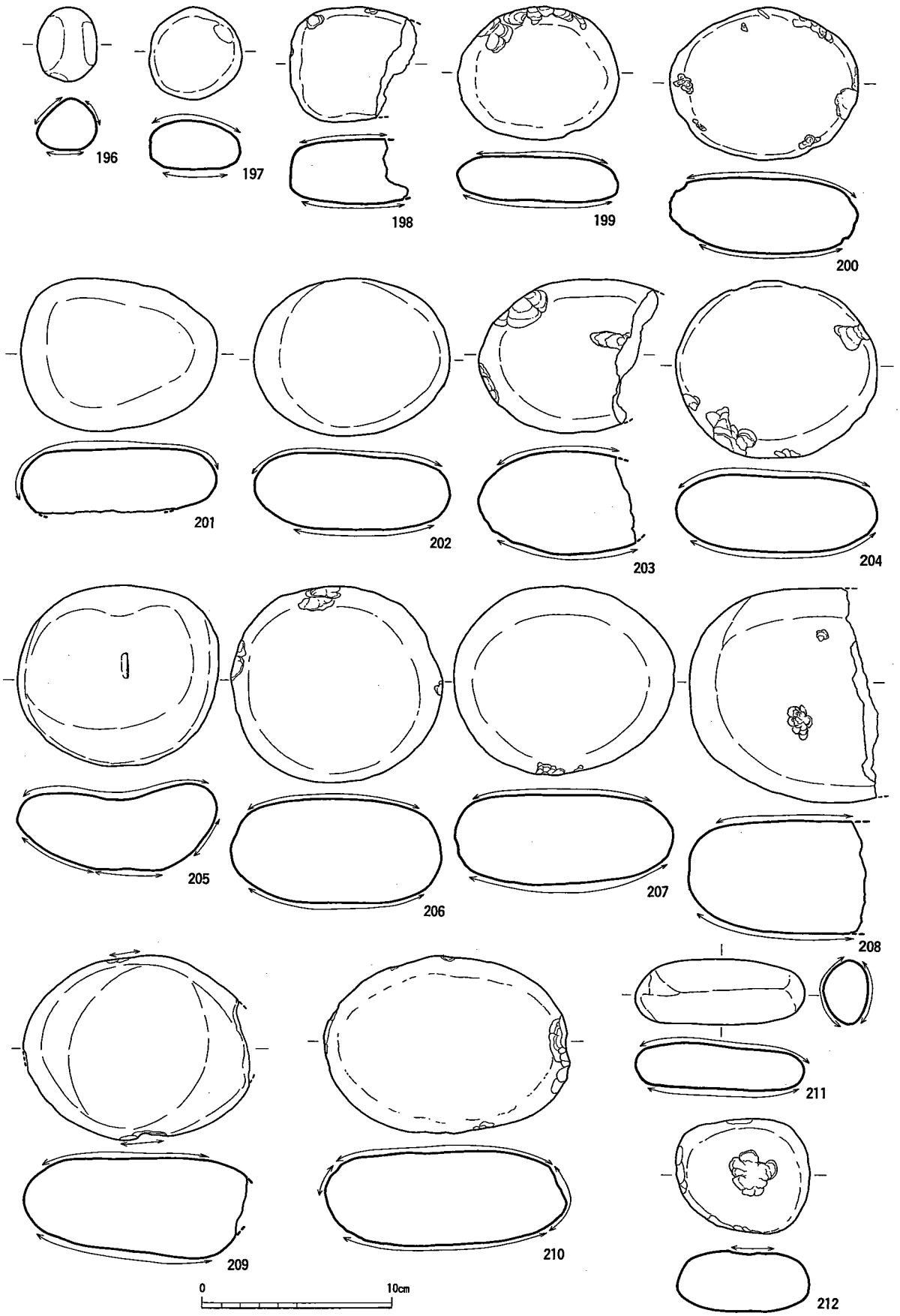
第38図　２号落込状遺構出土石器実測図８（1/2）



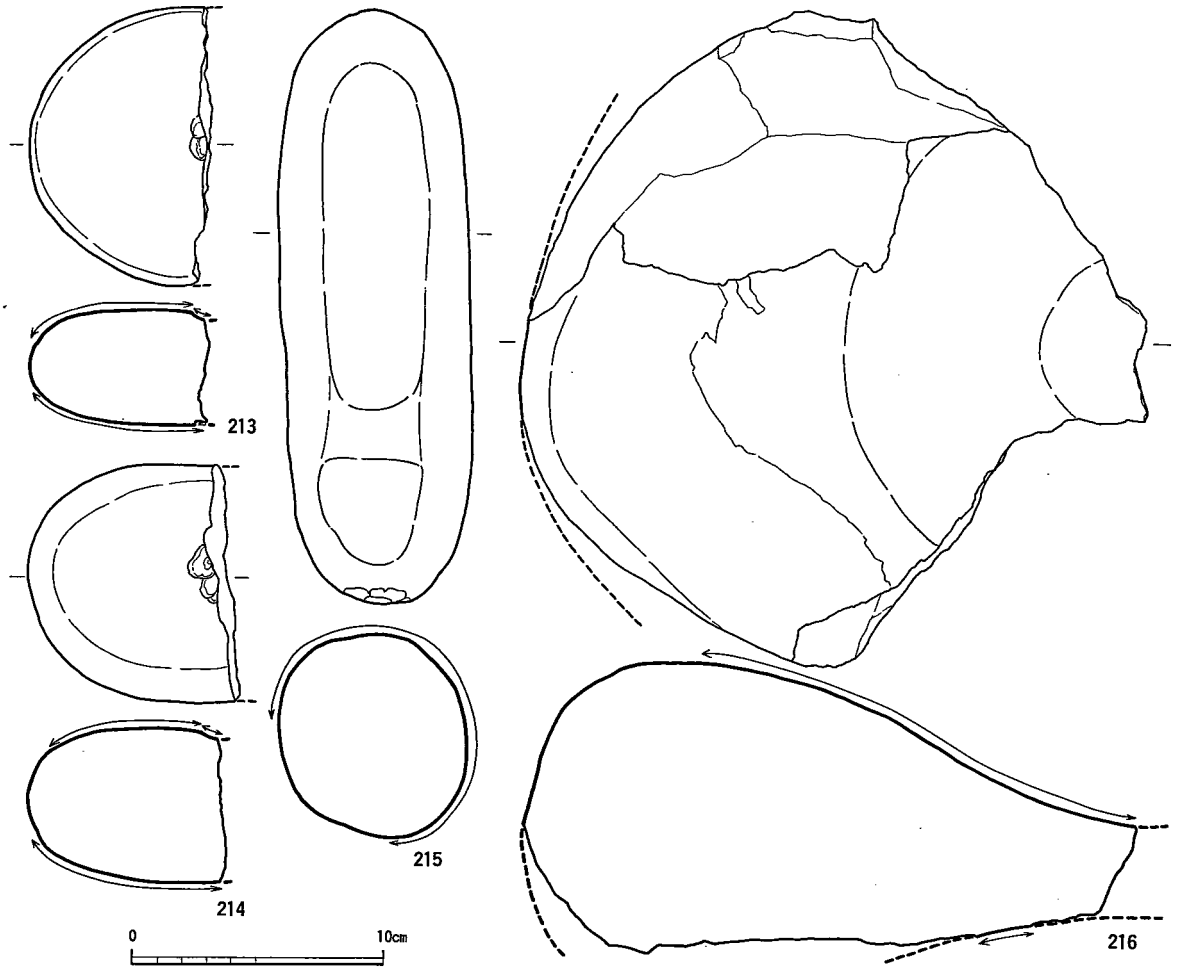
第39図　２号落込状遺構出土石器実測図９（1/2）

部径4.4cm。色調は暗黄褐色。２は左脚と考えられる。

高杯（３～７）鼓形を呈する小形の土製品で、天地は定かではない。形態は耳栓に似るが、口縁部と裾部に厚みをもたず、作りから見るとミニチュア製品と考えられる。色調は暗茶褐色～黄褐色。胎土は精良で、微砂粒をわずかに含む。口径・底径・器高は３が2.1cm・2.1cm・2.9cm、４が2.6cm・



第40図　２号落込状遺構出土石器実測図10（1/3）



第41図　２号落込状遺構出土石器実測図11（1/3）

2.8cm・2.5cm、５が2.6cm・2.9cm・2.9cm、７が4.5cm・4.5cm・3.4cm。

石製品（図版30、第42図）

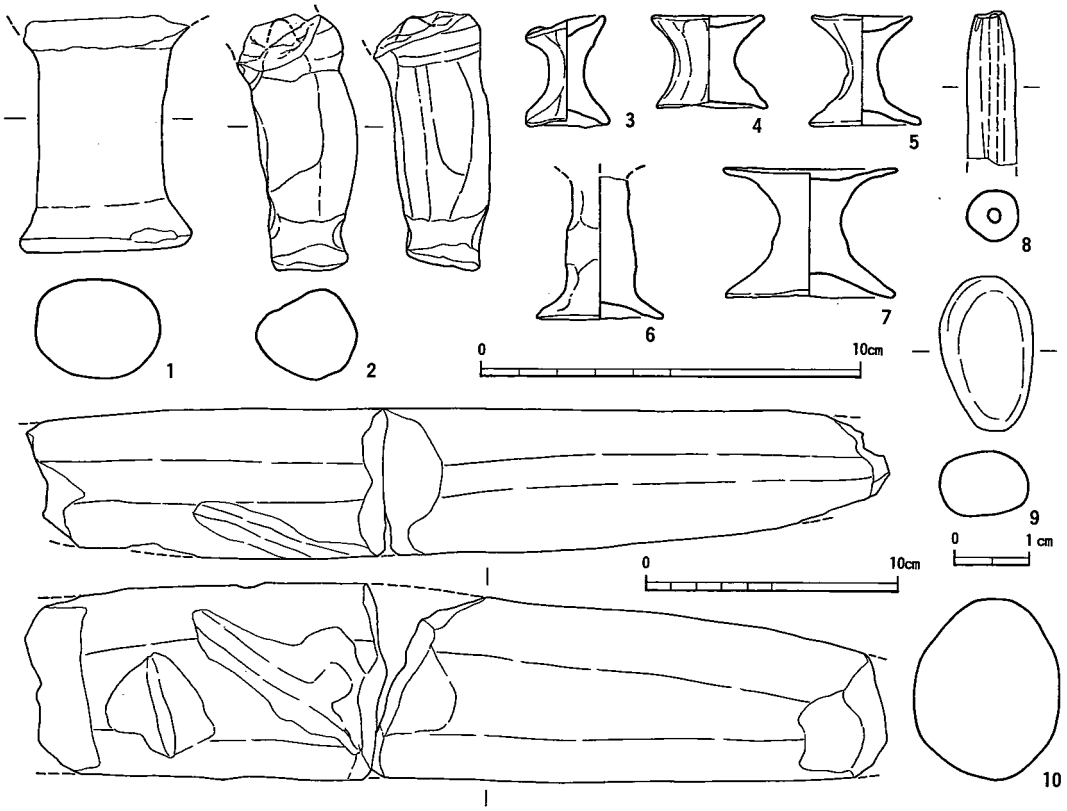
管玉（８）下半部を欠損する。頭部は丸く収めている。残存長2.0cm、径0.65cm、孔径0.1cm。ヒスイ製。

原石（９）ヒスイの原石。長径2.6cm、短径1.2cm、厚さ0.9cm。２層出土。

石棒状石製品（10）いわゆる「桜ヶ丘型石器」の類である。中途で折損しており、折損面の風化が著しいため確実に接合するとは云い難いものの同一個体である。両端部は欠失している。平面形は下辺が直線的で、上辺は緩やかな円弧を描いている。横断面は略卵形で下面にあたる部分はわずかに面をなす。残存長33.8cm、最大幅7.7cm、最大厚5.7cmを測る。石材は凝灰岩で極めて軽い。材には径0.5～2.8cmの黄褐色の粒子を多く含んでいる。図面の左部分は３号落込状遺構東側下層から、右部分は２号落込状遺構９層からの出土であり、落込間で唯一接合した資料である。

３号落込状遺構（図版６、第43図）

３-２区北東隅部で検出したが、大半は調査区外に広がっているため全掘していない。平面形は１・２号落込状遺構と同じく不整形で、底面は凹凸が著しい。東西長は10m以上、最も低い北東隅



第42図　2号落込状遺構出土土製品・石製品実測図（1～7は1/2・8～9は1/1・10は1/3）

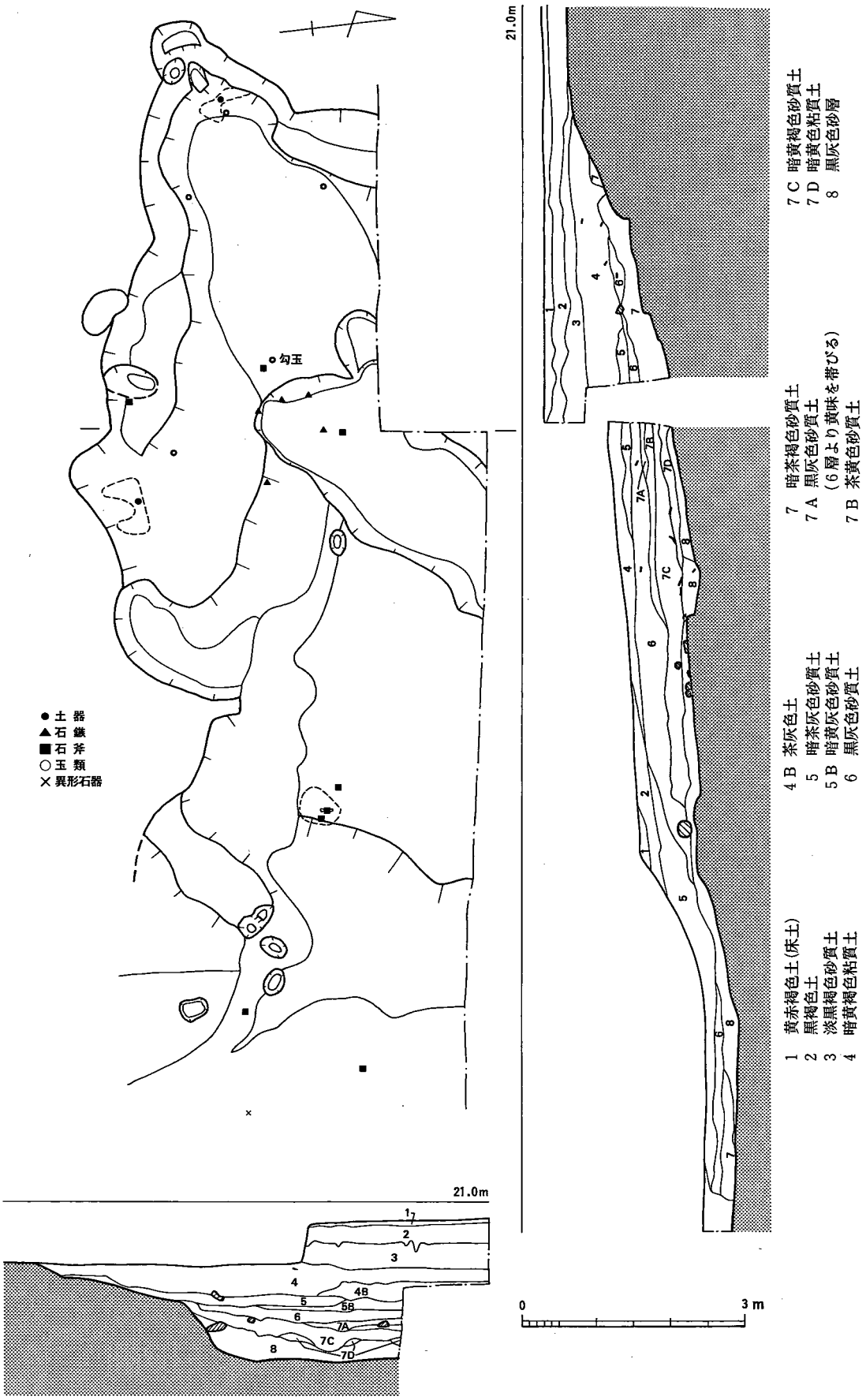
部で深さ1.7mを測る。

出土遺物

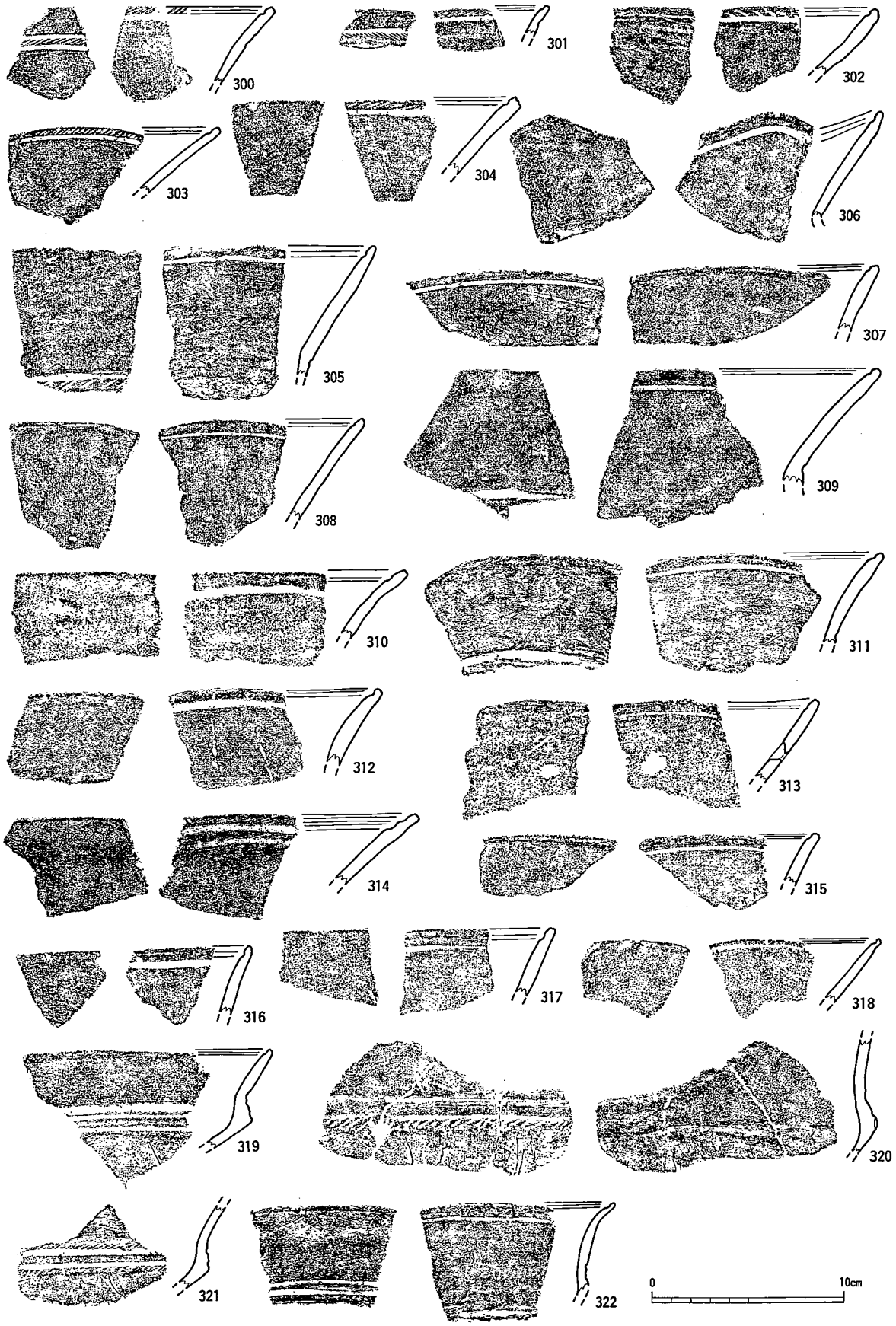
土器（図版31～38、第44～57図）

有文浅鉢（300～332）300～321は三万田式。300～319は口縁部破片で、口縁部内面に1条の沈線を巡らせる。314のみは2条の沈線となる。300～304は口縁端部の内面に斜位の刺突を伴う。313は補修孔が残る。320・321は屈曲部の破片で斜位の刺突を伴う。322は鳥井原式。口縁部内面に1条と屈曲部上位に2条の凹線を巡らせる。323・324は広田Ⅱ～Ⅲ式期。325～333は晩期。327～332は橿原式系。外面には沈線によって文様を施す。331には凹点が残る。334は外面に、331～333は内面に段をもつ。

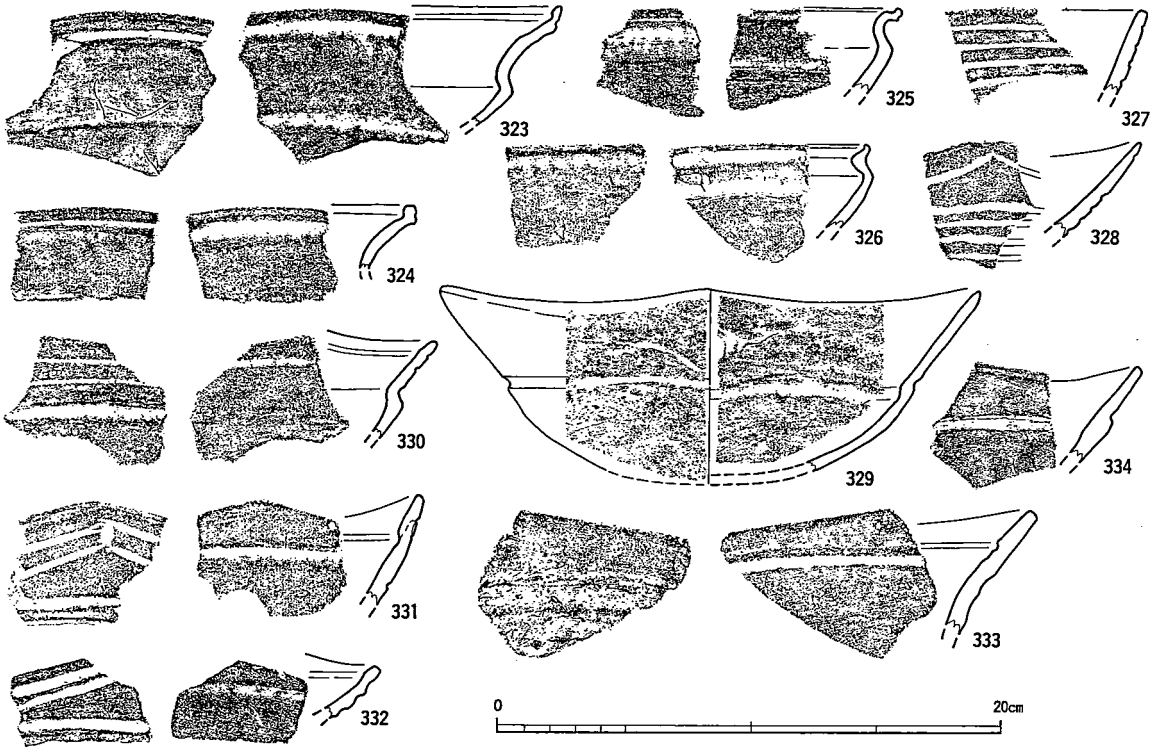
有文深鉢（335～449）335は小池原上層式の波頂部近くの破片。太い沈線文が施される。内面はナデ調整するが凹凸が著しい。336・337は鐘崎式。336は外面に2条の沈線を巡らせ、沈線のとぎれる部分に蛇行文を配する。337は太い沈線文を巡らせる。338～341は北久根山式。338は波頂部近くの破片で、口縁部文様帯と口縁端部に沈線と刺突によって文様を施す。340は凹点・沈線・斜位刺突によって文様を施す。341は外面にRL縄文を転がす。342は2条の沈線と斜位刺突による施文。343～375は太郎迫式。343～353は口縁部。343は波状口縁の波頂部で、2個一対の刺突と沈線により文様を施す。344～353は口縁部が短く内傾し、口縁部文様帯には2条の沈線を巡らせる。354～375は胴部から屈曲部にかけての破片。354は押引文を、355・356は沈線と刺突を組み合わせて施文する。357は対向孤文と沈線文を、358は対向孤文と沈線文・刺突文を施す。359は沈線とRL縄文の組合せ。360は沈線と太い撚紐の押圧による施文である。361～371は4～5条の沈線と斜位の刺突



第43図　3号落込状遺構実測図（1/80）



第44図　3号落込状遺構出土土器実測図1（1/3）



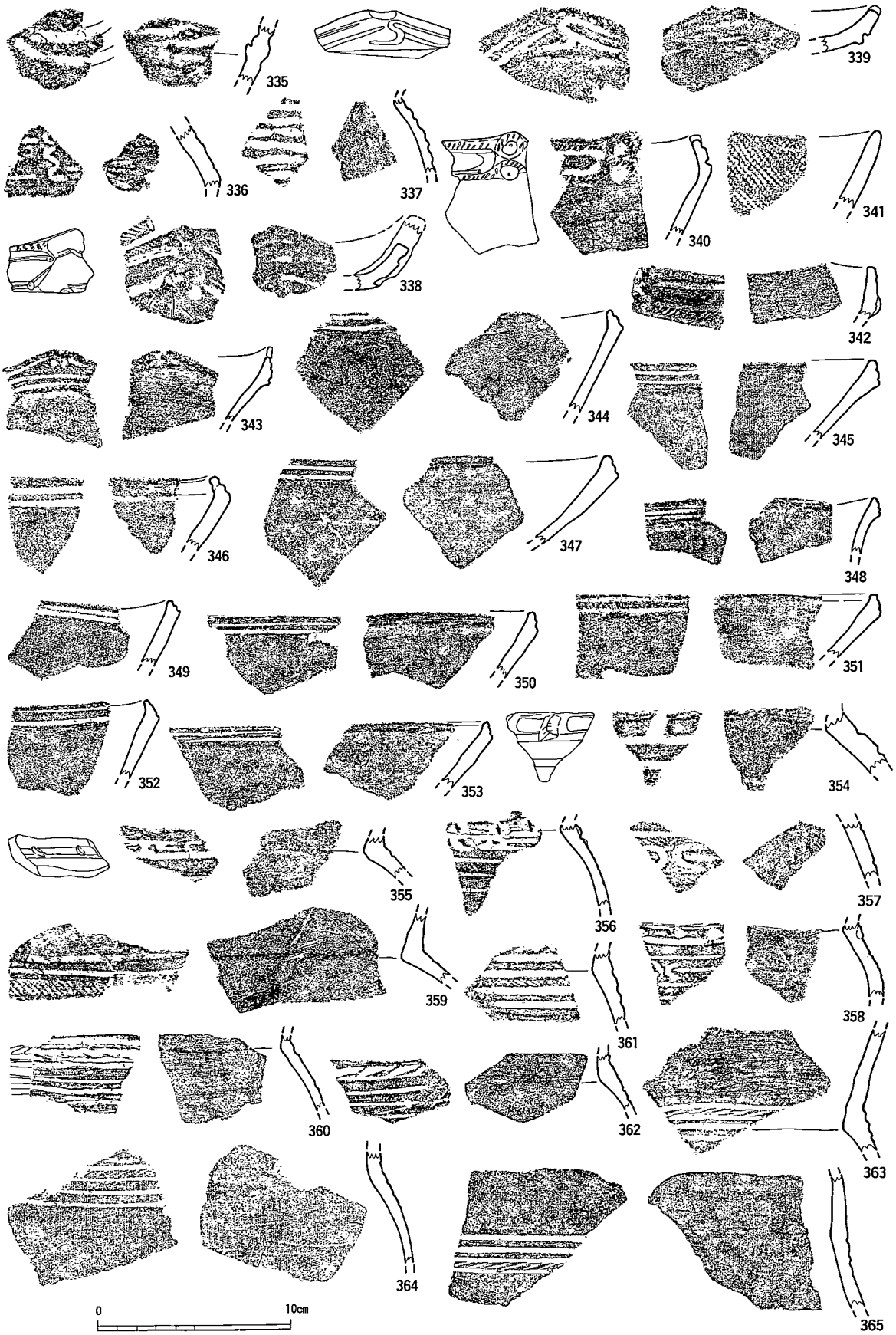
第45図　3号落込状遺構出土土器実測図2（1/3）

による施文。刺突は361を除いてすべて右上がりである。376～408は三万田式。376～379は沈線と斜位刺突の組合せによる文様を施す。376は内外面に1条の沈線を巡らせる。胴部文様帯に巡る沈線は3条となり、文様帯の幅自体も太郎迫式に比べて狭くなる。380～407は沈線のみを巡らせる。口縁形態には378・398のように強く内傾するものも見られる。393は三万田式に含めたが沈線が凹線化しており、鳥井原式に近い時期のものか。402は波状口縁の頂部下に凹点が残る。409～435は鳥井原式。409～425は口縁部で、口縁部文様帯に2～3条の凹線を巡らせる。口縁形状はやや外傾気味に直立するものと、外反するものが多数で、やや内傾するものも若干含まれる。409は斜位刺突を、411は細い羽状文を施す。410は沈線部分に凹点をもつが施文工具は不明。430～435は胴部破片。431は胴部が張り気味で古い様相を呈するが、斜位刺突文が細く長いことから鳥井原式に含めた。436～447・449は口縁部文様帯に1条の沈線を巡らせるもの。調整は内外面ともナデがほとんどであるが、稀にミガキを施すものも見受けられる。448は口縁部の内外面に沈線を巡らせる。

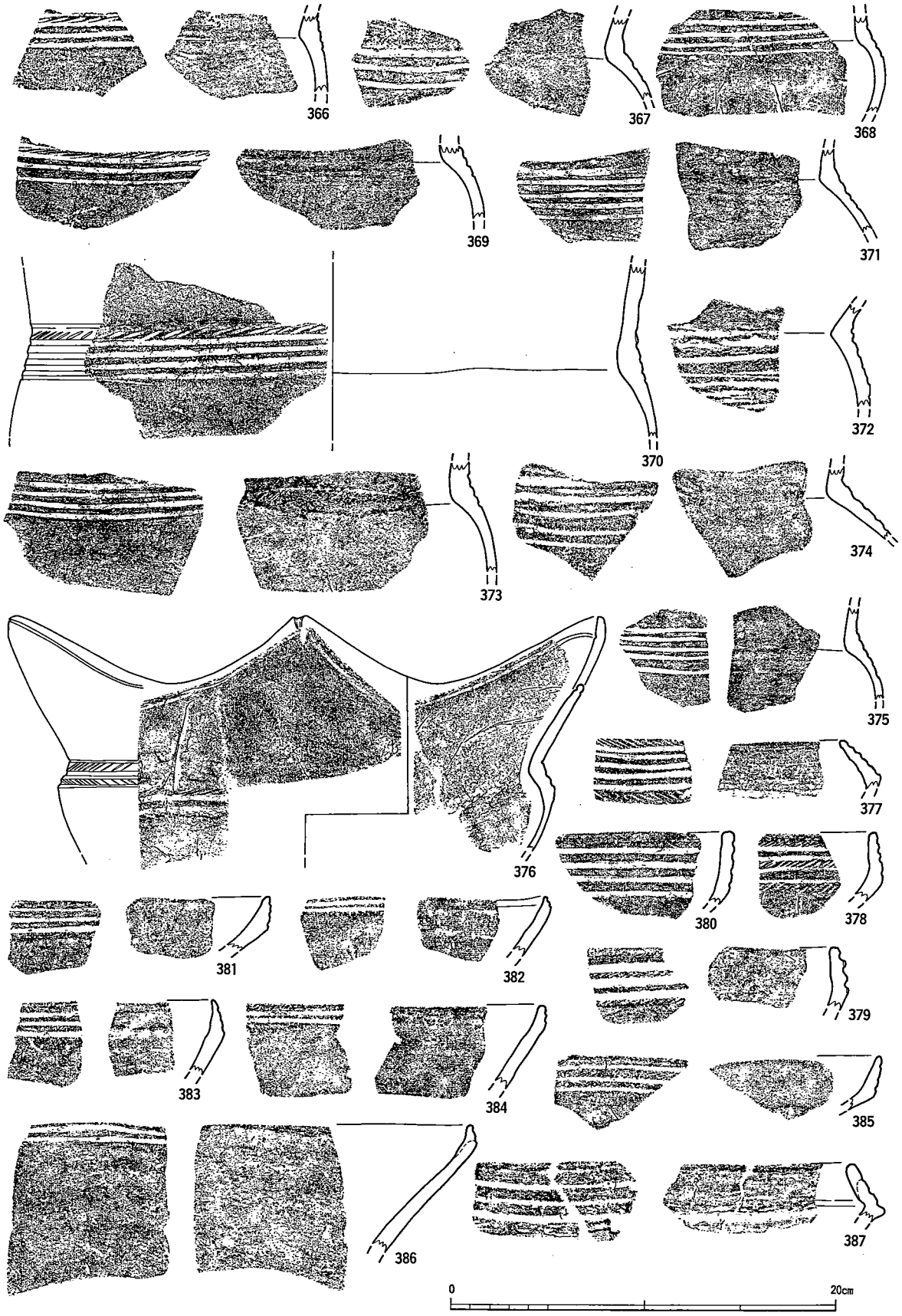
有文鉢（450～457）450～454は三万田式の有文鉢。沈線と斜位の刺突によって施文される。455・456はボウル状の有文鉢。晩期。457は鳥井原式の角鉢で、脚がつくものと考えられる。口縁部文様帯に凹線と細かい斜位刺突によって施文される。

無文鉢（458～460）458はボウル状の鉢。459・460は鉢の底部と考えられる。

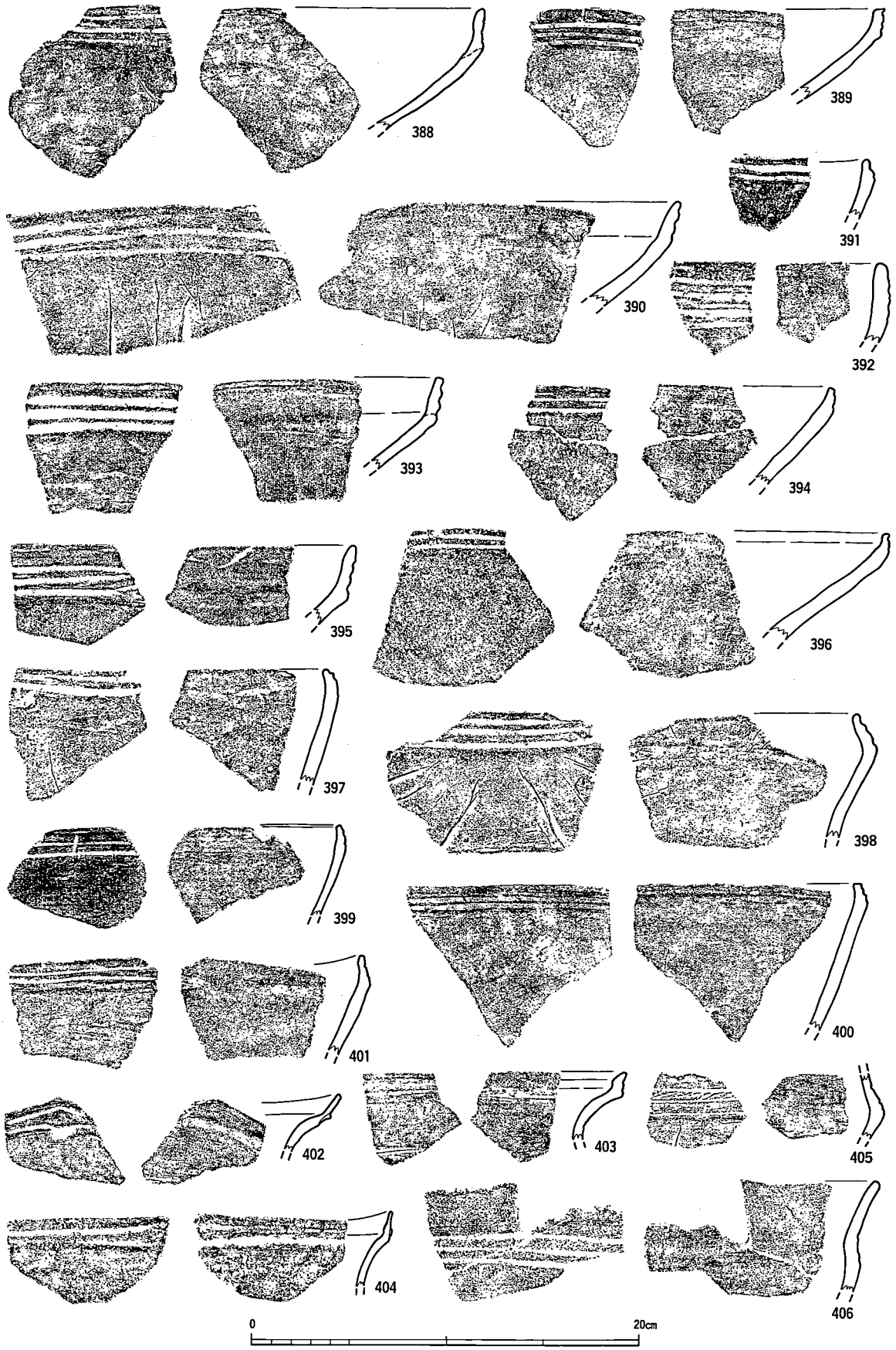
注口土器（461～472）461～466は三万田式。施文は沈線と刺突によって行なわれるが器形・施文箇所にバリエーションがみられる。467～469は鳥井原式。467は凹線と凹点文による文様が施される。内面には接合痕が明瞭に残る。小形の壺になる可能性もある。468・469の施文は凹線と斜位と羽状の刺突によって行なわれる。470～472は注口部分で、三万田式～鳥井原式。



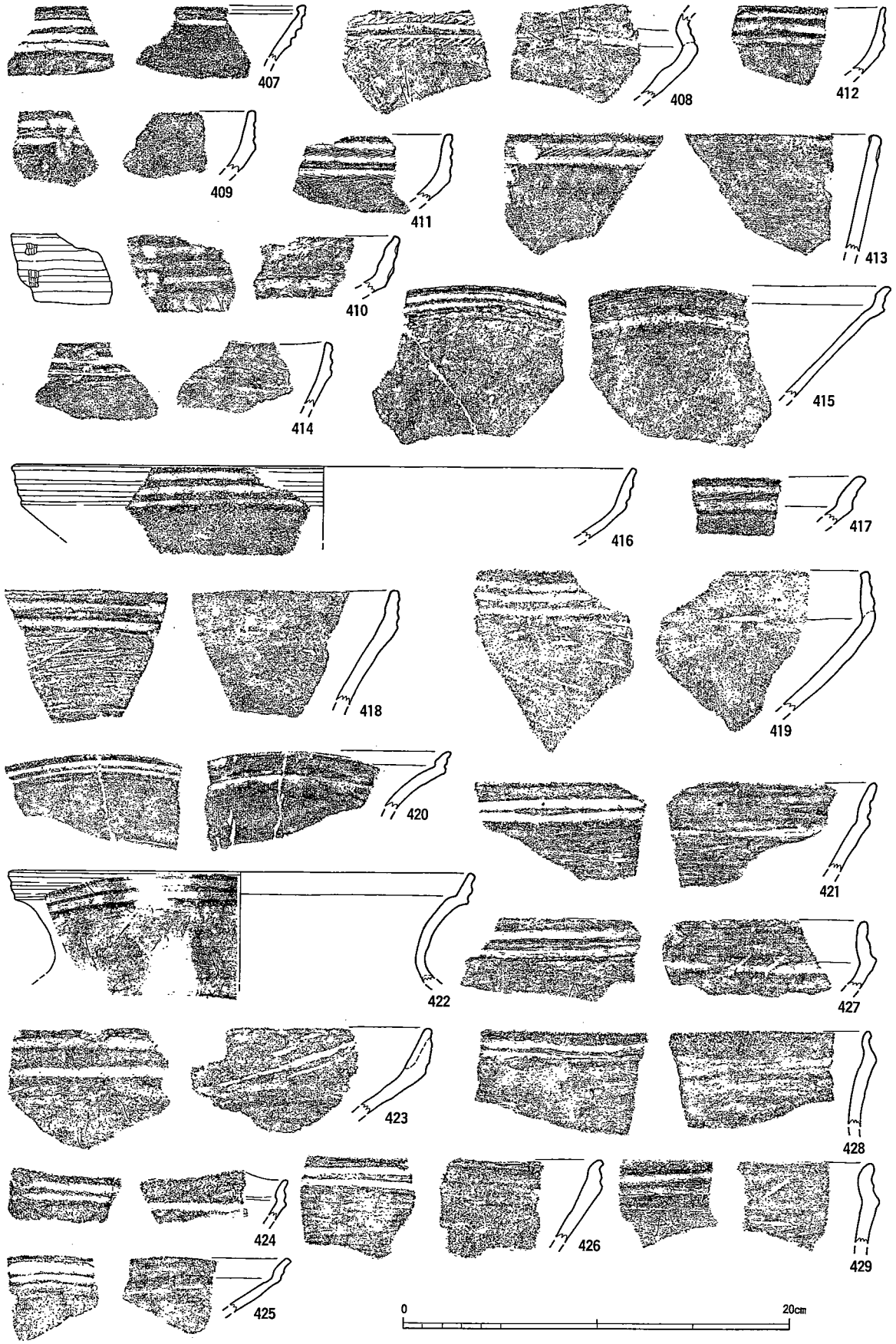
第46図　3号落込状遺構出土土器実測図3（1/3）



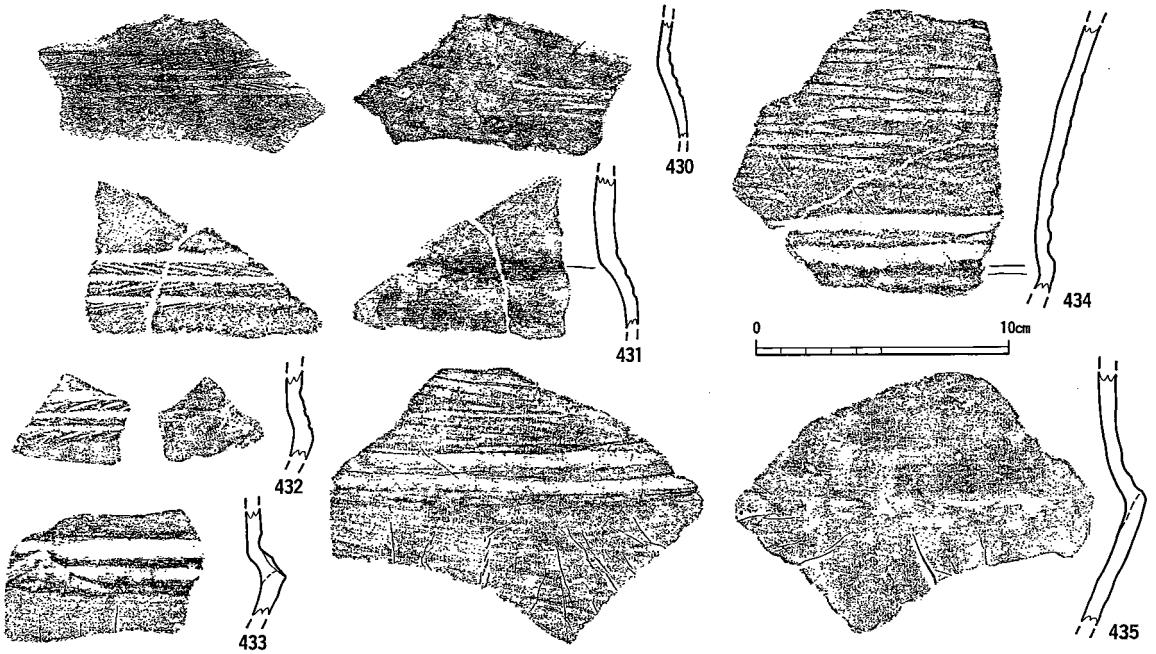
第47図　３号落込状遺構出土土器実測図４（1/3）



第48図　3号落込状遺構出土土器実測図5（1/3）



第49図　3号落込状遺構出土土器実測図6 (1/3)



第50図　3号落込状遺構出土土器実測図7（1/3）

無文深鉢（473～520）口縁部文様帯に施文を行なわない一群。473や474のように肩部に沈線を巡らせるものもある。口縁形状は外反するもの、直立して上方に長く延びるもの、屈曲して内傾するもの、開いたまま直線的に延びるものがある。調整は内外面とも磨くもの、内面がミガキ、外面はナデを行なうもの内面はミガキ、外面は条痕を残したままのもの、内外面ともナデを行なうもの、内面のみ条痕をナデ消すもの、内外面ともに条痕を残すものがある。505には補修孔が残る。

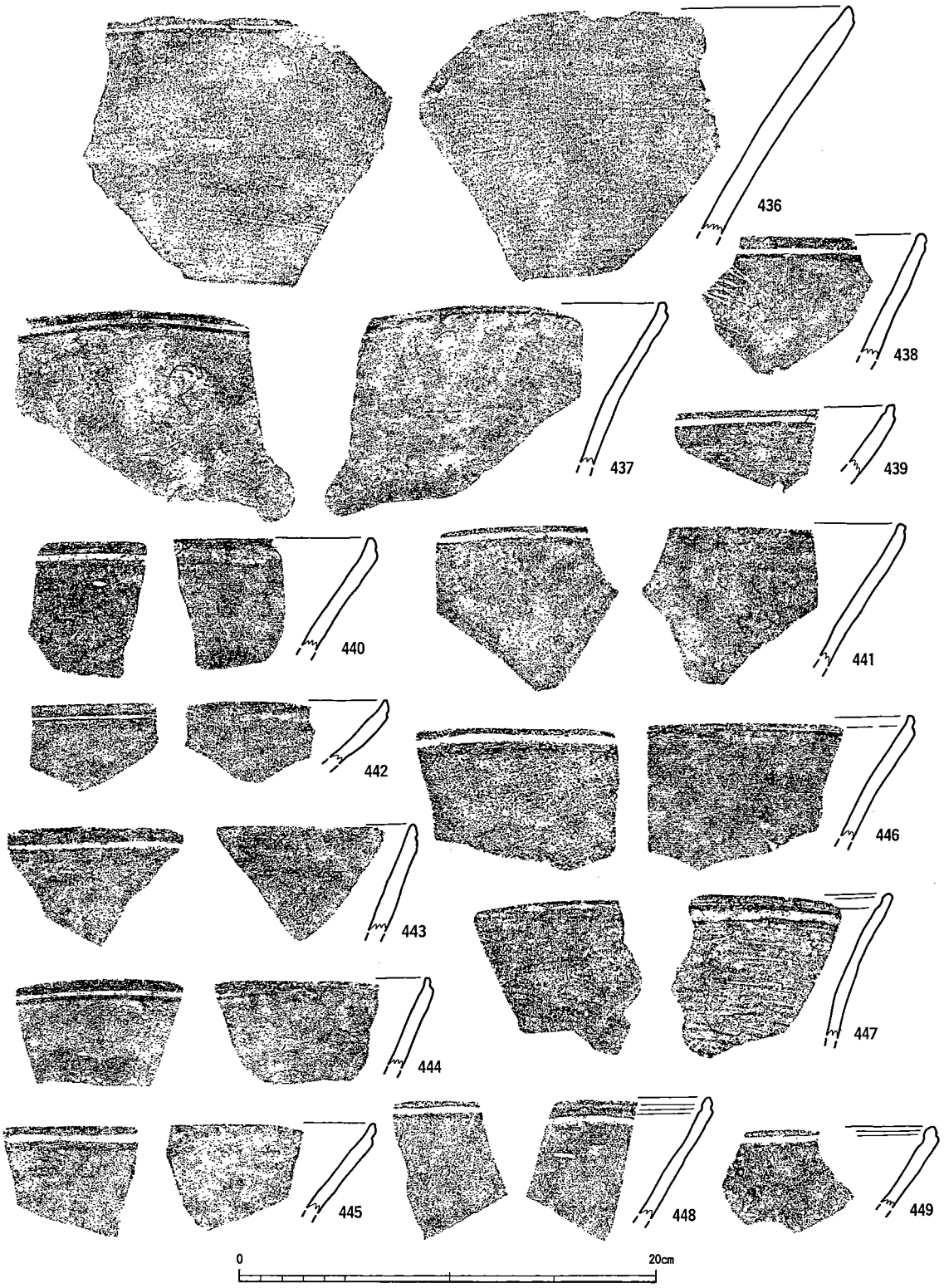
底部（521～547）上底（521～539）と平底（540～547）がある。上底には底端部から孤を描いて中央部に至るものと、輪状高台風になるものとが見られる。底径は上底が4.1cm～7.4cm、平底が4.4cm～7.4cmを測る。

石器（図版39～41、第58～66図）

打製石鏃（217～252）36点出土した。形態的にはすべて基部に抉りを持つものであるが、226は平基鏃になる可能性が高い。227は他に比べて抉りが浅くなる。228・230・234は五角形鏃。二次加工は概して丁寧なものが多いが、237や251・252のように裏面に主要剥離面を大きく残すものも見られる。229は未製品で製作時に片脚を欠損したものと考えられる。欠損部位は先端部16点（44%）、脚部10点（28%）。石材は姫島産黒曜石29点（80%）、安山岩系6点（17%）、チャート1点（3%）。重量は0.6～1.1gを測る。

石錐（253～255）253は先端部を欠失するが、両側縁の二次加工が粗いことを考えると錐になる可能性がある。しかしながら、11のような粗雑な作りの石鏃に含めた方が妥当であろうか。254はY字形の錐。先端部を欠失する。255は横長剥片を素材としたもので、裏面に主要剥離面を残す。石材はいずれも姫島産黒曜石。

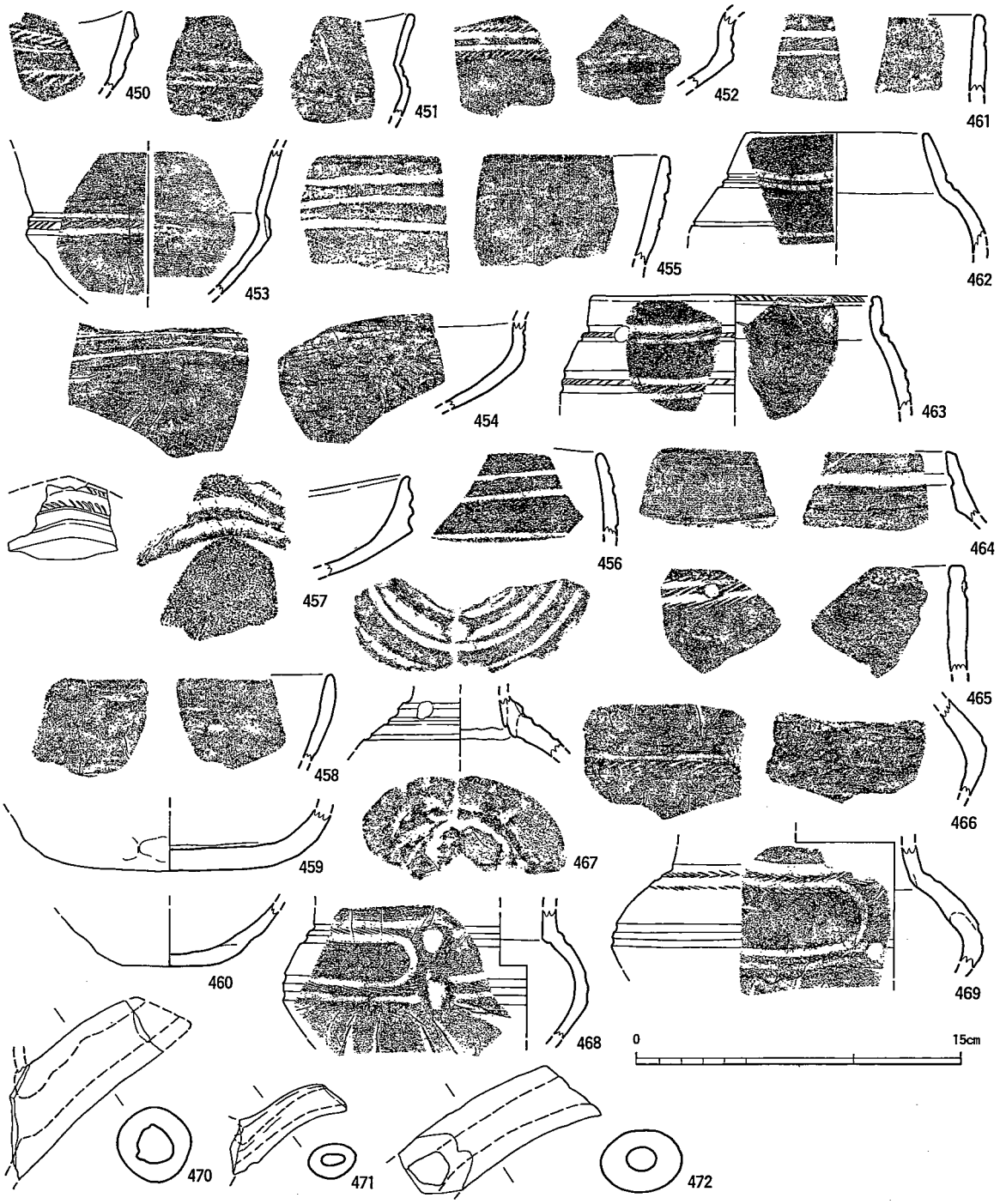
異形石器（256）横長剥片上端部の両側を斜め上方に突出させ、また、上辺中央部に2本の角状突出部を作り出した特異な形状を呈するもの。下辺部は反っている。表面には自然面が残り、周縁は細かな二次加工が施される。下辺部には刃潰れ状の痕跡が認められるため、ここを刃部とした実



第51図　3号落込状遺構出土土器実測図8（1/3）

用品の可能性が考えらよう。姫島産黒曜石製。

スクレイパー（257～272）16点出土した。縦長剥片・横長剥片・不定形剥片の部分ないし全周に二次加工を加えたもの。260・264は使用痕剥片。272は板状の自然石の周縁を粗く打ち欠き、成

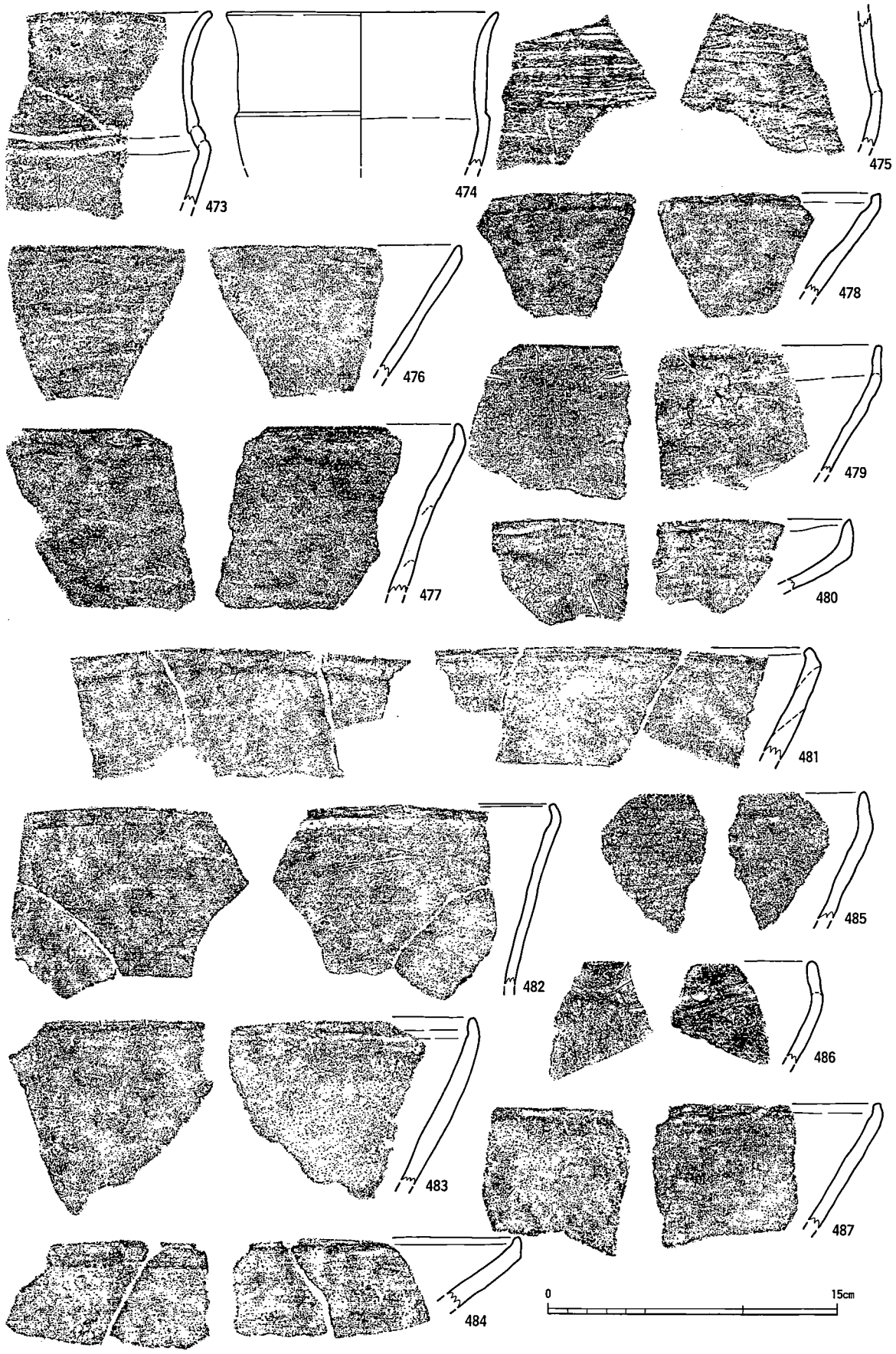


第52図　3号落込状遺構出土土器実測図9（1/3）

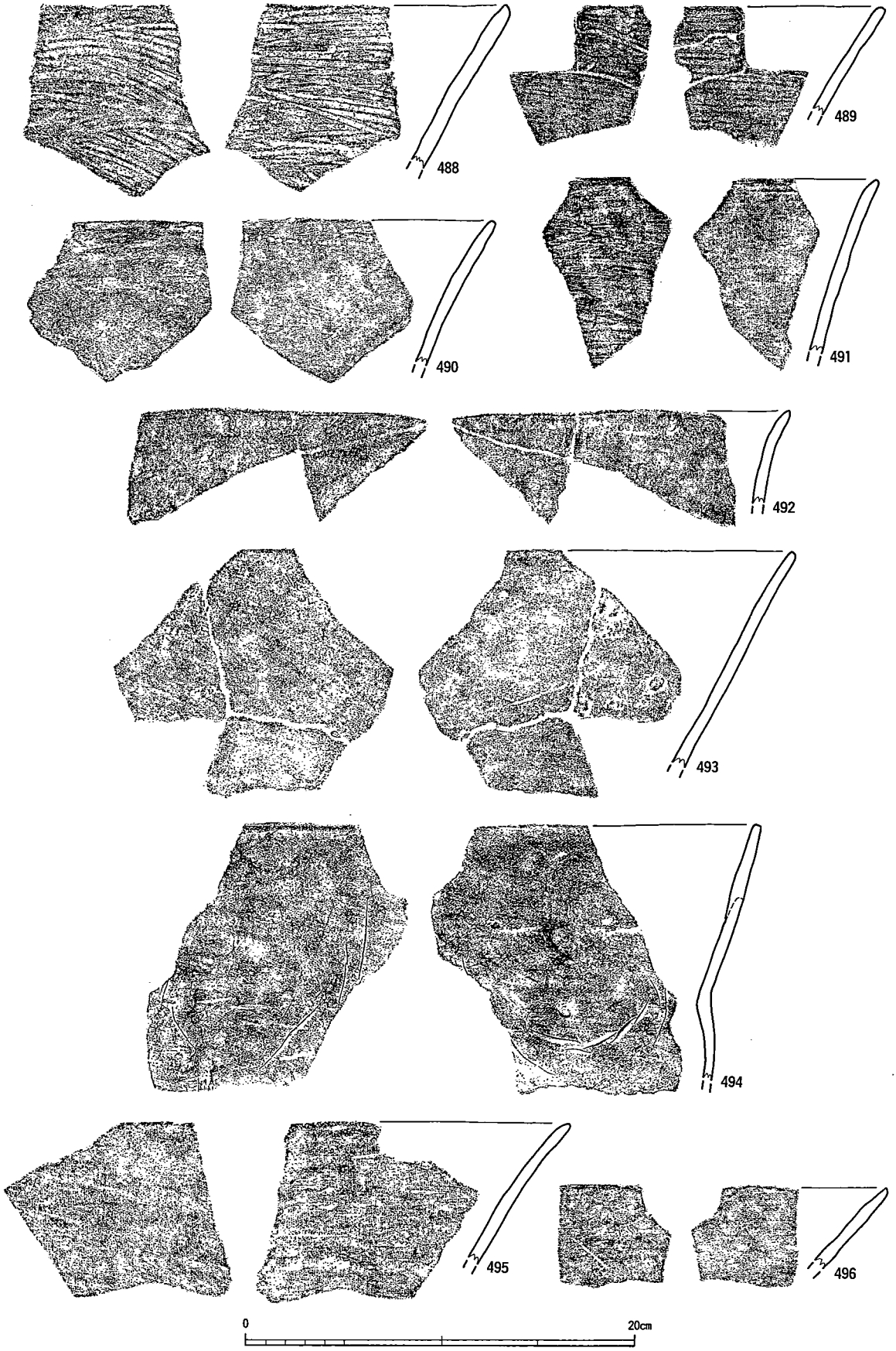
形・刃部の作り出しを行なう。石材は姫島産黒曜石9点（56%）、安山岩系7点（44%）。

石核（273）不定形剥片採取用の石核で、上下左右の各方向からの剥離がなされる。打面は凹凸が著しい。石材は姫島産黒曜石。

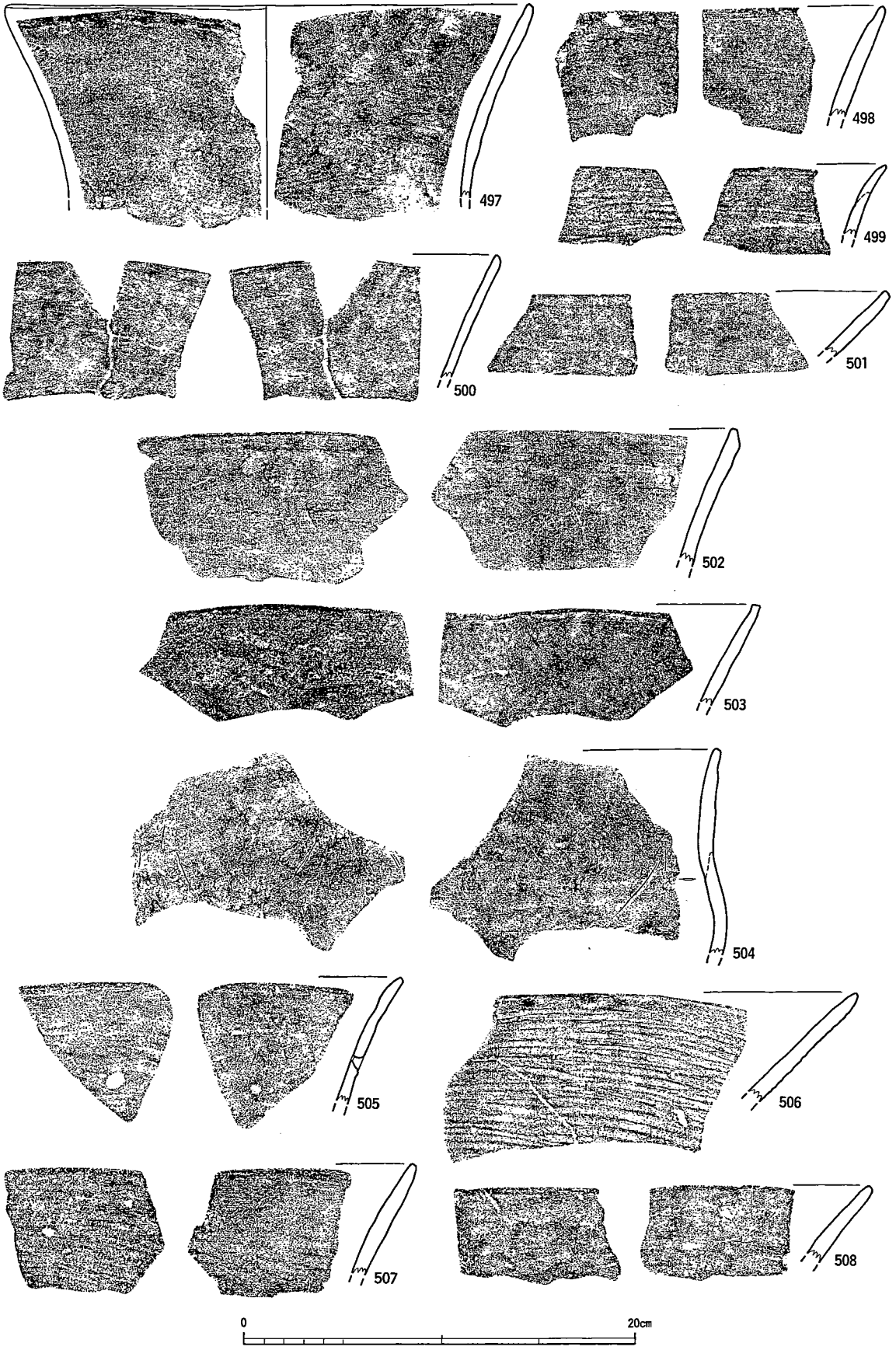
磨製石斧（274～276）いずれも折損ないしは刃部を欠損している。274は使用により剥落した製品の裏面に研磨を加えた再加工品。裏面の凹凸が著しい。275は薄手の類。表面の基部寄りに整形時の叩打痕を残す。石材は274・276が蛇文岩、275が片岩。



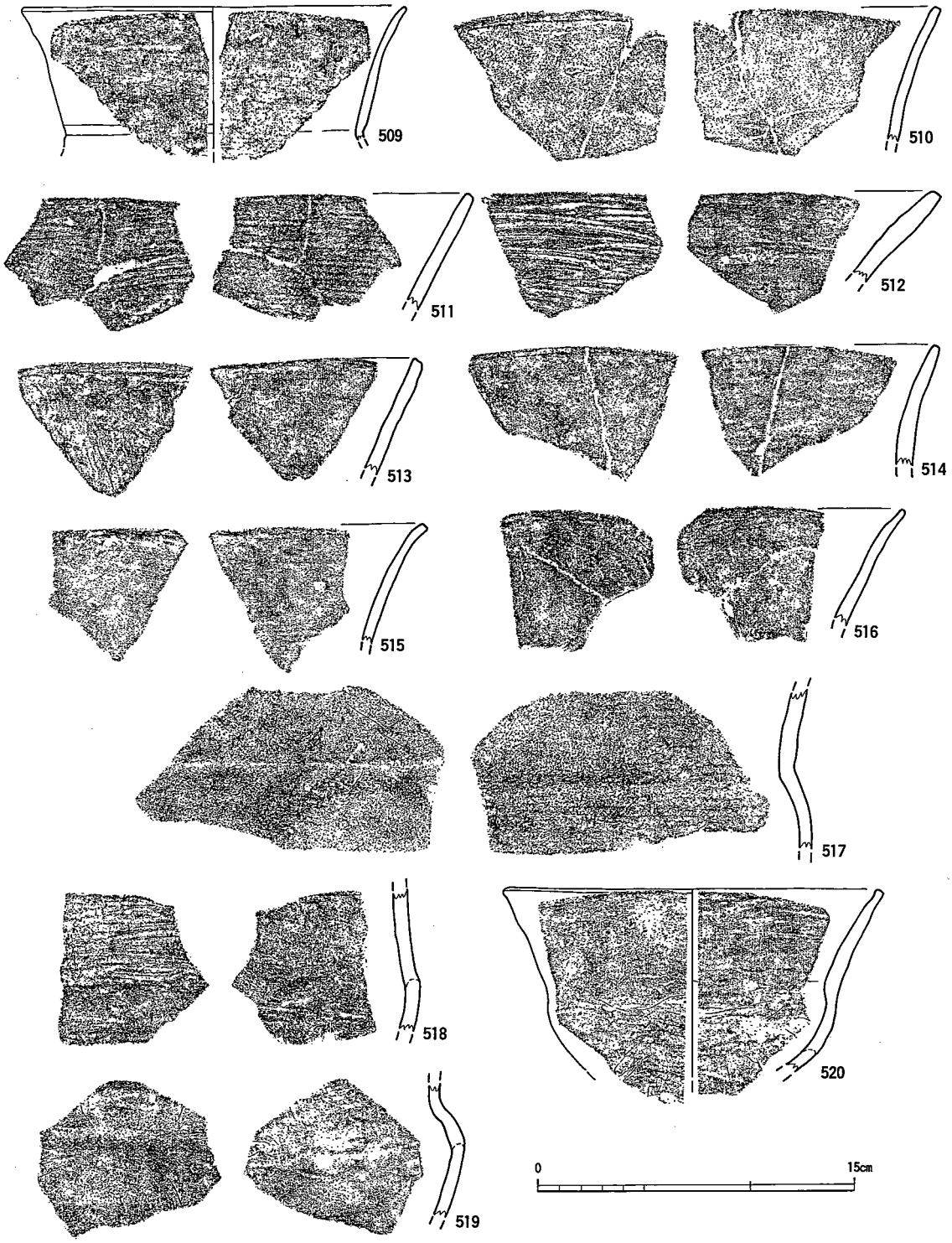
第53図　3号落込状遺構出土土器実測図10（1/3）



第54図　3号落込状遺構出土土器実測図11（1/3）

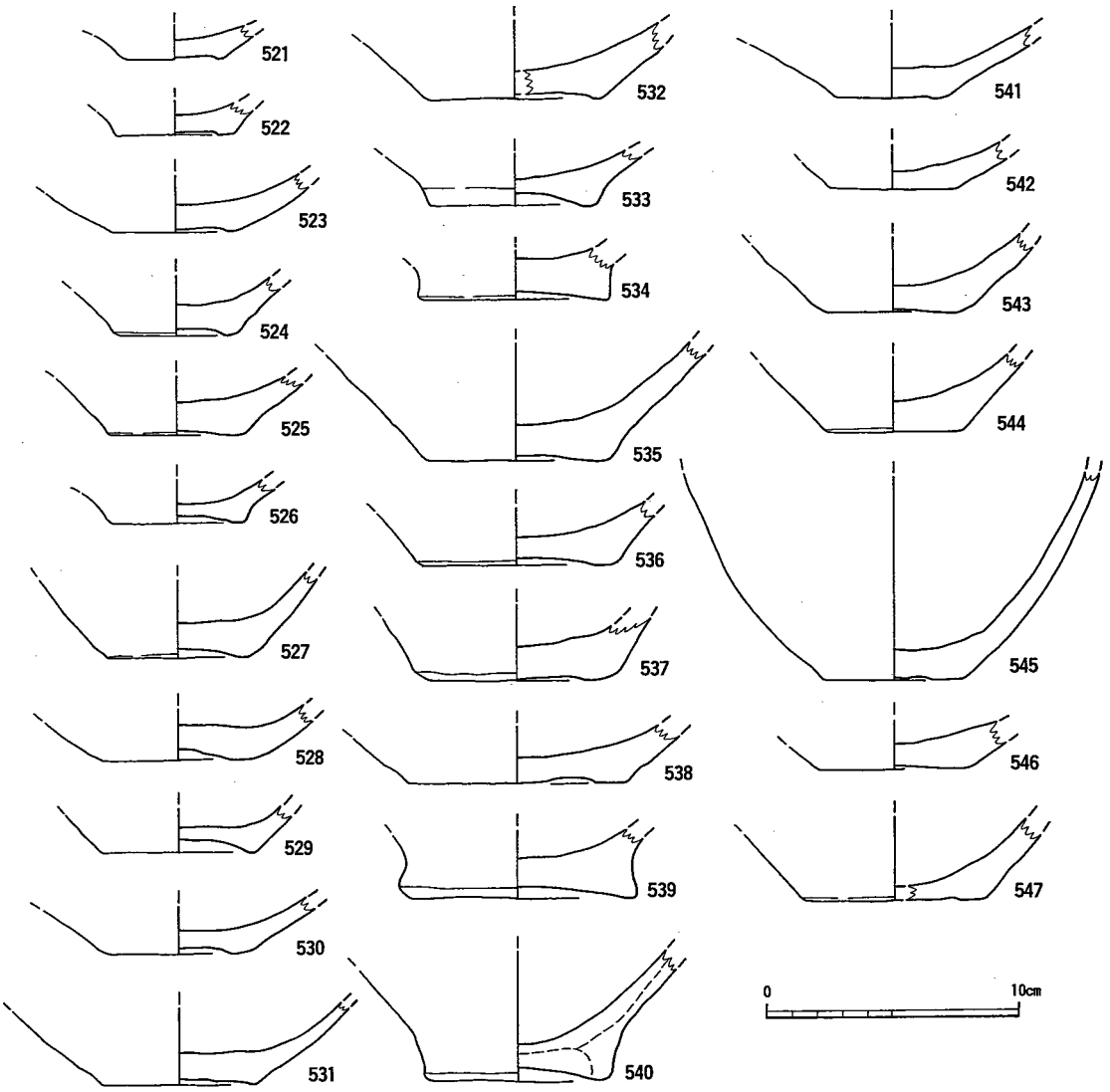


第55図　3号落込状遺構出土土器実測図12（1/3）



第56図　3号落込状遺構出土土器実測図13（1/3）

打製石斧（277～287）11点を図示した。全体的に簡易な作りである。表裏に素材面を残すものが多く、周縁に粗い二次加工を施して整形・刃部作り出しを行なっている。277・283・286は表裏とも部分的に研磨する。また、280～283・286の刃部には使用磨耗痕が認められ、殊に282の使用による磨耗痕跡は顕著である。遺存状況については刃部欠損が3点（27%）、中途折損が2点（19%）、基部欠損が3点（27%）で、その他は完存（27%）している。石材は42点中17点（40%）が安山岩



第57図　3号落込状遺構出土土器実測図14（1/3）

系、5点（12%）が頁岩系、20点（48%）が片岩系。

円盤形石器（288・289）288は表裏とも素材面を残す。289は表裏とも自然面を残している。周縁の二次加工は比較的細かいが、分厚い。石材は288が片岩系、289が安山岩系。

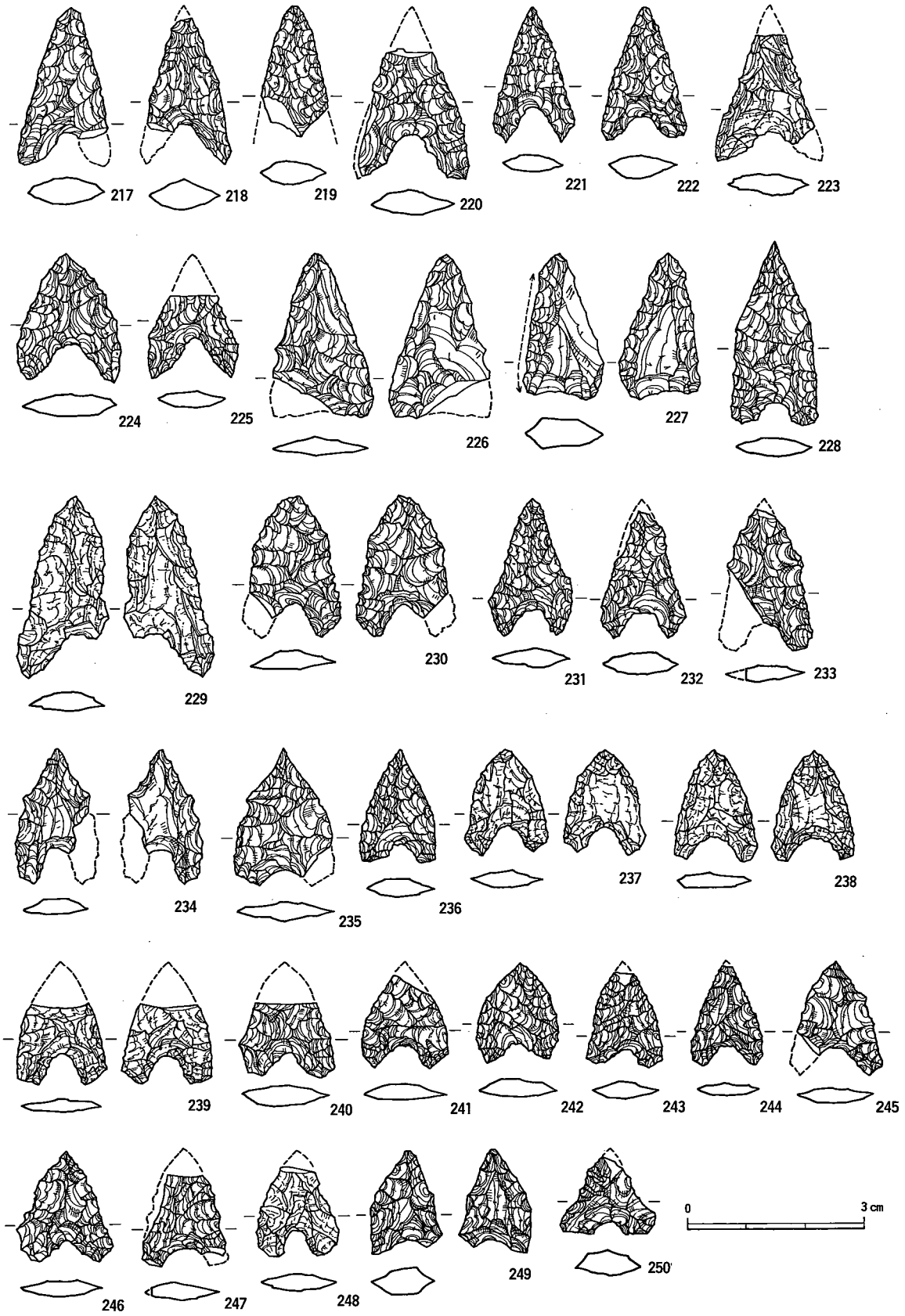
石鎌形石器（290）中途で折損するが、反りをもった形状や両側縁部に見られる研磨痕からみて、石鎌状の石器の未製品の可能性がある。表面にもわずかに磨面が見られる。裏面は素材の剥離面を大きく残し、周縁部に粗い二次加工を施している。

打欠石錘（291～319）29点出土した。抉りは316・319を除いていずれも素材の長軸側に施している。石材は凝灰岩系が11点（38%）、他は安山岩系（62%）。重量は19.8～141.8gを測る。

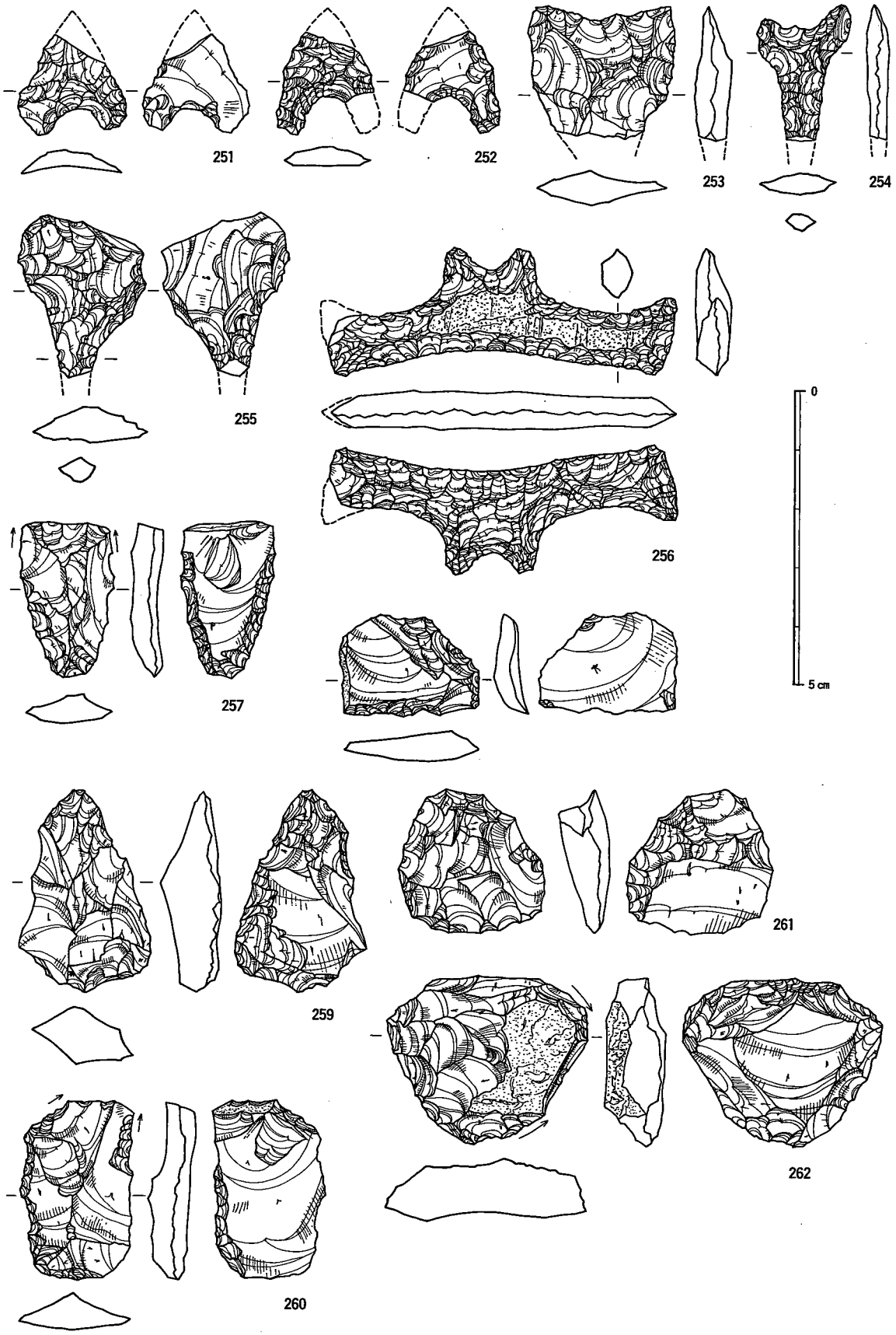
砥石（320）手持の中砥。完形品。

磨石（321～341）21点出土した。321～323は小形品。土器の器面調整用か。324～341は円形ないしは楕円形のものと長円形とがある。使用面は表裏2面。石材は安山岩系が16点（76%）、凝灰岩が5点（24%）である。

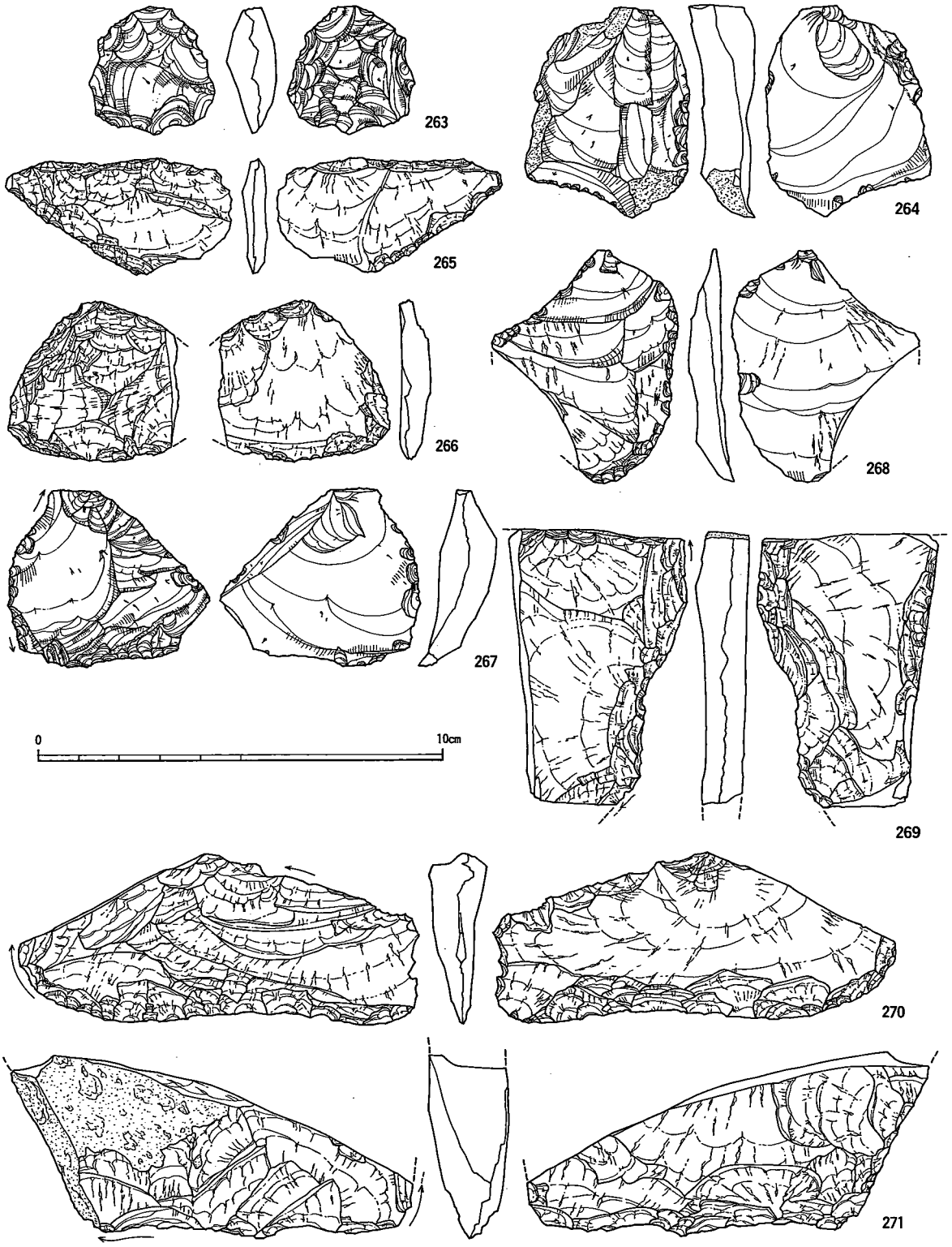
凹石（342・343）343は表裏両面とも使用されている。また、対する側縁の対する2箇所に打ち



第58図　3号落込状遺構出土石器実測図1（1/1）



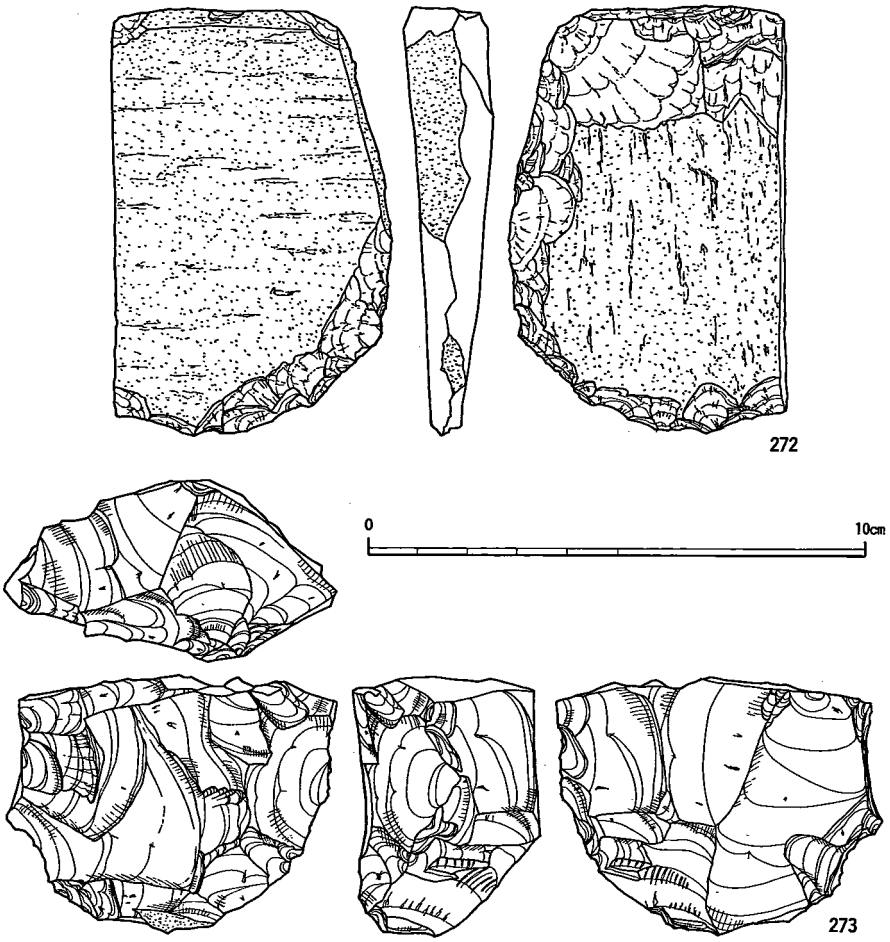
第59図　3号落込状遺構出土石器実測図2（1/1）



第60図　3号落込状遺構出土石器実測図3（2/3）

欠きがあり、錘として転用されている。

台石（344・345）344は2面の使用面が残存する。裏面は凹凸が著しく、本来の面から剥離したものと考えられる。345は板状を呈する。上面がかなり磨耗しているため置砥石として使用した可

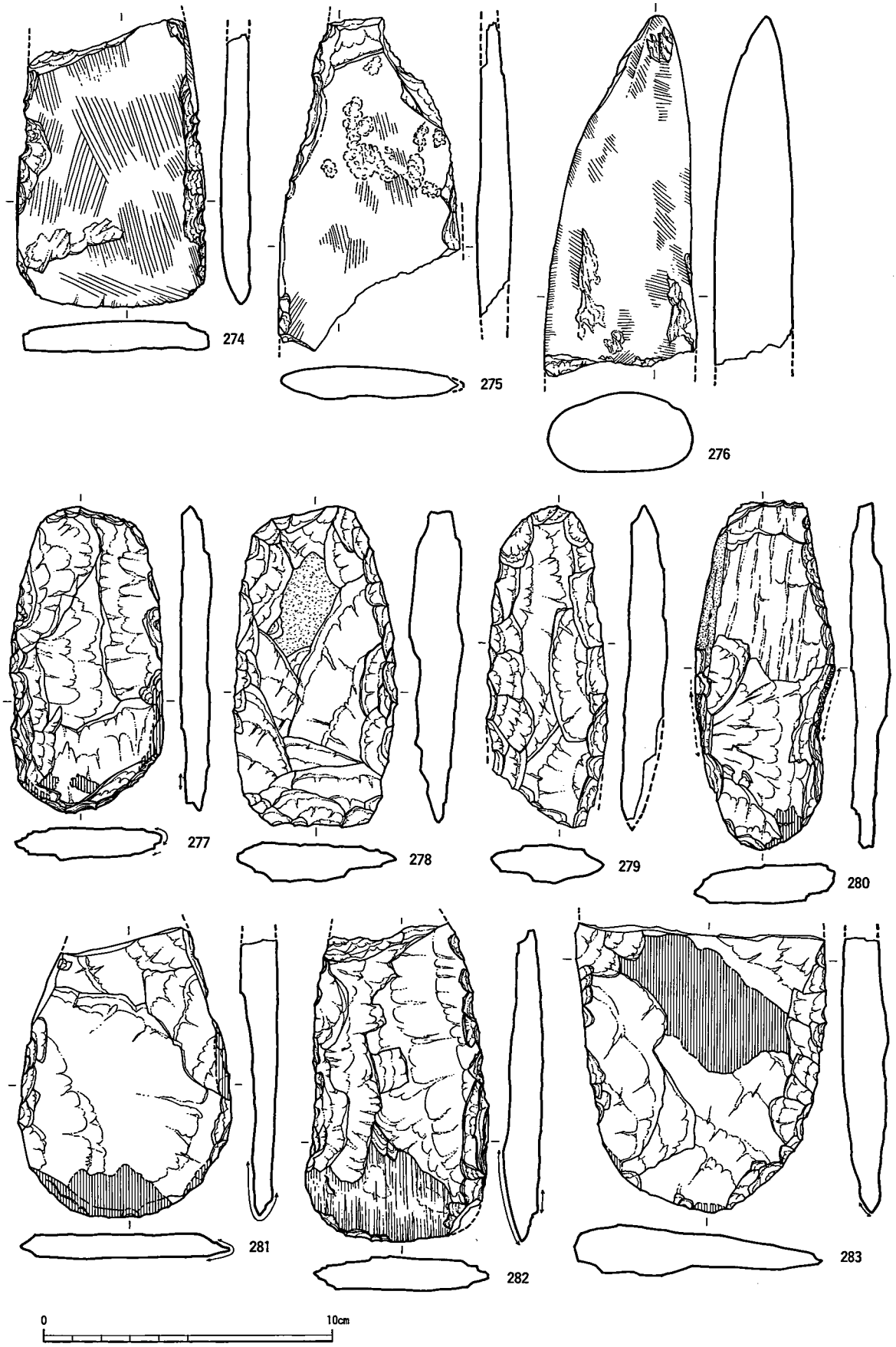


第61図　3号落込状遺構出土石器実測図4（2/3）

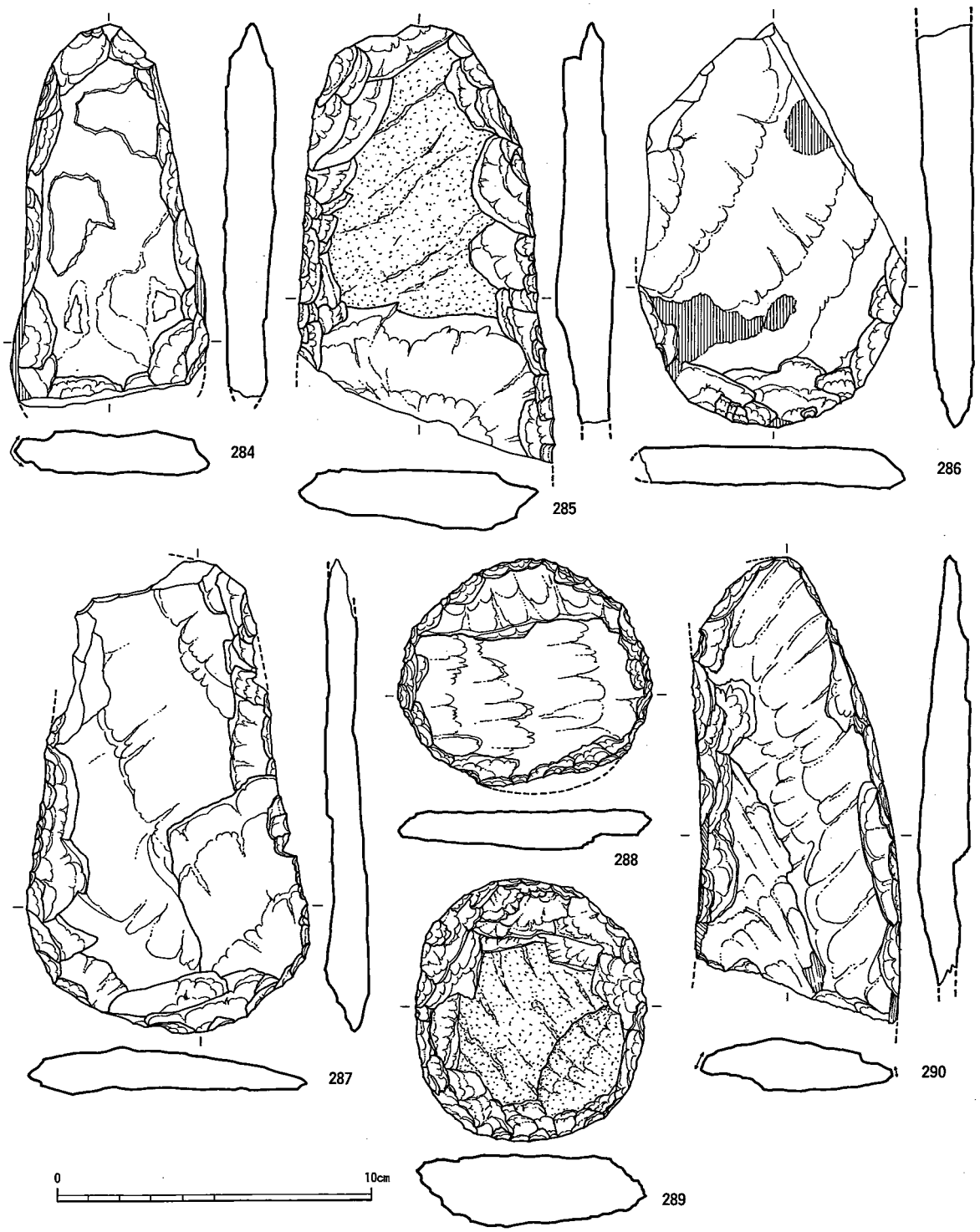
能性もある。

土製品（図版41、第67図）

土偶（1～6）1は左胸部から腕部にかけての部分であると考えられる。頭部に比べ胸部が締まっている。全体に扁平で粗雑な作りである。胎土は精良で微砂粒を含む。色調は黄灰～黄褐色。段落部最下層より出土。2は右腕部と考えられる。1よりも厚みをもつ。調整はナデで、指頭圧痕が残る。胎土には微砂粒を多く含む。色調は黄褐色～暗茶褐色。3号落込状遺構東側砂層から出土。3は胴部下半である。立体的で、作りも丁寧な感じを受ける。中央部には刺突によって臍を作り出している。臍はやや縦長で、長さ0.4cmを測る。臍部とその上部に沈線を廻す。残存部の上面には窪み状の面が残っている。調整はナデ。ウエストは4.2cm×3.0cm。胎土には微砂粒を多く含む。色調は黄灰色～暗黄褐色。最下層より出土。4は脚部である。脹ら脛は太く、脚首が締まっている。調整はナデ。胎土は精良で微砂粒を僅かに含む。色調は明黄褐色から暗黄褐色。3号落込状遺構東側上層出土。5は胴部下半～脚部にかけての破片である。左脚と考えられる。丁寧な作りでかつ、立体的である。腰部および下腹部が丸味をもって張り出し、臀部は凹ます。膝頭は若干盛り上がり、刺突の後、貝殻基部の押圧による文様を施す。膝の屈折部は2状の沈線を廻して表現している。胎土は精良で微砂粒を僅かに含む。色調は暗黄褐色～暗茶灰色。3号落込状遺構東側最下層から出土。6は脚部で、円柱状を呈する。脚部の下位に2状の沈線を廻す。足裏面は僅かに窪ませる。残存長



第62図　3号落込状遺構出土石器実測図5（1/2）



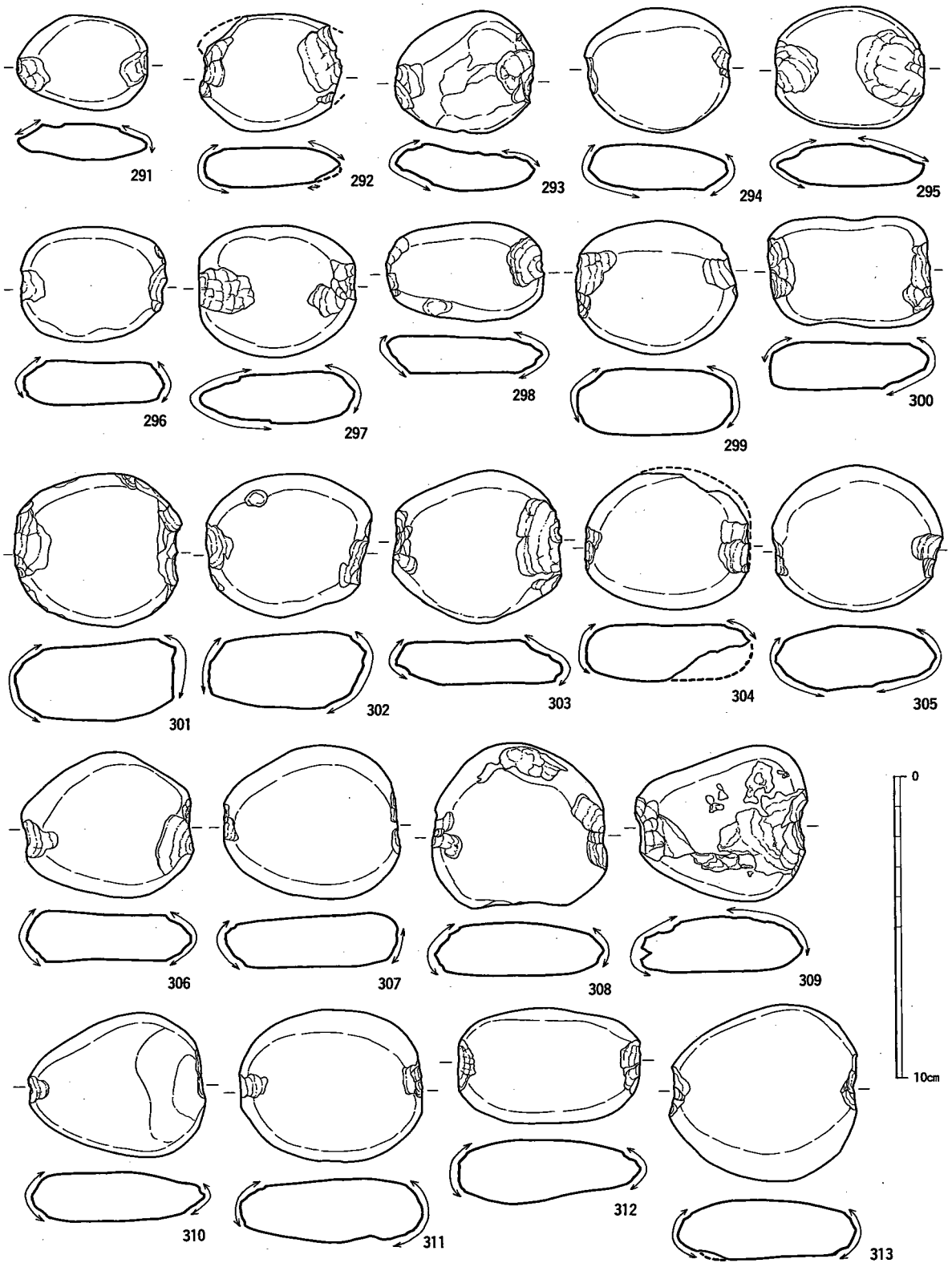
第63図　3号落込状遺構出土石器実測図6（1/2）

7.7cm、径4.0cmを測る。胎土に微砂粒を多く含む。色調は黒茶色～暗黄褐色。3号落込状遺構4層下段より出土。

円盤状土製品（7）土器底部の周縁を打ち欠き、磨いたもの。径11.0cm、厚さ0.7cm。

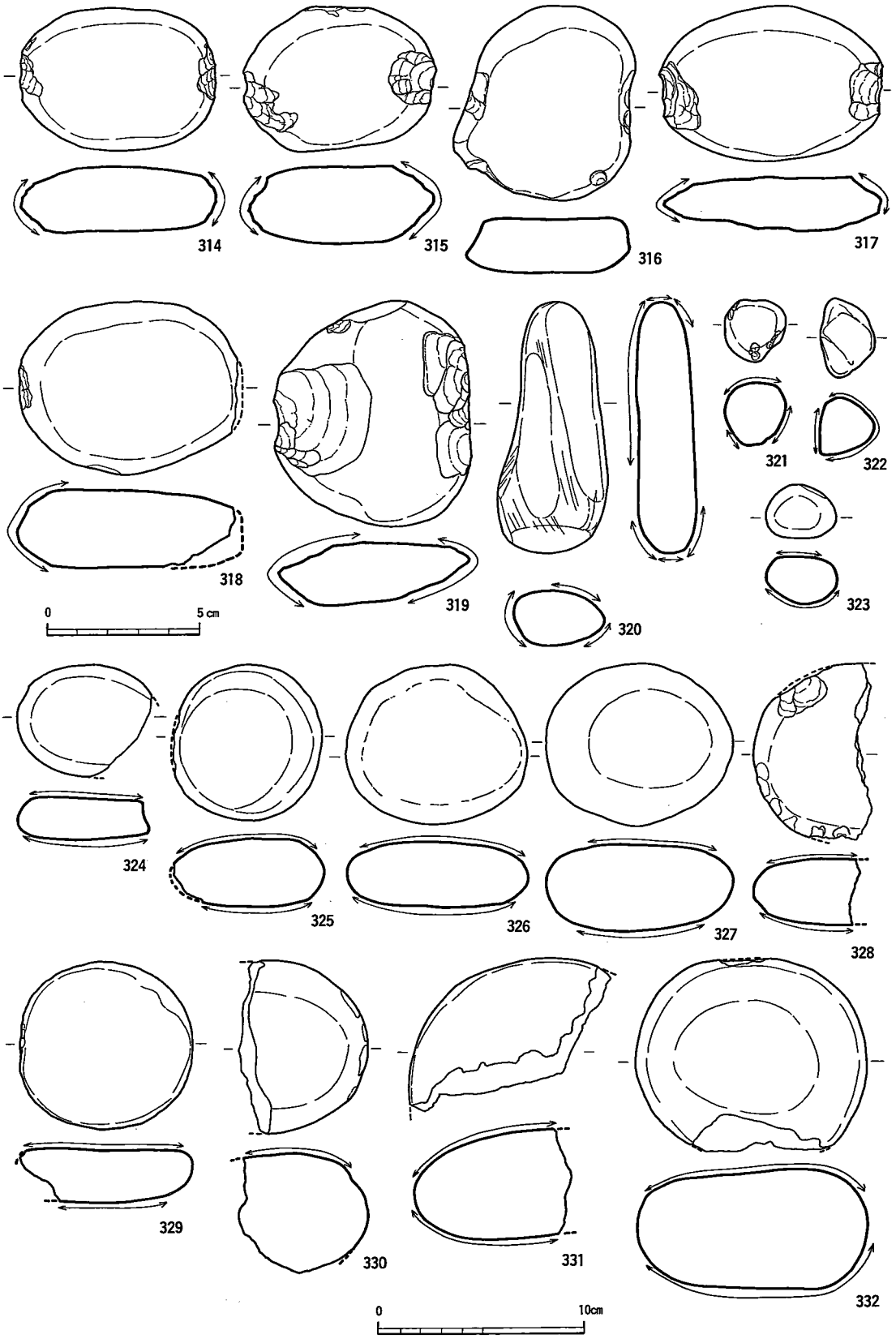
石製品（図版41、第67図）

玉類（8～11）8は勾玉。長さ2.2cm、幅1.4cm、厚さ0.8cm。孔径0.3cm。ヒスイ製。3号落込状遺

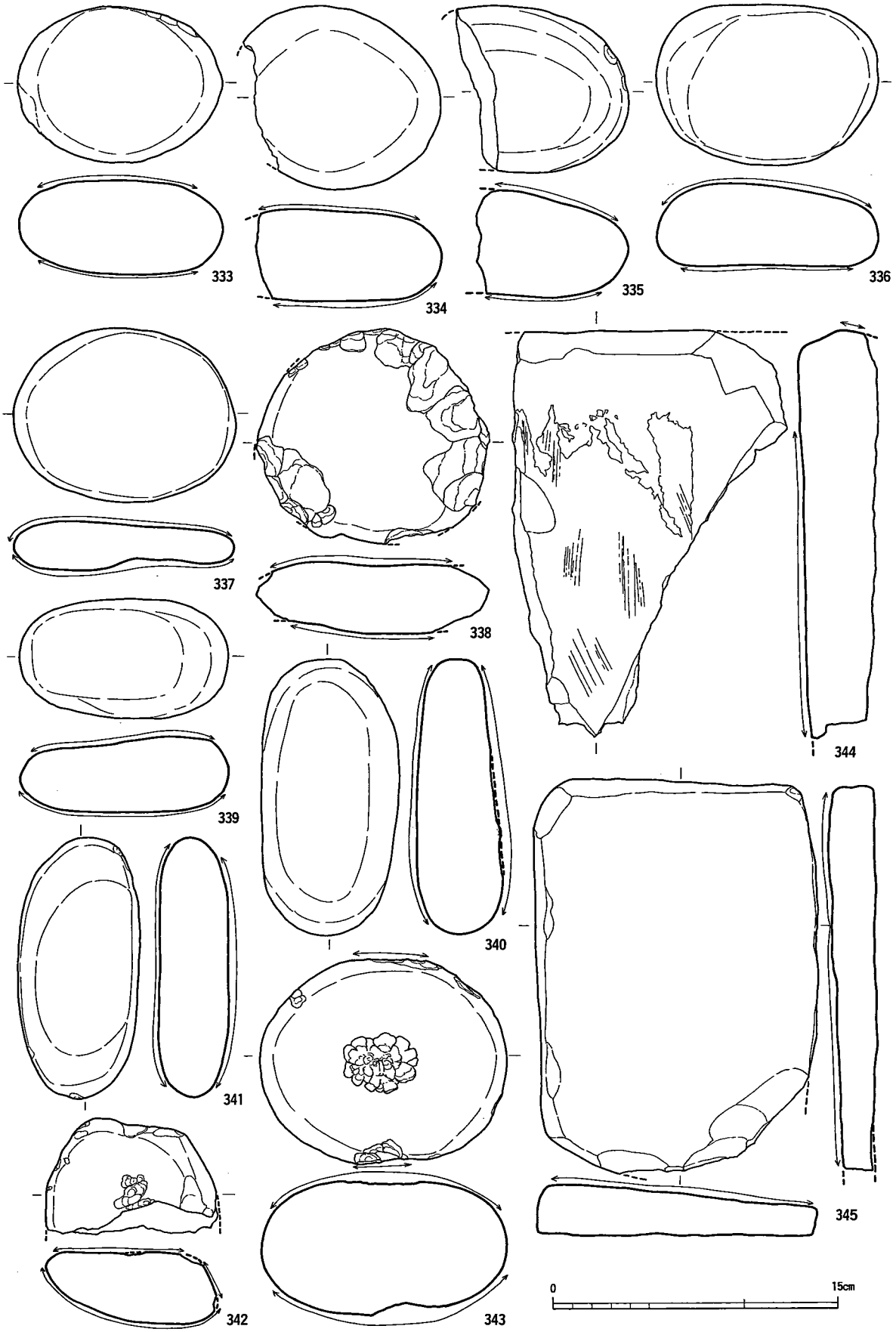


第64図　3号落込状遺構出土石器実測図7（1/2）

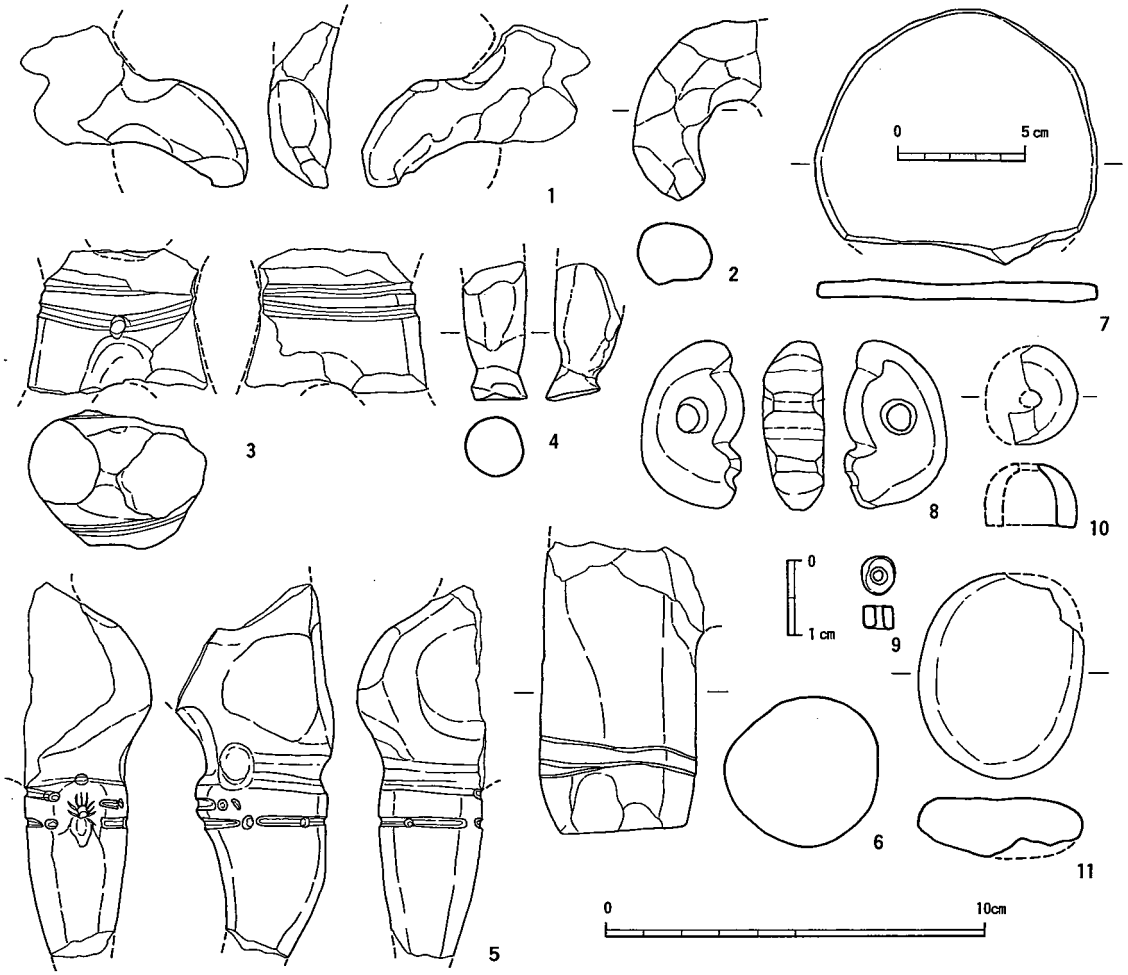
構西側黄茶灰色砂層下層より出土。9は臼玉。径0.4cm、厚さ0.3cm、孔径0.1cm。ヒスイ製。3号落込状遺構より出土。10は伏鉢形の玉で、およそ半分を欠失する。径1.3cm、高さ0.8cm。ヒスイか。



第65図　３号落込状遺構出土石器実測図８（314～320は1/2・他は1/3）



第66図　3号落込状遺構出土石器実測図9（1/3）



第67図　3号落込状遺構出土土製品・石製品実測図（1～6・11は1/2、7は1/3、8～10は1/1）

3号落込状遺構より出土。11は玉の原石か。5.5cm×4.3cm。厚さ1.6cm。蛇文岩。3号落込状遺構より出土。

土坑

54号土坑（第68図）

3-2区中央部西寄りに位置し、1号落込状遺構の埋土を20cmほど下げた時点で検出した。平面プランは長方形で、規模は長辺長1.55m、短辺長1.05m、深さ0.45mを測る。南側に不整形のテラスをもち、底面はおよそフラットになる。埋土は大きく8層に分かれ、20点ほどの石器類と土器が出土した。このうち中層から下層かけて比較的多くの遺物が出土している。

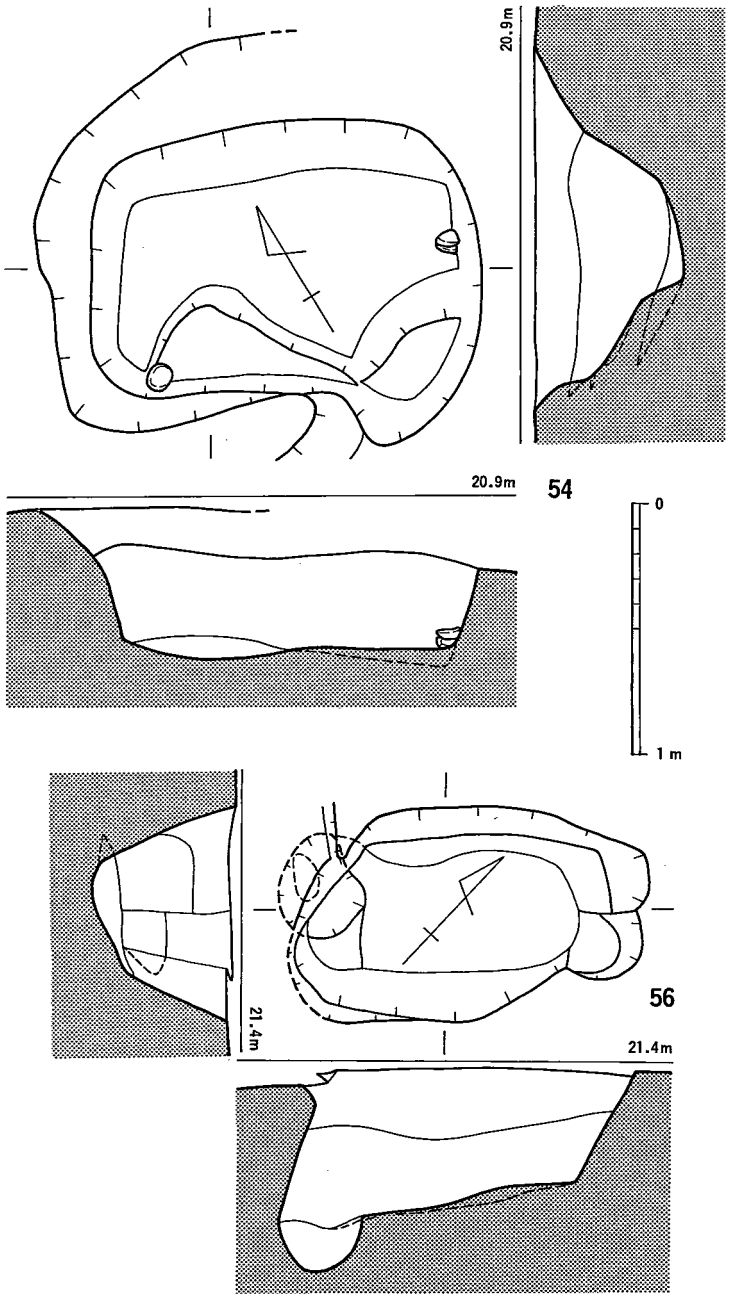
出土遺物（図版42、第69図）

土器

無文浅鉢（548）口縁部内外面に段をもつもの。晩期。

有文深鉢（549）口縁部文様帯に2条の凹線を巡らせるもの。鳥井原式。

無文深鉢（550・551）550は内面に段をもち、口縁部が肥厚するもの。551は口縁端部下に刻目突帯を巡らせる。



第68図　54・56号土坑実測図（1/30）

底部（552）底部の小片。平底。

56号土坑（第68図）

3-2区北寄りで検出し、2号落込状遺構を切る。平面プランは略長円形で、底面は南に傾斜し南壁際で一段深く掘り込む。規模は長軸長1.4m、短軸長0.85m、深さ0.8mを測る。

出土遺物（図版42、第69図）

土器

有文深鉢（553～555）553は口縁部文様帯に3条の沈線を巡らせる。波状口縁。太郎迫式。554は口縁部文様帯に2条の凹線を巡らせる。鳥井原式。555は晩期。

無文深鉢（556）肩部に1条の沈線を巡らせる。晩期。

底部（557・558）557は上底。558は平底。

その他の遺構・層位出土土器

ここでは、弥生時代以降の遺構及び層位中から出土した遺物について記述する。

土器（図版42、第70図）

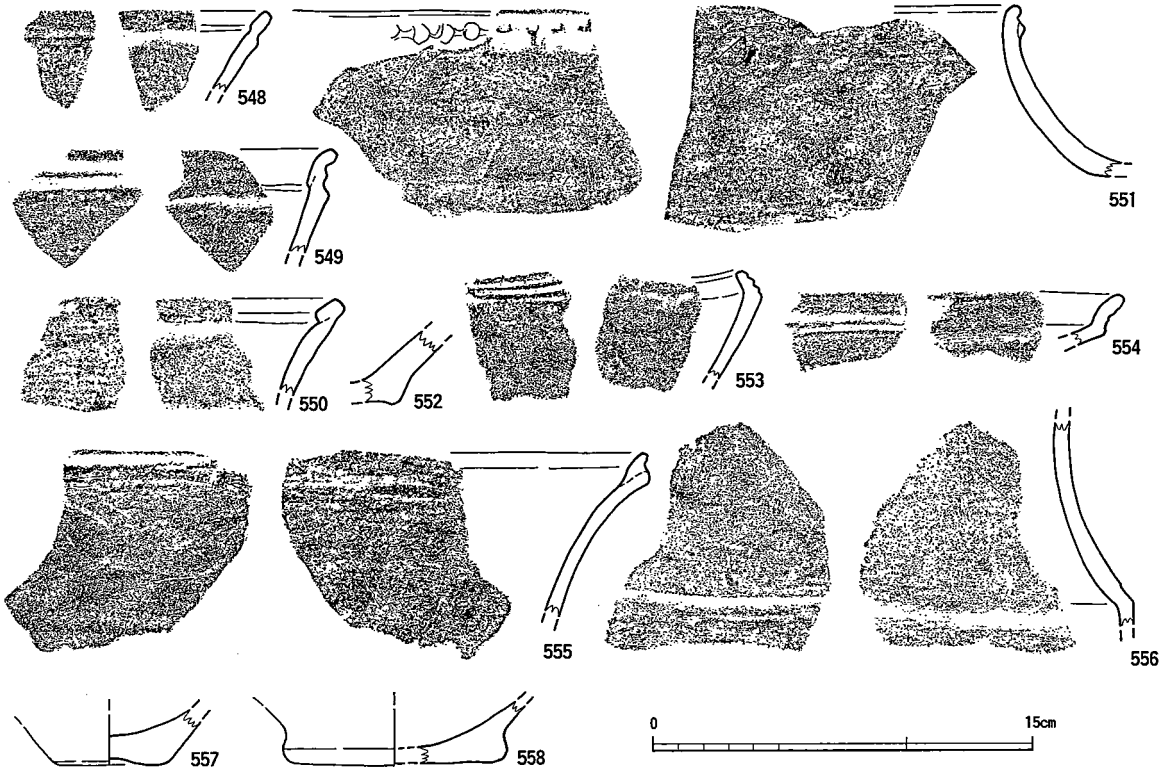
有文深鉢（559～562）559・560は鐘崎式。559は外面の口縁部下に3条と、口縁端部に1条の沈線を巡らせる。560は口縁端部を玉縁状に肥厚させる。外面には太い沈線によって施文する。561は北久根山式。波状口縁の波頂部の破片である。外面は刺突と沈線によって施文する。波頂部にはSS形の飾りを貼付する。562は太郎迫式。口縁部文様帯に3条の沈線を巡らせる。

注口土器（566）注口部の破片で先端を欠失する。三万田～鳥井原式。

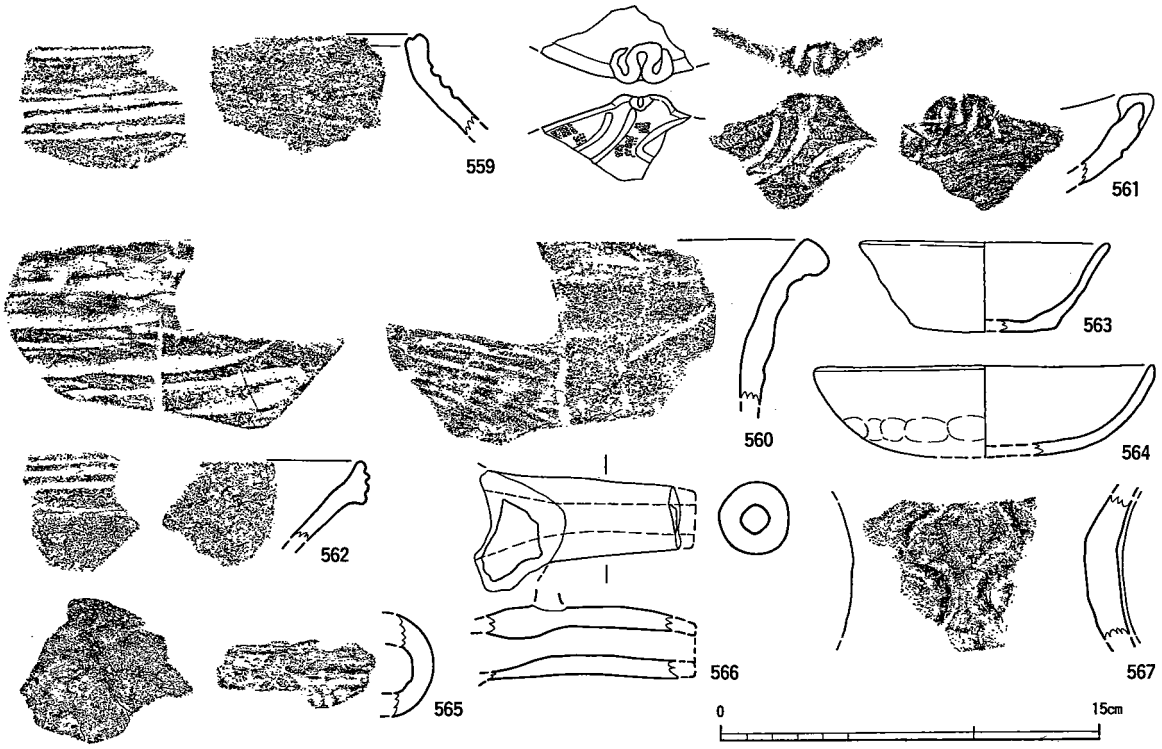
鉢（563・564）浅い無文の鉢。563は器形が9世紀初頭の土師器杯に酷似するが、胎土・調整・出土位置から縄文土器とした。

壺（567）小片のため器形は定かではない。縦位に波状の粘土紐が貼付される。晩期か。

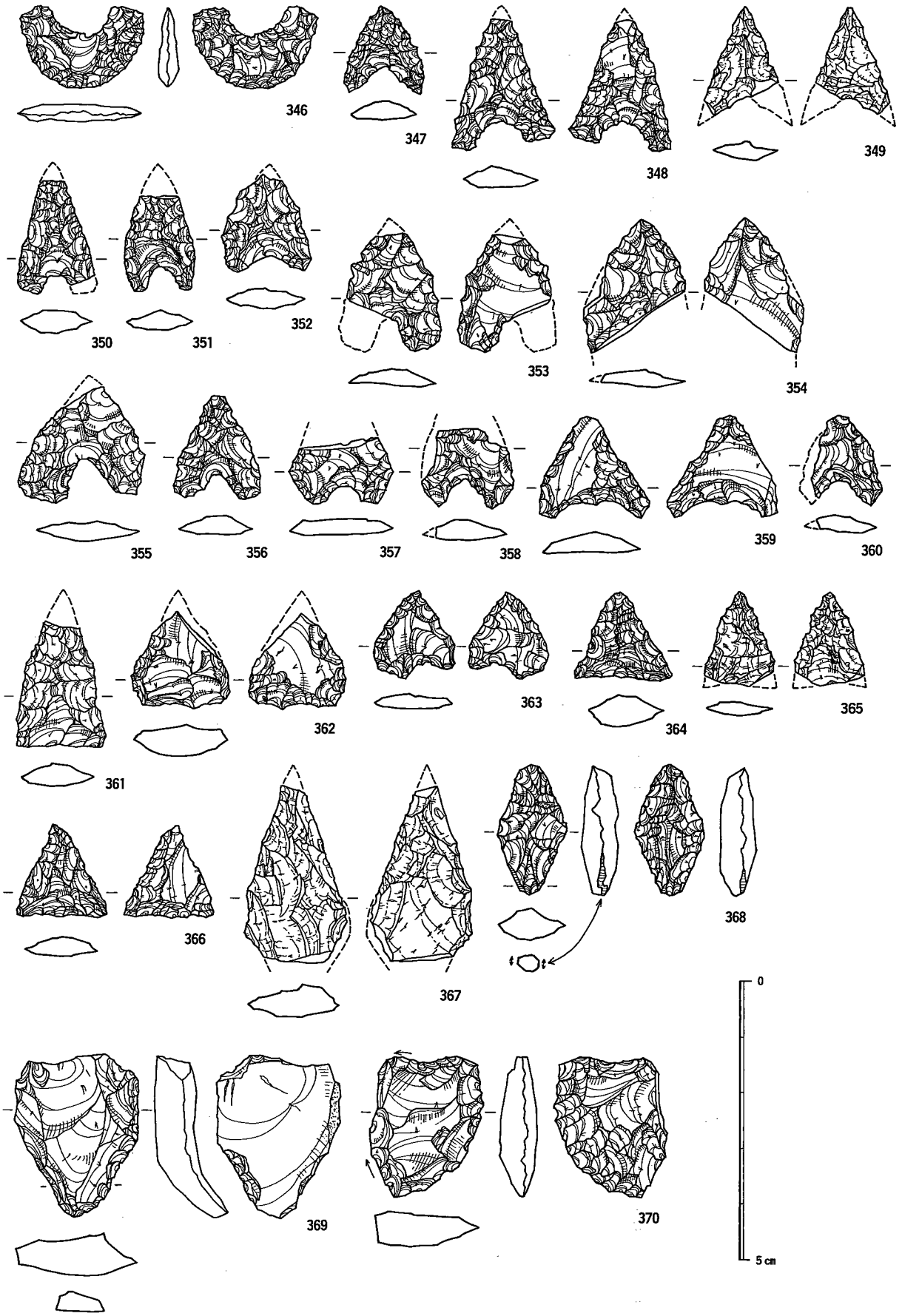
石器（図版42・43、第71～76図）



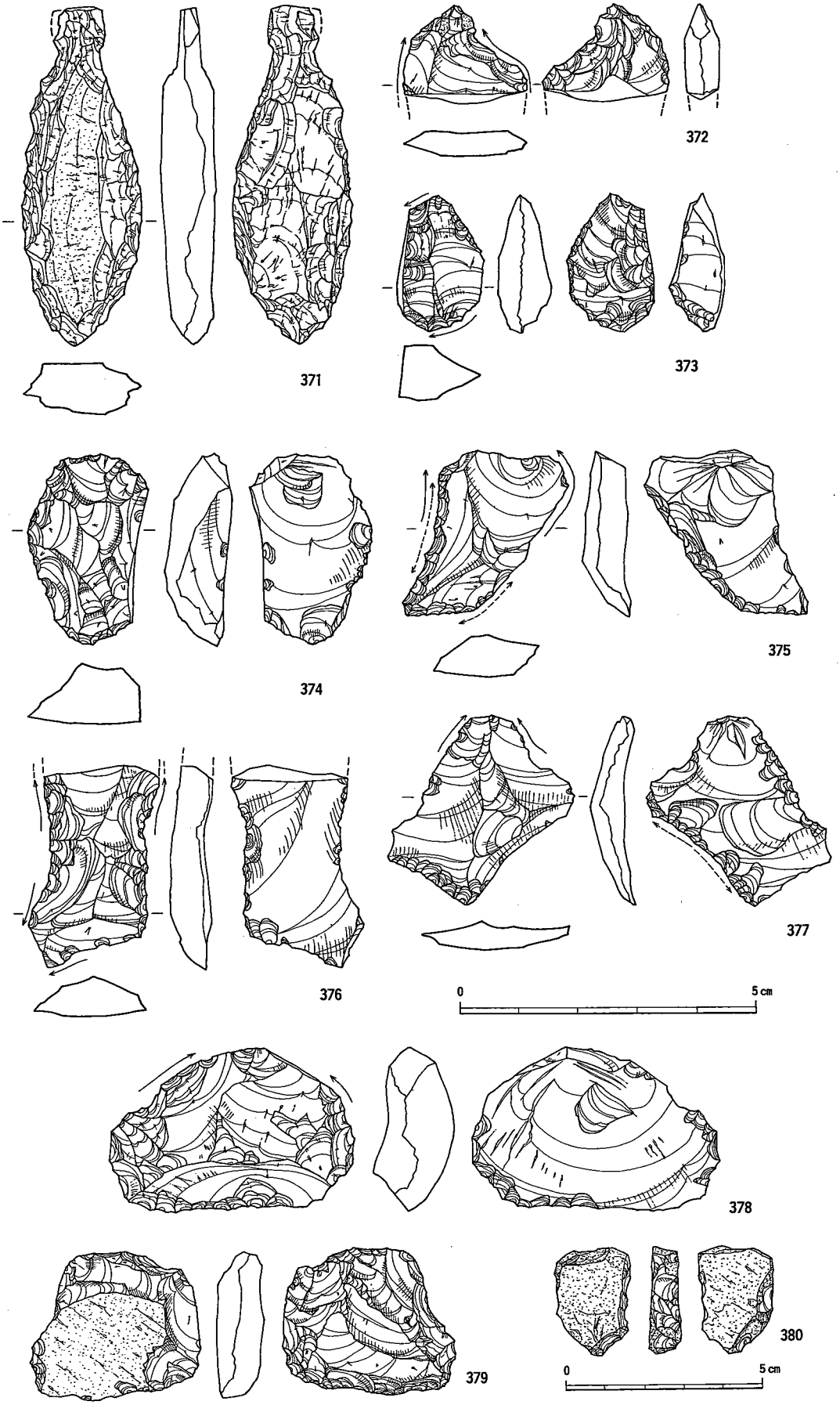
第69図　54・56号土坑出土土器実測図（1/3）



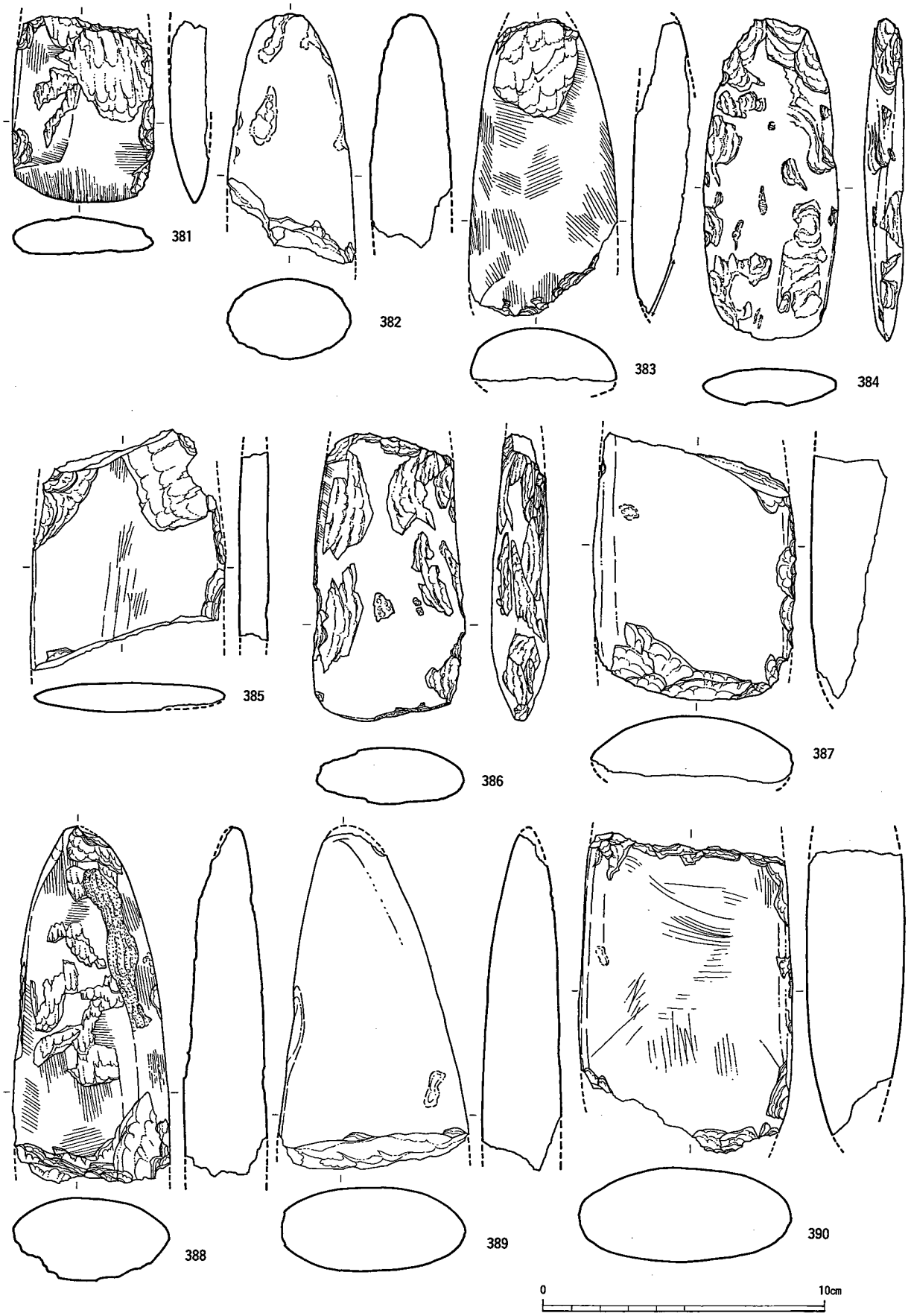
第70図　その他の遺構・層位出土土器実測図（1/3）



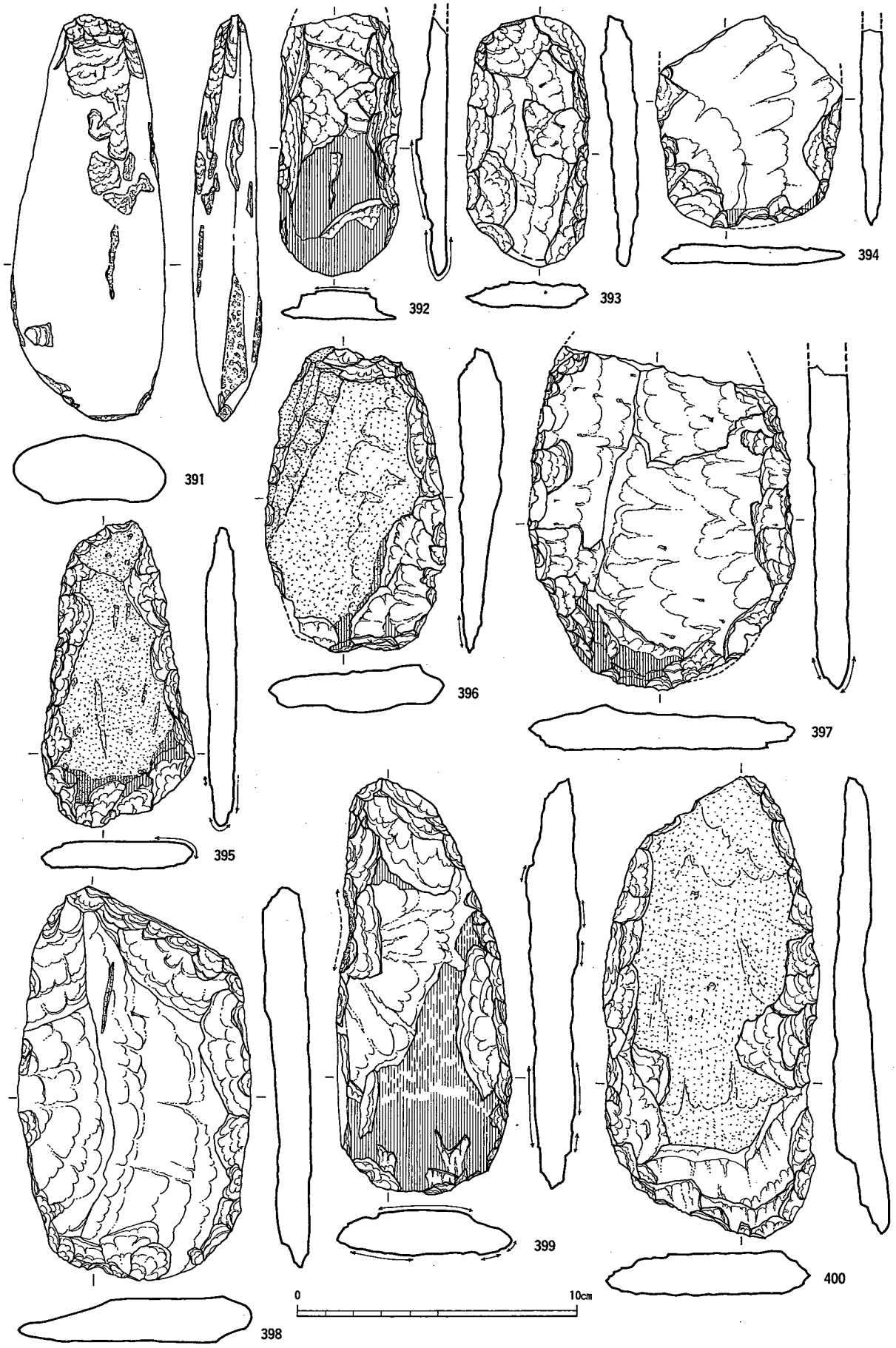
第71図　その他の遺構・層位出土石器実測図１（1/1）



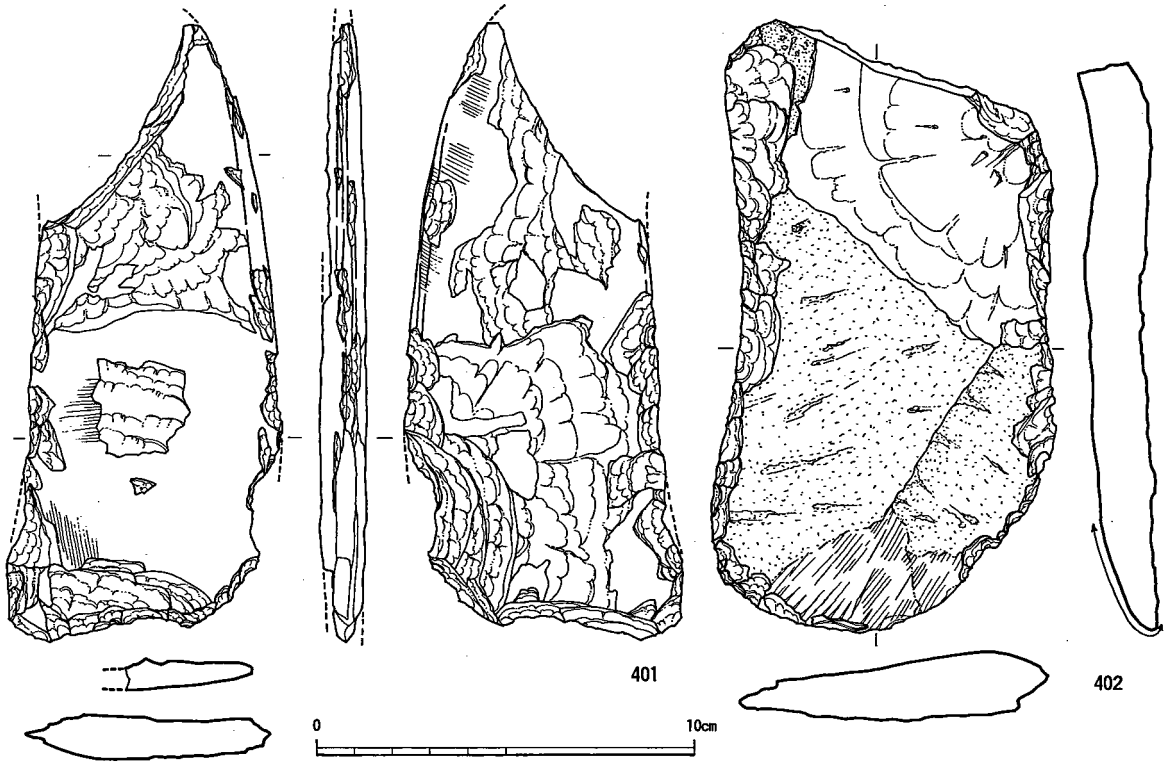
第72図　その他の遺構・層位出土石器実測図２（371～378は1/1・他は2/3）



第73図　その他の遺構・層位出土石器実測図３（1/2）



第74図　その他の遺構・層位出土石器実測図４（1/2）



第75図　その他の遺構・層位出土石器実測図５（1/2）

打製石鏃（347～366）20点出土した。形態的には基部に抉りを持つものが多数を占める。362・364・366は平基鏃。二次加工は概して丁寧なものが多いが、349のように作りが粗雑なものや、353のように裏面に、また、359のように表裏両面に主要剥離面を大きく残すものも見られる。362は先端部を欠損するが、異様に分厚いため錐になる可能性もある。欠損部位については先端部10点（50%）、脚部４点（20%）、完形品６点（30%）である。石材は姫島産黒曜石15点（75%）、腰岳系黒曜石３点（15%）、安山岩系２点（10%）。重量は0.5～1.2ｇを測る。

尖頭器（367）基部及び先端部を欠損する。裏面に主要剥離面を残す。

異形石器（346）Ｕ字形を呈するもので、周縁に丁寧な二次加工を施す。天地は不明。完形品。

石錐（368）菱形を呈するタイプ。先端部の両側縁に使用による磨耗が認められる。完形品。

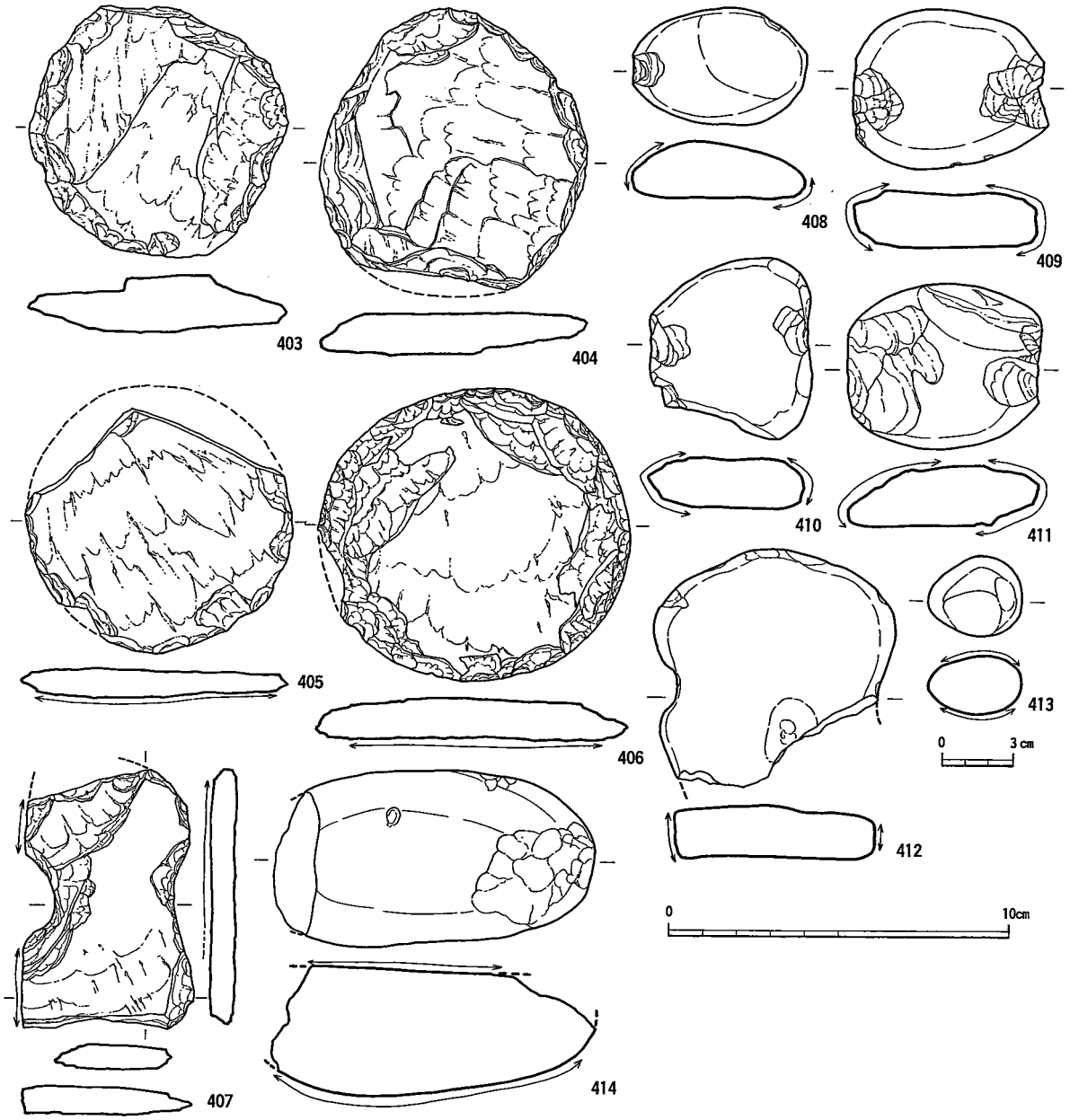
スクレイパー（369～380）12点出土した。縦長剥片・横長剥片・不定形剥片の部分ないし全周に二次加工を加えたもの。371は縦長の石匙。375・377の側縁部には刃潰れが見られる。380は自然石に部分調整をおこなっただけのもの。

磨製石斧（381～391）381・384・385のように扁平な類と、382・383・386～391のように厚みをもつ類の２種がある。381は刃部の両面ともに使用磨耗痕が顕著である。389は31や123・276と同様の形態で、平面の主軸が反る類である。

打製石斧（392～402・407）392・399は刃部を研磨する。また、395～397の表裏にも部分的に磨面が見られる。401は右側辺の上半部に面取りを施し、刃部状に仕上げている。石鎌的な用途に使用されたものか。407は両側縁に抉りを入れるもの。

円盤状石器（403～406）403～405の作りは粗いが、406は周縁調整が丁寧である。

打欠石錘（408～412）円礫の長軸側を打ち欠くものと、短軸側を打ち欠くものがある。



第76図　その他の遺構・層位出土石器実測図６（413・414は1/3、他は1/2）

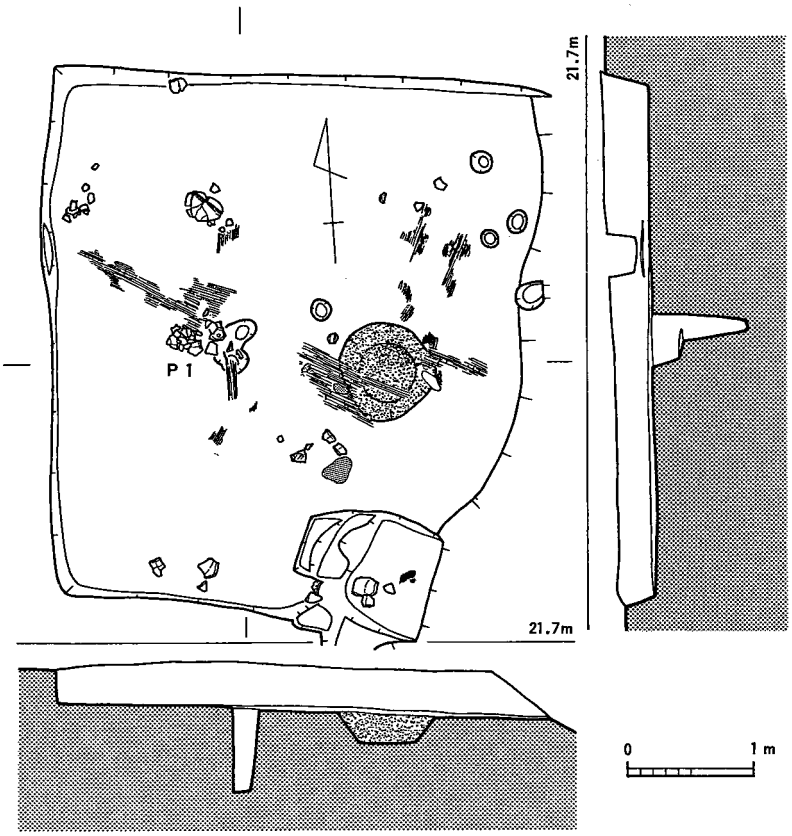
磨石（413）小形の磨石で、土器の器面調整用と思われる。

３．弥生時代から古墳時代の遺構と遺物

弥生・古墳時代の検出遺構は住居跡17軒・土坑10基・ピット多数である。遺構は２区から３-１区にわたって確認され、特に３-１区に集中している。当該期の遺構は３-２区には及んでいない。

住居跡

２区及び３-１区において計17軒を検出した。１号住居跡のみは独立して存在するが、他は３-２区南東部に集中する。このうち１号大溝の西側（３～６号住居跡）は削平が著しく、概して残りが悪い。また、それ以外の住居跡についても１号大溝や山国川に沿う東側の段落ちによって切られて

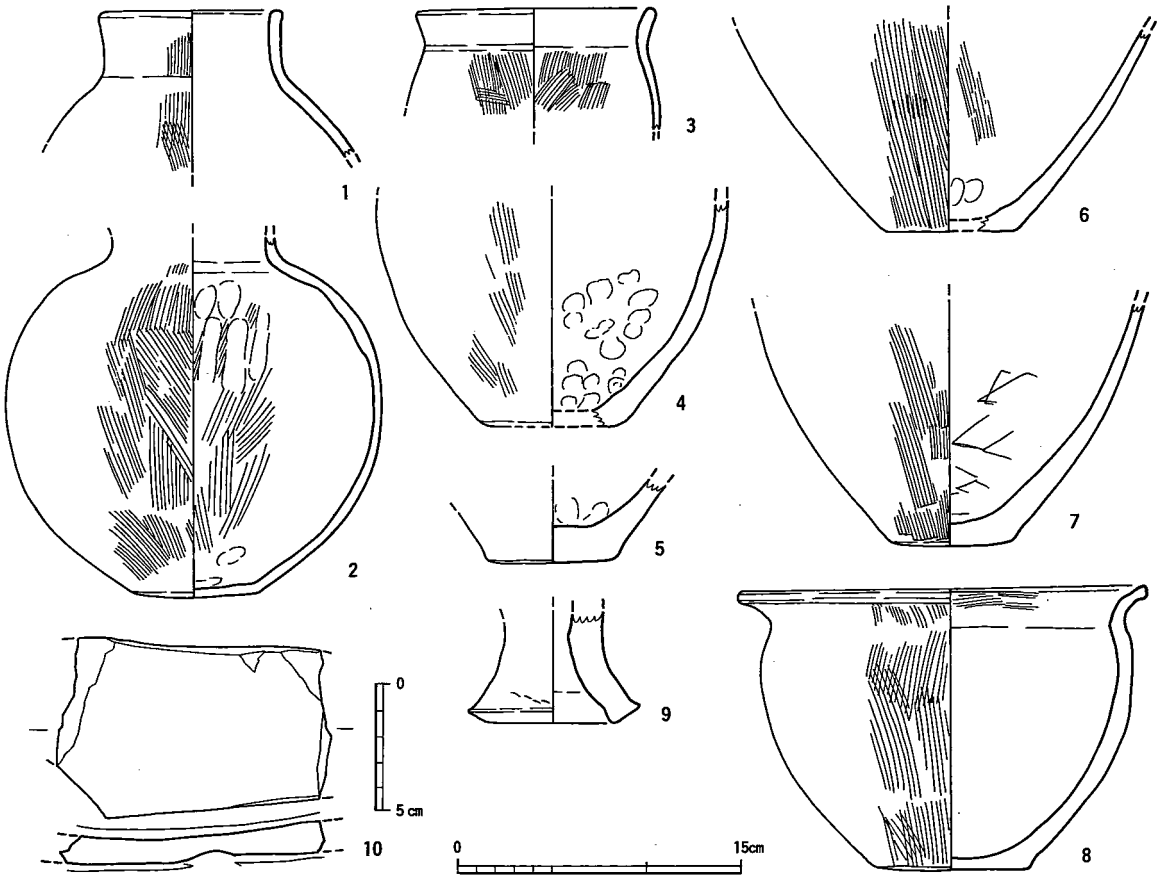


第77図　1号住居跡実測図（1/60）

いるため、全形が知れるものはない。

1号住居跡（図版7、第77図）

2区南端部において、他の住居とは離れた位置で単独で検出した。東側は1号大溝に切られるが平面プランは長方形に復元される。規模は4.3m×4.0m以上で、深さ0.4mを測る。主柱穴は2本と考えられ西側の柱穴のみ検出した。掘形の径は20cmを測る。中央炉は径0.8mのほぼ円形を呈し、深さは0.2m。埋土中に炭化物が入る。住居の床面には炭化



第78図　1号住居跡出土土器・石器実測図（1～9は1/4、10は1/3）

材が部分的に残り、焼失住居と考えられる。床面は固く締まっている。遺物は主柱穴の周辺及び中央炉の南側でまとまって出土し、他に北壁際の西寄りで砥石が2個体重なって出土した。

出土遺物

土器（図版44、第78図）

壺（1・2）1・2とも口縁部が短く直立するもの。2の底部は平底でわずかに凸レンズ状になる。調整は外面がハケ、内面は1がナデ、2がハケのちナデ。1の外面と2の内面に黒斑が残っている。

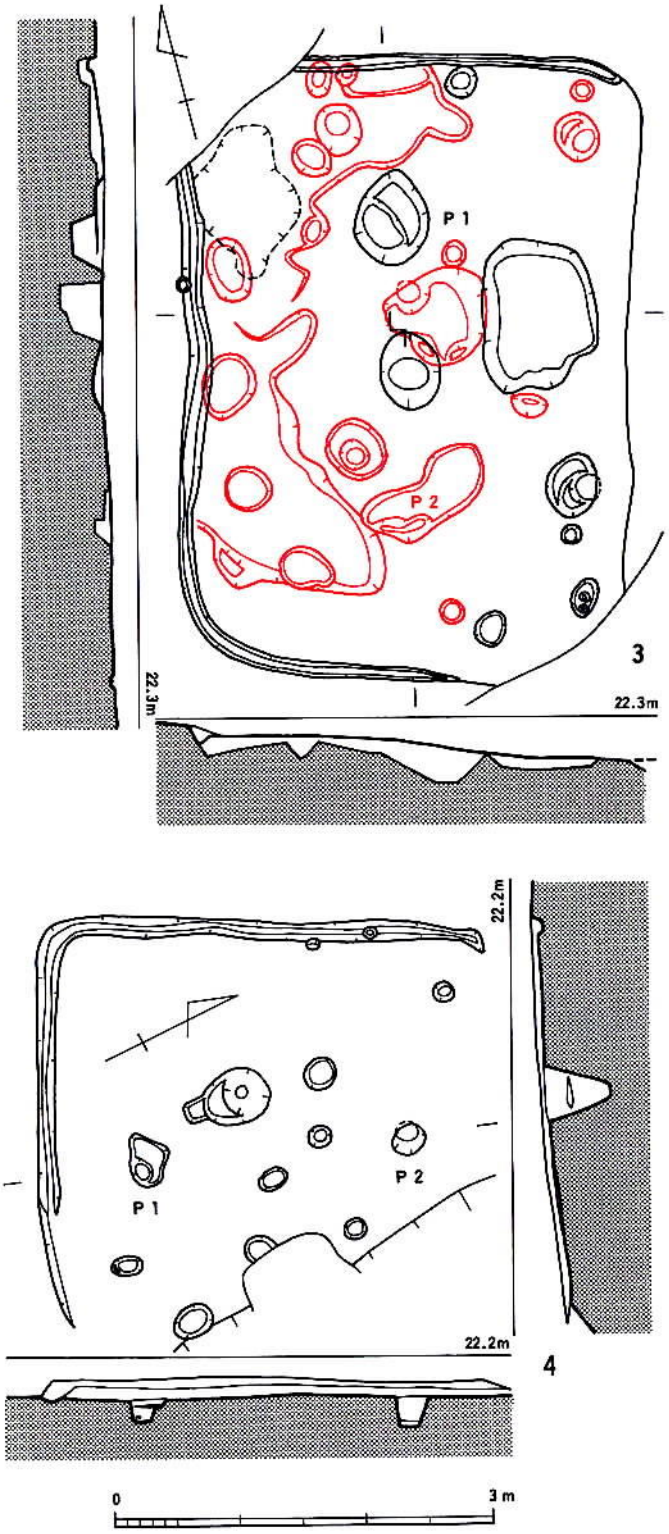
甕（3～7）3の口縁部は緩く外反する。内面の屈曲部の稜は不明瞭である。4～7の底部はすべて平底である。6のような完全な平底と5・7のようにわずかに凸レンズ状をなすものとがある。調整は3・6が内外面ともハケ。内面の下半部には指頭圧痕が残る。7の内面は板ナデ。

鉢（8）口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げ気味である。調整は外面と口縁部内面がハケ、内面はナデ。外面に煤が付着する。

器台（9）下半部の破片。脚端部は面をなす。

石器（第78図）

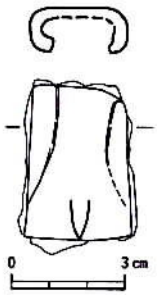
砥石（10）両端部を欠損する。現存長10.7cm、幅7.2cm、最大厚2.2cm。砂岩製である。



第79図　3・4号住居跡実測図（1/60）

3号住居跡（図版7、第79図）

2区と3区の境で検出し、南東隅部は13号溝、北西部は18号溝によって切られる。平面プランは隅丸長方形を呈する。規模は5.0m×3.6mで削平が著しく、床面及び壁溝が残るのみである。主柱穴はP1・P2の2本で中央に浅い土坑がある。主柱穴の柱間は2.35mを測る。また、北壁際の中央部で焼土が検出されている。



第80図　4号住居跡
出土鉄器実測図（1/2）

4号住居跡（図版8、第79図）

3-1区南半部で検出し、南壁と西壁際に巡る壁溝を確認した。平面プランは隅丸方形に復元される。規模は3.6m×2.25m以上。主柱穴はＰ１・Ｐ２の２本で、柱間は2.15mを測る。中央より西に寄って検出した0.4m×0.6mのピットが中央炉と考えられようか。なお、住居北西隅部の床面から鉄斧が出土している。

出土遺物

鉄器（図版44、第80図）

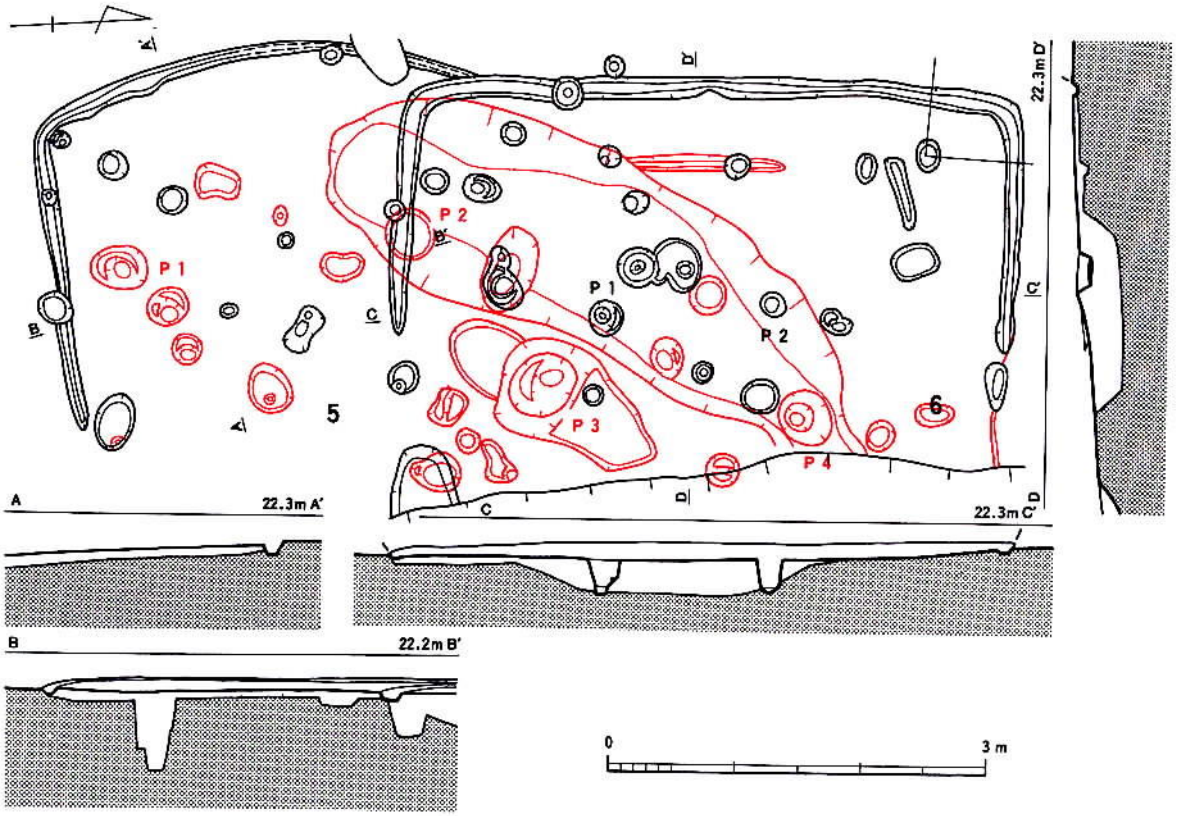
鉄斧（１）小形の袋状鉄斧。長さ4.1cm、幅2.7cm、最大厚0.5cm。

5号住居跡（図版8、第81図）

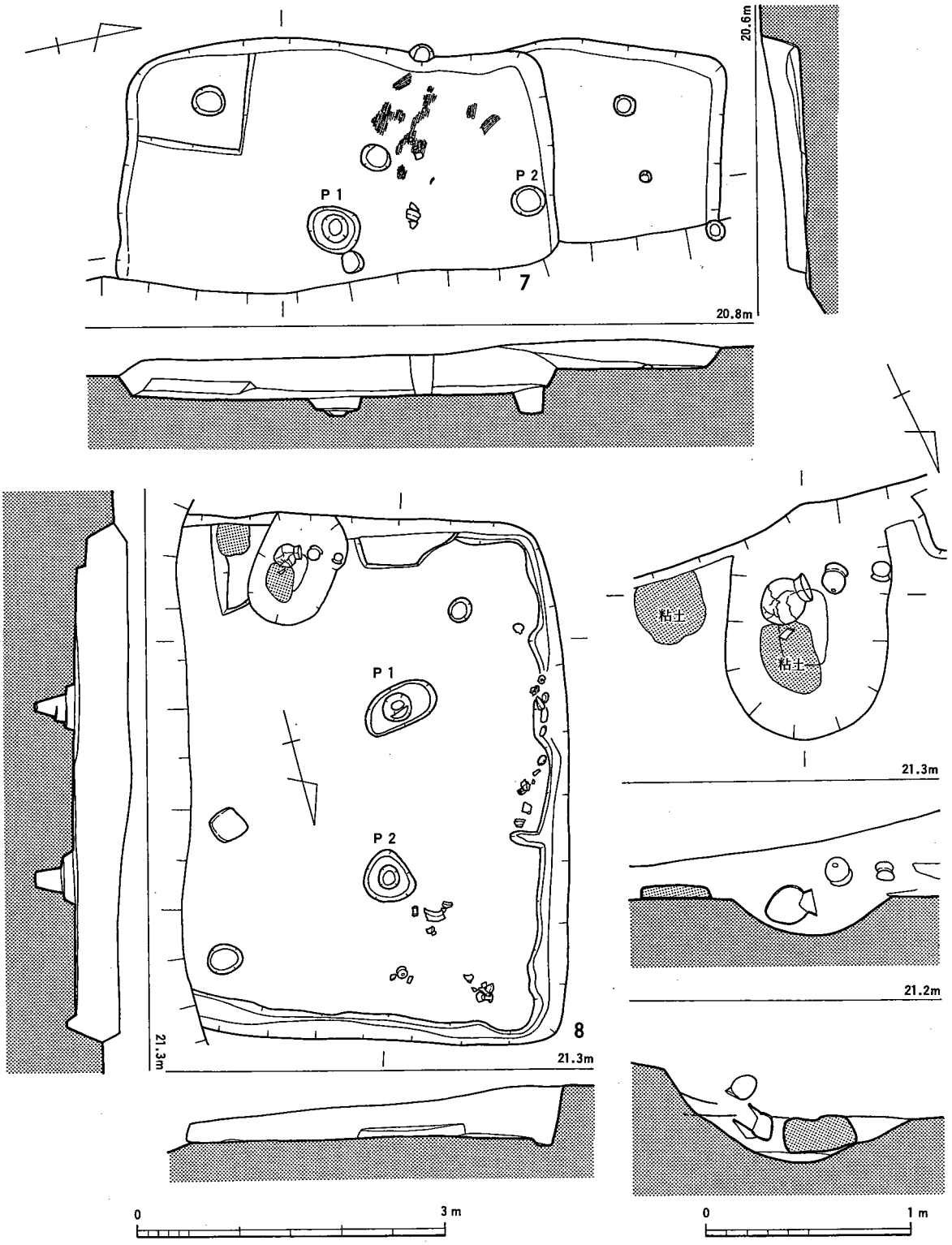
3-1区南半部、4号住居跡の北側で検出し、南壁と西壁に巡る壁溝を確認した。北側は6号住居跡によって切られている。平面プランは略方形に復元され、西辺が膨らんでいる。規模は2.7m以上×2.7m以上。主柱穴はＰ１・Ｐ２の２本で、柱間は2.05mを測る。出土遺物は皆無。

6号住居跡（図版8、第81図）

3-1区南半部、5号住居跡の北側で検出し、これを切る住居である。南・北・西の3辺の壁溝を確認したが、東側は1号大溝によって切られている。平面プランは方形ないしは長方形で、規模は5.0×2.2m以上。主柱穴は不明確である。Ｐ１・Ｐ２の２本柱とも考えられるが、柱間が1.35mと



第81図　5・6号住居跡実測図（1/60）



第82図　7・8号住居跡実測図（1/60・1/30）

狭い。P３・P４については下層で検出したことや、軸が住居の壁と異なるためここでは前者の可能性を考えておきたい。床面には西壁・北壁に平行する仕切溝の一部がそれぞれ壁から0.6m・0.9mの距離をおいて認められる。出土遺物は皆無。

7号住居跡（図版９、第82図）

３-２区南東部、東側の落ち部分で検出した。長方形住居の西半部が残存しており16号住居跡に切られる。規模は5.9m×2.5m以上で、深さ0.45mを測る。主柱穴はＰ１・Ｐ２の２本と考えられ、柱間は1.90mを測る。北西側に幅1.5mの、南西隅部に1.0m四方のベッドをもつ。床面及び床面近くの埋土中で、炭化材及び焼土が検出された。

出土遺物

土器（図版45、第83図）

壺（１）二重口縁壺の小片。調整は内外面ともヨコナデ。

甕（２～４）２は短く外反するもの。調整は外面がハケのちナデ、内面はハケ。

石器（図版45、第83図）

磨石（５）径4.0cm×3.5cm。厚さ3.0cm。

8号住居跡（図版９・10、第82図）

３-２区東辺中央部で検出し、９号住居跡・42号土坑を切る。平面プランは方形に復元される。規模は5.1m×3.8m以上、深さ0.5mを測る。主柱穴は４本と考えられＰ１・Ｐ２の２本を確認した。柱間は1.70mを測る。北・西辺と南辺の一部に壁溝を巡らせる。南辺中央部の壁際には1.15m×0.8m、床面からの深さ0.45mを測る屋内土坑があり、完形の壺・甕類が３点出土した。また、底部で50cm×30cm×17cmの黄灰色粘土塊を検出した。土坑の西側には階段状の平面台形の張り出しが設けられる。住居の埋土は茶褐色砂質土で、上層及び床面より多くの土器が出土している。

出土遺物

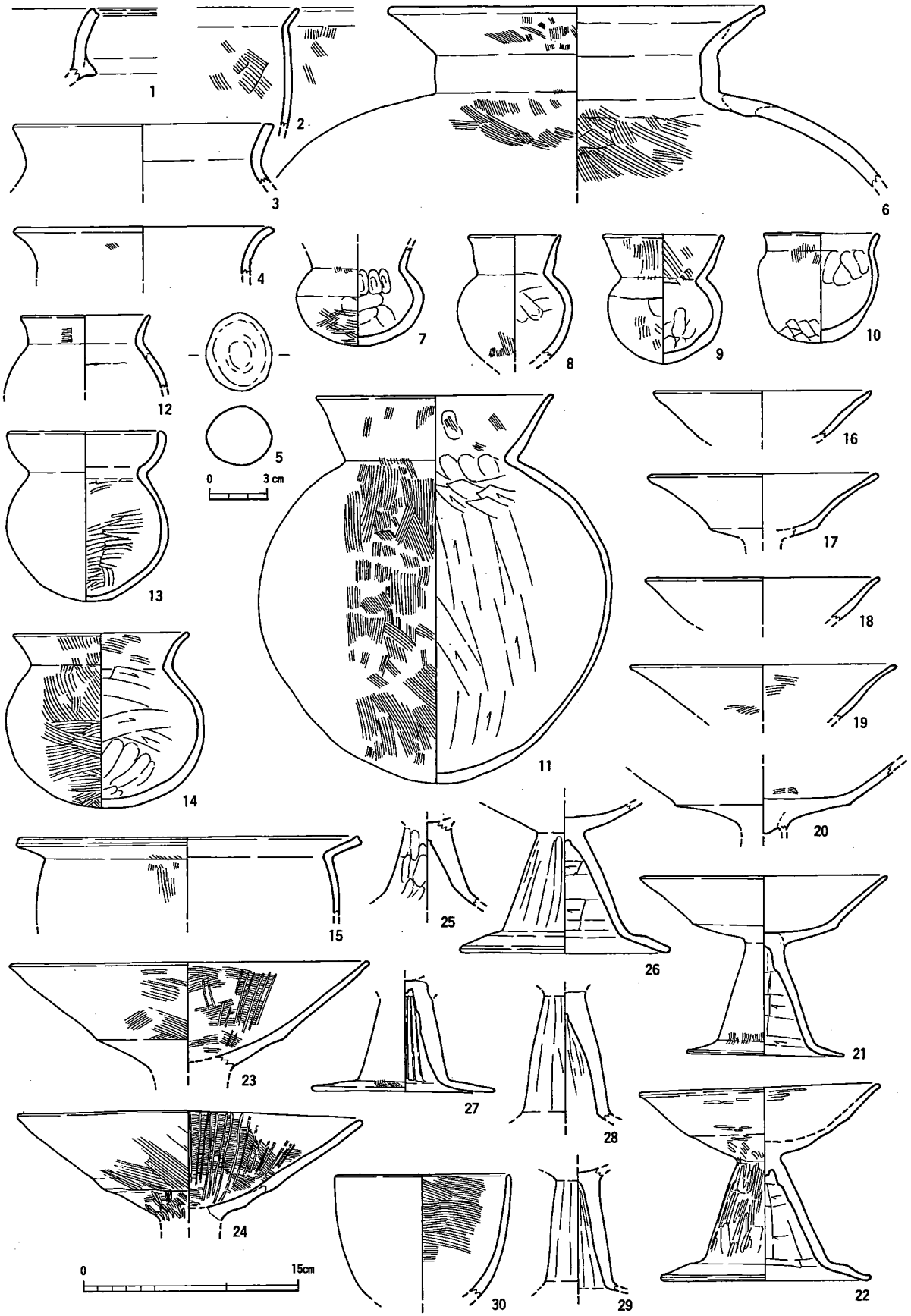
土器（図版45・46、第83図）

壺（６～９）６は二重口縁壺であるが口縁部は剝落している。調整は外面がハケのちナデ、内面はハケ。７～９は小型丸底壺。調整は外面がハケのちナデで下半にはハケ目を多く残す。口縁部はヨコナデ。他はナデ。内面に指頭圧痕が残る。口縁部・体部ともに差異がみられる。

甕（10～15）10は小形の甕。口縁部がわずかに外反する。調整は外面がハケのちナデ、底部は手持ちヘラケズリ。内面はナデで、胴部上半に指頭圧痕が残る。11の調整は外面がハケ、内面はケズリ。12は球形の胴部に緩く外反する口縁が付くもので、口縁端部は丸く収める。調整は内外面ともナデ。13は球形の胴部に強く内湾する口縁が付く。口縁部は肉厚で端部は丸く収める。調整は外面がナデ、内面は４㎜単位の強い工具ナデ。口縁部はヨコナデのちナデ。14は扁球形の体部に緩く外反する口縁が付く。調整は外面がハケ、内面はケズリで下半には指ナデの痕跡が残る。15は口縁部を跳ね上げる。調整は外面がハケ、内面はナデ。混入品。

高杯（16～29）16～22は口径15.0cm～16.6cmを測る。20は杯部から脚部へソケット状に接合するタイプである。杯部の調整は19が内外面ともハケのちヨコナデ、22がミガキ。脚部の外面調整は21がハケのちナデ、25・27がナデ、22がミガキ、26～29がケズリ。内面調整は21～26がケズリ、27が工具による強いナデ、28・29にはシボリ痕が残る。21の脚部には黒斑が見られる。23・24の口径は25.0cm・24.0cm。ともに調整は外面がハケ、内面はハケのち暗文を施す。

椀（30）体部が内湾気味立ち上がる深めの椀。調整は外面がナデ、内面はハケ。



第83図　7・8号住居跡出土土器・石器実測図（5は1/3、他は1/4．1～5：住7、6～30：住8）

9号住居跡（図版11、第84図）

3-2区東辺中央部、8号住居跡の北側で検出し、これに切られ、また、37号土坑を切る。平面プランは方形に復元される。規模は5.4m×5.0m以上、深さ0.5mを測る。主柱穴は4本と考えられこのうちP1・P2を確認した。柱間は2.9mを測る。P1-P2を結ぶラインよりやや西寄りに0.6×0.55mの平面卵形の炉があり、埋土には炭化物・焼土を含む。西辺と南・北辺の一部に壁溝を巡らせる。また、北西隅部に1.65m×0.9mのベッドを有する。

出土遺物

土器（図版47・48、第85図）

甕（1～4）1は球形の体部に短めの口縁が付くもので、口縁端部は外反する。胴部下半を欠くが、最大径はやや下位にあるようである。調整は外面がタタキ、内面は頸部下位がハケ、胴部がケズリ。外面に煤が付着する。2はやや下膨れの甕で底部は尖り気味になる。調整は外面がタタキ、内面はハケ。3は長胴の甕で胴部最大径は上位にある。口縁部は外反し、端部を丸く収める。底部は平底。調整は外面がタタキのちハケ、内面がハケ。底部外面にはタタキ痕が残る。4は上半を欠く。底部は凸レンズ状の平底である。調整は外面がタタキのちケズリに近い擦過、内面はハケ。内面に炭化物が付着する。

高杯（5～7）5は杯部が長く外反するもので、口縁部はやや肥厚し、端部は面をなす。調整は内外面ともハケ。6は杯部上半が直線的に延びる。杯部の中央にソケット状に粘土を充填するタイプである。調整は内外面ともハケのちミガキ。7は杯部上半がやや内湾気味に立ち上がるもの。調整は外面がハケ、内面はハケのち暗文。

器台（8）上部のすぼまり方にやや難があるが、厚みからみても器台の裾と考えられる。裾端部は面をなす。

椀（9～12）9は上底気味の平底で体部は内湾しながら立ち上がる。あるいは鉢とした方が良いかも知れない。風化が著しいが、体部下半にタタキが残る。内面に煤が付着する。10・11は丸底の椀。調整は内外面ともナデ。11の内面には工具のアタリが残る。12の底部は凸レンズ状となり、器壁も厚い。調整は外面上半がナデ、下半が指オサエ、底部にはタタキ痕が残る。内面はナデ。

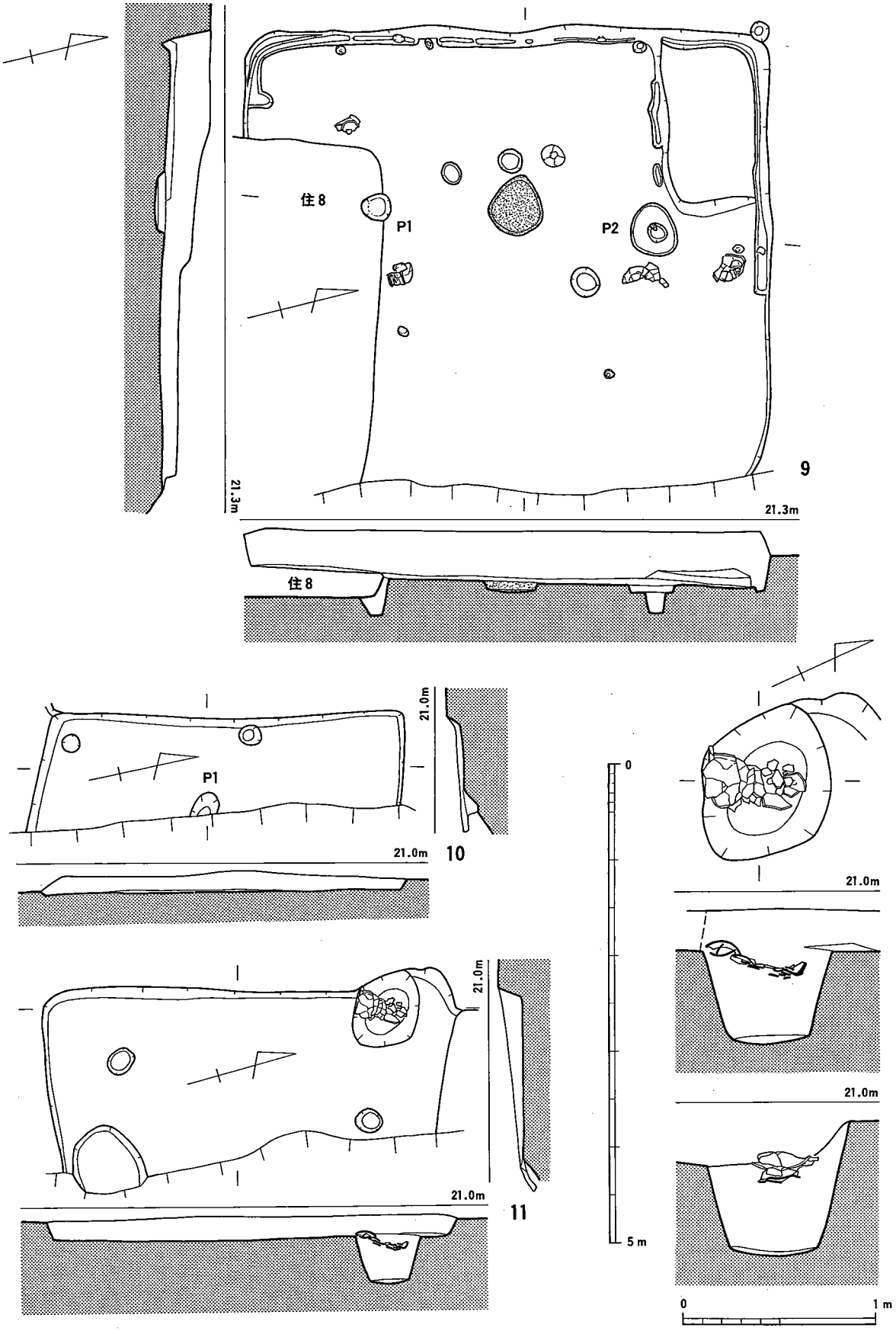
10号住居跡（図版12、第84図）

3-2区東辺中央部、8号住居跡の南側で検出し、これに切られる。また、南側は11号住居跡を切る。東側の大半は段落ちによって削平されている。平面プランは方形ないしは長方形と考えられる。規模は3.9m×1.2m以上、深さ0.2mを測る。主柱穴は明らかではないが、P1がその可能性がある。

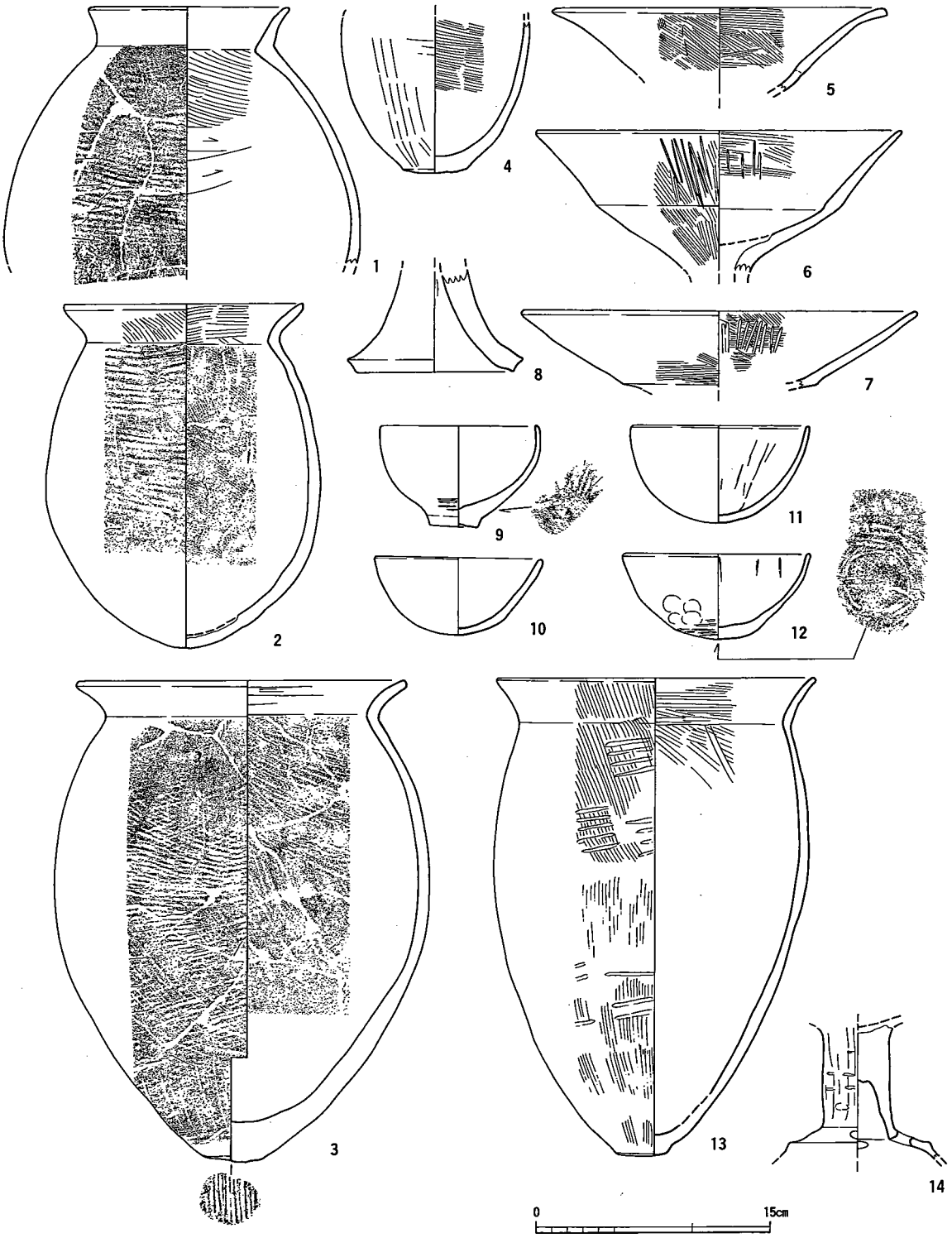
11号住居跡（図版12、第84図）

3-2区東辺中央部、10号住居跡の南側で検出し、これと南側の16号住居跡に切られる。平面プランは方形ないしは長方形と考えられる。東側の大半は段落ちによって削平されている。規模は4.3m以上×2.0m以上、深さ0.2mを測る。床面でピットを2つ確認したが主柱穴は不明である。西壁際の北寄りに0.9m×0.7m、深さ0.5mの土坑があるが住居に伴わない可能性が高い。

出土遺物



第84図　9～11号住居跡実測図（1/60・1/30）

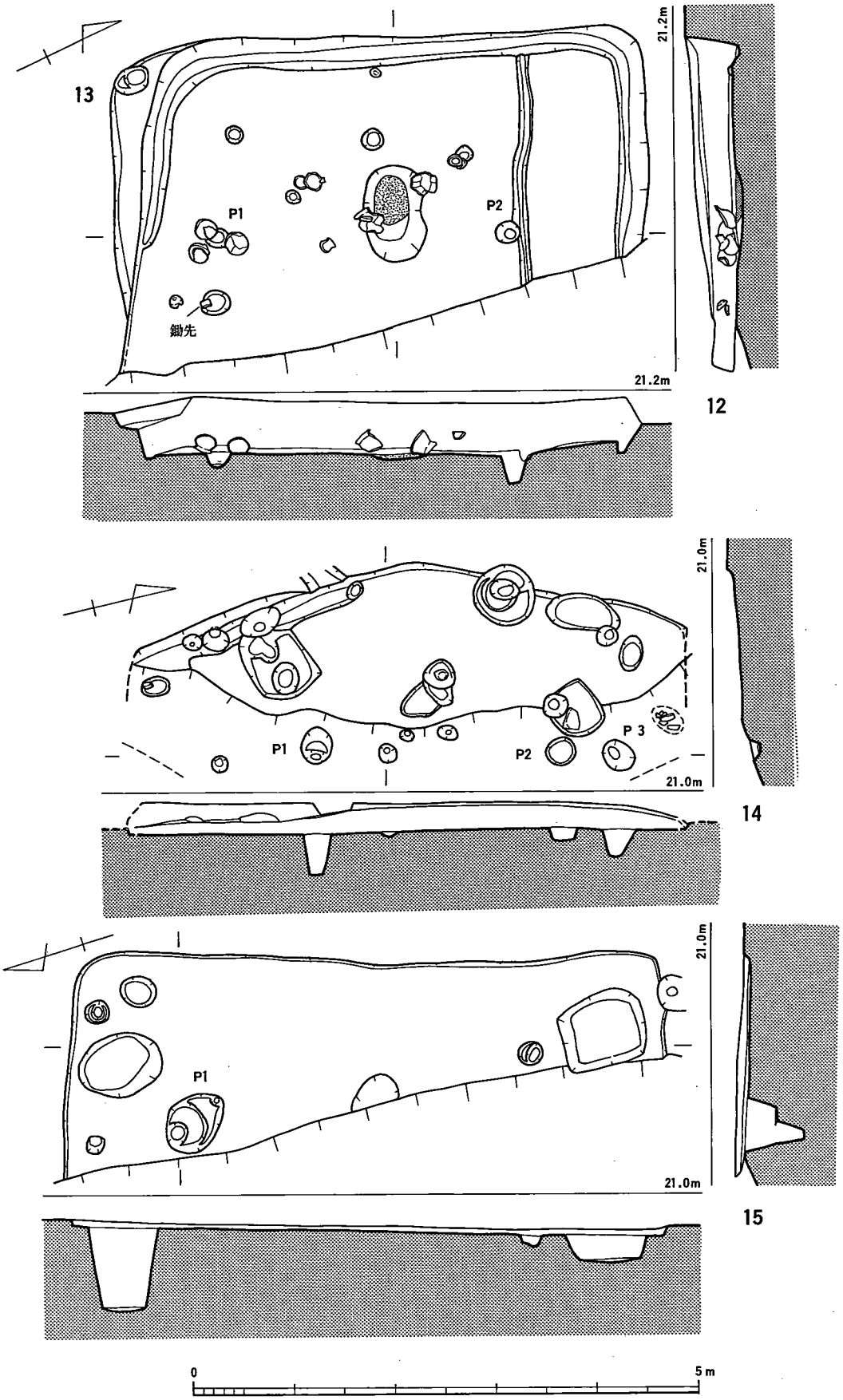


第85図　9・11号住居跡出土土器実測図（1/4．1～12：住9、13・14：住11）

土器（図版48、第85図）

甕（13）長胴の甕で底部は凸レンズ状の平底となる。口縁部は緩く外反する。調整は外面がタタキのちハケ、内面が頸部下がハケ、他はナデ。内面には炭化物が、外面には全面に煤が付着する。

高杯（14）円柱状の脚部で、裾部は段をなして広がる。裾部には4方向に径8㎜の孔が穿たれる。



第86図　12～15号住居跡実測図（1/60）

調整は外面がミガキ、内面はケズリ。搬入品の可能性あり。

12号住居跡（図版12、第86図）

3－2区北東部、9号住居跡の北側で検出し、東側は段落ちによって削られている。13号住居を切っている。平面プランは隅丸方形と考えられる。規模は4.9m×3.2m以上、深さ0.5mを測る。主柱穴はＰ１・Ｐ２の二本柱で柱間は2.9mを測る。中央部に長軸径1.0m、短軸長0.6m、深さ0.05mの長円形炉を有する。また、北壁に沿って幅0.9mのベットをもつ。残存する3周には壁溝を巡らせ、また、ベット際にも溝をもつ。住居の埋土は炭化物を若干含む暗茶褐色土。床面から完形の土師器が一括破棄された状態で出土している。また、床面より鉄製鋤先が出土した。

出土遺物

土器（図版48～50、第87・88図）

壺（1・2）いずれも二重口縁壺の口縁部破片。1の調整は外面がミガキ、内面がナデ。外面にはヘラ状工具による線刻が施される。2の調整はヨコナデ。

甕（3～16）3の体部は丸味をもって立ち上がり、肩部で屈曲して外反し口縁に至る。調整は外面は頸部がハケ、胴部から底部にかけてはナデ。内面は上半がハケのちナデ、下半がナデで、工具のアタリが残る。底部外面に黒斑あり。4は丸底の小形甕で全体に器壁が厚い。調整は外面と内面の上半がナデ、内面の下半は強いナデを施す。内面の上半には工具のアタリが残る。内面には炭化物が、また外面には煤が付着しているため、穿孔は使用後に行われたと考えられる。5～15は球形の体部となるもので、肩が張り気味になるものと、やや下膨れになるものとがある。口縁部は外反するもの（6～11・13・14）と直線的なもの（12・15）とがある。15の口縁端部は外方にわずかにつまみ出し、また内側に肥厚させる。外面調整は14がナデ、他はケズリ。内面調整はケズリで7・12・14はその後にハケを施す。6・11・13の内面には炭化物が、9の外面には煤が付着する。

鉢（17）小形の鉢。調整は内外面ともナデ。

椀（18・19・1・2）18は小形の椀。調整は外面がハケ、内面がナデで工具のアタリが残る。19は調整は口縁部がヨコナデ、外面下半には指頭圧痕が残る。内面にはミガキを施す。1の調整は内外面ともナデ。2は外面がナデ、内面が放射状のミガキ。19・1・2は杯形の浅い椀で、鉢とした方が妥当であろうか。

鉄器

鋤先（図版50、第88図）

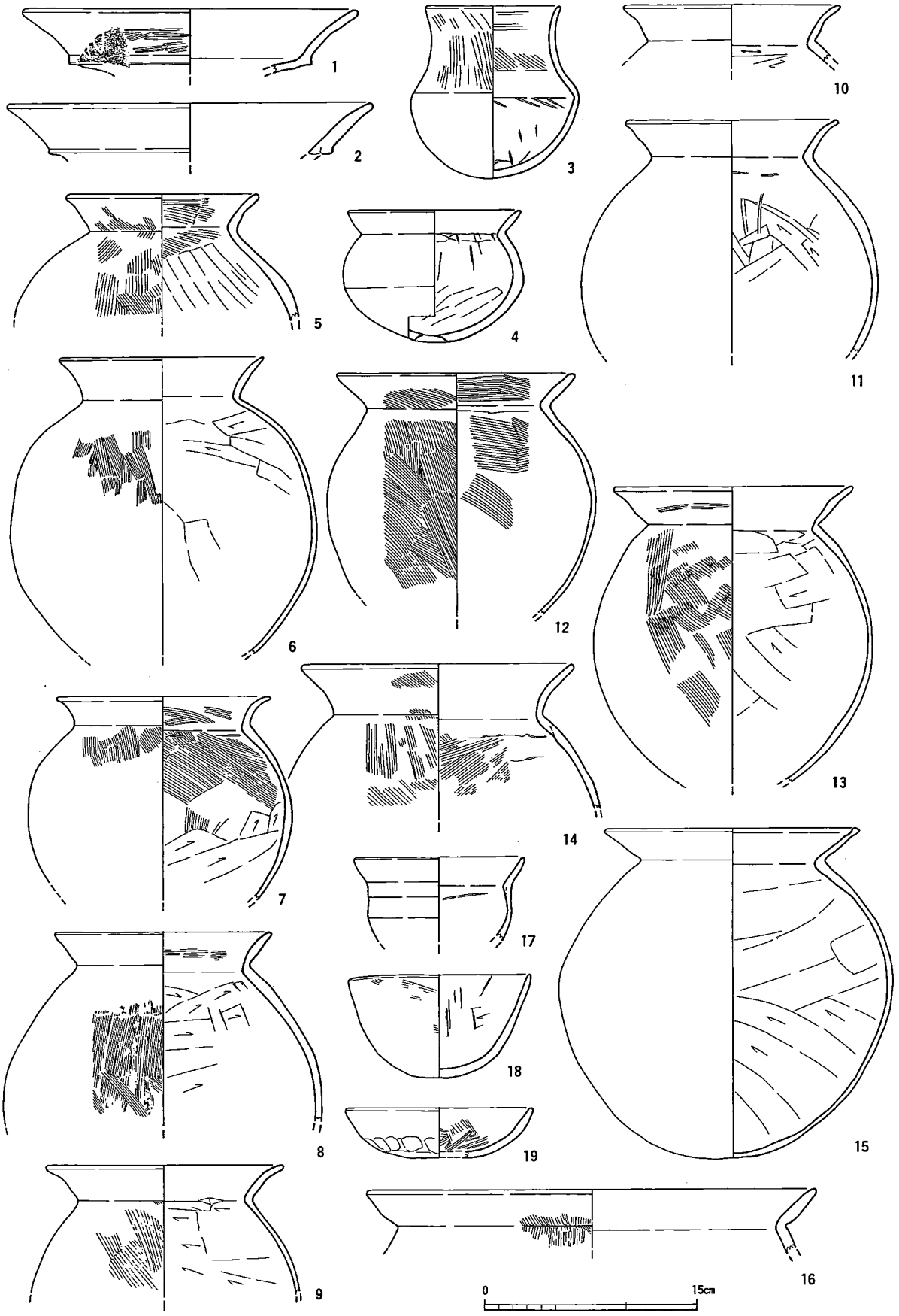
板状の素材の両端を折り曲げてソケットとしたもの。刃部幅10.5cm、最大幅10.9cm、長さ5.3cm、厚さ0.2cmを測る。

13号住居跡（図版12、第86図）

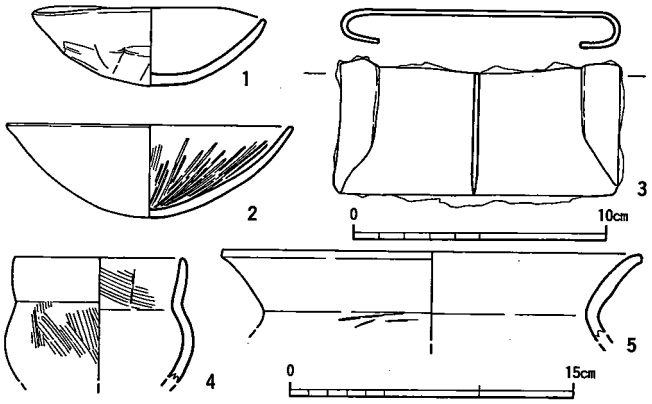
3－2区北東部、12号住居跡の南側で南西コーナーの一部を確認したが、大半は12号住居跡によって削られている。柱穴等も明らかでない。出土遺物は無い。

14号住居跡（第86図）

3－2区のほぼ中央部、2号大溝の西側で検出した。東側の大半は2号大溝によって削平されて



第87図　12号住居跡出土土器実測図（1/4）

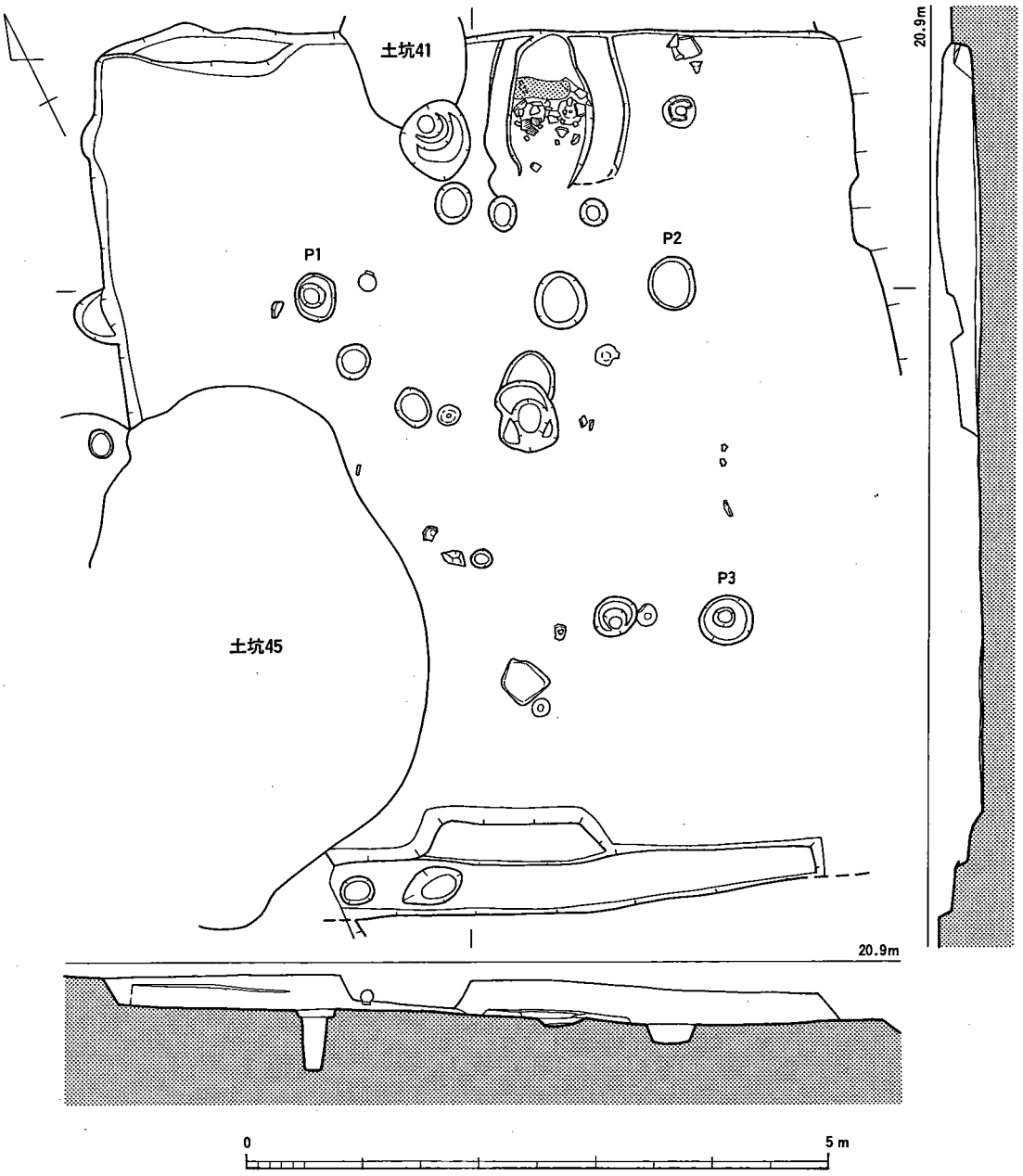


第88図　12･15号住居跡出土土器･鉄器実測図
(1/4・1/3. 1～3：住12、4・5：住15)

いる。確認した西壁は中央がやや出張るが、住居の平面プランは略方形を呈するものと考えられる。主柱穴はＰ１とＰ２あるいはＰ３がその可能性があるものの明らかではない。出土遺物は無い。

15号住居跡（第86図）

３-２区南東部、７号住居跡の西側で検出し、西側は２号大溝によって削られている。平面形は方形ないしは長方形で、



第89図　16号住居跡実測図（1/60）

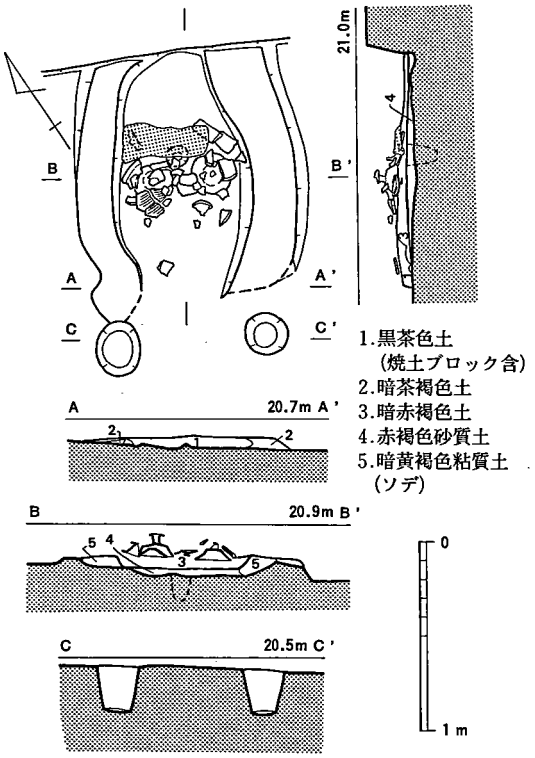
規模は6.0m×2.1m以上、深さ0.1mを測る。主柱穴は不明であるが４本柱とすればＰ１がその可能性が高いであろう。

出土遺物

土器（図版50、第88図）

壺（４）小形の丸底壺。口縁部はやや外傾し、内湾気味に立ち上がる。調整は外面がハケ、内面がナデ。口縁部内面はハケ。

甕（５）口縁部の小破片。口縁部は外反し、端部は丸く収める。屈曲部内面に工具のアタリが残る。



第90図　16号住居跡カマド実測図（1/40）

16号住居跡（図版13、第89・90図）

３-２区南東部、15号住居跡の東側で検出し、東側は段落ちによって削られている。７・11号住居跡を切る。平面プランは方形と考えられ、規模は7.5m×6.6m以上、深さ0.3mを測る。主柱穴は４本で、柱間はＰ１-Ｐ２が3.0m、Ｐ２-Ｐ３が2.9mを測る。カマドは北東側に設置される。袖の長さは左右とも1.3m分確認したが、袖の前面に焚口部の石の抜き跡が存在する事から本来は1.5mほどの長さをもつものである。カマドの床面は住居床面よりもわずかに高くなっている。また、カマドの中央部よりやや壁寄りには支脚の抜き跡が見られる。抜き跡の上には厚さ３cmほどの粘土が45cm×15cmの範囲で貼られている。その前面には高杯が２個体伏せた状態で据え置かれており、カマド祭祀の一例を窺い知ることができる。カマドの右袖の外側（東側）からもカマド内で出土したものと同様、高杯が伏せた状態で出土した。

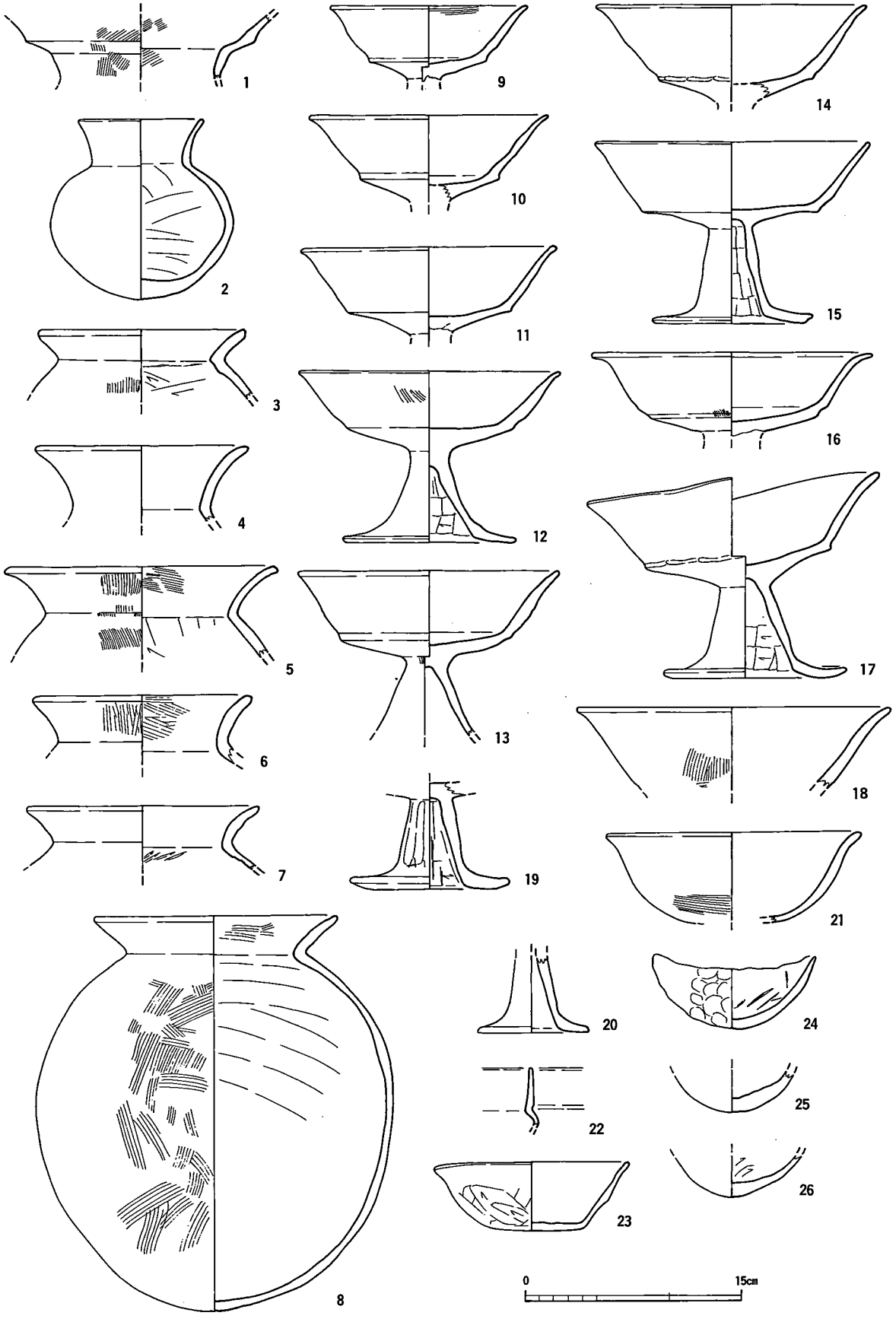
出土遺物

土器（図版50～52、第91図）

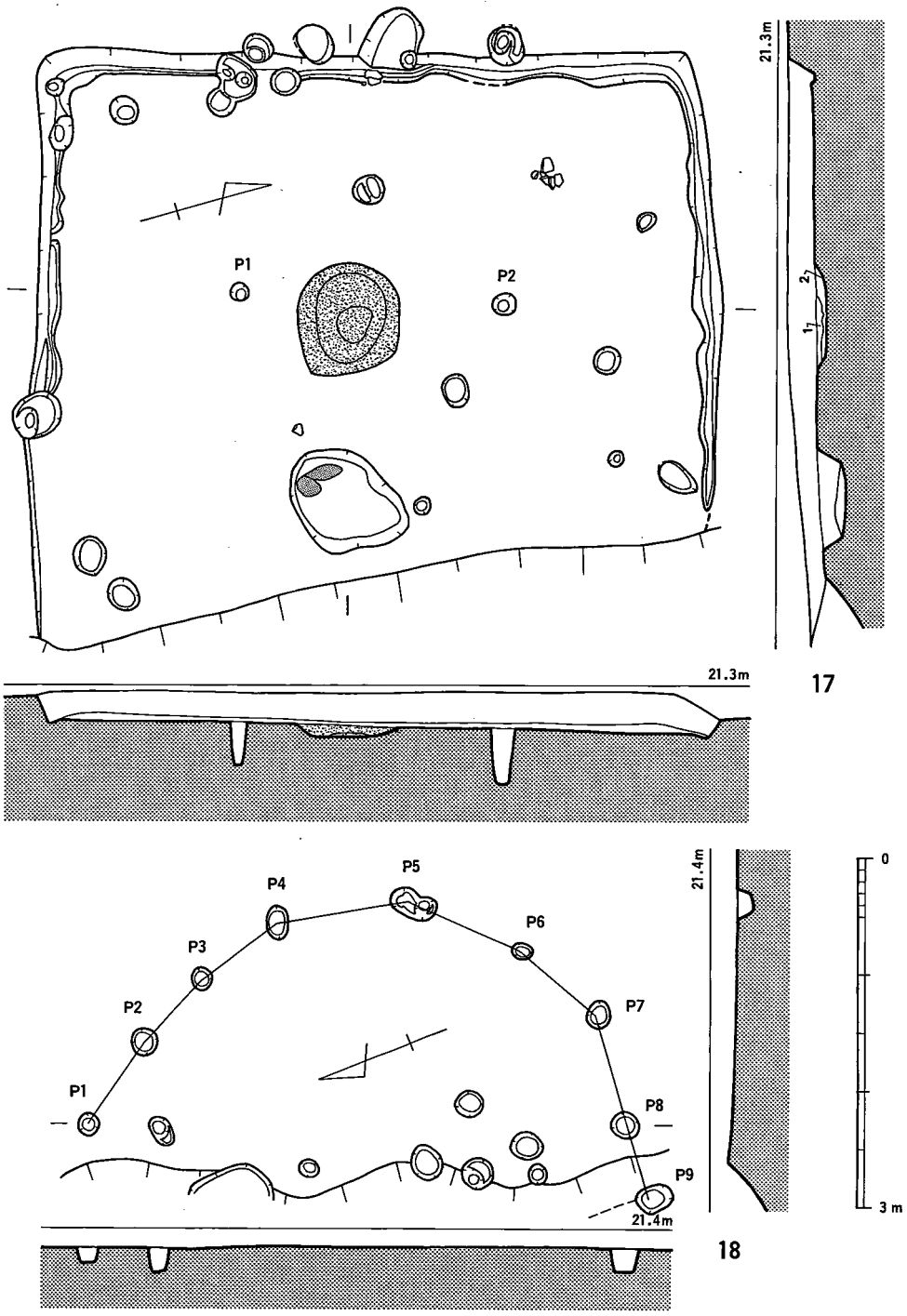
壺（１・２・22）１は二重口縁壺の破片。調整は内外面ともハケ。２は扁球形の体部に外反する短い口縁が付く。口縁端部は丸く収める。底部は丸底だが、体部との境にわずかに稜をなす。調整は外面は風化が著しく不明。内面はケズリ。22は小形丸底壺の口縁部片である。調整は内外面ともヨコナデ。

甕（３～８）３～７は口縁部の破片である。３の調整は外面がハケ、内面がケズリ。４は長胴の甕。５は口縁部が長く、強く外反するもの。調整は外面がハケ、内面がケズリ。口縁部は内外面ともハケ。６の調整は口縁部内外面ともハケ。７は外面がナデ、内面はケズリのちナデ。８の調整は外面がハケ、内面はケズリ。胴部外面に黒斑が残る。

高杯（９～21）９～20は杯底部から斜め上方に屈曲して口縁部をなすもの。底部と体部の境が明瞭な11・15・17と不明瞭な13・16、その中間形態等のバリエーションがみられる。口縁部は緩く外反するものが主であるが15のように直線的なものや16のように強く反るものもある。調整は杯部の内外面ともナデであるが、12・18の外面にはハケが残る。脚部は外面がナデ、内面がケズリ。ただ



第91図　16号住居跡出土土器実測図（1/4）

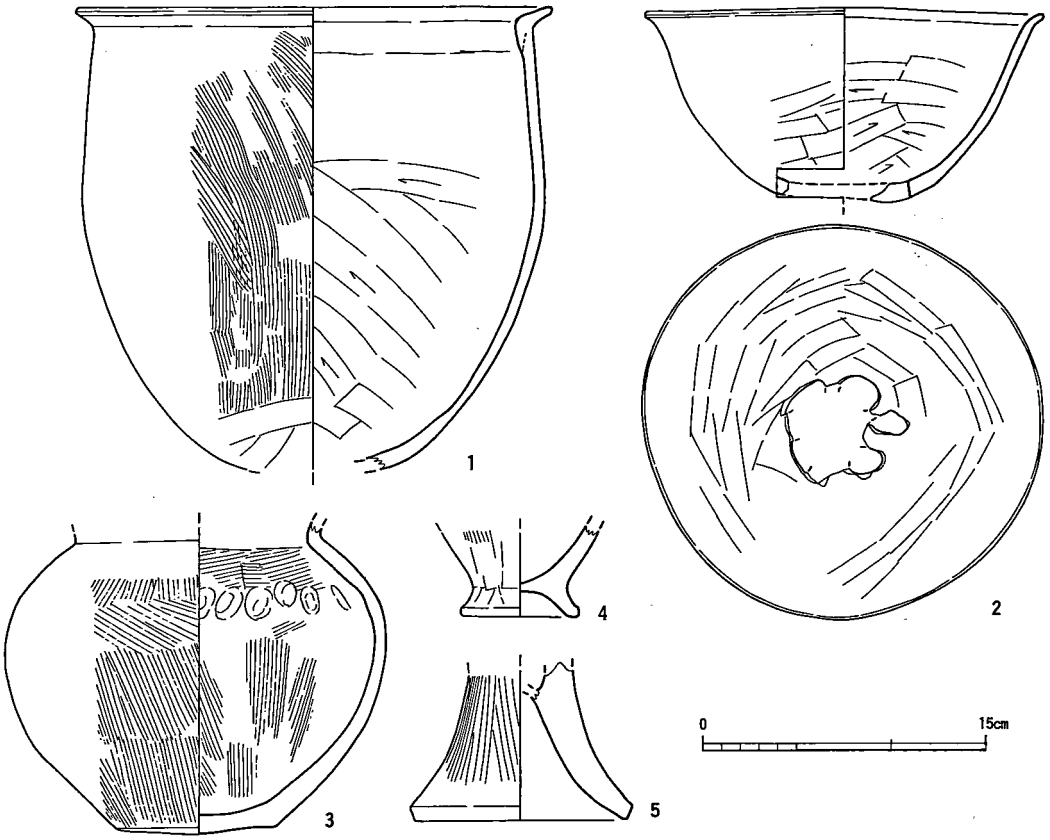


第92図　17・18号住居跡実測図（1/60）

し15・19は外面がケズリのちナデ。10の内面には炭化物が付着する。21は杯部が椀形になるもの。口縁部は緩く外反する。調整は外面の杯部下半がハケ、内面はナデ。

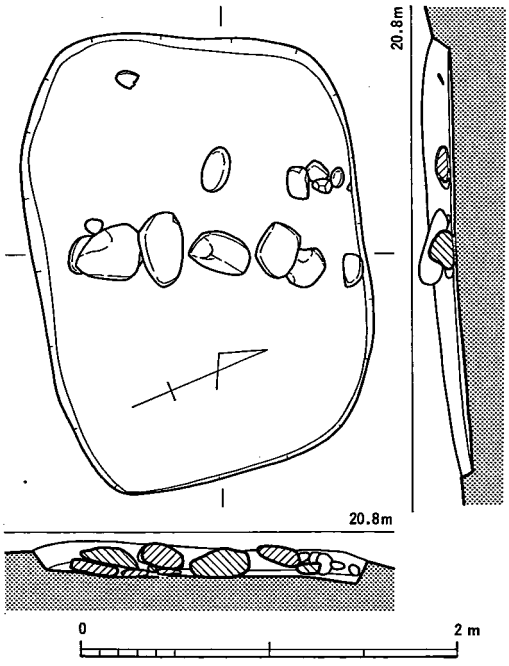
椀（23～26）23は平らな底部から斜め上方に屈曲するもの。風化が著しいが、外面の下半はケズリ調整。24は手ずくね風。調整は外面が指オサエ。内面はナデで工具のアタリが残る。25・26は底部破片。25の調整は内面がナデ、外面は不明。26の調整は外面はハケのちナデ、内面がケズリ。

甑（1・2）胴部の最大径は中位にある。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。調整は外面



第93図　16・17号住居跡出土土器実測図（1/4．1・2：住16、3～5：住17）

がハケで、底部近くと内面はケズリ。底部を欠失しており甕の可能性も考えられるが、器形からみて甑と考えられる。2は鉢形の甑。口縁部は短く外反する。体部のやや下位に型作りのためにできた段がまわる。底部中央は欠失するが5箇所に穿孔している。調整は内外面ともケズリ。



第94図　20号土坑実測図（1/40）

17号住居跡（図版14、第92図）

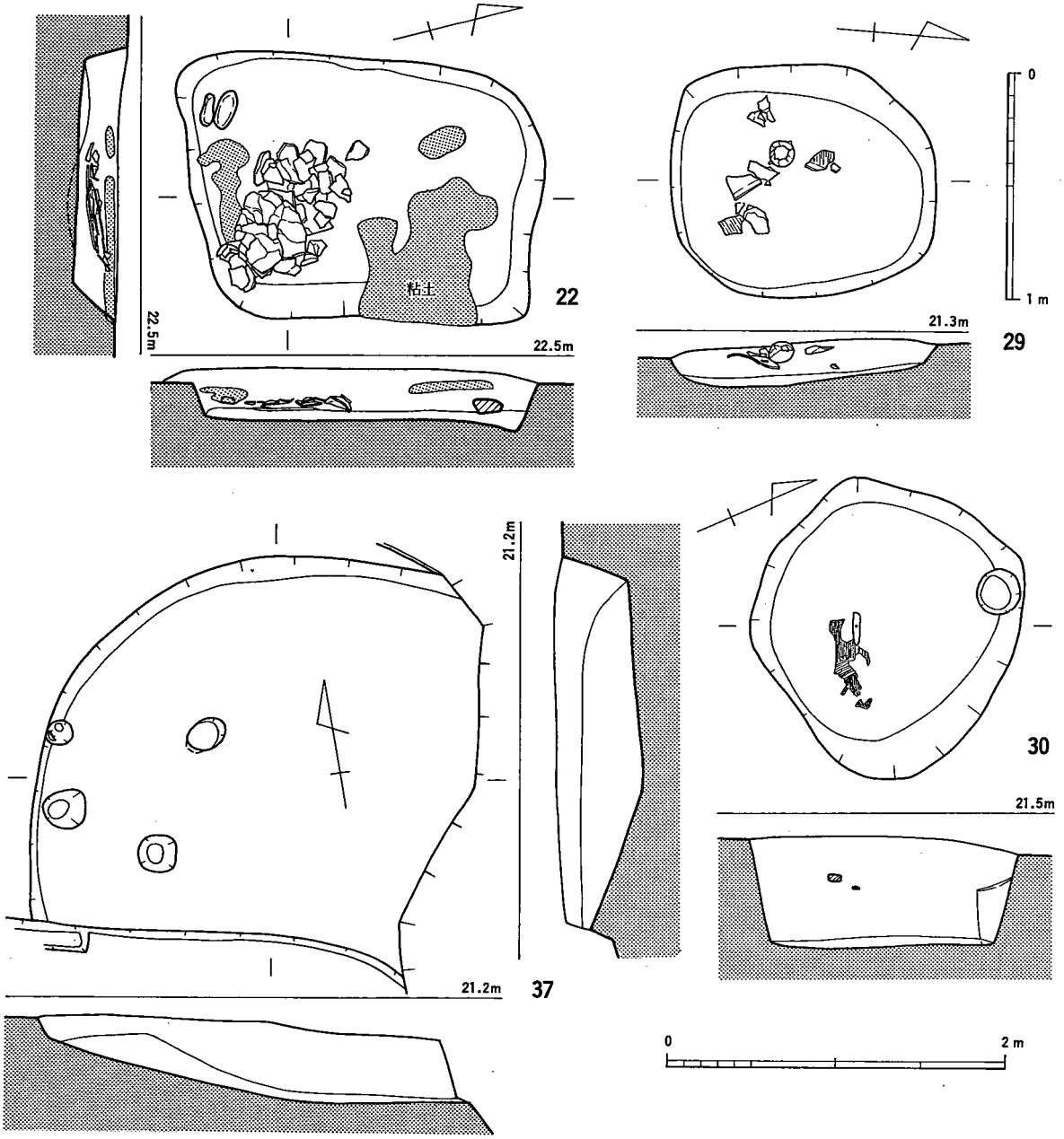
3-2区北東部で検出した住居跡で、東側は段落ちによって削られる。平面プランは長方形を呈する。規模は6.0m×5.2m以上、深さ0.3mを測る。主柱穴はＰ１・Ｐ２の２本で、柱間は2.25mを測る。住居の中央に径0.9m、深さ0.1mの炉がある。住居の壁際には壁溝が巡る。

出土遺物

土器（図版52、第93図）

壺（3）口縁部を欠く。底部は凸レンズ気味の平底。調整は内外面ともハケであるが、肩部内面には指頭圧痕が残る。

甕（4）「ハ」の字に開く高台をもつ。調整は外



第95図　22・29・30・37号土坑実測図（22・29・30は1/30、37は1/40）

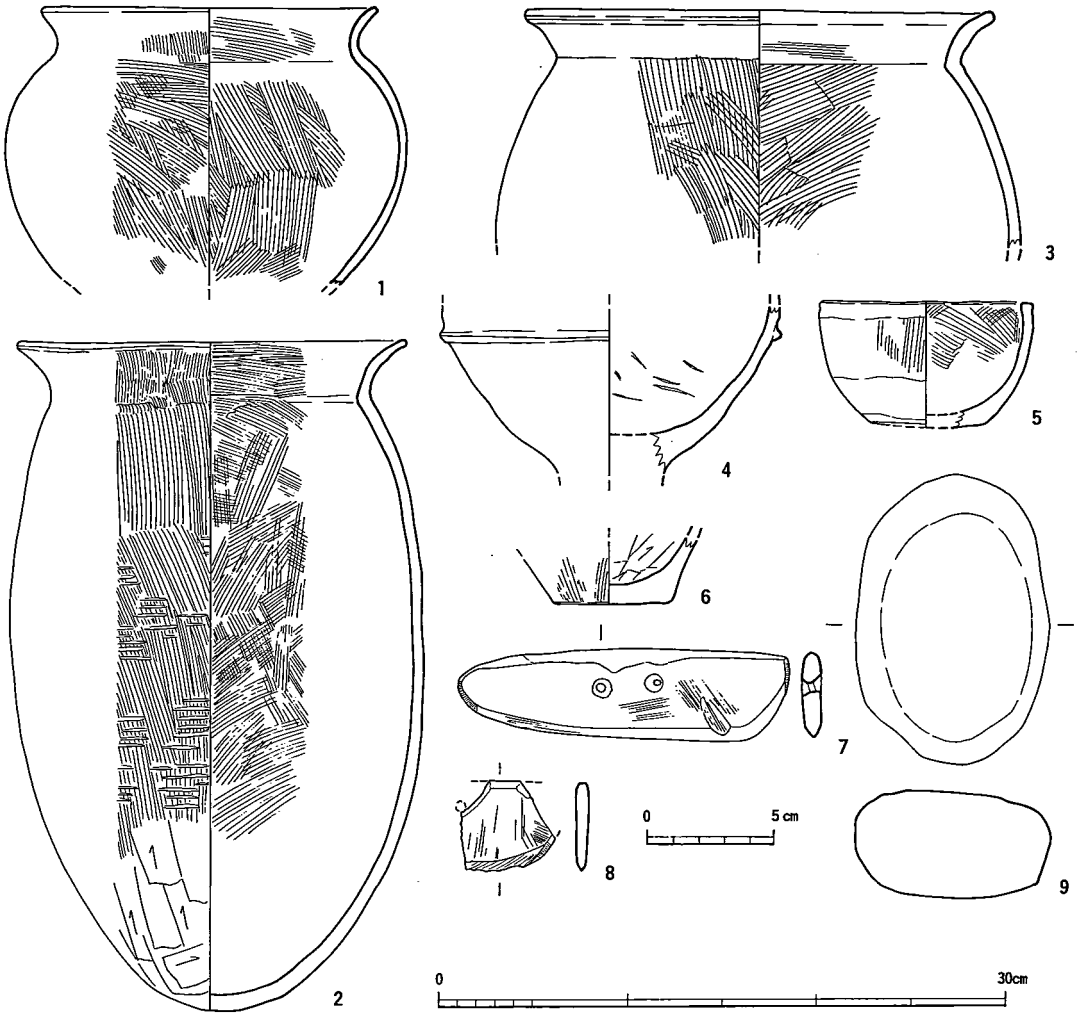
面がハケ、内面はナデ。

器台（5）器台の下半部。裾端部は面をなす。調整は外面ハケ、内面ナデ。

18号住居跡（図版12、第92図）

3-2区北東部で検出した住居跡で、西側は2号大溝によって切られる。後世の削平により壁は残っておらず、ピットのみを確認した。検出した9個のピットから見ると、住居の平面プランは円形ないしは小判形に復元される。P1-P9間の柱間は4.9mを測る。

土坑



第96図　22・29・30号土坑出土土器・石器実測図（1～6は1/4、7～9は1/3．1・2：土22、3～5：土29、6～9：土30）

20号土坑（図版14、第94図）

２区東辺中央部で検出した土坑で、平面プランは隅丸長方形を呈する。土坑の中央部には南北方向に河原石を並べるが特に面をなさない。規模は2.45m×1.3m、深さ0.15mを測る。底面はフラットである。

22号土坑（図版14、第95図）

２区西辺中央部で検出した土坑で、平面プランは隅丸長方形を呈する。規模は1.55m×1.15m、深さ0.25mを測る。床面はフラットである。土坑の南東隅部で、床面から浮いた状態で２個体分の土器が出土した。また、土器よりも上位で５～７㎝の厚さの粘土塊を検出した。

出土遺物

土器（図版53、第96図）

甕（１・２）１は頸部が締まる浅い甕。調整は内外面ともハケ。外面に煤が付着する。壺とすべきか。２は長胴・丸底の甕。口縁部は強く外反する。調整は外面がタタキのちハケ、底部付近はケズリ。内面はハケ。

29号土坑（図版15、第95図）

２区北半部、１号大溝と10号溝に挟まれる部分で検出した。平面プランは楕円形で、規模は1.2m×1.0m、深さ0.2mを測る。床面は中央付近がやや深くなる。遺物は床面から若干浮いた状態で出土した。

出土遺物

土器（図版53、第96図）

甕（３）頸部が締まり、口縁部が強く外反するもの。口縁端部は丸く収める。調整は内外面ともハケ。

鉢（４・５）４は脚付鉢あるいは椀と思われる。外面調整は摩滅が著しく不明だが、内面には工具のアタリが残る。５は平底のはち。調整は内外面ともハケ。外面に黒斑が残る。

30号土坑（図版15、第95図）

２区北端部、１号大溝の西肩部分で検出した。平面プランは不整円形で、規模は1.35m×1.25m、深さ0.5mを測る。底面はフラットである。埋土の中位で石庖丁と炭化物が出土した。貯蔵坑と考えられる。

出土遺物

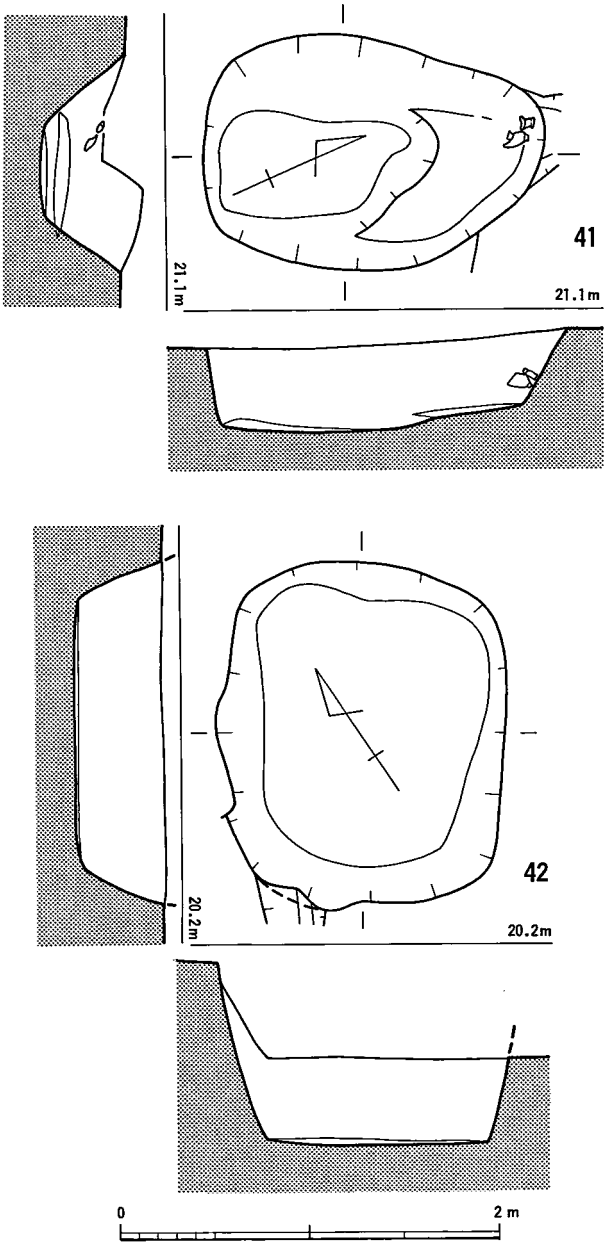
土器（図版53、第96図）

甕（６）平底。調整は外面がハケ、内面がケズリ。

石器（図版53、第96図）

石庖丁（７・８）７は完形。長さ13.2cm、幅3.6cm、最大厚0.8cm。８の最大厚は0.5cm。ともに輝緑凝灰岩製。

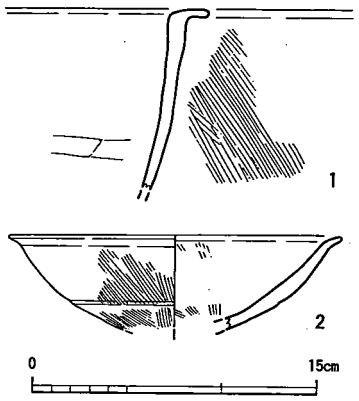
磨石（９）全面が使用により平滑になる。長径11.4cm、短径7.8cm、最大厚4.3cm。



第97図　41・42号土坑実測図（1/40）

37号土坑（第95図）

３-１区東辺中央部、９号住居に切られる土坑である。東側は段落ちによって削られている。2.55m×2.25mが残存し、深さは0.5mを測る。平面プランは円形と考えられる。底面は中央部に向かって緩く傾斜する。



第98図　41号土坑出土土器実測図（1/4）

41号土坑（第97図）

3－1区南東部、16号住居の北側で検出し、これを切る土坑である。平面プランは卵形に近く、北側に低いテラスをもつ。規模は1.8m×1.25m、深さ0.45mを測る。遺物はテラスの北端部より出土した。

出土遺物

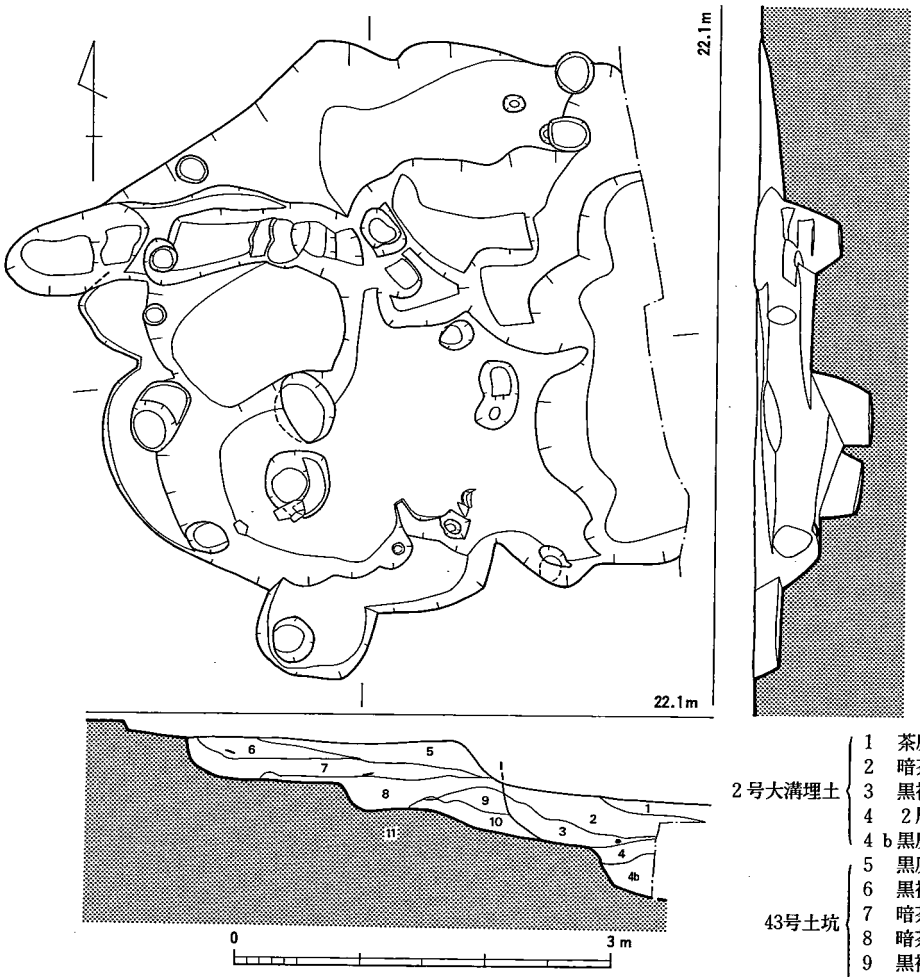
土器（図版53、第98図）

甕（1）口縁部が逆L字形になるものである。端部は丸く収める。調整は外面がハケ、内面がナデ。

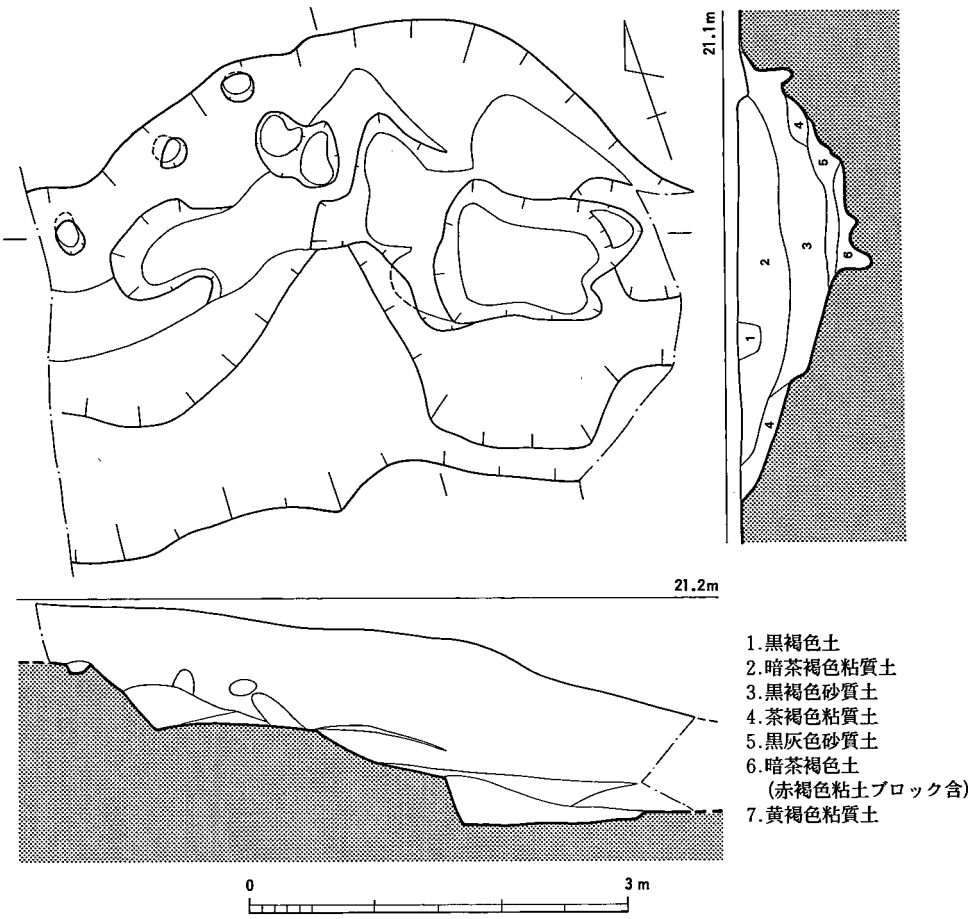
高坏（2）杯部は丸味をもち、外面の杯部下位に沈線を廻す。口縁部は外反する。調整は外面がハケ、内面はナデ。

42号土坑（第97図）

3－1区東辺部中央、8号住居跡の下層で検出した。平面プランは円形に近い隅丸方形を呈する。規模は1.8×1.55m、深さ1.0mを測る。床面はフラットである。出土遺物は小片のため図示し得ない



第99図　43号土坑実測図（1/60）



第100図　44号土坑実測図（1/60）

が、弥生土器が若干出土している。

43号土坑（図版16、第99図）

3-1区北半部、2号大溝の西岸で検出した。東半は2号大溝に切られている。平面プランは不整形で、底面も凹凸が著しい。規模は残存部で5.1m×5.45m、深さ0.95mを測る。遺物は上層の黒褐色土（6層）・暗茶褐色土（7層）中に最も多く含まれる。8層以下を下層として取り上げた。

出土遺物

土器（図版54、第102図）

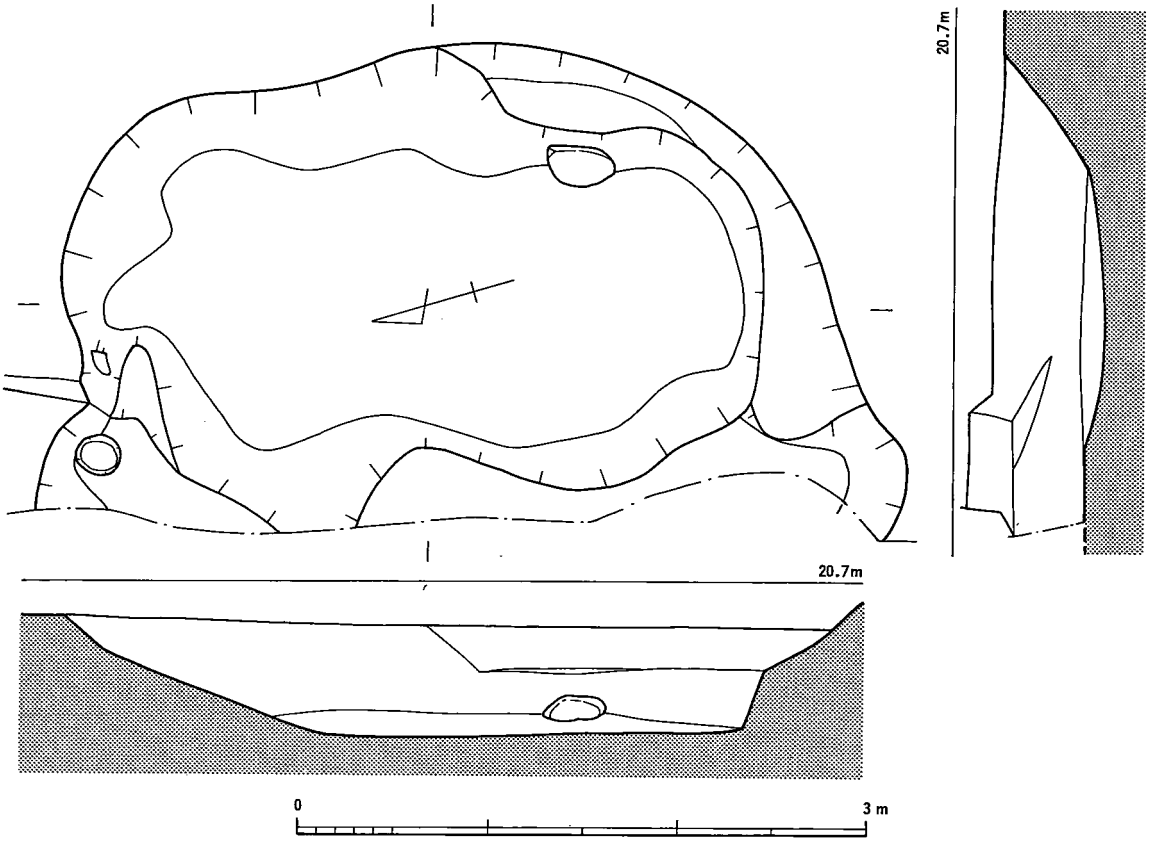
甕（1・2）1は頸部が締まり口縁部が外反するもの。調整は内外面ともナデ調整。2は頸部付近の小片。調整は外面がタタキのちハケ、内面がケズリ。口縁部内面はハケのちナデ。

高杯（3）杯部の破片で、杯底部から屈曲して体部に至るもの。口縁部はやや外反する。調整は摩滅が著しく不明。

鉢（4）丸底の小形の鉢で、外反する口縁が付くもの。端部は尖り気味に仕上げる。調整は口縁部内面と体部外面がハケ、内面は工具によるタテ方向の擦過。

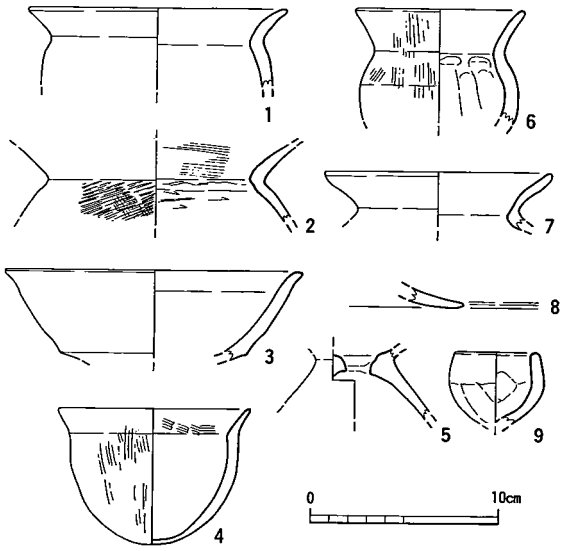
器台（5）脚部上半の破片。穿孔が施される。調整はナデ。

44号土坑（図版16、第100図）



第101図　45号土坑実測図（1/40）

3－1区北東隅部で検出した。西側は2号大溝に切られている。平面プランは楕円形に近い不整円形で、底面は凹凸が著しい。規模は4.0m×5.0m以上で、最も深い所で深さ1.5mを測る。埋土は上層が暗茶褐色粘質土、中層が黒褐色砂質土、下層が黒灰色砂質土ないしは暗茶褐色土。出土遺物としては弥生土器があるが、小片のため図示し得ない。



第102図　43・45号土坑出土土器実測図（1/4）

45号土壙（図版16、第101図）

3－1区南半部、2号大溝の東で検出した。16号住居跡と重複しこれを切っている。また、西側の大半は2号大溝によって削平されるが、平面プランは略円形となろうか。長さ4.4m、深さ0.6mを測る。西側にテラスを有する。底面はほぼフラットである。

出土遺物

土器（図版54、第102図）

甕（6・7）6は小形の甕で底部を欠く。調整は外面がハケ、内面がナデで、指頭圧痕が残る。7は口縁部で、端部付近はやや内湾気味。

高杯（8）脚部の小片。調整は外面がハケ、裾部はヨコナデ。

椀（9）手づくねの椀。内外面に指頭圧痕が残る。

その他の遺構・層位出土遺物

土器（図版54～58、第103・104図）

壺（1～8）1・2はともに袋状口縁壺。2は口縁部を欠く。調整は内外面ともにハケ。1は2号落込状遺構西側上層出土。明黄褐色を呈する。2は落込状遺構1南側下層出土。茶褐色を呈する。3は球形の体部に外反する口縁をもつ壺で、口縁端部は面をなす。口縁部と体部の境には断面三角形の突帯を付す。口縁部の調整はハケ。胴部は外面がハケ、内面はハケのちナデ。内面に粘土帯の接合痕跡が残る。明黄褐色を呈する。1号大溝下層出土。4・5は二重口縁壺。4は口縁の屈曲部に突帯状の稜をもつ。調整は内外面ともハケ。1号落込状遺構南側下層出土。5は口縁部が直立する。調整はナデ。1号大溝黒褐色土上層。4・5ともに明黄褐色を呈する。6は長頸壺。扁球形の体部に斜め上方に開く口縁をもつ。調整は口縁部外面がハケのちミガキを施す。体部内外面と口縁部内面はミガキ調整。底部はナデ。底部外面に黒斑あり。明黄茶色を呈する。ピット出土。7は小形丸底壺。外面の調整は風化が著しく明らかではないが、底部はハケを施す。内面はナデ調整で、粘土帯の接合痕跡が残る。明黄褐色を呈する。2号落込状遺構出土。8は脚付椀ないしは鉢の下半か。ハの字に開く高台が付く。調整は外面がハケ、内面がナデ。明黄褐色を呈する。2号落込状遺構出土。

甕（9～26）9～11は底部。9・10は上底気味になる。9・10の調整は外面がハケ、内面と底部外面はナデ。11は外面がハケ、内面が工具によるナデ、底部外面はナデ。底部に黒斑が残る。9は3号落込西側暗茶褐色土下層、10は2号落込状遺構東側下層、11は1号大溝上層より出土。9～11は黄褐色を呈する。12は甕の破片で、口縁部が内側に長く延びる。口縁部の下には断面三角形の突帯を貼付する。外面に丹を塗布する。1号落込状遺構暗茶褐色土層出土。13の胴部はあまり張らず、緩く外反して口縁部に至る。調整は外面がタテ方向の擦過、内面がハケのちナデ。黄茶色を呈する。1号落込状遺構出土。14・15・19はく字形口縁となるもので、口縁部は強く外反する。調整は内外面ともハケで、15の内面には指頭圧痕が残る。14は黄茶色を呈し、1号落込状遺構から出土。15は暗茶褐色を呈し、2号落込状遺構西側下層より出土した。16は如意形口縁となるもの。調整は外面は摩滅が著しく不明である。内面はナデで、指頭圧痕が残る。橙褐色を呈する。2号大溝黒褐色土上層出土。19は黄茶色を呈し、表土より出土。17は外傾する体部に屈曲して開く口縁部が付くもの。調整は外面がハケのちナデ、内面はナデ。黄褐色を呈する。1号大溝黒褐色土下層より出土。18は大形甕の胴部破片。断面M字形の突帯を貼付する。突帯には格子状の刻みを入れる。調整は内外面ともハケ。淡橙褐色を呈する。1号落込状遺構東側下層出土。20は小形の甕。調整は外面が縦位の細かい擦過のちミガキ、内面はケズリ。外面には黒斑が残る。ほぼ完形品。茶褐色～黄褐色を呈する。21～23は球形の体部に外反する口縁をもつもの。口縁端部はいずれも丸く収める。外面調整は21がハケ、22がタタキのち工具による擦過、23がナデ。内面調整はケズリ。21は外面に煤が付着する。21・23が茶褐色、22が褐色を呈する。21は1号落込状遺構中層、22は10号溝、23は2号落込状遺構2層より出土。24は二重口縁が退化したものか。体部は下半が膨らむ。調整は外面がハケ、内面は胴部上位がナデで指頭圧痕が残る。以下はケズリ。明黄褐色を呈する。2号落込状遺構西側上

層より出土。25は甕の底部。上底。調整は外面がケズリのちミガキ、内面はナデ。暗茶褐色土層出土。明黄褐色～黄褐色を呈する。26は頸が締まりやや外反する直立気味の口縁がつくもの。調整は内外面ともナデ。内面には粘土帯の接合痕が残る。明黄褐色を呈する。1号落込状遺構南側下層より出土した。

高杯（27～31）27・28は鋤先状口縁となるもの。27は内外面に丹を塗布する。28は摩滅が著しく調整は不明。28の外面には指頭圧痕が残る。橙褐色を呈する。ともに1号落込状遺構暗茶褐色土から出土した。29は丸味をもった浅い杯部から屈曲して斜め上方に開くもの。調整は内外面ともミガキ。外面に黒斑が残る。黄茶色を呈する。1号落込状遺構暗茶褐色土上層より出土。30は脚部の破片。裾部は跳ね上げ気味に開く。調整は外面がナデ、内面はケズリ。暗黄褐色を呈する。1号落込状遺構茶褐色土より出土。31は高杯の脚部。調整は外面ハケ、内面ナデ。暗褐色を呈する。2号大溝から出土。

器台（32～35）32は口縁部の、33は脚部の破片。調整は外面がハケ、内面はナデ。32は1号落込状遺構、33は2号落込状遺構西側上層より出土。34・35は脚部。34は3方向に、34は2方向に穿孔される。調整は外面がミガキ、内面はハケのちナデ。32・33・35は明黄褐色を、34は黄褐色を呈する。34は東側段落ち、35は包含層より出土。

鉢（36～38）36の形態は底部から丸味をもって立ち上がり、口縁部は屈曲して開く。黄褐色を呈する。37も同様の形態であるが、口縁部は屈曲せずに緩く外反し、端部は肥厚する。調整は外面がハケ、内面はナデで、指頭圧痕が残る。ともに2号落込状遺構より出土。38は底部から内椀気味に開いて、外反する口縁に至る。調整は摩滅が著しく不明。黄茶色を呈する。ピットより出土。

椀（39・40）39は調整は外面が細かいハケ、内面は上半が細かいハケで下半は工具によるナデ。橙褐色を呈する。暗茶褐色土層より出土。40は体部が内湾する深めの椀。調整は外面がナデ、内面はハケのちナデ。黄茶色を呈する。1号落込状遺構南側下層より出土。

手ずくね土器（41～43）41はミニチュアの甕。底部は尖り気味の丸底で、内外面には指頭圧痕が残る。外面に黒斑が残る。明黄茶色を呈する。40号土坑より出土。42は小形の鉢。丸底の鉢で、口縁部は肥厚する。丸底。調整は外面がナデで、内面には指頭圧痕が残る。明黄褐色を呈する。1号落込状遺構西側上層より出土。43は深めの椀で、内外面に指頭圧痕が残る。淡茶褐色を呈する。1号落込状遺構北東側上層より出土。

須恵器蓋（44）天井部と体部の境に沈線を巡らせる。調整は天井部が内外面ともナデ、他はヨコナデ。明灰色を呈する。2号大溝より出土。

須恵器壺（45）短頸壺の上半部の破片。口縁部はやや外傾し、端部は丸く収める。外面調整は口縁部がヨコナデ、肩部はカキ目ののち、ヘラ状工具による文様を2段に施す。胴部下位は平行タタキ。内面調整はヨコナデで、胴部下位はナデ。灰色を呈する。2号大溝黒褐色土上層より出土。

須恵器甕（46）暗灰色を呈する。43号土坑上層より出土。

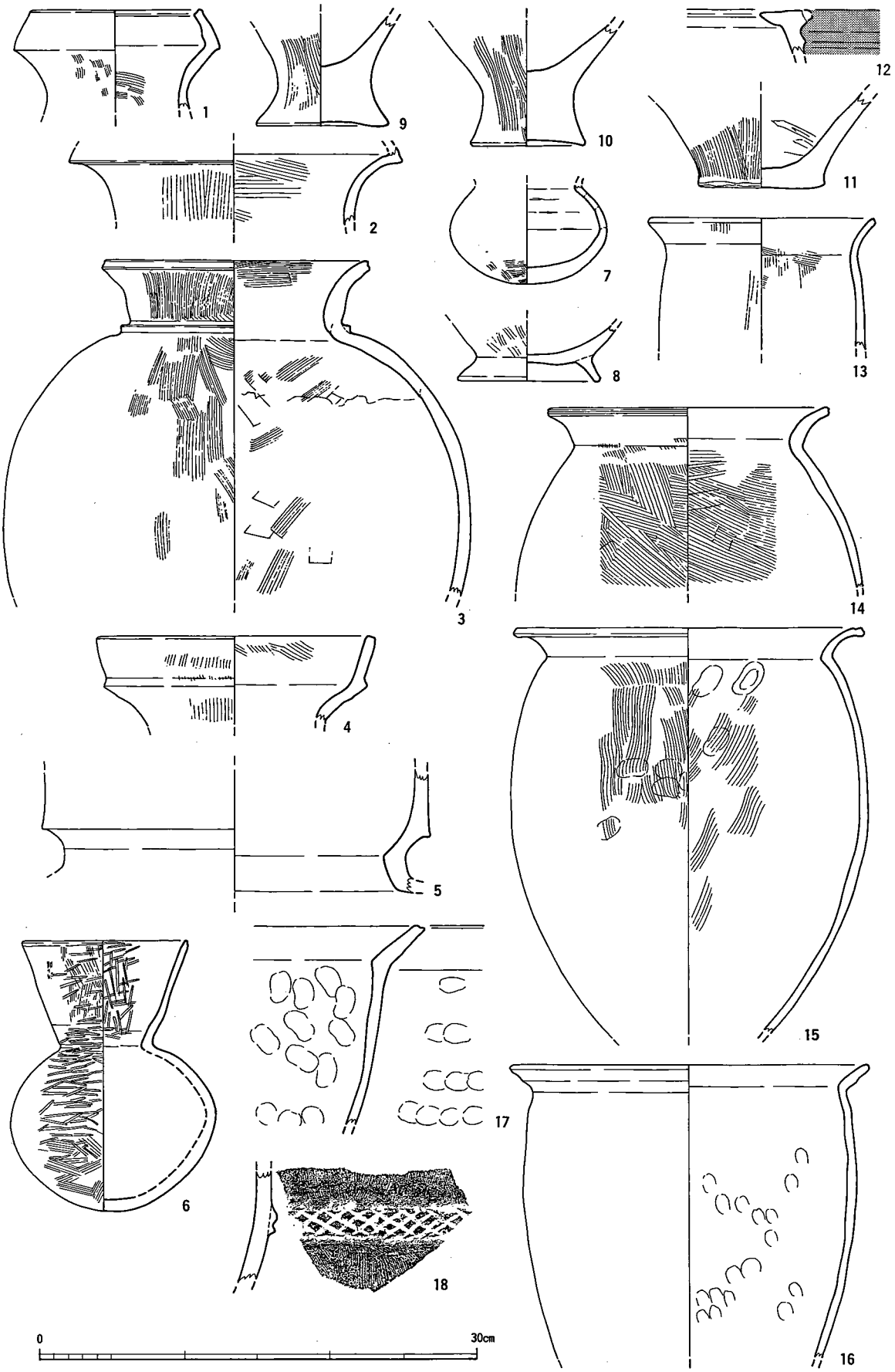
須恵器高杯（47）短脚の高杯の脚部。灰色を呈する。ピットより出土。

石器（図版58、第104図）

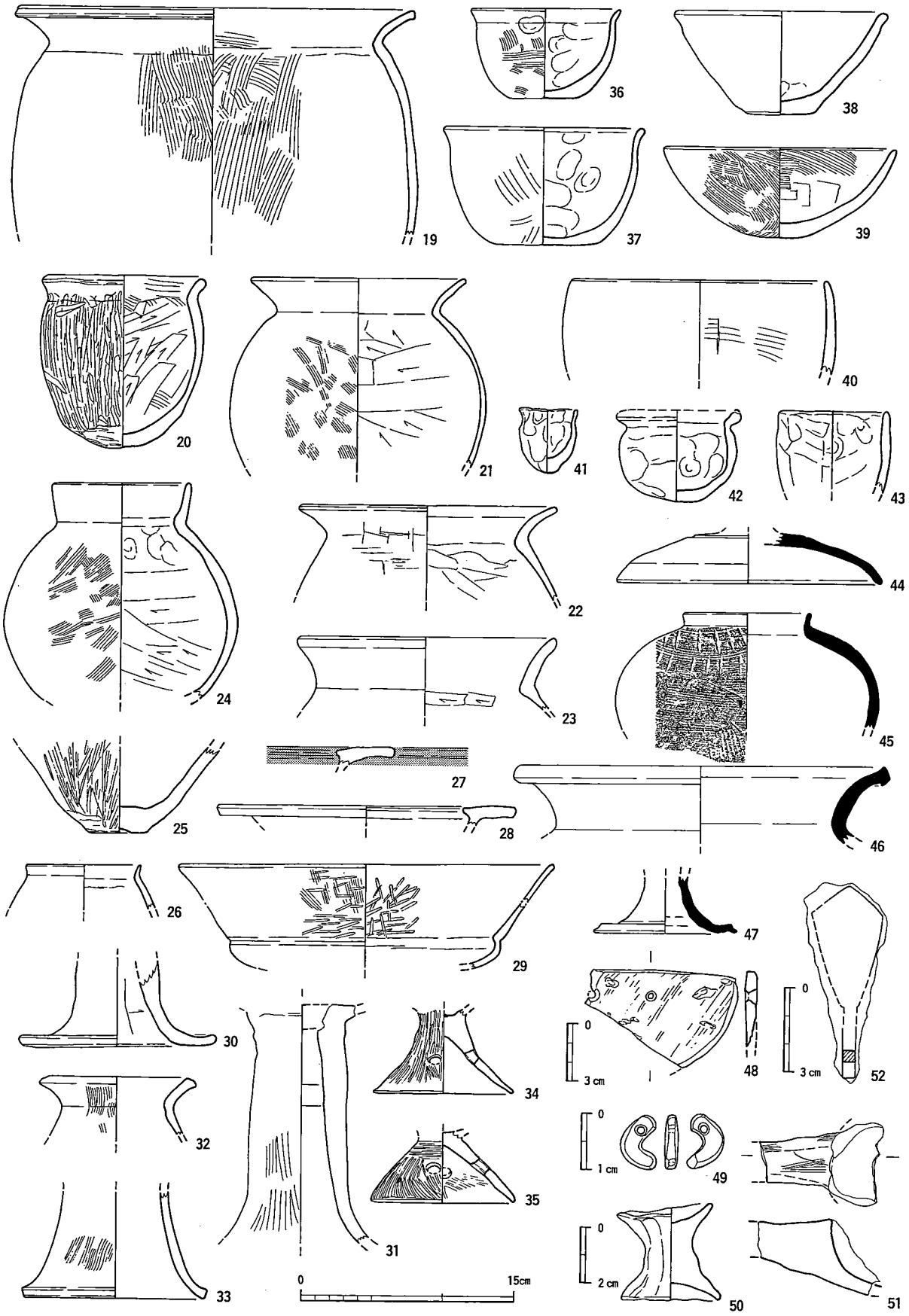
石包丁（48）残存長7.9cm、残存幅5.1cm、厚さ0.6cm。輝緑凝灰岩製。

石製品（図版58、第104図）

勾玉（49）扁平に仕上げるが、背部中央に厚みをもつ。頭部には径0.2cmほどの孔を穿つ。長さ



第103図　その他の遺構・層位出土遺物実測図１（1/4）



第104図　その他の遺構・層位出土遺物実測図２（19～47は1/4、48・51は1/3、49は1/1、50・52は1/2）

0.9cm、最大幅0.6cm、最大厚0.25cm。ヒスイ製。ピットより出土。

管玉（a・b）aは長さ2.0cm、径0.6cm。中央部に0.2cmの孔を穿つ。ヒスイ製。ピットより出土。bは管玉あるいは切子玉の未製品と考えられ、形状は六角柱状を呈する。長さ1.8cm、径1.8cm。2号大溝より出土。

土製品（図版58、第104図）

高杯（50）手ずくね。天地は定かではない。口径3.3cm、脚径3.4cm、器高3.3cm。ピットより出土。同形のものが2号落込状遺構より5点出土している。

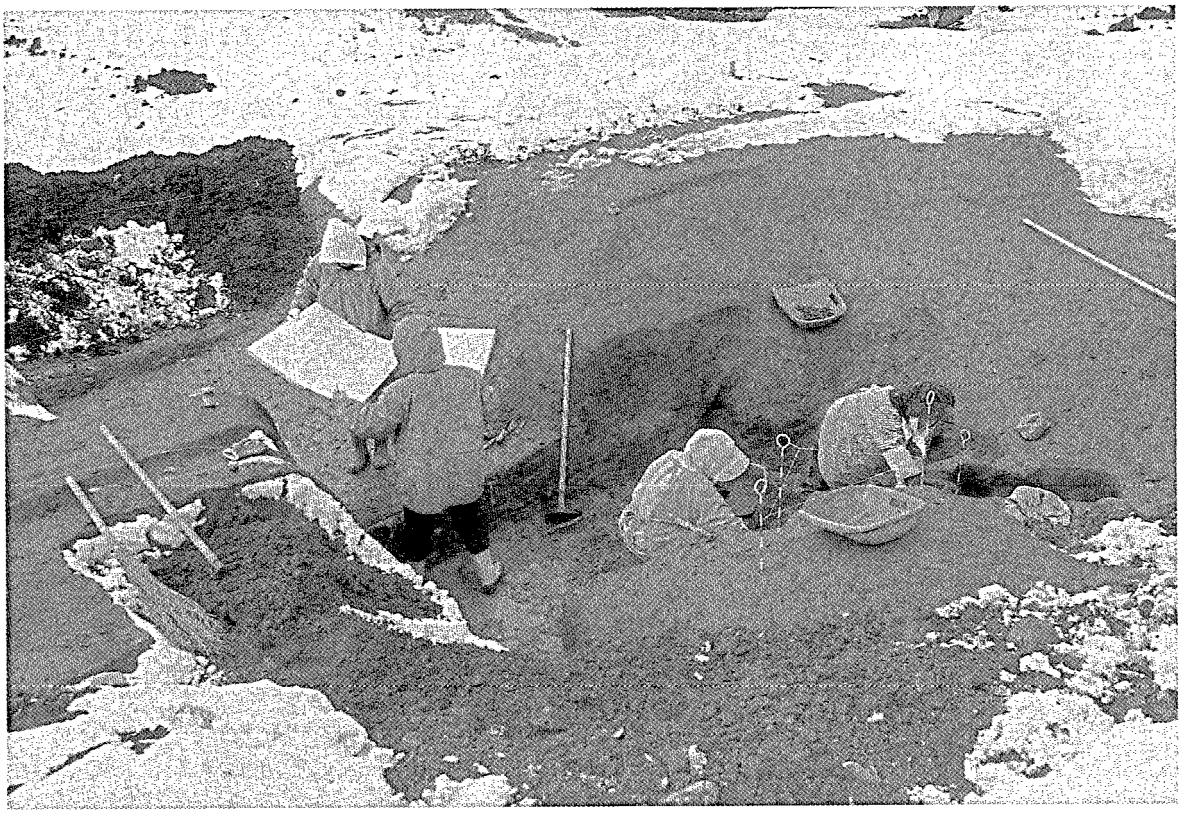
杓子形土製品（51）椀部・柄部ともに欠損している。調整は柄部から椀部外面がハケ、内面はナデ。黒褐色土層から出土。

青銅器

鏡（図版58-c）2区東南部のピットから出土した鏡片で長さ2.5cmほどの小破片。厚さは0.1cmを測る。片面は錆化が著しいが、もう一方の面は残りが良く黒光りしている。銅質は良いようで、舶載鏡である可能性が高い。

鉄器（図版58、第104図）

鉄鏃（52）錆化が著しく、関部の形状は不明である。遺構検出面より出土。長さ6.8cm、最大幅約2.4cm、厚さ0.4cmを測る。



冬景色の中の発掘調査

第4章　総　括

1．縄文時代の上唐原了清遺跡

遺構　上唐原了清遺跡で検出した縄文時代の遺構は、落込状遺構３基と土坑２基である。これらの遺構はすべて第３次調査２区北半部に集中する。第１・２次調査区においても若干の遺物が出土しているが遺構に伴うものではない。今回の報告で落込状遺構とした不整形の大形土坑の性格については、その在り方から見ると人為的に掘削された土坑というよりも、むしろ流水によって抉られた溜まり状の落込に更なる流水によって遺物が埋没したものと考えられる。なお、落込状遺構の上層からは弥生～古墳時代の遺物が出土しているため、その時期までは浅い窪み状になっていた状況が窺い知れる。また、落込状遺構の検出面は弥生時代の遺構面と同一であるが、それにもかかわらず当該期の住居跡等が存在しないことをみると、発掘区内にはもともと住居跡は無く、調査区外のしかも極めて近い山側の部分に集落が位置していた可能性もある。若干時期が遡るが、上唐原了清遺跡の対岸の大分県下毛郡三光村佐知遺跡[(1)]では山国川河岸近くに後期の集落が営まれるものの、やや下流に下った大分県下毛郡三光村佐知久保畑遺跡やその左岸の上唐原遺跡[(2)]では、河岸からやや距離をおいた自然堤防上でやはり後期の住居跡が確認されている。

土器　今回の調査ではパンケースにぎっしり50箱分程の土器が出土したが、報告ではそのうちの567点について記載している。まず１号落込状遺構は北久根山式の深鉢が１点あるが、全体量としては広田Ⅱ～Ⅲ式期から晩期にかけての資料が目立つ。２号落込状遺構では浅鉢に鳥井原式が若干含まれるが、広田Ⅱ式～広田Ⅳ式期にかけての資料が大半を占める。一方、深鉢をみると北久根山式が２点含まれ、太郎迫式・三万田式・広田Ⅱ～Ⅳ式期も相当量出土しているが、鳥井原式の割合が最も高く、刻目突帯を有するものもわずかながら出土している。さらに３号落込状遺構出土の浅鉢では三万田式・広田Ⅱ～Ⅳ式期が多数を占め、それに鳥井原式が僅かに出土している。深鉢では小池原上層式が１点と鐘崎式～北久根山式が数点出土しているものの、土器の大半は太郎迫式～鳥井原式に属し、晩期の資料は極めて少なく、相対的には２号落込状遺構よりも古相を示す。

なお、参考までに落込状遺構から出土した土器（浅鉢・深鉢のうち時期が特定できるもの）の全体量に占める各時期別の割合を示しておくと、小池原上層式～北久根山式４％、太郎迫式21％、三万田式23％、鳥井原式28％、広田Ⅱ～Ⅲ式11％、晩期13％となる。

以上、出土土器については、各遺構ごとに土器型式の占める割合に若干の相違が認められる。また、同一遺構出土土器についてもかなりの時期幅がある。しかしながら、２号落込状遺構と３号落込状遺構から出土した同一個体と考えられる石棒状石製品の存在及び、各遺構の層位ごとの土器の出土傾向に規則だった時期差が見られないことなどを考慮すると、１号落込状遺構も含めて同一時期（晩期）に埋没したものと考えるのが妥当であろう。

石器　上唐原了清遺跡からは多数の石器が出土した。その内訳は打製石鏃101点・尖頭器１点・打製石斧207点・磨石48点・凹石７点・敲石１点・石皿１点・鎌形石器２点・打欠石錘80点・磨製石斧24点・打製石錐８点・スクレイパー及び二次加工剥片46点・砥石４点・台石１点・異形石器３点・円板形石器14点・十字形石器１点、石核２点、その他２点となる。総計では553点を数え、その量から近隣に大規模集落が存在したことは疑いない。

まず、これらの石器の使用石材について見てみると、打製石鏃・スクレイパー・異形石器・石核では総数161点のうち、黒曜石が80%（姫島産74%・腰岳産６%）、安山岩が19%、チャートが１%を占める。盛期を鐘崎～西平式に置く豊前市中村石丸遺跡[3]では、総数228点のうち黒曜石85.5%（姫島産77.6%・腰岳産7.9%）・安山岩14.5%という数値が得られており、当遺跡とほぼ同様の出土傾向を示している。出土石器の約４割を占める打製石斧は総数207点中、片岩系が最も多く43%、安山岩が41%、頁岩が16%で、その他輝緑岩製が１点ある。大平村上唐原遺跡や佐知遺跡では安山岩が半数以上を占め、次いで片岩系の石材が多い。これらの遺跡は山国川流域に近接しているが、他の豊前地域の中村石丸遺跡・豊前市石町遺跡[4]・築上郡椎田町山崎遺跡[5]・築上郡築城町松丸Ｄ遺跡[6]・北九州市下吉田遺跡[7]では出土品のほとんどが片岩系の石材を用いており使用石材に差異が認められる。一方、磨製石斧は24点出土しているが、蛇紋岩が最も多く79%、片岩系が13%、頁岩が８%を占める。

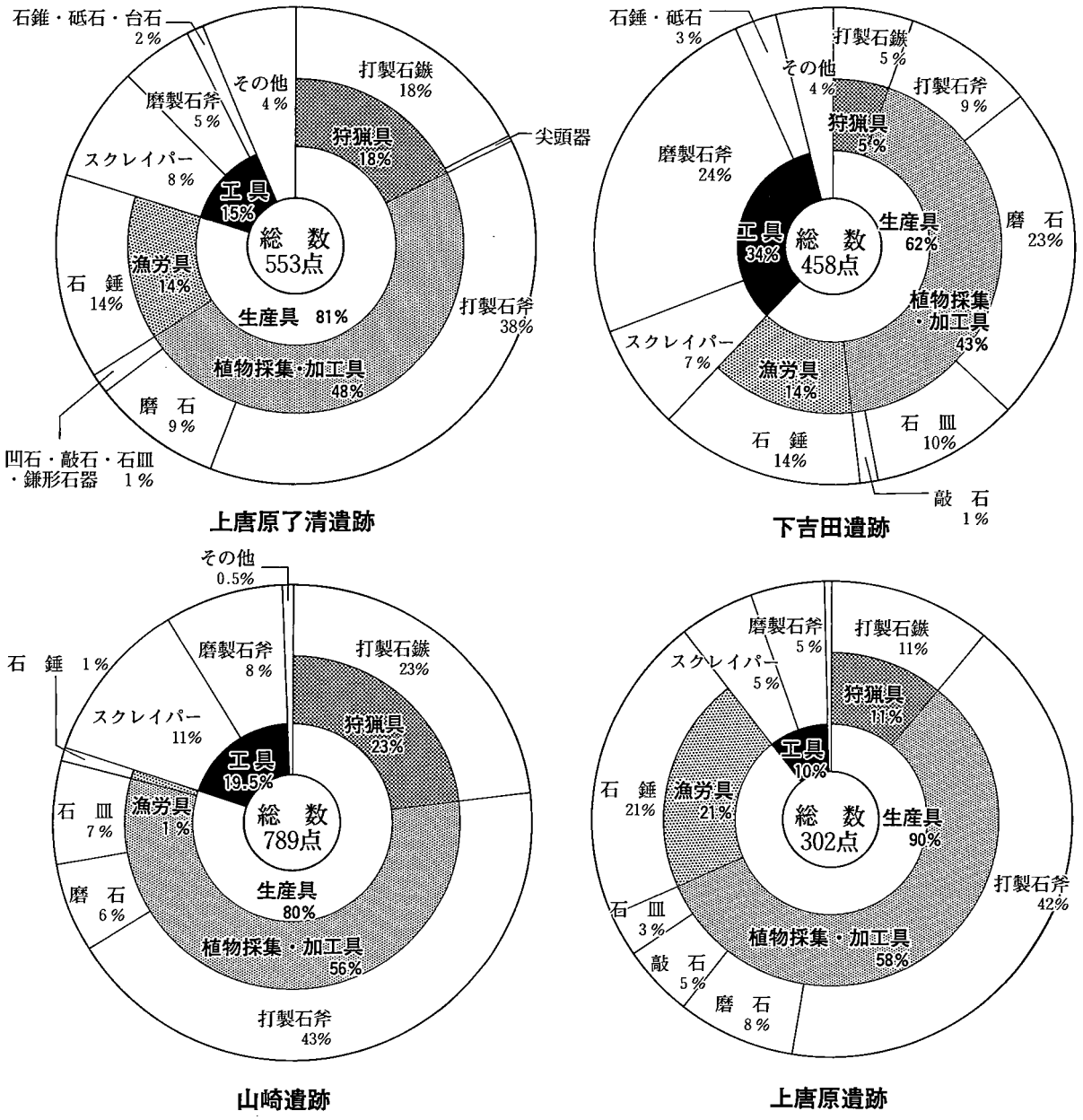
207点出土した打製石斧の大半は素材面を残しているが、そのほとんどが横剥素材を使用しているため、この時期に大量生産に係る素材獲得の技法がすでに確立していたことを示しているものと考えられる。それは、遺跡から出土する打製石斧が極めて多量であることが傍証している。

次に石器の組成について触れてみたい。土器の項でも述べたように上唐原了清遺跡から出土した遺物は時期幅をもっており、また、出土状況からも個々の時期特定はなし得ない状況にある。しかしながらこれだけ多量の石器が出土している以上、その傾向だけでも把握する必要があろう。したがって、ここでは出土したすべての石器について総括的な数量化を行なうこととする。

第１表は上唐原了清遺跡出土石器の組成を表にしたものである。ここでは生産具が全体の８割を占めるのに対し、工具は15%に過ぎない。本来、その大部分が集落内で生産・消費されるであろうスクレイパーの比率が低いことの要因には、肉眼で確認できない剥片の類が石器としてピックアップされ難い状況も想定できるため、実際には数値よりもやや多めに捉えた方がより実数に近いであろう。しかしながら、一方において、打製石鏃・石錘等の主な消費地が集落外であることを考慮するならば、これらの器種の出土割合についての較差は縮まるものと考えられる。なお、スクレイパーについては狩猟・植物採集・漁労のいずれに伴うものか判断できず、ここでは、一括して工具に含めている。このような解釈の上で、まず、出土石器のうちの生産具を見てみると、狩猟具では打製石鏃が18%、植物採集具である打製石斧が38%、磨石が９%、凹石・敲石が１%、漁労具では石錘が14%を占める。工具ではスクレイパーが８%、磨製石斧が５%となる。ここでは食用根茎類採取のための土掘具とされる打製石斧が打製石鏃の２倍以上の数値を示しており、加工具である磨石を含めると植物採集・加工具の割合がさらに高くなることがわかる。また、打製石鏃と石錘の占める比率は同一である。以上のように石器組成から見た上唐原了清遺跡の生業は、狩猟・漁労・植物採集の三者によるものの、特に植物採集活動が中心であったと考えられ[8]、これは遺跡の立地から見ても至極当然の結果といえよう。

ところで、上唐原了清遺跡周辺における状況は如何なものであったのだろうか。次に、当遺跡と相前後する時期の幾つかの遺跡の石器の出土状況について概観し、当遺跡の位置付けについて資することにする。

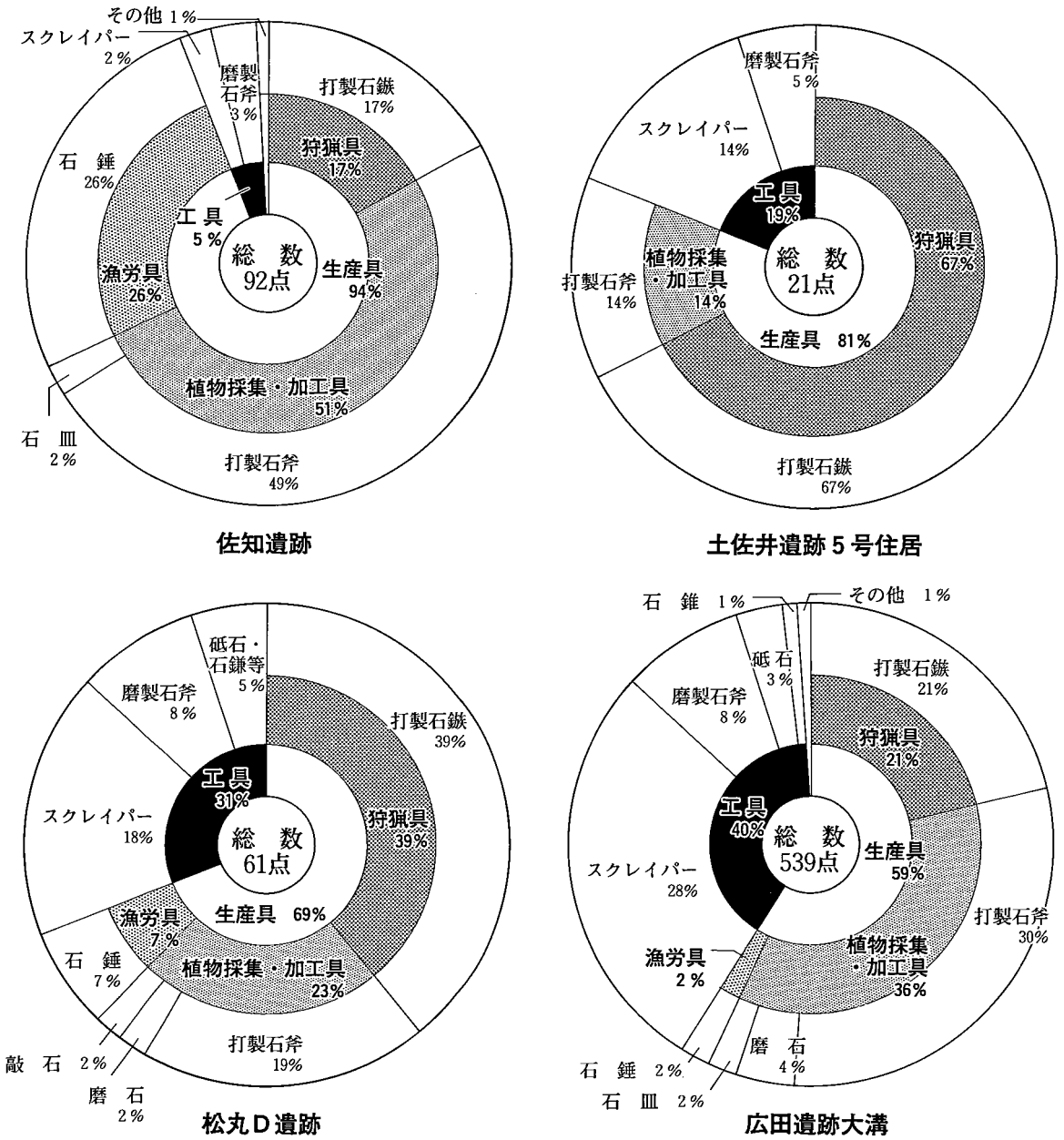
下吉田遺跡（盛期；鐘崎～北久根山式、標高８m）では、生産具が62%、工具が34%と上唐原了清遺跡に比べると後者の占める割合が高い。この要因は磨製石斧が全体の24%という高い数値をと



第1表　石器組成表1

るためである。下吉田遺跡の立地を見ると、周防灘に注ぐ竹馬川の河口付近に位置する一方で、標高200mの山系から派生する丘陵裾部に位置するため、この山系を背景にした生業活動に重きを置いていたと見られる。ただし、打製石鏃が9％と少ないため、狩猟を主としていたとは考えにくい。植物採集・加工具の中では磨石・石皿の占める割合が非常に高いことを考えあわせると、主として丘陵部における植物獲得に依存し、漁労もある程度行なっていたと思われる。

山崎遺跡（盛期；鐘崎～北久根山式、標高21m）における石器組成は上唐原了清遺跡に似るが、石錘の割合が1％と極めて低く、その分、打製石鏃・打製石斧の割合が若干高くなっている。山崎遺跡の立地は、周防灘に向かって八ツ手状に延びる丘陵部先端の裾部分の扇状地である。丘陵と遺跡との間には岩丸川が流れるが、河川規模が小さく、また、流量も少ない。一方、遺跡を挟んだ東側には平野部が広がり、この地における植物採集活動を主に、丘陵部における狩猟活動を従に生業



第2表 石器組成表2

を営んでいたものと思われる。

上唐原遺跡（盛期；鐘崎3式、標高18m）は上唐原丁清遺跡の1.3kmほど下流の自然堤防上に立地する遺跡である。石器組成は上唐原丁清遺跡に似るが打製石鏃が11%と若干低く、その分、石錘が21%と増加している。また、打製石斧の割合が僅かではあるが増加している。これは上唐原丁清遺跡に比べてやや下流に位置し地形もやや開けていることから、植物採集・加工活動や漁労に依存する率が増えていることを示すものであろうか。

佐知遺跡（盛期；鐘崎～西平式、標高25m）は上唐原丁清遺跡から500mほど下った山国川の対岸の自然堤防上に立地する。ここでは狩猟具、植物採集・加工具の割合は上唐原丁清遺跡とほぼ同じであるが、打製石斧の割合が全体の49%とこれまでみた遺跡の中で最も高い数値を示す。また、石錘は上唐原丁清遺跡の14%に対し、26%とかなり高くなっている。遺跡の東側一帯は山国と川の氾

濫源にあたり、砂地における植物採集が可能な面積が広いことが組成の差異に現れている可能性も考えられる。

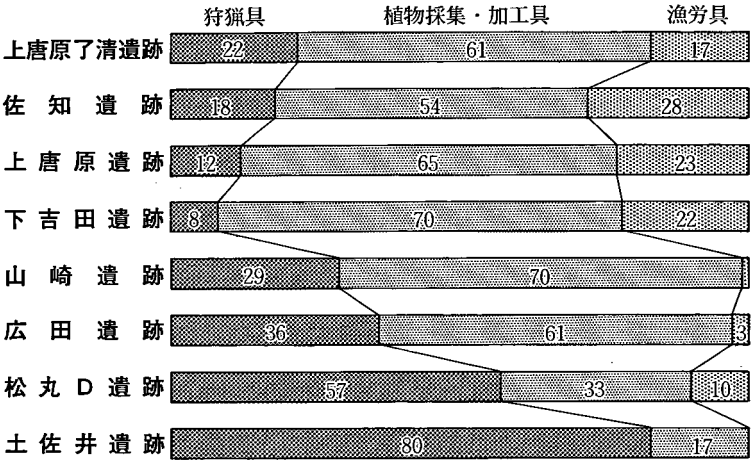
大平村土佐井遺跡[9]からは早期～晩期までの遺物が出土しているが、ここでは太郎迫式期の５号住居跡出土石器について、その出土点数は少ないが参考例としてあげてみる。石器組成は生産具が約８割を占める点では他の遺跡と大差ないが、そのうち狩猟具である打製石鏃が全体の67％を占める一方で植物採集具（打製石斧）が14％に過ぎず、他遺跡とかなり違った様相を呈する。また、狩猟具が大半を占める状況下でのスクレイパーの位置付けも狩猟に伴う可能性が高くなり、そうした中での14％という数値は、これまで述べた他遺跡の出土頻度に比べると、比較的高い割合といえる。この遺跡の立地は、山国川の支流である東友枝川に隣接する台地上に位置する。遺跡の標高も45mとこれまで見てきた遺跡とは異なる山間の集落といえる。東友枝川は川幅も狭く流量も少ないことから、わずかな漁労活動は行なわれたとしても生業の主体は狩猟活動であったと考えられる。また、食用根茎類の土掘具としての打製石斧も、地山が礫層という条件によってその出土頻度が低くなっているものとも考えられよう。ただし、こうした狩猟活動経済主体の集落においても、植物採集や漁猟による生産物の豊富な近隣集落との交易によって、それらの産物の供給・需要があったことは容易に推測できる。

松丸Ｄ遺跡（盛期；西平～三万田式）は立地的には土佐井遺跡に似るが、さらに谷奥の山間部（標高80m）に位置する。この遺跡も土佐井遺跡と同様、他の遺跡に比べて打製石鏃が全体の39％を占める一方で植物採集具が23％（うち打製石斧は19％）に過ぎない。また、スクレイパーも18％とかなり高い比率を示す。石錘は７％を占め、漁労もある程度は行なってはいるものの、狩猟活動を主体にした生業であったことが知れる。

糸島郡二丈町広田遺跡[10]（標高11m）は両側を山系に挟まれた狭小な平野部に位置し、標高が異なるものの地形的には土佐井遺跡に近い。打製石鏃の比率（21％）は山崎遺跡の23％に近いが、打製石斧は30％と下吉田遺跡（9％）・土佐井遺跡（14％）・松丸Ｄ遺跡（19％）に次いで少ない比率である。また、スクレイパーは松丸Ｄ遺跡（18％）、土佐井遺跡（14％）よりもはるかに高い比率で全体の28％を占めている。このようにスクレイパーが他遺跡に比べて高比率ではあるものの、広田遺跡では松丸Ｄ遺跡・土佐井遺跡の２遺跡と、それ以前にあげた遺跡の中間的な生業形態をとるものと思われる。しかしながら、この遺跡は時期的にもやや新しく、また、玄界灘に面するという地域性も勘案しなければ単純な比較はできないため参考程度にあげておくにとどめる。

以上、上唐原了清遺跡周辺の豊前地域を中心とした遺跡の石器組成状況を遺跡立地との関係において概観した。第３表は各遺跡出土の石器のうち、生産具のみを取り上げて、狩猟、植物採集・加工、漁労の生業別割合として並べたものである。立地をほぼ一にする、山国川の自然堤防上に位置する上唐原了清遺跡・佐知遺跡・上唐原遺跡の３遺跡を見ると、まず、狩猟具では上唐原了清遺跡と佐知遺跡が２割前後、やや下流の上唐原遺跡は１割強となる。植物採集・加工具はいずれも６割前後で主体となる食物獲得活動として、また、漁労具では２割～２割５分前後と比較的近似した数値が得られ、生業に大差ないことが知れる。したがって、この地域の生業は狩猟・漁労・植物採集の３者に依るものの、植物採集活動中心の経済であったといえよう。下吉田遺跡は生産具のみを取り上げると先の自然堤防上の遺跡と比較的同じような傾向を示す。しかしながら、磨製石斧と磨石・石皿の割合が異常に高く（磨製石斧については下吉田遺跡が24％、その他の遺跡は３～８％と

安定している。また、磨石が23%、石皿が10%を占めている)、これらの石器の在り方からは山との関わりを考えざるを得ない。ただ、打製石斧が5%とひじょうに低く、狩猟活動に重きを置いていたとは考え難い。下吉田遺跡に類する石器組成の傾向は山崎純男氏のいう画期の一つである晩期中頃の玄界灘周辺遺跡の状況に近いものがある。そこでは「磨製石斧の増加であり、植物質食料の主体的獲得具であった打製石斧の半減である。磨製石斧が直接生産活動の目的に使用されたと想定すれば、最も考えられるのが焼畑農耕である[11]」とし、石器組成からみた生業について焼畑の存在を想定している。下吉田遺跡は河口近隣に位置する一方で、山裾部のなだらかな丘陵部に接しており、立地的には焼畑を行うには問題ない。しかしながら、先の山崎氏の見解は、鐘崎～北久根山式に盛期を迎える下吉田遺跡とは時期的なヒアタスがあり、また、下吉田遺跡において焼畑が行われていたという積極的な根拠も見い出し得ない。したがって、ここでの磨製石斧の比率の高さについては、居住空間の確保のための樹木伐採用具としての可能性も考えておきたい。さらに、磨石・石皿の高い比率については、堅果類の採集による加工作業に伴うものと解釈しておく。



第3表　各遺跡出土生産具の組成

山崎遺跡は丘陵に近い分、狩猟具の割合が約3割と上唐原遺跡に比べると若干高くなっている。また、河川に近接するもののその幅も狭く流量も貧弱であるため、河川での漁労活動に依存する割合が極めて低く、遺跡の東にひらけた平野での植物採集活動がやはり生業の主体で、従として狩猟が営まれている。

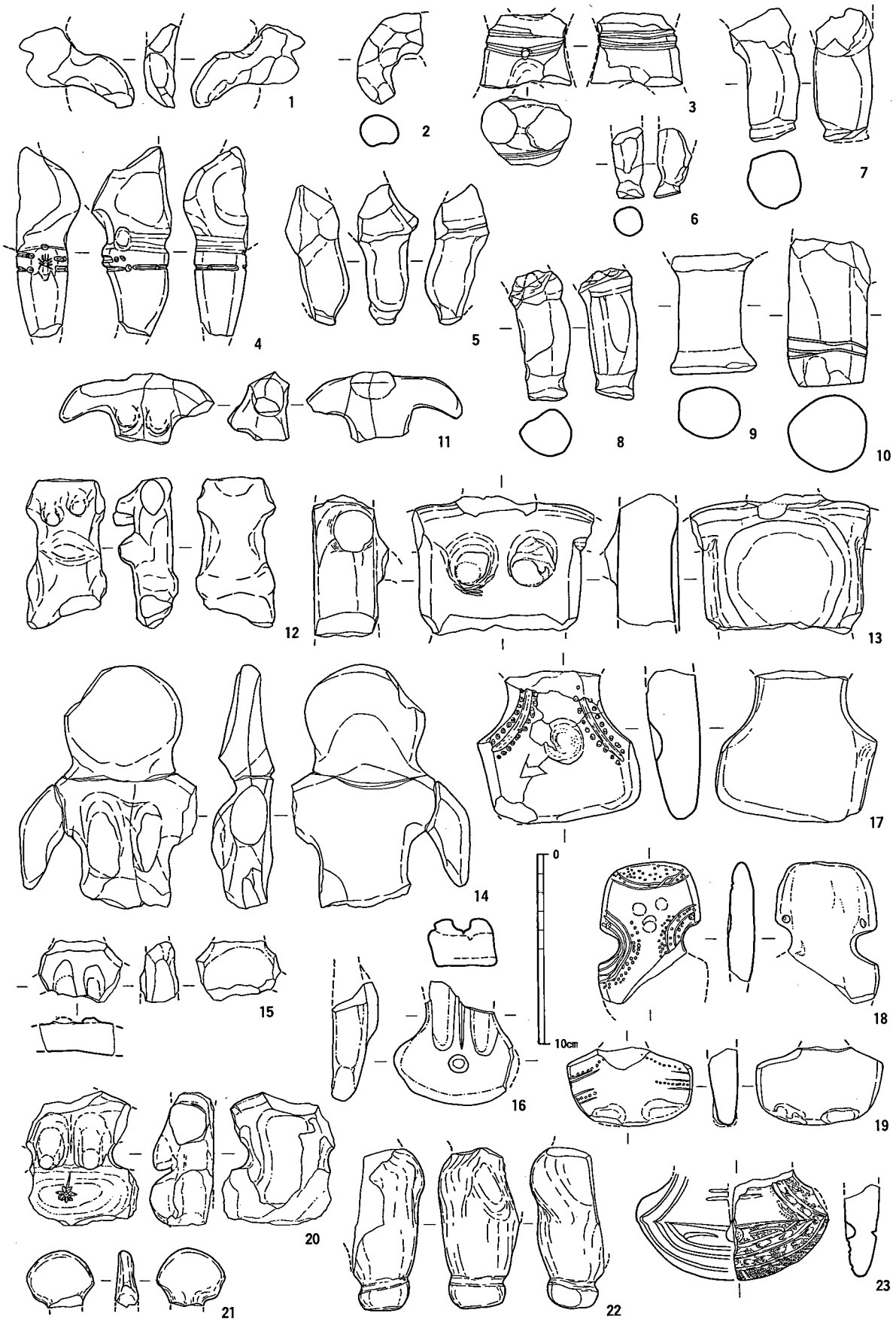
一方、山間に立地する松丸D遺跡・土佐井遺跡における生業の中心は狩猟活動に置かれている。低地の開けた遺跡では植物活動が主であったものがここでは完全に逆転しており、旧来（打製石斧の急増期以前）の生活が営まれていたのであろう。ただ、こうした山間部の遺跡においても、開けた場所がある程度確保でき、拠点的な大規模集落ともなれば、低地のように打製石斧を多用して植物採集活動にもかなりの比重をおいた生業がなされたと想定することが可能である。こうした状況の背景について推察してみると、例えば、先に見た打製石鏃・スクレイパー等の石材組成の中で、黒曜石のうち姫島産の占める割合が高いことは至極当然のことであり、姫島を擁する豊前地域においては姫島産黒曜石のみで石器素材獲得には十分事足りた事が想定できる。しかしながら、その中で腰岳産黒曜石がこれだけ持ち込まれていた事実は、当該期の遠隔地域間交流が盛んであったことを窺い知る材料と言えよう。物の移動は則ち文化交流を示すものであるから、少なくとも情報という面においては地域間の較差を縮めることに繋がったのであろう。こうしたことは、例えば松丸D遺跡や土佐井遺跡のように山間部に立地する一見閉鎖的な地域においても情報伝達は確実に行われていたものと思われ、そうした中で、各集落が多様なノウハウを取捨選択して、各々の集落の実情に即した経済活動を営んでいたものと考えられよう。

なお、これまで述べた石器の組成に関しては、冒頭に記したように各遺跡毎にかなりの時期幅を持っているために、同一時期の資料のみを抽出・比較した、より厳密な検証作業がなされるべきである。また、これらの傾向は単に遺跡立地のみから判断されるべき問題ではなく、集落規模等を考慮に入れた遺跡の類型化と併せて行なう等、様々な視点からの検討が必要である。さらに、上唐原了清遺跡では住居跡が検出されていないため、今後、住居一軒あたりの石器のセット関係を明らかにし、住居間における保有器種あるいは数量の差異や規則性を導き出し、集落内における様相の詳細を探ることが求められよう。

石製品　本文中でも触れたように、いわゆる「桜ヶ丘型石器」の類と考えられる石製品が2号落込状遺構と3号落込状遺構から出土した。これらは同一個体と考えられるものである。この種の石製品については、岡本孝之氏によってまとめられている[12]。この中で、九州における出土例として福岡県二丈町広田遺跡・熊本県旭志村桜ヶ丘馬糞塚遺跡・同県熊本市上南部遺跡・同市立田山周辺採集・鹿児島県末吉町中岳洞穴・宮崎県高千穂町セベット遺跡の6例があげられているが、九州の東海岸沿いの遺跡からの出土品としては本例が初例となる。これらのうち完存するのは桜ヶ丘遺跡例のみである。上唐原了清遺跡から出土した個体には広田遺跡出土品に見られるような線刻は施されておらず、中岳洞穴出土例に最も近い。また、この種の石製品に使用される石材は限られているようで、本例も他例と同様、凝灰岩質の材を用いている。一方、時期については現時点では晩期前半の遺跡からの出土と限られており、石材の特徴とともに斉一性が見られ興味深い。未だ出土例が限られているため、今後の類例の増加に期待したい。

土製品　上唐原了清遺跡では1号落込状遺構から2点、2号落込状遺構から2（1？）点、3号落込状遺構から6点の計10点の土偶が出土している。九州における土偶の出土例は1992年段階で56遺跡240例以上を数える[13]が、熊本県の肥後台地一帯からの出土数が大半を占めており、中でも上南部遺跡では108個という夥しい数の土偶が出土している。豊前地域においては、現在、10遺跡から48点以上の土偶が出土しているが、分布の中心はここ上唐原了清遺跡が存在する山国川周辺地域であり、先の肥後台地の出土数には到底及ばないものの土偶の密集地帯の一つにあげられよう。第105図（1～10；上唐原了清遺跡、11・12；高畑遺跡、13；石町遺跡、14；石原貝塚、15・16；土佐井遺跡、17～19；原井三ツ江遺跡、20；山崎遺跡、21～23；佐知遺跡）に掲げた以外では、後期の住居跡36軒が検出された大平村東友枝曽根遺跡で25点以上の出土例がある[14]。また、上唐原了清遺跡の下流に位置する上唐原遺跡からも、土偶の腕の可能性が高い土製品が出土している。

九州から出土する土偶は無文で粗雑なものが大半を占め、総括的にはこれが地域的な特徴とされている。しかし、中には山崎遺跡出土例（20）のようにひじょうにグラマーなものも見受けられる。本遺跡より出土したものは1・2のように粗雑な作りのものも存在するものの、5～10のように足部を表現したものや、3・4のように施文を行ないかなり立体的に作られたものなど、その作りはバリエーションに富んでいる。特に4については写実的であり、調整も極めて丁寧である。これに類する形状をなすものとしては佐知遺跡出土例（22）があげられるが、こちらの方はかなり粗雑な作りである。また、3は腰部に二条の沈線を巡らせ、臍は縦形で美形である。了清遺跡出土土偶の帰属する時期については、共伴遺物からは特定できないが、5～10の類例としては、熊本県熊本市上南部遺跡出土品に類例を多く見ることができる。これらの土偶の時期は鳥井原式～晩期前半代に比定されており、当遺跡の出土品もこの時期に帰属する可能性が高い。一方、施文のある3や4に



第105図　豊前地域出土土偶実測図（1/3）

ついては、三万田式頃に位置づけられるものと考えられる。

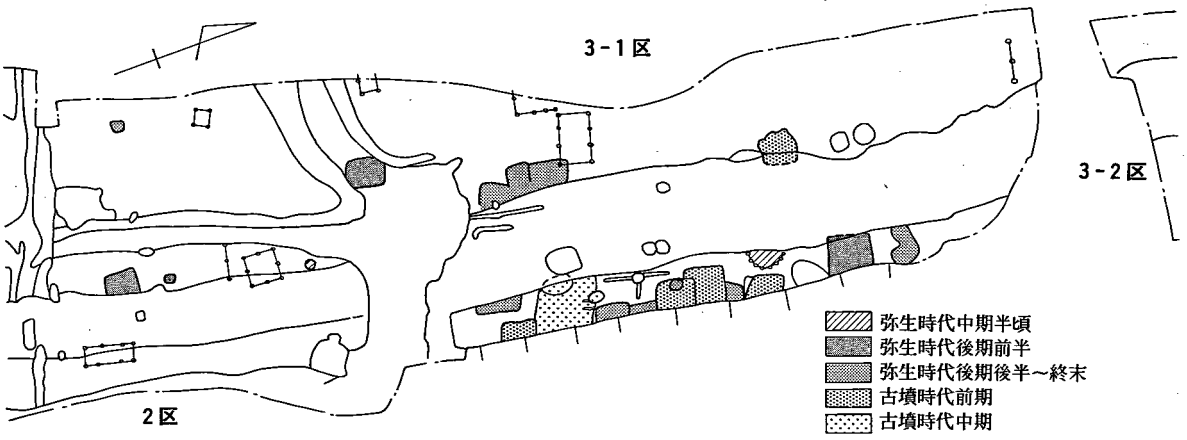
現在までに豊前地域から出土している土偶の中では大平村原井三ツ江遺跡の分銅形土偶[15]（17～19）が時期的に最も遡り、西平～太郎迫式の土器に伴って住居跡から出土している。また、土佐井遺跡５号住居跡（16）出土例は太郎迫式に共伴している。さらに山崎遺跡６号住居跡出土例（20）は小池原上層式～三万田式の土器と共伴しているが、臍部の特徴から、住居の時期である三万田式期のものと位置づけることが可能であろう。確実に時期を押さえることができるものはこの３例のみで、佐知遺跡出土品のうち21・22については遺構から出土しているものの小池原上層式～三万田式と出土土器に時期幅がある。ただ、東友枝曽根遺跡では25点のうち19点までが住居跡に伴っており、時期の特定が可能な例として報告が待たれる。

２．弥生から古墳時代の上唐原了清遺跡

弥生・古墳時代の主な検出遺構は住居跡17軒・土坑10基である。

検出遺構の中で最も時代が遡るのは、円形住居跡である18号住居跡で、弥生時代中期前半頃に考えられる。同時期の遺構としては石庖丁等を出土した30号土坑があるのみである。これに続く時期のものとしては１・17号住居跡が後期前半代に位置づけられ、３号住居跡もこの前後に考えられよう。その後は空白の時期があり、弥生時代後期後半から古墳時代初頭に至ると集中して住居が営まれるが、大半が中世の２号大溝や山国川の氾濫による段落ちによって消失しているため、全体的な広がりが把握できない状況である。今回検出した住居の中で最も床面積が広い16号住居跡はカマドをもつ唯一のもので、５世紀前半代に位置づけられる（第106図）。

弥生時代の遺構の分布を見ると２区から３-１区にわたって確認され、特に３-１区に集中している。各遺構の時期別の分布状況は、弥生時代後期前半代では１・３・17号住居跡が分散して存在するが、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の遺構は３-２区南東部に集中している。３-２区では当該期の遺構は皆無であり、また、２区南側の第１次調査区（昨年度報告分）においても弥生時代後期後半の溝状遺構（２号溝）が検出されたのみで、住居跡は確認されていない[16]。しかしながら、中世期の２号大溝西側で検出した３～６号住居跡の壁の残存状況や第１次調査の後期後半の２号溝の存在を考慮すると、当該期の遺構が広汎に営まれ、その多くは後世に削平されたと見ることが妥当で



第106図　時期別遺構配置状況図（1/400）

あるように思われる。

以上のように上唐原了清遺跡では弥生時代中期前半から集落の形成が始まり、後期後半から古墳時代初頭にかけて盛期を迎える。当遺跡の1.7km程下流に位置する上唐原遺跡[17]でも後期後半から古墳時代前半（布留式前半）にかけてが集落の盛期であり、また、そのすぐ西方の郷ヶ原遺跡[18]では、後期前半には既に環濠を巡らせる集落が存在し、やはり布留式前半まで存続している。これら近接する３遺跡は巨視的に見るとその盛衰は軌を一にしているといえるものの、若干の時期差が認められるため、発生期古墳の動向も踏まえた上で、より厳密なレベルでの検討が必要であろう。

註

（1）大分県教育委員会『佐知遺跡』大分県文化財調査報告書第81輯　1989

（2）福岡県教育委員会『上唐原遺跡Ⅱ』一般国道10号線豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第５集　1996

（3）福岡県教育委員会『中村石丸遺跡』一般国道10号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第８集　1996

（4）椎田町教育委員会『石町遺跡』椎田町文化財調査報告書第１集　1988
福岡県教育委員会『山崎遺跡（Ⅰ)』椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告（７）　1992

（5）福岡県教育委員会『山崎遺跡（Ⅰ)』椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告（７）　1992

（6）築城町教育委員会『城井谷Ⅰ』築城町文化財調査報告第２集　1992

（7）財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室『下吉田遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告第39集　1985

（8）経済基盤についてはすでに小池史哲氏の「豊前地域においては、上唐原遺跡例から山崎・石町遺跡例の頃の石器組成からみて、植物質食料採集活動に主体をおいて、狩猟・漁労が従の状態の生産基盤にあるものと推定され、桑飼下型経済類型に近い」（小池史哲編『上唐原遺跡Ⅱ』一般国道10号線豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第５集　1996）という指摘があるが、本稿で記すように、同一時期であっても実際には遺跡立地等による経済基盤の差異が存在するものと考える。

（9）大平村教育委員会『土佐井地区遺跡』大平村文化財調査報告書第６集　1990

(10) 福岡県教育委員会『二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告』1980

(11) 山崎純男「西日本後・晩期の農耕」『縄文文化の研究２』雄山閣　1983

(12) 岡本孝之「桜ヶ丘型石器について」『九州考古学　第73号』九州考古学会　1998

(13) 富田紘一「九州の土偶」『国立民俗博物館研究報告第37集　土偶とその情報』　1992

(14) 小池史哲・末永浩一「大平村東友枝曽根遺跡の調査」『考古学ジャーナル443』ニューサイエンス社　1999

(15) 大平村教育委員会『原井三ツ江遺跡』大平村文化財調査報告書第５集　1989

(16) 福岡県教育委員会『上唐原了清遺跡Ⅰ』一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告４　1999

(17) 福岡県教育委員会『上唐原遺跡Ⅰ』一般国道10号線豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第２集　1995

(18) 福岡県教育委員会『郷ヶ原遺跡』一般国道10号線関係埋蔵文化財調査報告第10集　1998

参考文献

(1) 小池史哲「福岡県二丈町広田遺跡の縄文土器」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』同刊行会　1982

(2) 水ノ江和同「北部九州の縄紋後・晩期土器」『縄文時代　第８号』縄文研究会　1997

(3) 渡辺誠「総括」『桑飼下遺跡発掘調査報告書』平安博物館　1975

観 察 表

縄文土器観察表 1

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
	1号落込状遺構							
1	杭128南側暗褐色土上層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	黒茶色		2690	
2	東側下層	研磨	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		1681	
3	北側最下層	研磨	ナデ	橙褐色	黒褐色	口22.4	1652	
4	北側下層	研磨	不明	黒～黄褐色	黒～黄褐色	口28.4	1664	
5	南西側下層	研磨	研磨	黄～茶褐色	黒茶色		1724	橿原式系
6	杭129西側暗茶褐色土	研磨	研磨	黄褐色	黒褐色		2669	橿原式系、波状口縁
7	杭128南側暗茶褐色土	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		2693	橿原式系
8	北側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1644	橿原式系、波状口縁、煤付着
9	杭128南側暗茶褐色土	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2689	
10	北側下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		1646	波状口縁
11	南西側下層	ナデ	ナデ	暗灰色	暗黄灰色		1738	ＲＬ縄文
12	北東側上層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		1701	
13	南西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1732	
14	東側下層	研磨	ナデ	暗茶灰色	黄褐色		1679	波状口縁
15	杭132暗茶褐色土	ナデ	ナデ	暗黄褐色	明黄褐色		2694	
16	杭132暗茶褐色土	ナデ	ナデ	暗黄褐色	橙褐色		2692	
17	南東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1707	煤付着
18	南側下層	条痕	ナデ	明黄灰色	明黄褐色		1638	
19	北側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1636	
20	杭132暗茶褐色土	条痕	条痕→ナデ	明黄褐色	明黄灰色	口38.0	2691	
21	東側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2410	
22	段落部最下層	条痕→ナデ	ナデ	暗茶灰色	黄灰色		2261	
23	東側下層	条痕	ナデ	黄褐色	黄褐色		1672	煤付着
24	東側下層	条痕	ナデ	黒褐色	黒褐色		2398	
25	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	橙褐色		1675	
26	東側下層	条痕	条痕	黒褐色	橙褐色		1674	
27	北側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1650	
28	南東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		1708	
29	東側下層	条痕	条痕→ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1682	
30	南側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1737	脚付角鉢
31	南西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2119	注口
32	杭129付近	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗黄褐色		2203	注口
33	南側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	明黄褐色		1720	
34	北側下層	条痕	ナデ	黒茶色	黒茶色		1647	
35	杭129西側暗茶褐色土	条痕	ナデ	暗茶灰色	暗茶灰色		3235	
36	東側下層	条痕	ナデ	暗黄褐色	黒褐色		1757	
37	南西側下層	条痕→ナデ	ナデ	暗黄灰色	明黄褐色		1719	
38	北側下層	条痕→ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1639	
39	北東側上層	ナデ	不明	黄褐色	明黄灰色		1700	
40	東側下層	擦過	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		1673	
41	北東側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1699	煤付着
42	北側下層	条痕	条痕→ナデ	黄褐色	暗茶灰色		1643	
43	北側下層	条痕	条痕	黄褐色	黄褐色		1640	
44	東側下層	条痕	条痕→ナデ	黄褐色	黒灰色		1678	
45	杭132暗茶褐色土	条痕→ナデ	ナデ	暗茶灰色	黒褐色		2184	
46	北側下層	条痕	ナデ	茶灰色	茶灰色		1642	
47	東側下層	条痕	ナデ	黄灰色	暗灰色		1683	
48	南西側下層	条痕→ナデ	条痕	淡茶灰色	暗黄褐色		1723	
49	東側下層	条痕	ナデ	明黄褐色	暗黄灰色		1877	
50	南側下層	ナデ	不明	灰褐色	明黄褐色	底7.0	1751	
51	南側下層	ナデ	ナデ	黒褐色	黄褐色	底7.0	1742	
52	北側下層	不明	ナデ	黄灰色	黄褐色	底7.0	1657	

縄文土器観察表 2

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
53	東側下層	不明	ナデ	茶褐色	黒茶色	底7.5	1688	
54	北側下層	不明	ナデ	灰褐色	黒茶色	底7.8	1661	
55	南東側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒褐色	底8.0	1709	
56	南側下層	ナデ	ナデ	淡橙褐色	灰褐色	底9.0	1745	内面に炭化物付着
57	南西側下層	ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡灰色	底9.0	1747	
58	南西側下層	ナデ	ナデ	褐色	明黄褐色	底6.0	1750	
59	北側下層	ナデ	ナデ	茶褐色	茶色	底6.1	1662	
60	北東側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	明黄褐色	底6.5	1706	
61	北側下層	不明	不明	黄茶色	灰白色	底7.0	1655	
62	南側下層	不明	ナデ	橙色	褐色	底7.0	1746	
63	ベルト暗茶褐色土	ナデ	ナデ	暗茶褐色	黄茶色	底7.0	1631	
64	北側下層	不明	ナデ	黒茶色	黒茶色	底7.1	1667	
65	東側下層	ナデ	ナデ	黒褐色	黄茶色	底7.1	1691	
66	南側下層	不明	不明	淡橙色	黒褐色	底7.2	1744	
67	東側下層	ナデ	ナデ	茶褐色	黄茶色	底7.2	1689	
68	東側下層	ナデ	ナデ	明黄茶色	明黄茶色	底7.6	1693	
69	西側下層	ナデ	不明	黄褐色	灰褐色	底8.0	1743	
70	南側下層	不明	不明	明橙褐色	黒褐色	底9.2	1748	
71	南側下層	ナデ	ナデ	褐色	明黄褐色	底10.2	1749	
72	北側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	黒茶色	底10.8	1663	
73	北側下層	ナデ	ナデ	黒茶色	明黄褐色	底11.2	1660	
74	北側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	黒茶色	底11.7	1657	
	2号落込状遺構							
75	西側上層	研磨	研磨	黒褐色	黒褐色	口21.2	2062	
76	西側植物遺体周辺下層	研磨	研磨	暗茶色	暗茶色		2067	
77	東側最下層	研磨	研磨	黒茶色	暗黄褐色		1964	
78	東側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1906	
79	東西ベルト南側9層	研磨	研磨	黄灰色	暗黄灰色		2185	波状口縁
80	東西ベルト南側9層	研磨	研磨	暗黄褐色	黒茶色		2164	
81	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2070	
82	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗茶灰色		2078	
83	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2166	
84	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色	胴25.0	2050	
85	西側上層	研磨	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2906	
86	ベルト北側1層下部	ナデ	ナデ	暗灰色	暗灰色		2221	
87	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄灰色	暗黄灰色		2046	
88	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2086	波状口縁
89	東側最下層	研磨	ナデ	黒茶色	暗茶色		1971	
90	ベルト9層	研磨	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		1984	
91	ベルト１０層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1982	
92	東側最下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1967	
93	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	暗黄灰色	黒灰色		2680	
94	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	研磨	明黄褐色	暗黄褐色	胴17.6	2080	
95	東側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2662	
96	ピット下層	ナデ	ナデ	淡黄灰色	淡黄灰色		2667	
97	東側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1949	
98	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2026	
99	ベルト1層下部	不明	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1994	
100	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	胴25.6	2870	
101	西側上層	不明	不明	黄褐色	暗灰色		1872	
102	東側下層	ナデ	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		1913	
103	東側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2855	
104	東側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	黒褐色		2663	橿原式系、波状口縁

縄文土器観察表 3

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
105	西側上層	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		2029	橿原式系、波状口縁
106	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	黄褐色	暗茶灰色		2682	橿原式系、波状口縁
107	東側上層	研磨	研磨	黒茶色	黒茶色		2207	橿原式系、波状口縁
108	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗灰色		1927	
109	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	黒茶色		1866	
110	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1843	
111	東側上層	不明	不明	暗茶褐色	黄褐色		2200	波状口縁
112	北側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2193	山形文＋沈線文、浮文貼付
113	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		1857	波状口縁、疑似縄文
114	東側下層	ナデ	ナデ	黄白色	黄白色		1952	
115	西側下層241-Ｐ25	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2012	
116	東側下層	不明	不明	黒褐色	黒褐色		1948	
117	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2069	縄文押圧
118	西側９層	研磨	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2151	
119	東側最下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		1977	
120	西側下層	ナデ	ナデ	黒灰色	黄灰色		1825	
121	西側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		1823	
122	西側上層	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		1860	
123	ベルト１層下部	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1806	
124	東側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1918	
125	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2010	
126	ベルト１層下部	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1807	
127	西側上層	研磨	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		1861	
128	東側下層	研磨	研磨	暗茶褐色	明黄褐色		1912	
129	236-Ｐ５	ナデ＋条痕	ナデ	暗茶褐色	黄褐色		2681	波状文（貝殻）＋条痕文
130	東側下層	不明	研磨	暗黄褐色	黒茶色		1934	
131	ベルト１層北側下部	研磨	不明	暗黄褐色	暗黄褐色		2220	対向弧文
132	西側下層	研磨	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1820	押引文
133	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	□31.2	1834	
134	東西ベルト２層下部	研磨	研磨	暗茶褐色	黄灰色		2213	波状口縁
135	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2092	
136	東西ベルト南側９層	研磨	不明	黄白色	黄白色		2184	波状口縁
137	Ｐ４	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2226	波状口縁
138	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	黒褐色		2113	
139	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2045	
140	東側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1925	
141	東側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1926	
142	東西ベルト南側９層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2182	波状口縁
143	東西ベルト南側９層	ナデ	研磨	黒灰色	黒灰色		2161	
144	東側下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		1933	
145	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2081	
146	西側下層（植物遺体下層）	研磨	ナデ	黒茶色	黒茶色		2047	
147	段落部最下層	ナデ	ナデ	明黄白色	明黄白色		2263	
148	東側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1932	
149	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	研磨	黄褐色	暗茶色		2065	
150	ピット１下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2668	貝殻基部による押圧文
151	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2683	
152	南側２層	研磨	研磨	暗黄褐色	黄褐色		2000	
153	ベルト９層	研磨	研磨	明黄褐色	明黄褐色		1992	
154	西側下層（植物遺体下層）	ナデ？	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2060	
155	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1923	
156	東側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1919	
157	南側２層	ナデ	ナデ	黄白色	黄白色		2135	

縄文土器観察表 4

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
158	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		2112	
159	東西ベルト南側９層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2180	
160	東西ベルト南側９層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色	口32.2	2155	
161	西側上層	不明	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1879	
162	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	茶褐色	黄褐色		2100	
163	東側最下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		1968	
164	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1877	
165	西側上層	条痕	ナデ	黄褐色	暗灰色	口31.0	1838	
166	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗茶灰色		2023	
167	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	黄白色	橙褐色	口32.0	2044	
168	西側下層	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		1797	
169	西側上層	研磨	研磨	黄褐色	黄灰色	口25.4	1849	
170	西側上層	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		1845	
171	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1829	
172	西側上層	ナデ	ナデ	黄白色	黄白色		1880	
173	西側上層	研磨	研磨	茶褐色	茶褐色		1876	
174	東側上層	ナデ	ナデ	明黄灰色	明黄灰色		2203	
175	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2035	
176	西側下層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	暗茶灰色		1827	
177	東側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		1921	
178	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2048	
179	西側上層	ナデ	ナデ	黒灰色	黄褐色		1894	
180	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗茶灰色		1881	
181	東側上層	研磨	研磨	明黄褐色	黒褐色		2202	
182	西側上層	条痕	ナデ	黒褐色	黒褐色		1868	
183	南側２層	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		2130	
184	Ｐ７	ナデ	研磨	橙褐色	橙褐色		2126	
185	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄白色	黄白色		2051	
186	東側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2198	
187	西側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1896	
188	西側下層（植物遺体下層）	条痕→ナデ	条痕→ナデ	明黄褐色	黄褐色		2043	
189	下層	条痕	ナデ	黒茶色	黒茶色		2676	
190	１層下部	条痕→ナデ	研磨？	黄褐色	黄褐色		1957	
191	ベルト９層	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		1993	煤付着
192	西側上層	条痕→ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1852	煤付着
193	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	明黄褐色	黒茶色		2094	
194	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		2679	
195	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2049	
196	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	口31.0	1864	
197	西側上層	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2013	
198	西側上層	研磨	研磨	暗黄灰色	暗黄灰色		1889	
199	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2015	
200	南側９層	研磨	研磨	暗茶褐色	茶褐色		2165	
201	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2055	
202	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2015	
203	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄褐色	暗灰色		2018	
204	南側２層	不明	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2053	
205	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗茶灰色	暗茶灰色		2104	
206	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	黄褐色	黒茶色		2678	波状口縁
207	西側上層	研磨	不明	黄白色	黄白色		2025	
208	東側最下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1965	
209	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1817	
210	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	茶褐色	黄褐色		2058	

縄文土器観察表 5

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
211	西側上層	ナデ	ナデ	黄白色	黄褐色		2115	
212	東側最下層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	明黄褐色		2189	
213	西側下層	研磨	研磨	茶褐色	明茶褐色		1840	
214	西側下層	条痕→ナデ	条痕→ナデ	黄褐色	黒茶色		1811	
215	西側下層	不明	不明	明黄褐色	明黄褐色		2222	
216	東側下層	ナデ	研磨	黄褐色	黒茶色		1941	
217	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗茶灰色	口11.0	1915	
218	東側上層	研磨	研磨	暗茶色	暗茶色		2210	
219	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	明黄褐色	暗黄褐色		2082	
220	南側２層	不明	ナデ？	暗黄灰色	暗茶褐色		2138	
221	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黒灰色		2084	
222	東側下層	ナデ	研磨？	暗黄褐色	暗黄褐色		1936	
223	西側下層（植物遺体下層）	研磨	研磨	暗黄褐色	黒茶色		1978	
224	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	底5.4	2118	
225	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	底12.4	2868	
226	東側下層	条痕	ナデ	黄白色	暗黄灰色	底12.0	1907	
227	西側上層	研磨	研磨	黄褐色	黒褐色	底11.4	3234	
228	一括土器	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色	口13.6	2862	
229	東西ベルト南側９層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	口17.6	2847	
230	東側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色	口11.6	1980	
231	東側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1914	
232	西側上層	研磨	ナデ	黄褐色	黄褐色		1853	
233	東西ベルト南側９層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2177	
234	西側下層（植物遺体下層）	研磨	ナデ	黄褐色	黄褐色		1853	煤付着
235	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2009	
236	西側上層	研磨	不明	灰白色	暗茶灰色		2021	
237	東西ベルト南側９層	研磨	研磨	明黄褐色	黄褐色		2186	
238	上層	ナデ	ナデ	黒茶色	黒茶色		2117	注口
239	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2116	注口
240	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2028	
241	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1892	
242	西側上層	条痕→ナデ	条痕→ナデ	黄褐色	黄褐色		1848	
243	東側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2204	
244	北側	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2192	
245	西側上層	研磨	研磨	黒茶色	黒茶色		1855	
246	西側上層	研磨	ナデ	黄褐色	黒茶色		1847	
247	ピット下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	黒褐色		2666	
248	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗灰褐色		1833	
249	東西ベルト南側９層	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗灰色		2850	
250	下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	口22.0	2154	
251	９層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗茶灰色	口28.0	2188	
252	東側下層	条痕	ナデ	暗茶灰色	黄灰色		1956	
253	一括土器	研磨	ナデ	黄褐色	黒灰色		2224	煤付着
254	西側上層	不明	ナデ	黄褐色	暗黄灰色		1856	
255	東西ベルト南側９層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗茶灰色		2183	
256	西側下層	条痕	ナデ	黄褐色	黄褐色	胴37.8	1794	
257	西側上層	ナデ	ナデ	黄白色	黄白色	胴47.0	1837	
258	東側下層	条痕	条痕→ナデ	明黄褐色	明黄褐色		1902	
259	西側下層	研磨	研磨	明黄褐色	明黄褐色	胴44.0	2140	
260	９層	ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	口39.0	2865	
261	ピット下層	条痕	ナデ	黄褐色	黄褐色	口29.8	2665	
262	西側下層（植物遺体下層）	条痕	ナデ	暗茶灰色	暗黄褐色		2063	
263	西側下層	ナデ	ナデ	茶褐色	茶褐色		2057	

縄文土器観察表 6

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
264	西側下層（植物遺体下層）	条痕	ナデ	暗茶色	暗茶色		2052	
265	東側下層	条痕→ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	口22.8	1904	
266	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	口26.8	1809	
267	東側下層	条痕	条痕	茶褐色	茶褐色	口27.4	1901	
268	一括土器	条痕→ナデ	条痕→ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2155	
269	236-Ｐ５	条痕→ナデ	条痕→ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2677	
270	ベルト９層	ナデ	研磨	黄褐色	黒茶色		1983	
271	236-Ｐ５	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗茶褐色		2828	
272	西側上層	条痕	条痕→ナデ	暗灰色	明黄灰色		1900	
273	西側上層	条痕	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1846	補修孔あり
274	Ｐ-７	条痕	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2128	
275	東側最下層	条痕	ナデ	暗茶褐色	黄褐色	胴17.8	2660	
276	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色		2093	
277	西側上層	条痕→ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		1839	
278	東側下層	研磨＋ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		1973	
279	西側下層	条痕→ナデ	ナデ	暗黄褐色	明黄褐色		1810	
280	西側上層	条痕	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		1841	
281	西側上層	ナデ	条痕	暗黄褐色	黄褐色		1835	
282	最下層	条痕	条痕	暗黄褐色	暗黄褐色		2042	
283	西側上層	条痕	ナデ	暗黄褐色	灰色		1898	
284	西側上層	条痕	研磨	黄褐色	黒褐色		1842	
285	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	明黄褐色	黒茶色	底3.4	2867	
286	東西ベルト南側９層	ナデ	ナデ	黒褐色	明黄褐色	底3.8	2846	
287	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	黄褐色	黒茶色	底4.2	2890	
288	Ｐ８	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色	底4.4	2857	
289	西側下層	研磨	ナデ	黄白色	明黄褐色	底4.4	2860	
290	東側上層	ナデ	ナデ	淡黄灰色	淡茶灰色	底6.2	2851	
291	東側上層	ナデ	ナデ	橙褐色	淡茶灰色	底6.4	2852	
292	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色	底6.6	2985	
293	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄白色	底7.0	2856	
294	東側最下層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄灰色	底7.0	1963	
295	西側下層（植物遺体下層）	ナデ	ナデ	黄褐色	黒褐色	底4.8	2866	
296	東西ベルト東側９層	ナデ	ナデ	明黄褐色	茶灰色	底8.0	2845	
297	236-Ｐ５	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	底7.5	2831	
298	ベルト９層	条痕	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	底7.4	1991	
299	上層	ナデ	ナデ	黒灰色	明黄灰色	底9.6	1771	
	３号落込状遺構							
300	東側最下層	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		2317	
301	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2460	
302	段落部上層	条痕→ナデ	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2238	
303	東側最下層	研磨	研磨	暗黄褐色	明黄褐色		2299	
304	西側黄茶褐色砂質土	研磨	研磨	暗茶灰色	黄褐色		2498	
305	西側黄茶褐色砂質土	研磨	研磨	黒茶色	茶褐色		2494	
306	西側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2636	波状口縁
307	灰色砂	ナデ	研磨	茶褐色	黄褐色		2706	
308	東側最下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2328	
309	西側黄茶褐色砂質土	研磨	研磨	暗黄褐色	黄褐色		2495	
310	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2433	
311	西側上層	研磨	研磨	暗茶灰色	暗茶灰色		2430	
312	杭140東側茶褐色土	ナデ	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2686	
313	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2438	補修孔あり
314	上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄灰色		2564	
315	西側下層	ナデ	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2630	

縄文土器観察表 7

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
316	西側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2632	
317	西側暗茶褐色土下層	ナデ	研磨	黄褐色	茶褐色		2476	
318	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2479	
319	東側最下層	ナデ	研磨	暗茶色	暗黄褐色		2322	煤付着
320	東側砂層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2361	
321	西側下層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2308	
322	灰色砂	ナデ	ナデ	黒褐色	灰褐色		2708	
323	段落部最下層	研磨	研磨	暗灰褐色	暗灰褐色		2255	
324	東側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		2278	
325	段落部最下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		2268	
326	東側砂層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2374	
327	西側下層	ナデ	ナデ	淡茶灰色	黒褐色		2644	
328	段落部上層	ナデ	研磨	黒茶色	黒茶色		2237	橿原式系、波状口縁
329	Ｐ８	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色		2555	橿原式系、波状口縁
330	段落部上層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		2247	橿原式系、波状口縁
331	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	茶褐色	茶褐色		2483	橿原式系、波状口縁
332	段落部最下層	研磨	研磨	暗茶色	暗茶色		2254	橿原式系、波状口縁
333	東側最下層	ナデ	ナデ	明黄灰色	明黄褐色		2320	波状口縁
334	東側最下層	ナデ	ナデ	黄褐色	茶褐色		2327	
335	西側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2466	
336	西側上層	ナデ	ナデ	橙褐色	暗橙褐色		2467	蛇行文、円形浮文
337	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	橙褐色	橙褐色		2490	
338	東側最下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	黄褐色		2593	
339	東側砂層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2378	波状口縁
340	東側最下層	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2331	波状口縁
341	段落部下層	ＲＬ縄文	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2005	波状口縁
342	埋土	ナデ	研磨	黄褐色	黄褐色		2716	波状口縁
343	西側上層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	黒茶色		2447	波状口縁
344	杭140東側茶褐色土上層	ナデ	ナデ	淡黄灰色	淡黄灰色		2673	波状口縁
345	埋土	研磨	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2518	
346	埋土	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2512	波状口縁
347	西側上層	ナデ	ナデ	茶褐色	黄褐色		2629	波状口縁
348	西側下層	研磨	ナデ	暗茶灰色	黄褐色		2643	波状口縁
349	東側暗茶褐色土	研磨	不明	黄褐色	黄白色		2288	波状口縁
350	Ｐ３	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2559	
351	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2434	
352	段落部最下層	ナデ	ナデ	黄白色	黄褐色		2251	波状口縁
353	段落部下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄白色		2536	
354	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗黄灰色		2465	
355	西側上層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	暗茶灰色		2464	
356	西側黄茶褐色砂質土	研磨	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2502	押引文
357	西側上層	ナデ	ナデ	橙褐色	橙褐色		2446	対向弧文
358	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黒茶色		2452	対向弧文
359	東側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2360	ＲＬ縄文
360	埋土	ナデ	研磨＋ナデ	黒褐色	黄褐色		2519	縄文押圧
361	東側最下層	研磨	研磨	明黄褐色	暗黄灰色		2301	
362	西側下層	研磨	研磨	暗茶灰色	暗茶灰色		2645	
363	東側暗茶褐色土下層	研磨	ナデ	暗黄褐色	暗茶褐色		2309	
364	７層	研磨	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2510	
365	段落部下層	研磨	研磨	黒褐色	明黄褐色		2524	
366	段落部最下層	ナデ	ナデ	茶灰色	暗茶褐色		2260	
367	東側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2601	
368	東側最下層	研磨	研磨	黒褐色	暗茶灰色		2306	

縄文土器観察表 8

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
369	灰色砂	ナデ	ナデ	淡黄灰色	淡黄灰色		2704	
370	灰色砂	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	胴33.2	2701	
371	灰色砂	研磨	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2710	
372	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2448	
373	灰色砂	ナデ？	ナデ	黒褐色	明黄褐色		2707	
374	東側上層	ナデ	ナデ	淡黒茶色	明黄褐色		2599	
375	東側砂層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2375	
376	255-Ｐ５	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗黄褐色	口30.6	2664	波状口縁
377	東側最下層	ナデ	ナデ	淡黄白色	淡黄白色		2592	
378	東側暗茶褐色土下層	ナデ	研磨	黄褐色	黄褐色		2280	
379	西側下層	ナデ	ナデ	黒茶色	暗黄褐色		2631	
380	東側最下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2304	
381	西側下層	ナデ	ナデ	茶褐色	茶褐色		2633	
382	西側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色		2458	波状口縁
383	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2462	
384	西側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	淡黄白色		2622	
385	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2441	
386	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	暗茶灰色	暗茶灰色		2491	
387	西側上層	ナデ	ナデ	黒茶色	暗茶褐色		2444	
388	西側下層	研磨	研磨	暗茶褐色	黄褐色		2624	
389	灰色砂	ナデ	ナデ	黒茶色	黒茶色		2713	
390	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	明黄褐色	黒茶色		2493	
391	５層	ナデ	擦過	暗黄灰色	暗黄灰色		2562	波状口縁
392	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒灰色		2646	
393	西側上層	ナデ	研磨	黄白色	黄白色		2431	
394	西側上層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	暗茶灰色		2440	
395	段落部下層	ナデ	ナデ	淡茶灰色	淡茶灰色		2538	
396	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄白色		2472	
397	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2450	
398	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	研磨	黒褐色	暗茶褐色		2489	
399	灰色砂	研磨	研磨	黒褐色	茶褐色		2700	
400	灰色砂	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2719	
401	Ｐ３	ナデ	ナデ	黄灰色	明黄褐色		2558	波状口縁
402	段落部下層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	暗茶灰色		2531	波状口縁
403	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗黄褐色		2488	
404	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2628	波状口縁
405	東側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗茶灰色		2411	
406	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗茶褐色		2496	
407	段落部下層	ナデ	ナデ	茶褐色	黒褐色		2529	
408	西側下層	研磨	ナデ	暗茶褐色	黄褐色		2623	
409	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2481	
410	４層下段	ナデ	ナデ	茶灰色	黄白色		2571	
411	東側最下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2318	
412	東側下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		2486	
413	７層	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色		2507	
414	４層下段	ナデ	ナデ	茶灰色	黄白色		2571	波状口縁
415	７層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2506	
416	段落部上層	ナデ	ナデ	橙褐色	暗黄褐色	口32.0	2229	
417	７層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	黄褐色		2511	
418	東側最下層（砂層）	条痕	ナデ	淡黄灰色	黄褐色		2589	
419	西側上層	条痕→ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2429	
420	７層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄白色		2509	
421	段落部下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗茶褐色		2541	

縄文土器観察表 9

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
422	東側下層	研磨	研磨	暗茶色	暗茶色	口23.8	1903	
423	西側下層	ナデ	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2618	
424	東側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2293	波状口縁
425	西側上層	研磨	研磨	明黄褐色	暗茶褐色		2456	
426	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	茶褐色		2451	
427	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2427	
428	東側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2660	
429	杭140東茶褐色土上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2688	
430	灰色砂層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	茶褐色		2718	
431	西側上層	ナデ	研磨	黒褐色	黄褐色		2425	
432	西側上層	ナデ	研磨	暗黄褐色	黒茶色		2457	
433	西側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2436	
434	段落部最下層	条痕	ナデ	暗黄褐色	明黄褐色		2256	
435	西側上層	条痕→ナデ	ナデ	茶褐色	暗茶褐色		2424	
436	埋土	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2521	
437	灰色砂層	研磨	研磨	茶褐色	明黄褐色		2715	
438	東西ベルト南側9層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	明黄褐色		2170	
439	西側上層	研磨	研磨	黄褐色	暗茶褐色		2426	
440	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2500	
441	西側上層	ナデ	ナデ	茶褐色	黄褐色		2554	
442	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2497	
443	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗茶褐色		2620	
444	灰色砂層	ナデ	ナデ	淡黄灰色	淡黄灰色		2709	
445	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	明黄褐色		2626	
446	西側上層	不明	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2432	
447	東側最下層	研磨	条痕→ナデ	茶灰色	黒灰色		2303	
448	東側最下層（砂層）	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2590	
449	東側砂層	ナデ	ナデ	淡黄灰色	淡黄灰色		2366	
450	西側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗灰褐色		2459	
451	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2443	波状口縁
452	西側上層	ナデ	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2449	
453	段落部下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	胴11.2	2533	
454	東側下層	研磨	研磨	黄褐色	淡茶褐色		2297	
455	東側砂層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗茶灰色		2369	
456	段落部最下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2252	
457	東側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	暗茶灰色	暗黄灰色		2282	脚付角鉢
458	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2478	
459	灰色砂層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2723	
460	灰色砂層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		2725	
461	西側上層	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2445	
462	西側下層	研磨	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2004	
463	東側上層	ナデ	擦過	黄褐色	黒褐色		2003	
464	7層	ナデ	ナデ	黄灰色	暗茶褐色		2514	
465	西側下層	ナデ	ナデ	茶褐色	暗茶褐色		2642	
466	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗茶灰色		2635	
467	西側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒灰色		2641	
468	灰色砂層	研磨	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	胴14.0	2002	
469	西側上層	研磨	ナデ	暗黄褐色	茶灰色	胴17.0	2002	
470	西側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2200	注口
471	東側最下層	研磨	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2204	注口
472	灰色砂層	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色		2201	注口
473	東側砂層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		2321	
474	東側最下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	黄褐色	口14.0	2312	

縄文土器観察表 10

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
475	西側上層	条痕＋ナデ	条痕→ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2435	
476	7層	ナデ	ナデ	橙褐色	暗黄白色		2508	
477	東側最下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2837	
478	西側下層	研磨	研磨	黄褐色	黄褐色		2615	
479	灰色砂層	研磨	研磨	橙褐色	暗黄褐色		2727	
480	西側暗茶褐色土下層	ナデ	研磨	黄褐色	暗黄褐色		2477	
481	西側暗茶褐色土下層	ナデ	研磨	黄灰色	黄灰色		2610	
482	P 3	ナデ	ナデ	暗茶褐色	茶灰色		2556	
483	西側下層	研磨	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2613	
484	西側上層	ナデ	研磨	黄褐色	黄褐色		2437	
485	西側黄茶褐色砂質土	研磨	ナデ	暗茶褐色	茶褐色		2503	
486	灰色砂	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2728	
487	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2617	
488	西側暗茶褐色砂質土	条痕	条痕	明黄白色	黒褐色		2492	
489	5層	条痕	条痕	黒茶色	黒茶色		2561	
490	東側最下層	ナデ	ナデ	淡茶灰色	淡茶灰色		2588	
491	東側砂層	条痕	ナデ	黄褐色	暗灰色		2367	
492	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色		2577	
493	西側下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗黄褐色		2612	
494	灰色砂層	研磨	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2724	
495	西側上層	条痕→ナデ	条痕→ナデ	明黄褐色	黒褐色		2428	
496	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黄褐色		2627	
497	灰色砂層	研磨	研磨	茶褐色	明黄褐色		2703	
498	4層下段	ナデ	ナデ	暗灰褐色	明黄褐色		2423	
499	段落部上層	条痕→ナデ	条痕→ナデ	黒灰色	黒灰色		2248	
500	西側下層	研磨	研磨	黒褐色	黄褐色		2614	
501	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗黄褐色		2621	
502	灰色砂層	研磨	研磨	明黄褐色	明黄褐色		2726	
503	灰色砂層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色		2702	
504	灰色砂層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	黒茶色		2731	
505	段落部下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	黒茶色		2527	補修孔あり
506	東側最下層	条痕	研磨	黄褐色	黄褐色		2326	
507	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2505	
508	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2619	
509	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	暗茶褐色		2625	
510	東側最下層	条痕→ナデ	条痕→ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		2324	
511	5層	条痕	条痕	茶褐色	黒茶色		2566	
512	P 3	条痕	ナデ	黄褐色	黄褐色		2557	
513	東側砂層	研磨	研磨	暗茶褐色	暗茶褐色		2368	
514	西側下層	ナデ	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		2616	
515	南側下層	ナデ	ナデ	暗茶褐色	暗茶褐色		2580	
516	暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	明黄灰色	明黄灰色		2486	
517	灰色砂層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明橙褐色		2730	
518	6層	条痕＋ナデ	ナデ	茶褐色	暗茶色		2565	
519	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄白色		2487	
520	埋土	ナデ＋研磨	ナデ	黒茶色	黄褐色	口17.8	2520	
521	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒灰色	底4.1	2648	
522	段落部下層	ナデ	ナデ	黄褐色	淡黄灰色	底4.8	2549	
523	東側最下層	ナデ	ナデ	橙褐色	暗黄褐色	底4.8	2839	
524	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒灰色	底5.0	2647	
525	東側最下層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	底5.4	2840	
526	8層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒灰色	底5.6	2517	
527	西側下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	黒褐色	底5.6	2650	

縄文土器観察表 11

図番号	出土遺構	外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	径(cm)	登録番号	備考
528	東側最下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄白色	底5.8	2843	
529	東側上層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	底6.0	2608	
530	８層	ナデ	ナデ	黄褐色	黒茶色	底6.2	2516	
531	東側最下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗灰色	底6.2	2842	
532	東側最下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	底6.6	2598	
533	東側下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗茶灰色	底6.6	2835	
534	段落部上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	底7.4	2859	
535	東側砂層	ナデ	ナデ	明黄褐色	灰色	底7.0	2834	
536	西側上層	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	底8.0	2469	
537	西側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	底8.0	2553	
538	杭140茶褐色土上層	ナデ	ナデ	淡黄褐色	黄灰色	底8.6	2652	
539	段落部下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	底9.4	2547	
540	西側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	黄白色	底7.4	2578	
541	東側暗茶褐色土下層	ナデ	ナデ	暗黄灰色	暗黄灰色	底4.4	2858	
542	東側最下層	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	底5.2	2841	
543	段落部下層	ナデ	ナデ	明黄褐色	暗黄灰色	底5.2	2551	
544	西側下層	ナデ	ナデ	黄褐色	淡黄灰色	底5.6	2649	
545	西側黄茶褐色砂質土	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色	底5.6	2504	
546	東側上層	ナデ	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	底6.0	2609	
547	段落部下層	ナデ	ナデ	黄褐色	淡黄褐色	底7.4	2548	
	５４号土坑							
548	埋土	ナデ	ナデ	黄褐色	暗茶褐色		1783	
549	埋土	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1781	
550	埋土	条痕	ナデ	黄褐色	黄褐色		1780	
551	埋土	ナデ	擦過→ナデ	淡黄褐色	橙褐色		1779	
552	埋土	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1782	
	５６号土坑							
553	埋土	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		1791	波状口縁
554	埋土	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色		1786	煤付着
555	埋土	研磨	研磨	暗黄褐色	暗黄褐色		1788	内面に炭化物付着
556	埋土	ナデ	ナデ	暗茶褐色	淡茶褐色		1785	
557	埋土	不明	ナデ	黄茶色	淡黄白色	底4.6	1789	
558	埋土	ナデ	不明	茶灰色	暗茶褐色	底8.6	1790	
	その他の遺構							
559	40号土坑	ナデ	ナデ	淡灰色	淡橙褐色		1230	
560	８号住居跡	ナデ	条痕→ナデ	淡橙色	淡橙色		1007	
561	17号住居跡	研磨	研磨	暗黄褐色	明黄褐色		1070	擬似縄文、W字文貼付
562	40号土坑	ナデ	ナデ	茶灰色	暗灰色		1231	
563	大溝２西側段落部下層	ナデ	ナデ	茶灰色	暗茶褐色	口9.6	1517	
564	12号住居跡	ナデ	ナデ	暗黄褐色	暗黄褐色	口17.2	1050	
565	杭135-136東側段落	研磨	ナデ	黄褐色	暗黄褐色		2871	
566	杭123東側段落	ナデ	ナデ	黄褐色	黄褐色		2205	注口
567	２号大溝黒褐色土	ナデ	ナデ	明黄白色	明黄褐色		2675	

※条痕→ナデは条痕のちナデの意。径の項の口は口径、胴は胴部最大径、底は底部径を示す。

縄文時代石器観察表 1

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
	1号落込状遺構							
1	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層	18.6	14.2	3.6	0.9	
2	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層	(23.1)	14.6	4.1	(1.1)	
3	打製石鏃	姫島産黒曜石	杭129西側暗茶褐色土	21.6	12.6	2.9	0.6	
4	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層	25.1	14.9	4.0	(0.9)	
5	打製石鏃	姫島産黒曜石	南側下層	(17.4)	14.7	3.6	(0.7)	
6	打製石鏃	姫島産黒曜石	北側最下層	19.9	13.1	2.8	(0.6)	
7	打製石鏃	姫島産黒曜石	杭106東側表土	(19.1)	13.5	2.7	(0.6)	
8	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層	24.8	16.9	5.0	1.3	
9	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	20.6	14.9	3.0	(0.8)	表裏に素材面を残す
10	打製石鏃	安山岩	東西ベルト南側９層	(18.5)	12.1	2.1	(0.4)	
11	打製石鏃	姫島産黒曜石	南側下層	30.0	22.8	8.0	4.1	大形
12	石錐	姫島産黒曜石	東側下層	24.2	9.1	3.1	0.7	使用磨耗痕跡あり
13	石錐	姫島産黒曜石	北側下層	27.1	18.9	8.4	3.1	使用磨耗痕跡顕著
14	石錐	姫島産黒曜石	杭124南試掘トレンチ	24.9	15.9	5.1	1.7	表裏に素材面を残す
15	石錐？	姫島産黒曜石	杭133暗茶褐色土上層	(39.1)	10.2	5.1	(2.3)	表裏に素材面を残す
16	スクレイパー	姫島産黒曜石	杭133暗茶褐色土上層	34.0	22.3	7.8	6.5	表裏に素材面を残す
17	スクレイパー	安山岩	南西側上層	(29.7)	24.0	7.0	(4.5)	
18	スクレイパー	姫島産黒曜石	北側上層	32.1	13.7	5.0	2.0	厚みのある横長剥片
19	スクレイパー	姫島産黒曜石	北側最下層	47.4	23.0	12.0	10.2	
20	スクレイパー	姫島産黒曜石	杭132-133茶褐色土	44.2	26.0	1.1	10.7	
21	スクレイパー	姫島産黒曜石	杭128-129内段落部	51.8	27.9	8.9	13.3	下端部欠損か？
22	スクレイパー	姫島産黒曜石	杭133暗茶褐色土層	45.7	(19.2)	10.7	(7.6)	
23	スクレイパー	腰岳系黒曜石	東側下層	37.0	20.7	7.9	4.1	
24	スクレイパー	安山岩	東西ベルト南側９層	62.1	51.1	12.3	46.5	
25	磨製石斧	蛇文岩	北側下層	(68)	43	15	(79.6)	薄手小型、研磨丁寧
26	磨製石斧	蛇文岩	上層	(76)	(59)	(12)	(65.7)	研磨丁寧
27	磨製石斧	片岩	北側下層	(71)	58	35	(166.2)	研磨丁寧
28	磨製石斧	蛇文岩	下層 No.28	(89)	(43)	(24)	(125.8)	側面に粗い研磨擦痕
29	磨製石斧	蛇文岩	杭124北側暗茶褐色土上層	(101)	(58)	(27)	(237.1)	研磨丁寧
30	磨製石斧	蛇文岩	杭124南側暗茶褐色土上層	(129)	52	35	(326.7)	厚みのある蛤刃類
31	磨製石斧	頁岩	杭124南側暗茶褐色土上層	(147)	57	26	(326.0)	側面に敲打痕を残す
32	打製石斧	頁岩	暗茶褐色土	108	58	21	140.8	裏も左右からの成形時剥離
33	打製石斧	頁岩	ベルト暗茶褐色土	119	62	16	118.0	刃部使用磨耗痕
34	打製石斧	安山岩系	下層 No. 9	(102)	62	13	(121.8)	裏も横剥ぎ素材面
35	打製石斧	頁岩	下層 No.21	117	80	15	161.1	裏は上からの縦剥ぎ素材面
36	打製石斧か	緑泥片岩	１層上 No.36	(85)	77	9	(87.1)	裏も横剥ぎ、側縁研ぎ出し、異器種か
37	打製石斧	安山岩系	北側上層	(91)	79	13	(147.4)	刃部使用磨耗痕
38	打製石斧	片岩系	杭129西側暗茶褐色土	(109)	76	16	(172.0)	裏も横剥ぎ、意図的研磨
39	打製石斧	安山岩系	南側上層	(111)	77	9	(119.7)	裏は横剥ぎ、薄手で雑
40	打製石斧	緑泥片岩	杭124北側暗茶褐色土	143	64	15	210.0	裏も横剥ぎ素材面
41	打製石斧	緑泥片岩	南側上層	133	55	15	178.6	裏は横剥ぎ、反り身
42	打製石斧	安山岩系	ベルト暗茶褐色土	(115)	101	14	(201.4)	裏は横剥ぎ、刃部使用磨耗
43	打製石斧	安山岩系	杭128東側段落	147	72	16	233.2	裏は横剥ぎ、使用痕わずか、反り身
44	打製石斧	安山岩系	杭132暗茶褐色土	149	86	20	286.0	裏も横剥ぎ素材面
45	打製石斧	安山岩系	西側下層	150	73	19	227.7	裏は縦剥ぎ、刃部使用痕、抉り調整あり
46	打製石斧	安山岩系	北側下層	155	85	24	368.3	裏は横剥ぎ、刃部付近やや使用磨耗
47	打製石斧	安山岩系	杭124北側暗茶褐色土上層	159	94	20	306.5	裏は横剥ぎ素材面
48	打製石斧	安山岩系	３層 No. 2	155	100	28	344.3	裏は下半に横剥ぎ素材面残す
49	打製石斧	安山岩系	杭128南側暗茶褐色土上層	(109)	77	16	(164.6)	裏下半も自然面、意図的抉り
50	円盤形石器	安山岩系	東側下層	85	83	9	85.7	打製石斧の転用品、一部に刃部残す
51	円盤形石器	硬質の片岩系	南側下層	92	85	8	99.1	裏も横剥ぎ素材面
52	円盤形石器	安山岩系	杭128-129内段落部	102	84	16	226.9	打製石斧の転用品、一部に刃部残す

縄文時代石器観察表 2

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
53	十字形石器	デイサイト	上層	(76)	(72)	22	(93.3)	裏は自然面、X字形
54	石錘	安山岩	西側上層	45	35	17	34.7	
55	石錘	安山岩	東西ベルト南側9層	54	44	19	(58.7)	
56	石錘	安山岩	東側砂層	56	51	24	110.6	
57	石錘	安山岩	東側下層	57	56	20	87.3	
58	石錘	安山岩	杭129東側茶褐色土	60	50	24	108.7	
59	石錘	凝灰岩	暗茶褐色土上層	63	61	27	142.8	
60	石錘	凝灰岩	杭128-129内段落部	64	50	21	(84.3)	
61	石錘	安山岩	西側上層	64	58	16	88.7	
62	石錘	輝石安山岩	上層	65	56	26	127.7	
63	石錘	凝灰岩	南側1層	67	66	21	137.2	
64	砥石	花崗岩	杭129西側暗茶褐色土	(82)	(68)	29	(198.4)	使用面は1面
65	砥石	凝灰岩	東側下層	(114)	(64)	45	(542.9)	使用面3面以上
66	磨石	安山岩	南西側下層	73	71.5	51	330.4	
67	磨石	安山岩	杭124暗茶褐色土上層	75	65	53	354.7	
68	磨石	輝石安山岩	下層	(73)	85.5	59	(505.9)	
69	磨石	輝石安山岩	杭128南側暗茶褐色土	86.5	78.5	61	570.3	
70	磨石	凝灰岩	2層黄灰色砂層	96	(93)	60.5	(669.1)	
71	磨石	安山岩	杭129東側暗茶褐色土	101	88	34	407.1	
72	磨石	凝灰岩	上層	114	89	39	462.9	
73	磨石	輝石安山岩	南西側下層	130	80	25	416.6	
74	磨石	安山岩	杭124暗茶褐色土上層	(935)	79	50	(514.3)	
75	磨石	花崗岩	杭129西側暗茶褐色土	(93)	(83)	31	(288.0)	
76	磨石	凝灰岩	南側下層	(127.5)	(113)	(42)	(562.9)	
登415	打製石斧	安山岩系	北側下層	(119)	87	17	(252.9)	下半部、横剝ぎ素材、刃部僅か磨耗
登416	打製石斧	安山岩系	東側下層	(100)	80	11	(104.2)	下半部、横剝ぎ素材
登417	打製石斧	安山岩系	杭132-133暗茶褐色土	(103)	77	9	(84.4)	下半部、横剝ぎ素材、薄手
登418	打製石斧	安山岩系	北側下層	(95)	66	8	(77.6)	下半部、横剝ぎ素材、薄手
登419	打製石斧	安山岩系	ベルト暗茶褐色土	(85)	73	13	(110.9)	下半部、横剝ぎ素材、刃部磨耗
登420	打製石斧	安山岩系	ベルト暗茶褐色土	(68)	77	14	(94.4)	基部付近片、横剝ぎ素材
登421	打製石斧	安山岩系	杭128東側段落	(111)	87	15	(236.5)	中位片、横剝ぎ素材
登422	打製石斧	安山岩系	杭124北側暗茶褐色土上層	(79)	82	13	(131.2)	中位片、横剝ぎ素材
登423	打製石斧	安山岩系	南西側下層	(81)	75	11	(72.9)	中位片、横剝ぎ素材
登424	打製石斧	安山岩系	南西側下層	(69)	71	14	(84.7)	中位片、横剝ぎ素材
登425	打製石斧	緑泥片岩	上層 No. 8	(109)	82	10	(120.2)	下半部、横剝ぎ、下半磨耗面
登426	打製石斧	緑泥片岩	杭133北側暗茶褐色土上層	(86)	85	12	(114.8)	下半部、横剝ぎ、刃部やや磨耗
登427	打製石斧	緑泥片岩	杭128南側暗茶褐色土上層	(66)	59	14	(68.2)	下半部、横剝ぎ素材
登428	打製石斧	緑泥片岩	杭124北側暗茶褐色土上層	(64)	64	13	(48.4)	刃部片、横剝ぎ素材
登429	打製石斧	緑泥片岩	上層	(55)	(82)	12	(74.1)	刃部片、やや使用磨耗
登430	打製石斧	緑泥片岩	北側下層	(116)	68	10	(130.4)	上半部、横剝ぎ素材
登431	打製石斧	緑泥片岩	北側下層	(81)	57	15	(85.4)	上半部、横剝ぎ素材
登432	打製石斧	緑泥片岩	北側下層	(79)	55	10	(67.8)	上半部、横剝ぎ素材
登433	打製石斧	緑泥片岩	杭128東側段落	(43)	56	7	(20.5)	刃部片、使用磨耗
登434	打製石斧	緑泥片岩	南側下層	(98)	(50)	11	(66.8)	中位片
登435	打製石斧	緑泥片岩	南側下層	(65)	64	17	(96.0)	中位片、横剝ぎ素材
登436	打製石斧	頁岩	上層 No.15	113	79	16	203.0	撥形、横剝ぎ素材
登437	打製石斧	頁岩	東側下層	(93)	66	17	(153.2)	上半部、短冊形、横剝ぎ素材
登438	打製石斧	頁岩	杭124南側暗茶褐色土上層	87	48	10	52.6	小形品、横剝ぎ素材
登439	打製石斧	頁岩	北側上層	(89)	79	13	(118.3)	下半部、横剝ぎ素材
登440	打製石斧	頁岩	南側下層	(77)	72	12	(76.1)	下半部、横剝ぎ素材
登441	打製石斧	頁岩	南側下層	(69)	(69)	13	(59.8)	刃部片、横剝ぎ素材、使用磨耗
2号落込状遺構								
77	打製石鏃	姫島産黒曜石	最下層 No.56	24.4	15.1	4.5	1.3	

縄文時代石器観察表 3

図番号	器　種	石　材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備　考
78	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	(18.8)	13.9	3.6	(0.7)	
79	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	19.8	12.3	3.3	0.6	
80	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層	(20.1)	11.3	1.9	(0.5)	
81	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	21.1	12.9	2.1	(0.6)	
82	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層	(17.9)	12.6	2.6	(0.5)	
83	打製石鏃	サヌカイト	ベルト北側1層下部	20.1	15.9	3.8	0.9	
84	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	26.2	16.1	3.1	1.2	
85	打製石鏃	姫島産黒曜石	2層 No.79	19.0	12.3	3.2	0.5	
86	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	21.3	12.8	3.2	(0.5)	
87	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	(14.9)	14.9	2.9	(0.6)	
88	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	24.0	16.6	2.9	0.9	
89	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	(20.9)	13.9	2.9	(0.7)	
90	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	(15.2)	13.9	2.2	(0.5)	
91	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側植物遺体周辺下層	(19.9)	15.1	2.8	(0.7)	
92	打製石鏃	姫島産黒曜石	1層下 No.69	(12.9)	15.8	3.1	(0.6)	
93	打製石鏃	サヌカイト	西側下層	19.1	18.6	2.0	0.6	
94	打製石鏃	姫島産黒曜石	上層下 No.78	(17.1)	12.9	2.2	(0.5)	
95	打製石鏃	姫島産黒曜石	2層 No.72	18.1	14.7	3.2	0.6	
96	打製石鏃	姫島産黒曜石	2層 No.88	21.8	13.5	3.6	0.8	
97	打製石鏃	サヌカイト	9層 No.97	19.4	13.5	4.0	0.8	
98	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側最下層	24.1	14.2	2.9	(0.9)	
99	打製石鏃	姫島産黒曜石	No.47	21.9	11.8	4.1	(0.6)	
100	打製石鏃	姫島産黒曜石	1層下部 No.52	22.3	13.1	3.9	(0.8)	
101	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	(13.0)	14.1	3.1	(0.5)	
102	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側最下層	(18.9)	16.8	2.2	(0.7)	
103	打製石鏃	サヌカイト	ベルト1層上部	(21.3)	23.5	3.9	(1.8)	
104	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側植物遺体周辺下層	(18.6)	17.0	3.4	(1.2)	
105	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側植物遺体周辺下層	(24.9)	19.0	2.9	(1.2)	
106	打製石鏃	サヌカイト	西側上層	(17.4)	18.0	2.6	(0.7)	
107	打製石鏃	腰岳系黒曜石	9層 No.62	(25.1)	17.8	2.8	(1.1)	
108	打製石鏃	サヌカイト	1層下 No.70	17.7	13.9	2.6	0.5	
109	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	13.0	11.4	1.9	0.2	
110	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	29.4	17.1	3.1	0.9	
111	異形石器	サヌカイト	西側植物遺体周辺下層	(14.3)	24.1	3.2	(1.1)	蝶ナット形
112	スクレイパー	姫島産黒曜石	ベルト1層下部	31.3	18.0	5.4	3.4	
113	スクレイパー	姫島産黒曜石	ベルト9層	(33.3)	18.3	5.1	(2.2)	
114	スクレイパー	腰岳系黒曜石	西側下層	(52.1)	18.2	6.8	(3.4)	
115	スクレイパー	サヌカイト	西側植物遺体周辺下層	27.9	22.0	6.0	2.6	
116	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側下層	(27.8)	(16.2)	7.8	(2.3)	
117	スクレイパー	姫島産黒曜石	南側1層下部	38.5	32.0	9.0	9.9	
118	スクレイパー	姫島産黒曜石	西側下層	(50.4)	36.9	8.8	(18.4)	
119	スクレイパー	サヌカイト	西側上層	67.9	39.0	12.1	24.2	
120	スクレイパー	姫島産黒曜石	西側下層	59.7	61.0	10.5	38.6	使用痕剝片
121	スクレイパー	姫島産黒曜石	西側植物遺体周辺下層	51.9	34.2	16.0	20.2	
122	スクレイパー	姫島産黒曜石	中央部上層	44.1	43.5	27.6	44.4	
123	磨製石斧	蛇文岩	下層 No.11	(117)	45	30	(215.5)	細身、反り身類
124	磨製石斧	蛇文岩	2層 No.85	(119)	62	13	(123.8)	薄手類
125	磨製石斧	蛇文岩	東下層	(94)	(59)	(30)	(137.0)	丁寧に研磨
126	長方形板状石器	砂岩	1層上 No.37	(75)	40	7	(38.3)	片刃状、丁寧に研磨
127	石鎌形石器	緑泥片岩	東下層241-P20	(71)	46	8	(46.5)	右側縁片刃的、裏も研磨
128	打製石斧	緑泥片岩	9層 No.95	(80)	37	9	(40.9)	裏も横剝ぎ、小形細身類
129	打製石斧	頁岩	No.38	(92)	64	11	(70.0)	裏は横剝ぎ、僅かに使用磨耗痕
130	打製石斧	緑泥片岩	下層 No.17	98	60	12	84.8	裏は横剝ぎ、使用磨耗面明瞭

縄文時代石器観察表 4

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
131	打製石斧	緑泥片岩	9層 No.93	89	49	8	48.0	裏は縦剝ぎ、薄手小形類
132	打製石斧	緑泥片岩	下層 No.20	114	58	7	89.3	裏は縦剝ぎ、使用磨耗顕著
133	打製石斧	緑泥片岩	9層一括 No.89-9	125	59	11	131.6	裏は横剝ぎ、基部側も使用
134	打製石斧	安山岩系	9層一括 No.89-1	129	59	15	168.3	裏上半は横剝ぎ、下半は原材面
135	打製石斧	緑泥片岩	上層 No.6	114	66	11	107.5	裏は横剝ぎ、僅かに使用磨耗面
136	打製石斧	緑泥片岩	2層下 No.68	126	63	13	134.6	裏は節理面の素材剝離面
137	打製石斧	安山岩系	上層 No.26	138	77	21	263.0	裏は上端に礫面、以下は横剝ぎ
138	打製石斧？	輝緑岩	上層241-P18	137	51	13	143.5	裏も横剝ぎ、磨面僅かあり
139	打製石斧	緑泥片岩	2層 No.81	148	70	10	143.3	裏も横剝ぎ、刃部付近研磨
140	打製石斧	緑泥片岩	1層上	146	80	9	136.0	裏は横剝ぎ、使用磨耗面幾らか
141	打製石斧	緑泥片岩	2層下	(82)	68	12	(107.2)	裏は横剝ぎ、使用磨耗面幾らか
142	打製石斧	安山岩系	西側植物遺体周辺下層	(88)	85	13	(105.8)	裏は自然面、使用擦痕顕著
143	打製石斧	頁岩	下層 No. 7	136	85	23	254.4	裏中央に横剝ぎ素材面
144	打製石斧	緑泥片岩	下層 No.18	(117)	85	13	(227.3)	裏は横剝ぎ素材剝離面
145	打製石斧	頁岩	東下層241-P21	114	90	13	186.5	裏は横剝ぎ、表は自然磨面
146	打製石斧	安山岩系	最下層 No. 4	121	78	19	294.0	裏は縦剝ぎ、縁辺調整丁寧
147	打製石斧	安山岩系	最下層 No. 2	(112)	93	12	(232.1)	裏も横剝ぎ、磨耗面も表同様
148	石斧形石器	軟質凝灰岩	下層 No.27	(104)	(156)	23	(306.6)	表裏とも自然面、整形のための縁辺調整
149	打製石斧	安山岩系	西側下層（植物遺体層）	160	97	19	296.9	裏下半は縦剝ぎ素材面
150	打製石斧	安山岩系	2層下 No.40	133	82	14	166.5	裏も縦剝ぎ、撥形類
151	打製石斧	頁岩質	西側上層	(123)	72	14	(126.9)	裏は横剝ぎ、撥形類
152	打製石斧	安山岩系	下層 No.31	(75)	(57)	10	(42.0)	裏は横剝ぎ、刃部使用磨耗
153	打製石斧	安山岩系	下層 No.14	151	95	19	398.9	裏は横剝ぎ、抉り調整意図
154	円盤形石器	緑泥片岩	東側下層	54	52	13	51.2	裏の一部に自然面
155	円盤形石器	安山岩系	9層 No.98	76	75	11	88.6	裏は下からの素材剝離面
156	円盤形石器	緑泥片岩	No.49	80	78	7	68.3	裏は縁辺調整僅か
157	円盤形石器	安山岩系	東側最下層	84	(74)	14	(127.8)	裏は礫面
158	円盤形石器	安山岩系	下層 No.30	92	88	17	194.6	扁平河原石に簡単な縁辺調整
159	石錘	輝石安山岩	東西ベルト南側	46	42	13	41.2	
160	石錘	凝灰岩	東西ベルト南側9層	(43)	44	26	(72.0)	
161	石錘	硬質砂岩	東側下層	44	38	17	38.8	
162	石錘	安山岩	東側下層	45	49	13	37.8	
163	石錘	凝灰岩	東西ベルト南側下層	51	44	14	46.7	
164	石錘	安山岩	東西ベルト南側	51	37	15	52.7	
165	石錘	輝石安山岩	西側下層	51	45	21	70.2	
166	石錘	輝石安山岩	東西ベルト南側	52	47	25	81.8	
167	石錘	輝石安山岩	南側1層下部	52	47	21	66.6	
168	石錘	凝灰岩	東西ベルト南側9層	52	46	24	76.7	
169	石錘	輝石安山岩	東西ベルト南側	(52)	49	20	(79.4)	
170	石錘	安山岩	2層下 No.77	53	40	20	68.2	
171	石錘	安山岩	東側下層	54	48	13	58.1	
172	石錘	凝灰岩	東西ベルト南側9層	55	44	22	62.8	
173	石錘	凝灰岩	東西ベルト南側9層	56	52	31	124.9	
174	石錘	安山岩	9層 No.74	56	46	19	75.2	
175	石錘	輝石安山岩	西側上層	(58)	48	18	(79.0)	
176	石錘	輝石安山岩	南側2層	58	60	18	86.1	
177	石錘	輝石安山岩	2層下 No.74	58	52	16	70.7	
178	石錘	安山岩	東側下層	60	50	17	(78.5)	
179	石錘	輝石安山岩	西側下層(植物遺体下層)	61	49	17	77.7	
180	石錘	凝灰岩	2層下 No.75	62	51	26	105.0	
181	石錘	凝灰岩	西側下層	(64)	44	23	(69.6)	
182	石錘	安山岩	植物遺体周辺下層	64	50	16	86.3	
183	石錘	凝灰岩	東西ベルト南側	64	52	24	102.1	

縄文時代石器観察表 5

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
184	石錘	安山岩	東西ベルト南側	66	47	23	118.9	
185	石錘	輝石安山岩	植物遺体周辺下層	66	55	13	72.8	
186	石錘	凝灰岩	東側下層	67	66	28	165.4	
187	石錘	輝石安山岩	236-P-5	(65)	64	26	(155.3)	
188	石錘	安山岩	東側下層	67	57	22	121.5	
189	石錘	凝灰岩	西側上層	65	55	20	127.0	縦長素材使用
190	石錘	凝灰岩	東側下層	72	50	23	128.3	
191	石錘	安山岩	西側上層	72	58	28	169.0	
192	石錘	凝灰岩	北側下層	73	(58)	15	(90.2)	
193	石錘	輝石安山岩	東西ベルト南側	73	58	23	134.9	
194	石錘	安山岩	西側下層(植物遺体下層)	89	38	20	92.8	3点打欠
195	砥石	凝灰岩	西側下層(植物遺体下層)	(57)	42	25	(99.4)	
196	磨石	安山岩	西側上層	39.5	31	28	43.2	
197	磨石	安山岩	西側上層	49	49	25	84.6	
198	磨石	安山岩	9層一括 No.89-3	(6.5)	61	34.5	(204.9)	
199	磨石	凝灰岩	1層下 No.63	84	70	24	186.0	
200	磨石	安山岩	東西ベルト南側9層	98	81	40	475.7	
201	磨石	安山岩	ベルト北側1層下部	102	81	(34)	(477.9)	
202	磨石	安山岩	P 7	102	83.5	41	514.3	
203	磨石	輝石安山岩	東側最下層	(83)	82	55	(490.4)	
204	磨石	輝石安山岩	東西ベルト南側9層	104.5	94	41	587.9	
205	磨石	安山岩	最下層 No. 3	106	95	46	653.1	
206	磨石	安山岩	9層 No.96	111	104	55	993.8	
207	磨石	安山岩	2層最下層 No.41	115	99	47	841.7	
208	磨石	安山岩	9層一括 No.89- 7	(98)	114	60	(1029.2)	
209	磨石	凝灰岩	東側最下層	(118)	98	53	(778.4)	
210	磨石	安山岩	最下層 No.53	130	93	50	913.8	石錘として再利用か？
211	磨石	凝灰岩	東西ベルト南側9層	88	35	25	103.6	
212	磨石	凝灰岩	9層一括 No.89-4	70	61	32	172.1	
213	磨石	安山岩	9層一括 No.89-4	(72)	111	46	(543.7)	
214	磨石	凝灰岩	東西ベルト南側9層	(78)	95	62	(682.9)	
215	敲石	輝石安山岩	9層一括 No.89-8	236	75	82	2200	磨石兼用
216	石皿	輝石安山岩	上層 No.25	(257)	(245)	(119)	(8400)	
登442	打製石斧	安山岩系	No.51	110	66	10	94.0	薄手楕円形、横剝ぎ素材
登443	打製石斧	安山岩系	東側下層	106	71	19	186.0	縦剝ぎ素材
登444	打製石斧	安山岩系	最下層 No. 5	(99)	79	11	(130.3)	刃部欠、楕円形、縦剝ぎ素材
登445	打製石斧	安山岩系	上層 No.12	(90)	70	21	(205.6)	下半部、横剝ぎ素材
登446	打製石斧	安山岩系	上層 No.13	(114)	65	18	(174.5)	下半部、二次火熱を受ける
登447	打製石斧	安山岩系	236-P5	(103)	81	13	(154.8)	下半部、横剝ぎ、使用磨耗面
登448	打製石斧	安山岩系	西側下層	(88)	79	15	(169.1)	下半部、楕円形、横剝ぎ
登449	打製石斧	安山岩系	1層下 No.57	(99)	84	13	(120.6)	下半部、縦剝ぎ、刃部使用磨耗
登450	打製石斧	安山岩系	西側下層（植物遺体下層）	(79)	52	12	(75.5)	下半部、横剝ぎ、刃部僅か磨耗
登451	打製石斧	安山岩系	9層一括 No.89-6	(63)	49	14	(66.9)	下半部、横剝ぎ、短冊形
登452	打製石斧	安山岩系	ベルト北側1層下部	(92)	56	18	(116.9)	下半部、横剝ぎ、刃部僅か磨耗
登453	打製石斧	安山岩系	9層 No.66	(86)	54	9	(55.1)	下半部、縦剝ぎ、薄手
登454	打製石斧	安山岩系	最下層	(90)	68	12	(93.4)	下半部、横剝ぎ素材
登455	打製石斧	安山岩系	東側最下層	(59)	74	14	(71.0)	刃部片、横剝ぎ、刃部僅か磨耗
登456	打製石斧	安山岩系	下層 No.10	(81)	(62)	8	(50.9)	刃部片、横剝ぎ、薄手
登457	打製石斧	安山岩系	西側下層（植物遺体下層）	(82)	(37)	10	(44.8)	刃部片、横剝ぎ素材
登458	打製石斧	安山岩系	西側下層	(100)	72	13	(108.8)	上半部、横剝ぎ素材
登459	打製石斧	安山岩系	西側下層	(104)	60	15	(124.2)	中位、横剝ぎ素材
登460	打製石斧	安山岩系	P. 7	(115)	58	12	(67.1)	上半部、縦剝ぎ、薄手
登461	打製石斧	安山岩系	2層下 No.43	(68)	70	17	(126.5)	上半部、縦剝ぎ素材

縄文時代石器観察表 6

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
登462	打製石斧	頁岩	9層 No.90	(78)	89	9	(99.7)	下半部、横剝ぎ、刃部僅か磨耗
登463	打製石斧	頁岩	最下層部 No.42	(110)	71	11	(94.5)	下半部、縦剝ぎ素材
登464	打製石斧	頁岩	東側下層	(82)	73	16	(111.5)	下半部、横剝ぎ素材
登465	打製石斧	頁岩	西側植物遺体周辺下層	(82)	49	16	(69.0)	下半部、横剝ぎ、細身
登466	打製石斧	頁岩	No.66（9層）	(99)	97	12	(121.5)	下半部、横剝ぎ、刃部使用磨耗面
登467	打製石斧	頁岩	241-P16	(74)	62	20	(108.5)	上半部、横剝ぎ素材
登468	打製石斧	頁岩	東側最下層	(67)	56	14	(53.1)	下半部、横剝ぎ、やや使用磨耗
登469	打製石斧	頁岩	P 1	(46)	(52)	9	(21.6)	刃部片、横剝ぎ、やや使用磨耗
登470	打製石斧	緑泥片岩	西側上層	133	56	12	101.3	細身、粗製、横剝ぎ
登471	打製石斧	緑泥片岩	241-P16	(114)	60	23	(224.4)	下半部、縦剝ぎ素材
登472	打製石斧	緑泥片岩	9層 No.91	112	50	18	155.2	短冊形、横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
登473	打製石斧	緑泥片岩	2層下 No.54	117	54	11	100.1	短冊形、横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
登474	打製石斧	緑泥片岩	236-P6	105	82	17	180.3	寸詰まり撥形、刃部使用磨耗
登475	打製石斧	緑泥片岩	東西ベルト南側9層	(107)	69	17	(162.0)	下半部、横剝ぎ、使用磨耗面
登476	打製石斧	緑泥片岩	西側上層	(114)	65	13	(126.5)	上半部、横剝ぎ素材
登477	打製石斧	緑泥片岩	東下層	(80)	50	13	(69.6)	上半部、細身
登478	打製石斧	緑泥片岩	下層 No.35	(83)	67	9	(75.4)	下半部、横剝ぎ素材
登479	打製石斧	緑泥片岩	東西ベルト南側	(73)	58	10	(49.9)	小形楕円形、刃部使用磨耗面
登480	打製石斧	緑泥片岩	9層 No.59	(70)	65	7	(38.9)	刃部片、刃部使用磨耗面
登481	打製石斧	緑泥片岩	下層 No.34	(79)	54	6	(36.7)	薄手小形、刃部使用痕顕著
登482	打製石斧	緑泥片岩	西側下層（植物遺体下層）	(84)	(74)	11	(87.9)	中位、横剝ぎ素材
登483	打製石斧	緑泥片岩	植物遺体周辺下層	(110)	52	13	(86.3)	上半部、細身、横剝ぎ
登484	打製石斧	緑泥片岩	東西ベルト南側9層	(93)	52	9	(52.7)	上半部、横剝ぎ素材
登485	打製石斧	緑泥片岩	東側最下層	(65)	56	8	(51.9)	下半部、横剝ぎ、刃部使用磨耗
登486	打製石斧	緑泥片岩	西側上層	(79)	61	14	(108.8)	中位、磨製石斧の再利用品か
登487	打製石斧	緑泥片岩	東側最下層	(84)	75	14	(115.2)	中位、横剝ぎ素材
登488	打製石斧	緑泥片岩	西側下層	(52)	57	9	(42.7)	刃部片、使用磨耗幾らか
登489	打製石斧	緑泥片岩	1層下 No.64	(59)	40	12	(33.6)	細身小形類
登490	打製石斧	緑泥片岩	No.51	(73)	56	7	(31.4)	下半欠損剝片
登491	打製石斧	緑泥片岩	下層 No.33	(72)	35	9	(23.7)	細身小形下半部
3号落込状遺構								
217	打製石鏃	姫島産黒曜石	上層 No. 4	(26.9)	14.1	3.2	(1.2)	
218	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側砂層	(24.9)	13.1	5.0	(1.1)	
219	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	(21.9)	11.1	3.9	(0.6)	
220	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	(22..3)	14.2	4.1	(1.1)	
221	打製石鏃	姫島産黒曜石	8層 No.22	22.8	13.5	2.8	0.5	
222	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	22.3	14.0	3.9	0.8	
223	打製石鏃	サヌカイト	西側下層	(21.9)	15.7	3.6	(0.9)	
224	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	21.4	17.2	3.8	1.1	
225	打製石鏃	姫島産黒曜石	P 2	(14.0)	14.9	2.7	(0.5)	
226	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側砂層	27.7	16.0	3.0	(1.1)	
227	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側上層	24.6	13.2	4.9	1.4	
228	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側暗茶褐色土下層	30.8	12.9	3.0	1.1	
229	打製石鏃	サヌカイト	西側下層	30.6	13.2	3.1	(1.1)	
230	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	23.8	19.0	2.9	(0.8)	
231	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側下層砂層	22.9	13.9	3.0	(0.7)	
232	打製石鏃	チャート	西側最下層	(21.2)	13.9	3.7	(0.8)	
233	打製石鏃	姫島産黒曜石	杭140東側茶褐色土上層	(24.6)	12.5	2.9	(0.7)	
234	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	22.8	10.4	2.7	(0.6)	
235	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	22.9	15.7	3.1	(0.8)	
236	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	18.9	12.8	3.1	0.6	
237	打製石鏃	サヌカイト	西側上層	18.0	13.9	2.9	0.5	
238	打製石鏃	サヌカイト	落込3付近表採	19.0	13.9	2.2	0.6	

縄文時代石器観察表 7

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
239	打製石鏃	サヌカイト	段落部下層	(13.7)	14.9	2.0	(0.4)	
240	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	(12.2)	15.3	3.6	(0.6)	
241	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側上層	(15.7)	14.0	2.9	(0.5)	
242	打製石鏃	姫島産黒曜石	段落部下層	17.1	13.3	3.0	0.6	
243	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側上層	(16.9)	12.9	2.0	(0.5)	
244	打製石鏃	姫島産黒曜石	No.19	(16.9)	12.0	2.0	(0.4)	
245	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側上層	19.2	13.0	2.8	(0.4)	
246	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側黄茶褐色砂質土	18.9	15.1	2.6	0.7	
247	打製石鏃	姫島産黒曜石	南側下層	(15.7)	14.0	2.9	(0.6)	
248	打製石鏃	サヌカイト	段落部最下層	(15.1)	14.6	3.0	(0.5)	
249	打製石鏃	姫島産黒曜石	No.20	17.6	12.1	4.6	0.8	
250	打製石鏃	姫島産黒曜石	杭140東側茶褐色上層	(13.1)	15.9	4.1	(0.6)	
251	打製石鏃	姫島産黒曜石	東側砂層	(16.9)	18.4	2.7	(0.6)	
252	打製石鏃	姫島産黒曜石	西側下層	(17.4)	15.2	3.0	(0.7)	
253	石錐？	姫島産黒曜石		(22.1)	25.7	5.9	(3.1)	
254	石錐	姫島産黒曜石	Ｂ４層 No.17	(23.3)	15.4	3.9	(1.0)	
255	石錐	姫島産黒曜石	東側最下層	(27.9)	21.5	6.0	(2.8)	
256	異形石器	姫島産黒曜石	段落部上層 No. 9	(57.9)	17.2	6.6	(5.5)	
257	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側砂層	26.8	15.9	4.8	2.3	
258	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側砂層	22.9	16.8	4.9	1.9	
259	スクレイパー	姫島産黒曜石	西側下層	34.1	22.8	10.1	5.6	
260	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側最下層	30.6	18.6	7.0	4.2	
261	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側暗茶褐色土	24.4	24.3	7.9	4.1	
262	スクレイパー	姫島産黒曜石	土層Ｂ６層	34.0	28.2	9.8	10.0	
263	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側最下層	31.3	30.1	12.2	9.8	
264	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側最下層	51.1	49.0	8.9	23.5	
265	スクレイパー	サヌカイト	東側砂層	54.0	29.2	5.6	8.1	
266	スクレイパー	サヌカイト		49.1	(40.5)	7.0	(13.9)	
267	スクレイパー	姫島産黒曜石	杭140東側茶褐色上層	48.1	43.2	13.6	22.0	
268	スクレイパー	姫島産黒曜石	東側砂層	56.9	45.1	7.2	(13.8)	
269	スクレイパー	サヌカイト	西側下層	(66.7)	(43.0)	12.9	(46.9)	
270	スクレイパー	姫島産黒曜石		97.6	40.1	14.9	46.6	
271	スクレイパー	サヌカイト	西側暗茶褐色土下層	95.1	(42.7)	19.6	(77.0)	
272	スクレイパー	安山岩系	試掘１トレ灰色砂	84.6	55.1	16.9	105.1	
273	石核	姫島産黒曜石	東側最下層（砂層）	52.6	51.8	36.1	119.4	
274	磨製石斧	蛇文岩	東側下層	(99)	64	10	(113.9)	裏は欠損後簡単に研磨
275	磨製石斧	緑泥片岩	下層 No.12	(114)	(62)	12	(93.9)	幾らか敲打痕残す
276	磨製石斧	蛇文岩	灰色砂	(121)	53	27	(271.1)	全体に反り身となる類
277	打製石斧	緑泥片岩	灰色砂	104	52	11	95.7	裏は横剝ぎ、使用磨耗僅か
278	打製石斧	緑泥片岩	杭140東側茶褐色落込上層	111	56	18	150.0	裏下半に横剝ぎ素材面残す
279	打製石斧	緑泥片岩	東側砂層	(111)	42	13	(80.6)	細身類、反り身
280	打製石斧	緑泥片岩	東側最下層	121	48	13	104.1	両側縁に敲打部
281	打製石斧	安山岩系	東側最下層	(101)	74	13	(115.9)	裏は自然面、刃部使用磨耗
282	打製石斧	頁岩	西側黄茶褐色砂質土	(110)	62	12	(120.4)	裏は横剝ぎ、使用擦痕明瞭
283	打製石斧	安山岩系	東側下層	(99)	86	18	(178.6)	裏は横剝ぎ、使用磨耗僅か
284	打製石斧	片岩系	西側下層	(121)	61	16	(167.9)	左下側面使用磨耗
285	打製石斧	頁岩	下層（砂層） No.15	(138)	81	17	(228.6)	裏下半に横剝ぎ素材面残す
286	打製石斧	安山岩系	西側暗茶褐色土下層	128	84	17	255.9	裏は横剝ぎ、使用磨耗僅か
287	打製石斧	頁岩	西側下層	150	90	14	228.2	裏は横剝ぎ、刃部使用磨耗
288	円盤形石器	緑泥片岩	下層 No. 8	80	75	12	95.8	裏は素材剝離面大きく残す
289	円盤形石器	安山岩系	西側暗茶褐色土下層	82	72	22	183.7	裏中央にも自然面
290	石鎌形石器	緑泥片岩	東側下層（砂層） No.14	(149)	65	16	(180.6)	両側縁に研磨面取り部分
291	石錘	安山岩	西側最下層	43	31	12	19.8	

縄文時代石器観察表 8

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
292	石錘	安山岩	西側上層	(45)	(38)	13	(29.4)	
293	石錘	輝石安山岩	段落部下層	45	41	17	35.5	
294	石錘	輝石安山岩	西側上層	47	42	14	40.1	
295	石錘	凝灰岩	西側下層	48	42	13	35.3	
296	石錘	凝灰岩	西側上層	48	39	15	46.4	
297	石錘	凝灰岩	西側上層	50	34	16	41.8	
298	石錘	凝灰岩	西側黄茶褐色砂質土	51	33	12	24.8	
299	石錘	凝灰岩	上層	51	44	21	65.5	
300	石錘	輝石安山岩	試掘1トレ灰色砂	51	37	14	51.8	
301	石錘	凝灰岩	段落部最下層	53	51	26	116.1	
302	石錘	輝石安山岩	西側黄茶褐色砂質土	54	48	24	78.9	
303	石錘	安山岩	東側下層	54	50	14	55.0	
304	石錘	凝灰岩	西側黄茶褐色砂質土	55	(45)	17	(49.1)	
305	石錘	輝石安山岩	西側下層	55	49	20	68.1	
306	石錘	安山岩	東側砂層	55	48	16	63.2	
307	石錘	安山岩	段落部最下層	57	51	17	82.0	
308	石錘	安山岩	東側下層	57	53	20	92.3	
309	石錘	凝灰岩	段落部最下層	57	51	17	59.4	
310	石錘	安山岩	西側上層	58	48	16	52.5	
311	石錘	安山岩	255-P-5	59	50	20	97.6	
312	石錘	安山岩	西側黄茶褐色砂質土	60	38	21	66.5	
313	石錘	凝灰岩	最下層	61	58	20	111.3	
314	石錘	凝灰岩	西側上層	62	46	21	87.3	
315	石錘	輝石安山岩	段落部下層	62	47	24	106.3	
316	石錘	凝灰岩	西側上層	64	56	18	109.5	縦長素材使用
317	石錘	輝石安山岩	西側下層	71	51	17	91.9	
318	石錘	安山岩	東側暗茶褐色土下層	(72)	56	24	(141.8)	
319	石錘	輝石安山岩	西側黄茶褐色砂質土	74	63	21	133.6	縦長素材使用
320	磨石	結晶片岩	1トレ灰色砂	82	35	18	85.4	
321	磨石	輝石安山岩	南側最下層	31	29	31	35.6	土器研磨用か？
322	磨石	輝石安山岩	西側暗茶褐色土下層	39	27	28.5	36.2	土器研磨用か？
323	磨石	安山岩	南側最下層	34.5	26.5	23	31.8	土器研磨用か？
324	磨石	凝灰岩	段落部上層	85	(66)	21.5	(126.6)	
325	磨石	安山岩	西側黄茶褐色砂質土	76	72.5	33	272.4	
326	磨石	凝灰岩	東側最下層	88	78	32	239.9	
327	磨石	凝灰岩	東側砂層	90	80	42	376.7	
328	磨石	輝石安山岩	東側砂層	(52)	(87)	32	(213.0)	
329	磨石	安山岩	杭140東側茶褐色土上層	84	82	27	258.3	
330	磨石	輝石安山岩	西側下層	(63)	85	(58.5)	(374.1)	
331	磨石	輝石安山岩	西側上層	(97)	(74)	53	(379.6)	
332	磨石	安山岩	西側暗茶褐色土下層	112	(94)	54	(1026.0)	
333	磨石	安山岩	南側最下層	106	82	49	605.9	
334	磨石	安山岩	西側上層	(96.5)	96.5	49	(727.6)	
335	磨石	安山岩	西側暗茶褐色土下層	(89)	87.5	55	(515.2)	
336	磨石	安山岩	西側上層	114.0	83.5	43	679.7	
337	磨石	凝灰岩	西側黄茶褐色砂質土	115.5	91.5	26	300.4	
338	磨石	安山岩	西側下層	121	113	38	655.9	
339	磨石	凝灰岩	西側上層	109	63	40	373.2	
340	磨石	輝石安山岩	上層	144	72	45	442.0	
341	磨石	安山岩	西側下層	136	64	37	749.4	
342	磨石	輝石安山岩	東側最下層	89	(61)	38	(281.5)	
343	敲石	安山岩	西側黄茶褐色砂質土	128	107	69	1351.5	表裏とも使用、石錘として再利用
344	砥石	凝灰岩	西側下層	(212)	(143)	(38)	(1345.8)	

縄文時代石器観察表 9

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
345	台石	凝灰岩	西側上層	(205)	142	25	(1340.0)	
登492	打製石斧	安山岩系	東側最下層	124	80	11	186.3	楕円形、横剥ぎ、刃部僅か使用磨耗
登493	打製石斧	安山岩系	西側上層	154	79	12	162.7	横剥ぎ、刃部僅か使用磨耗
登494	打製石斧	安山岩系	東側砂層	(112)	(83)	12	(134.9)	大形、横剥ぎ、刃部使用磨耗
登495	打製石斧	安山岩系	最下層	(95)	(69)	9	(96.1)	大形、横剥ぎ、刃部僅か使用磨耗
登496	打製石斧	安山岩系	西側下層	(86)	88	11	(104.6)	下半部、横剥ぎ、刃部僅か使用磨耗
登497	打製石斧	安山岩系	東側上層	(93)	(54)	15	(111.6)	下半部片、横剥ぎ素材
登498	打製石斧	安山岩系	東側最下層	(92)	62	14	(87.3)	下半部、刃部僅か使用磨耗
登499	打製石斧	安山岩系	西側下層	(88)	54	13	(79.8)	下半部、横剥ぎ、刃部使用磨耗
登500	打製石斧	安山岩系	東側下層（砂層） No.13	(122)	77	20	(196.5)	下半部、横剥ぎ素材
登501	打製石斧	安山岩系	東側下層	(72)	(76)	10	(61.9)	刃部片、横剥ぎ素材
登502	打製石斧	安山岩系	灰色砂	(83)	(69)	8	(59.3)	刃部片、横剥ぎ素材
登503	打製石斧	安山岩系	No.21	(55)	75	7	(41.3)	刃部片、縦剥ぎか
登504	打製石斧	安山岩系	No.18	(75)	70	16	(104.4)	下半部、横剥ぎ素材
登505	打製石斧	安山岩系	東側砂層	(62)	84	13	(94.0)	下半部、横剥ぎ、刃部僅か使用磨耗
登506	打製石斧	頁岩	西側暗茶褐色土下層	(71)	(62)	8	(45.4)	上半部、横剥ぎ素材
登507	打製石斧	頁岩	東側砂層	(63)	49	15	(47.2)	下半部、細身、横剥ぎ
登508	打製石斧	緑泥片岩	灰色砂	(113)	45	16	(114.7)	上半部、細身、横剥ぎ
登509	打製石斧	緑泥片岩	西側黄茶褐色砂質土	(114)	65	10	(99.0)	下半部、短冊形、横剥ぎ
登510	打製石斧	緑泥片岩	東側暗茶褐色土下層	(113)	71	11	(93.8)	下半部、横剥ぎ素材
登511	打製石斧	緑泥片岩	段落部下層	(106)	46	13	(91.1)	上半部、細身、横剥ぎ
登512	打製石斧	緑泥片岩	西側下層	(87)	48	11	(57.0)	下半部、縦剥ぎ、小形
登513	打製石斧	緑泥片岩	東側上層	(122)	72	12	(163.2)	中位、表裏に意図した研磨面あり
登514	打製石斧	緑泥片岩	西側上層	(86)	69	8	(77.0)	中位、横剥ぎ、薄手
登515	打製石斧	緑泥片岩	西側上層	(72)	53	7	(46.7)	下半部、薄手、小形
登516	打製石斧	緑泥片岩	東側上層	93	49	7	50.0	横剥ぎ、小形
登517	打製石斧	緑泥片岩	灰色砂	(96)	52	13	(100.6)	中位、横剥ぎ素材
登518	打製石斧	緑泥片岩	東側最下層	(77)	(67)	11	(90.4)	中位、一部使用磨耗
登519	打製石斧	緑泥片岩	灰色砂	(61)	65	8	(53.4)	刃部片、使用磨耗顕著
登520	打製石斧	緑泥片岩	西側暗茶褐色土下層	(53)	57	13	(69.6)	中位、横剥ぎ素材
登521	打製石斧	緑泥片岩	東側下層	(85)	(40)	7	(34.3)	刃部片、横剥ぎ素材
登522	打製石斧	緑泥片岩	東側最下層	(75)	61	11	(74.0)	下半部、横剥ぎ素材
その他の遺構								
346	異形石器	腰岳系黒曜石	236-P5	16.8	14.8	3.1	0.9	
347	打製石鏃	姫島産黒曜石	2号大溝下層	15.0	14.1	3.1	0.5	
348	打製石鏃	姫島産黒曜石	表採	(23.4)	17.6	3.8	1.1	
349	打製石鏃	サヌカイト	杭106の東側表土	(19.8)	17.0	3.0	(0.5)	
350	打製石鏃	姫島産黒曜石	255-P5	(21.6)	13.2	4.0	(0.9)	
351	打製石鏃	姫島産黒曜石	44号土坑	(17.1)	12.3	3.4	(0.7)	
352	打製石鏃	姫島産黒曜石	2号大溝黒色土上層	(17.7)	15.0	3.6	(0.7)	
353	打製石鏃	姫島産黒曜石	246　18号建. P-16	(26.2)	16.1	3.0	(0.7)	
354	打製石鏃	姫島産黒曜石	杭P-4付近表採	(24.2)	(14.9)	3.0	(1.1)	
355	打製石鏃	腰岳系黒曜石	246　18号建. P-16	(20.9)	21.5	3.3	(1.2)	
356	打製石鏃	姫島産黒曜石	236-P5	18.8	15.0	3.4	0.7	
357	打製石鏃	姫島産黒曜石	2号大溝上層	(11.5)	18.2	2.9	(0.6)	
358	打製石鏃	腰岳系黒曜石	2号大溝下層	(14.2)	16.2	4.8	(0.7)	
359	打製石鏃	姫島産黒曜石	44号土坑	18.1	19.7	3.9	0.9	
360	打製石鏃	姫島産黒曜石	40号土坑掘形内	16.1	(11.4)	2.9	(0.5)	
361	打製石鏃	姫島産黒曜石	2号大溝黒褐色土下層	(22.1)	15.4	4.2	(1.3)	
362	打製石鏃	腰岳系黒曜石	茶褐色土層	(16.2)	17.1	5.5	(0.6)	
363	打製石鏃	姫島産黒曜石	232　P-7	15.4	14.0	2.6	0.6	
364	打製石鏃	姫島産黒曜石	2号大溝黒色土	17.9	14.9	5.8	0.8	
365	打製石鏃	サヌカイト	21号溝	16.2	12.1	2.2	(0.4)	

縄文時代石器観察表 10

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
366	打製石鏃	姫島産黒曜石	2号大溝黒褐色土下層	16.0	15.9	3.2	0.8	
367	尖頭器	サヌカイト	1号試掘トレ灰色砂	(31.6)	17.2	5.9	(3.1)	
368	石錐	姫島産黒曜石	2号大溝黒褐色土上層	22.1	12.2	5.5	1.5	使用磨耗痕が残る
369	石錐	姫島産黒曜石	2号大溝西側上層	29.0	21.9	12.6	4.8	
370	スクレイパー	姫島産黒曜石	2号大溝	25.0	19.0	6.2	3.8	
371	石匙	サヌカイト	26号溝	57.2	20.0	9.2	10.5	
372	スクレイパー	姫島産黒曜石	2号大溝黒褐色土上層	(21.0)	(16.1)	5.9	(1.6)	
373	スクレイパー	腰岳系黒曜石	40号土坑	23.0	14.0	9.0	2.5	
374	スクレイパー	姫島産黒曜石	40号土坑	31.4	10.0	10.0	7.0	
375	スクレイパー	姫島産黒曜石	2号大溝西側上層	27.0	21.6	7.0	4.3	
376	スクレイパー	腰岳系黒曜石	1号試掘トレ灰色砂	(32.9)	19.8	7.0	(5.0)	
377	スクレイパー	腰岳系黒曜石	7号住上層	31.2	25.2	5.9	3.2	
378	スクレイパー	姫島産黒曜石	40号土坑	41.0	27.0	11.7	12.4	
379	スクレイパー	姫島産黒曜石	2号大溝	43.8	36.6	7.0	20.3	
380	スクレイパー	チャート系	南区包含層	27.1	19.2	7.8	5.9	
381	磨製石斧	蛇文岩	2号大溝8区茶褐色土	(66)	50	14	(74.3)	裏欠損後再使用、刃部使用痕顕著
382	磨製石斧	頁岩	5号集石上層	(89)	45	29	(138.3)	全面風化著しい
383	磨製石斧	蛇文岩	26号溝	(105)	(52)	(20)	(154.0)	裏刃部のみ研磨、再利用品
384	磨製石斧	蛇文岩	2号大溝14区上層	114	43	13	112.6	刃部使用痕明瞭
385	磨製石斧？	緑泥片岩	2号大溝17･18区上層	(88)	70	10	(81.6)	全面研磨、異器種か
386	磨製石斧	蛇文岩	2号大溝18区上層	(102)	54	20	(188.4)	左側面面取り、刃部潰れ
387	磨製石斧	蛇文岩	40号土坑	(98)	73	(26)	(247.5)	破損後、裏縁辺調整剝離
388	磨製石斧	蛇文岩	168-P18	(128)	55	30	(279.3)	原材凹部・剝離面を残す
389	磨製石斧	蛇文岩	35号土坑	(119)	(68)	(28)	(314.0)	全面風化
390	磨製石斧	蛇文岩	13号溝1区上層	(114)	76	34	(488.3)	全面丁寧に研磨
391	磨製石斧	蛇文岩	註記なし	146	54	24	302.1	丁寧に研磨
392	打製石斧	緑泥片岩	註記なし	93	43	11	60.5	裏は横剝ぎ、両面使用磨耗面
393	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝18区上層	90	44	11	66.2	裏は横剝ぎ、刃部使用磨耗
394	打製石斧	安山岩系	2号大溝11区下層	(76)	66	8	(55.3)	裏も横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
395	打製石斧	安山岩系	26号溝（杭125南側）	110	55	10	72.9	裏は横剝ぎ、刃部使用磨耗
396	打製石斧	安山岩系	杭135-139東側段落	109	65	15	147.7	裏は横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
397	打製石斧	安山岩系	2号大溝18区	(124)	96	16	(244.6)	裏は自然面、刃部僅か使用磨耗
398	打製石斧	安山岩系	2号大溝18区上層	141	84	15	271.6	裏は横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
399	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝18区	149	62	19	240.8	裏は自然面、意図した研磨面
400	打製石斧	安山岩系	26号溝（杭125南側）	165	79	16	283.7	裏は横剝ぎ、刃部僅か使用磨耗
401	石鎌形石器	緑泥片岩	2号大溝18区上層	(162)	66	12	(189.5)	両側縁は面取研磨
402	打製石斧	安山岩系	43号土坑下層	161	87	16	294.8	裏は横剝ぎ、刃部使用痕明瞭
403	円盤形石製品	安山岩	2号大溝11区下層	76.5	72.5	16.2	108.5	
404	円盤形石製品	片岩	2号大溝13区下層	(78.8)	78.0	7.2	(120.5)	
405	円盤形石製品	安山岩系	14号大溝区上層	79.2	(68.5)	8.9	(61.4)	
406	円盤形石製品	安山岩系	2号大溝18区上層	92.0	85.9	12.0	(139.4)	
407	打製石斧	黒色片岩	2号大溝7区黒褐色土上層	(75.4)	50.8	7.5	(51.2)	下端部は欠損かどうか判断できず
408	石錘	安山岩	2号大溝	51	34	17	37.6	
409	石錘	凝灰岩	2号大溝6区黒褐色土上層	56	47	17	73.0	
410	石錘	輝石安山岩	2号大溝11区下層	47	54	15	56.6	縦長素材使用
411	石錘	輝石安山岩	27号溝	55	49	17	71.2	
412	石錘	流紋岩	杭136-139東側段落	71	(70)	15	(94.3)	縦長素材使用
413	磨石	安山岩	2号大溝12～13区ベルト深掘り	41.5	35	26	48.5	土器研磨用か？
414	砥石	安山岩	西側上層	(140)	78	57	(860.2)	
登523	打製石斧	安山岩系	2号大溝13区上層	(113)	80	16	(192.9)	下半部、横剝ぎ、刃部やや磨耗
登524	打製石斧	安山岩系	2号大溝13区下層	112	69	19	187.7	横剝ぎ、刃部かなり使用磨耗
登525	打製石斧	安山岩系	2号大溝18区上層	(73)	76	18	(172.4)	中位、横剝ぎ素材
登526	打製石斧	安山岩系	26号溝	(67)	66	18	(98.3)	下半部、横剝ぎ、刃部僅か磨耗

縄文石器観察表 11

図番号	器種	石材	出土遺構	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
登527	打製石斧	安山岩系	26号溝	(98)	65	18	(155.5)	下半部、横剝ぎ素材
登528	打製石斧	安山岩系	26号溝東側下層	(81)	57	10	(78.4)	下半部、横剝ぎ、刃部僅か使用磨耗
登529	打製石斧	安山岩系	註記なし	(80)	(56)	11	(64.0)	下半部、横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
登530	打製石斧	安山岩系	杭73区新期落ち	101	56	18	113.4	縦剝ぎ素材
登531	打製石斧	安山岩系	13号溝1区上層	(97)	94	11	(149.0)	下半部、縦剝ぎ素材
登532	打製石斧	安山岩系	P13南側採集	(101)	71	16	(146.0)	中位、表面風化
登533	打製石斧	安山岩系	10号溝3区上層	95	54	16	85.0	小形、横剝ぎ
登534	打製石斧	頁岩	2号大溝14区上層	124	61	14	149.9	横剝ぎ、刃部使用磨耗面
登535	打製石斧	頁岩	2号大溝18区	(75)	56	18	(84.2)	下半部、横剝ぎ、刃部使用磨耗面
登536	打製石斧	頁岩	40号土坑掘形内	(89)	58	14	(106.1)	下半部、縦剝ぎ、刃部使用磨耗僅か
登537	打製石斧	頁岩	2号大溝14区上層	(50)	50	9	(32.7)	刃部片、やや使用磨耗
登538	打製石斧	緑泥片岩	26号溝（杭125南側）	131	64	18	163.8	横剝ぎ、刃部使用磨耗
登539	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝12区上層	(95)	80	13	(148.8)	中位、横剝ぎ素材
登540	打製石斧	緑泥片岩	44号土坑	(81)	77	12	(117.3)	下半部、横剝ぎ素材
登541	打製石斧	緑泥片岩	表採	(83)	62	9	(83.9)	下半部、縦剝ぎ、一部使用磨耗面
登542	打製石斧	緑泥片岩	44号土坑下層	(102)	(69)	13	(118.3)	上半部、横剝ぎ素材
登543	打製石斧	緑泥片岩	杭125-139　東側段落	106	73	15	168.2	横剝ぎ素材
登544	打製石斧	緑泥片岩	P13の南側採集	(117)	62	12	(132.9)	基部欠、刃部やや使用磨耗
登545	打製石斧	緑泥片岩	26号溝東側下層	(81)	60	13	(77.3)	下半部、横剝ぎ、刃部やや使用磨耗
登546	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝11区下層	(94)	(65)	11	(111.5)	上半部、横剝ぎ素材
登547	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝13区下層	(81)	76	16	(134.5)	下半部、横剝ぎ、使用磨耗面
登548	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝13区上層	(87)	56	11	(78.0)	刃部欠、小形、横剝ぎ
登549	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝13区上層	(71)	50	12	(64.4)	上半部、細身、表裏意図的研磨
登550	打製石斧	緑泥片岩	2号大溝18区	(100)	43	11	(58.2)	細身、横剝ぎ
登551	打製石斧	緑泥片岩	13号溝2区上層	(74)	51	13	(73.2)	下半部、細身、やや使用磨耗
登552	打製石斧	緑泥片岩	杭135-139　東側段落	(77)	48	10	(50.0)	中位、細身、横剝ぎ、使用磨耗面
登553	打製石斧	緑泥片岩	26号溝東側下層	(67)	56	9	(45.7)	下半部、刃部使用磨耗面研著

※図番号の登は登録番号の意。その他の図番号は登録番号と一致する。

図　　版

1　了清遺跡全景
（北から・空中写真）

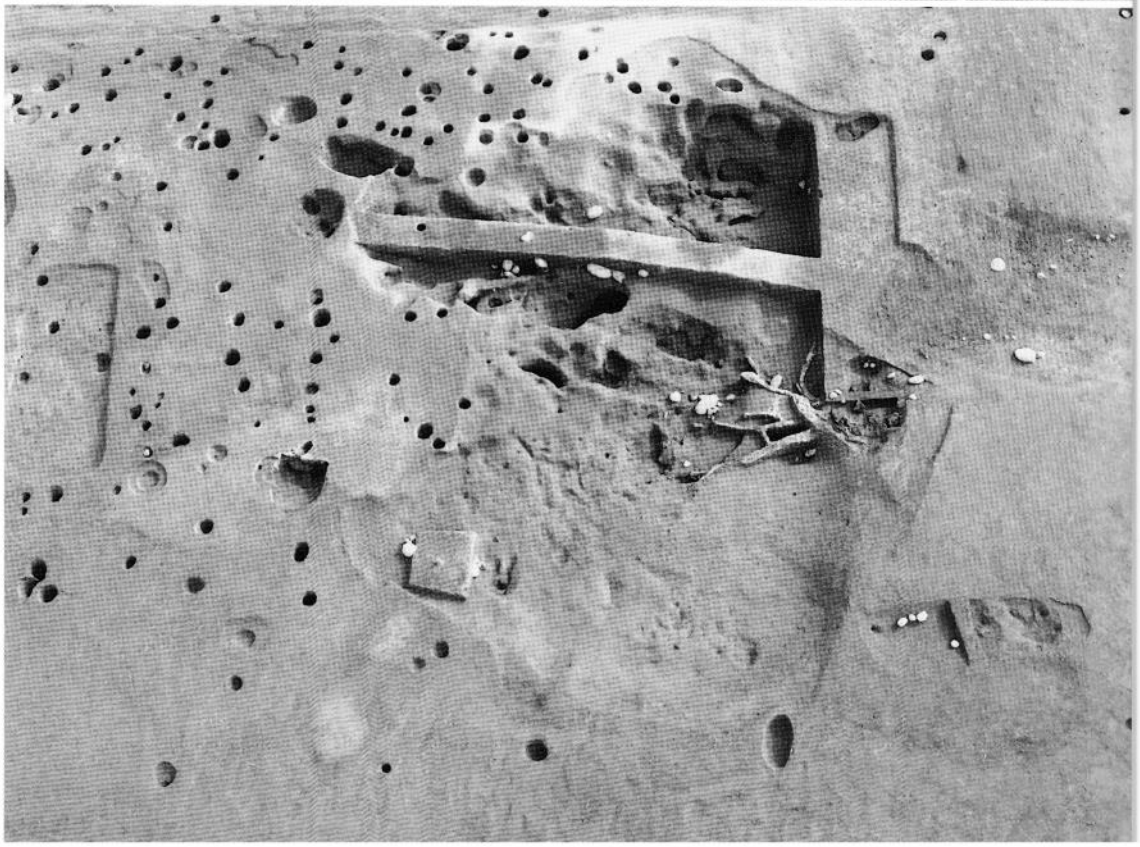
2　了清遺跡 2 区全景
（西から・空中写真）

2　了清遺跡
3－1区全景
(左が北・空中写真)

3　了清遺跡
3－2区全景
(北西から・空中写真)

1　1号落込状遺構
全景
(右が北・空中写真)

2　同上 土層
(東から)



3　2号落込状遺構
全景
(左が北・空中写真)

図版 4

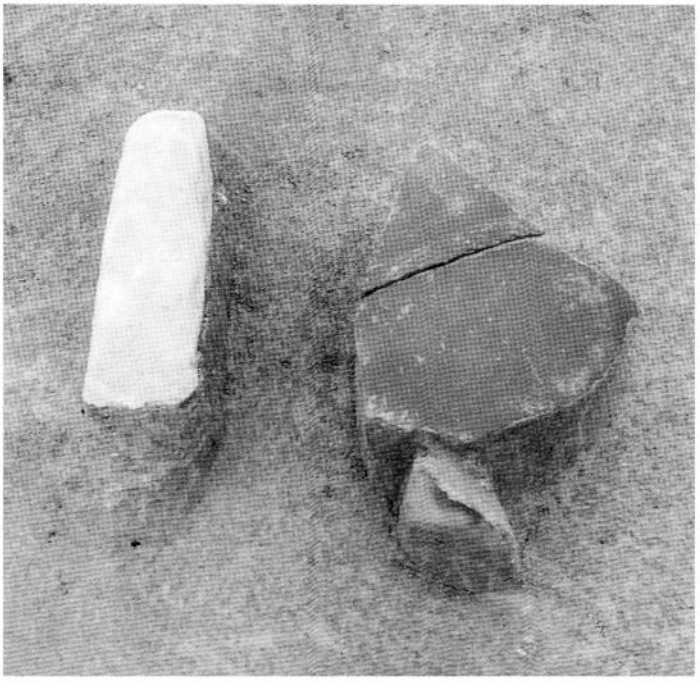
1　2号落込状遺構
最下層ピット
（東から）

2　同上
植物遺体検出状況
（西から）

3　同上
9層遺物出土状況
（北から）

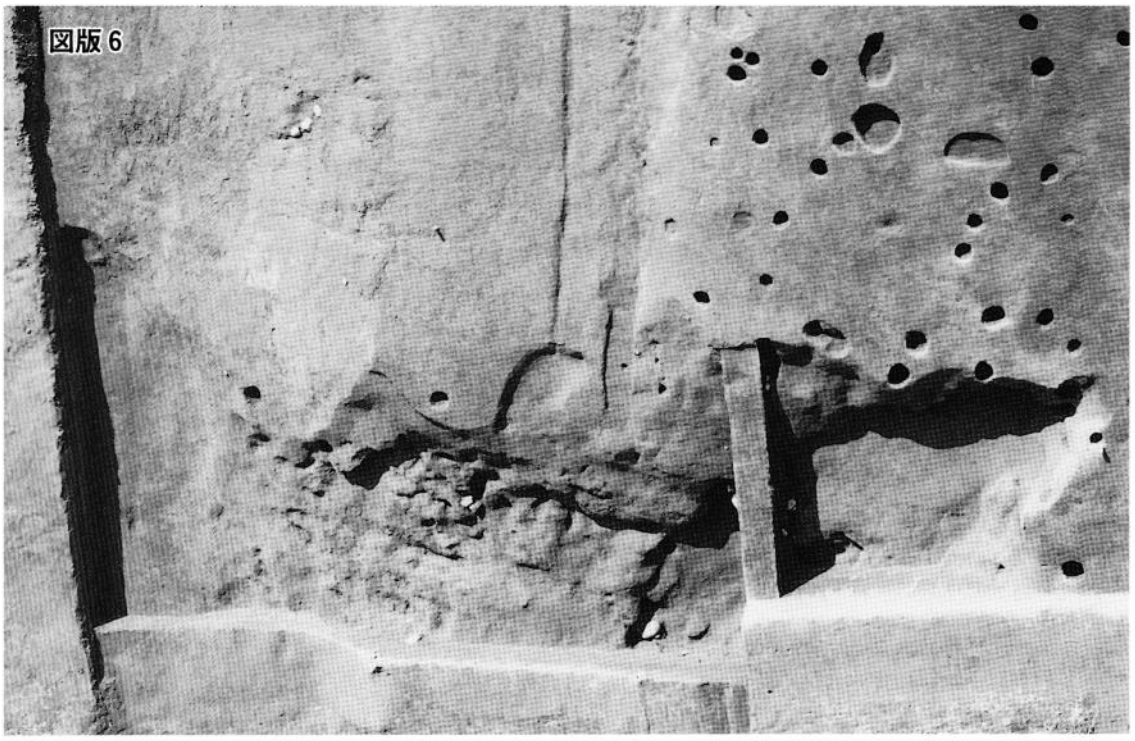
1　2号落込状遺構
遺物出土状況 1

2　同上
遺物出土状況 2



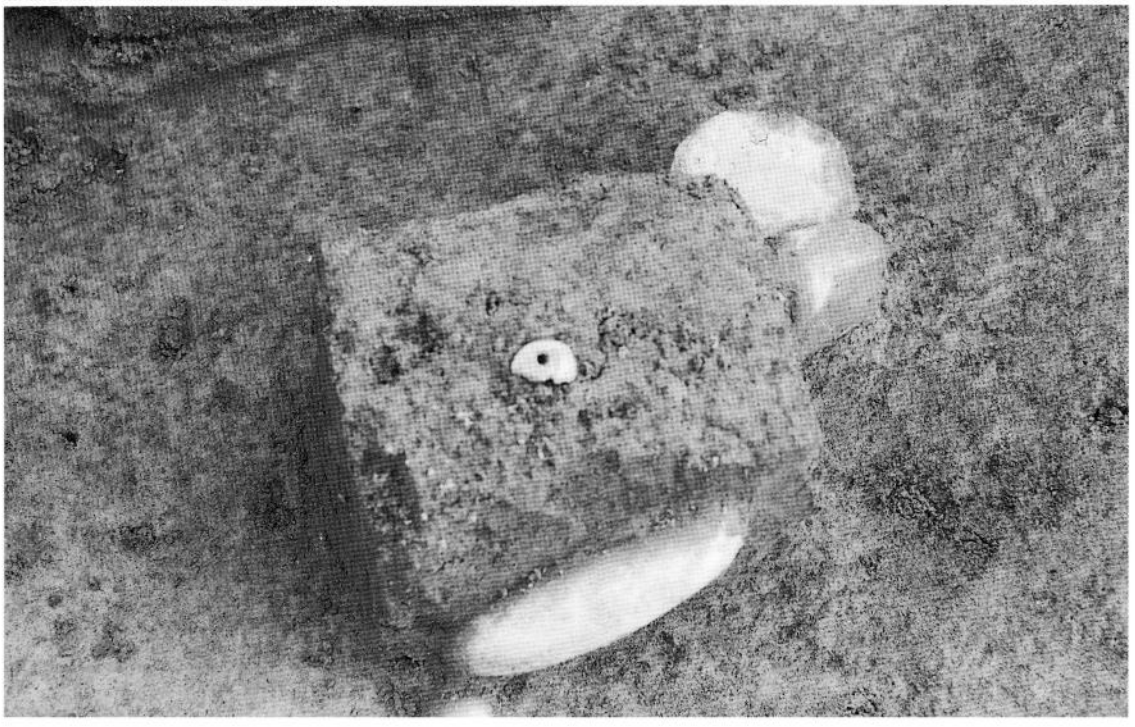
3　同上
遺物出土状況 3

図版 6



1　3号落込状遺構
全景
(下が北・空中写真)

2　同上 土層
(東から)



3　同上 遺物
出土状況

1　1号住居跡
（東から）

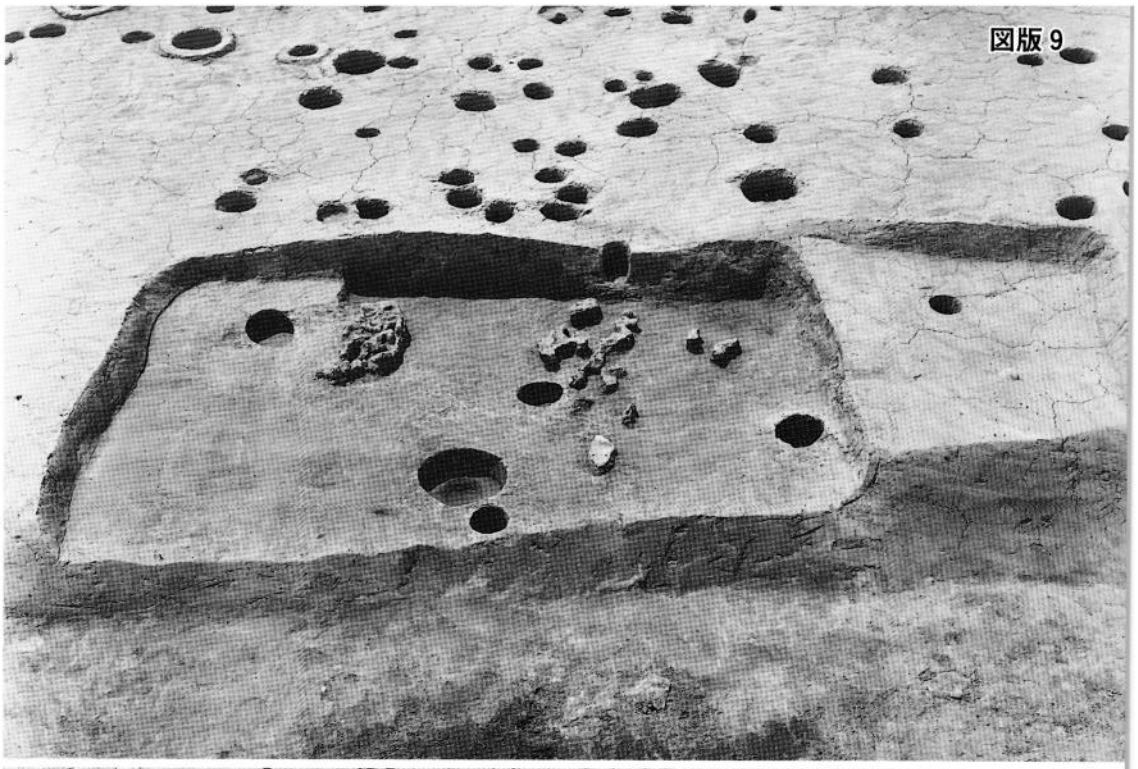
2　同上 遺物出土状況
（北西から）

3　3号住居跡
（東から）

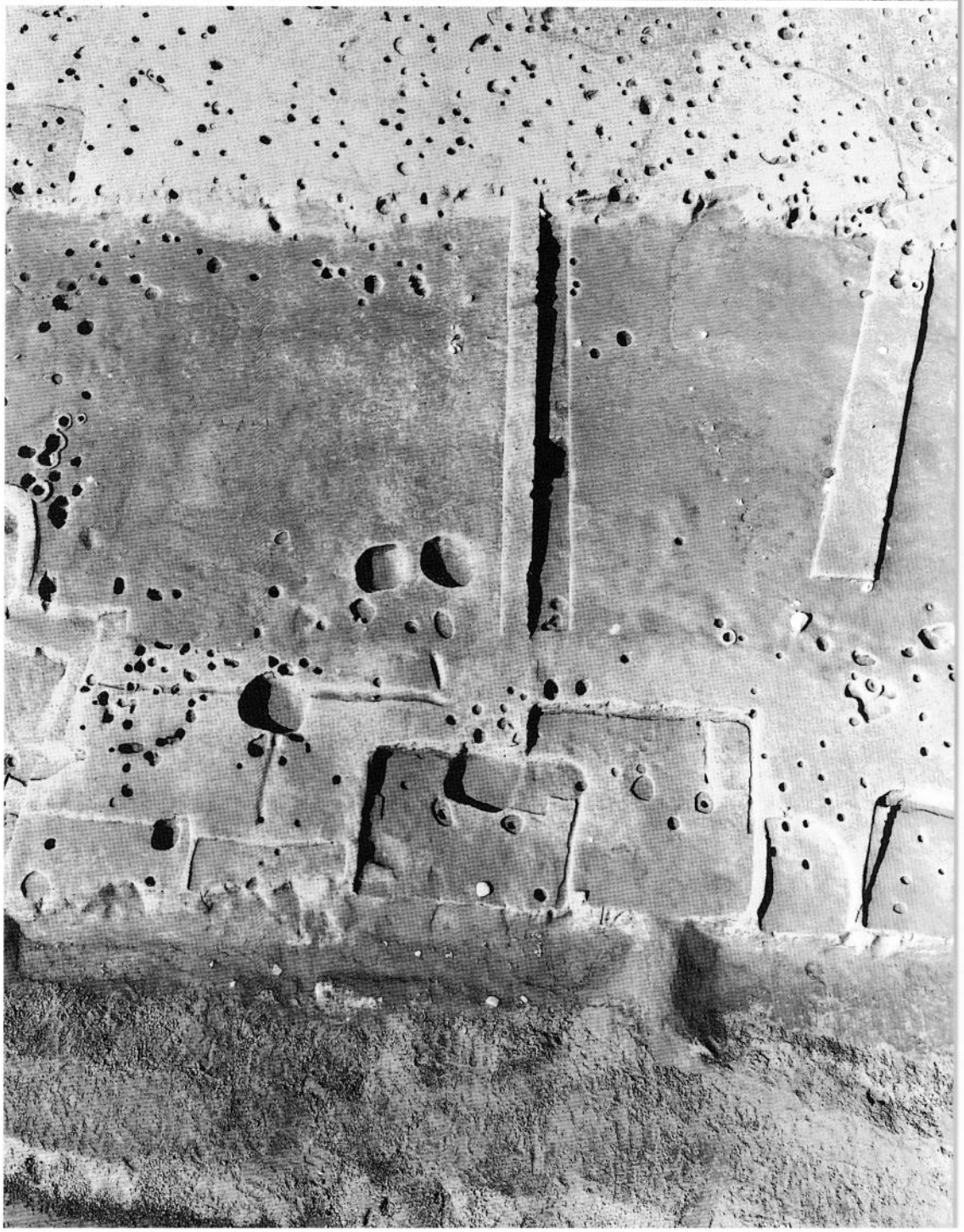
図版8

1　3－1区南半部
住居跡群
(空中写真・右が北)

2　4・5・6号
住居跡
(北東から)



1　7号住居跡
（東から）

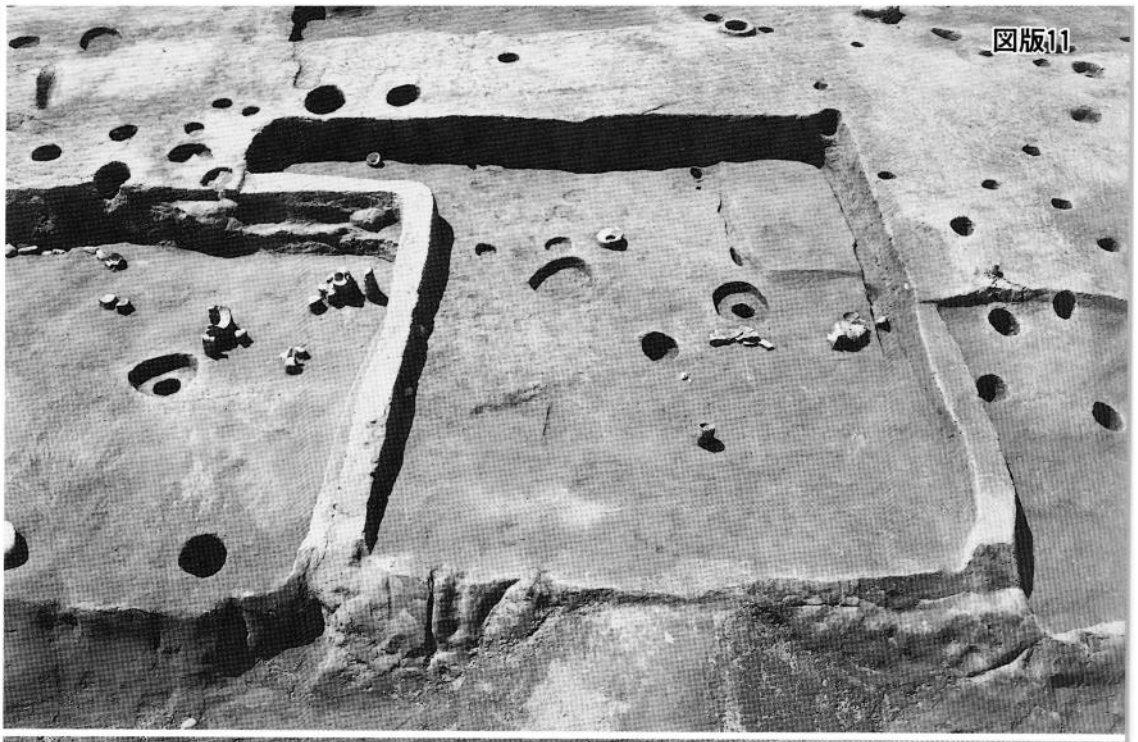


2　8～11号住居跡
（空中写真・右が北）

1　8号住居跡
（東から）

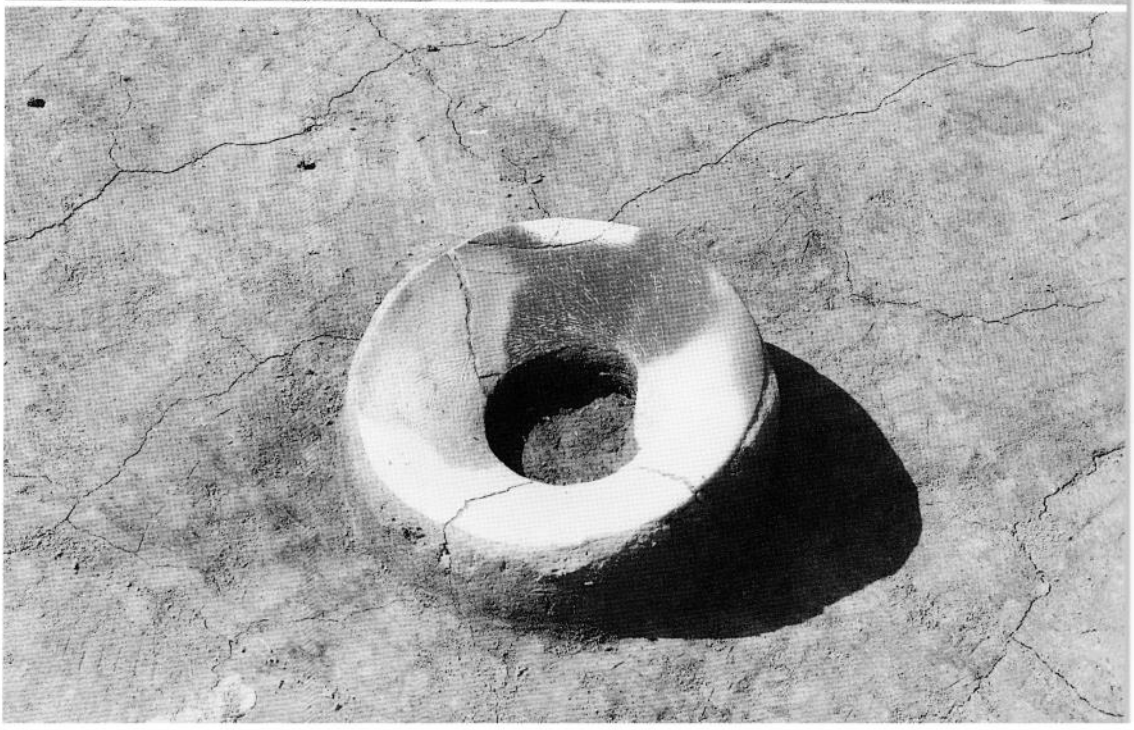
2　同上 遺物出土状況
（東から）

3　同上 遺物出土状況
（北から）



1　9号住居跡
（東から）

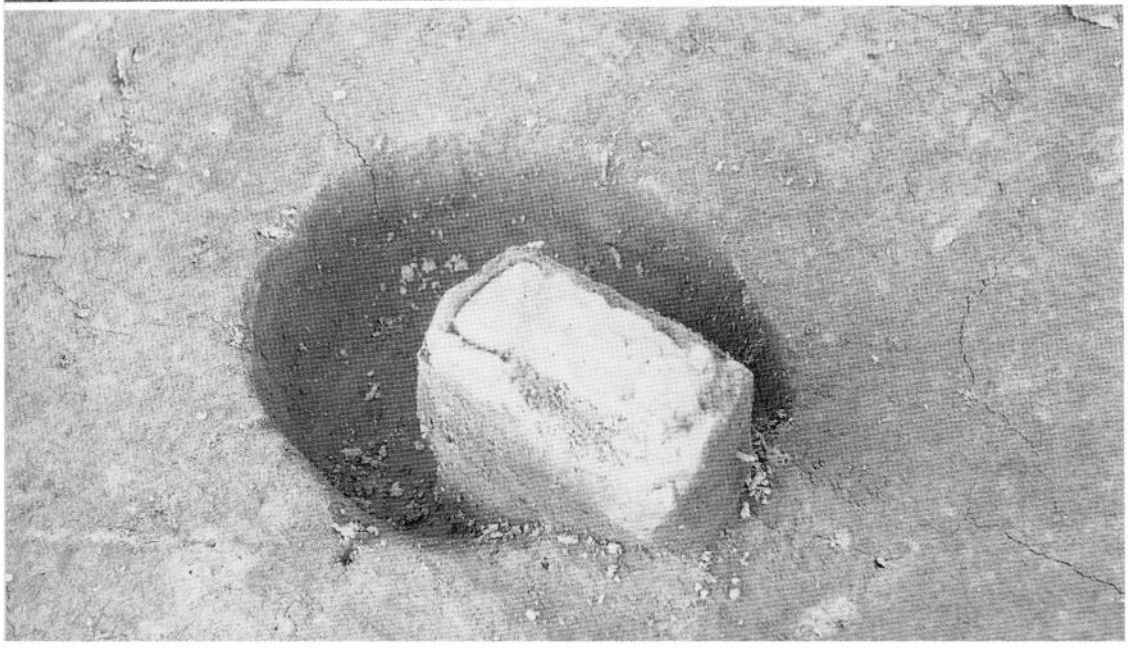
2　同上 遺物出土状況
（南西から）



3　同上 遺物出土状況
（東から）

1　10・11号住居跡
（北東から）

2　12・13・18号住居跡
（東から）



3　12号住居跡
遺物出土状況
（南西から）

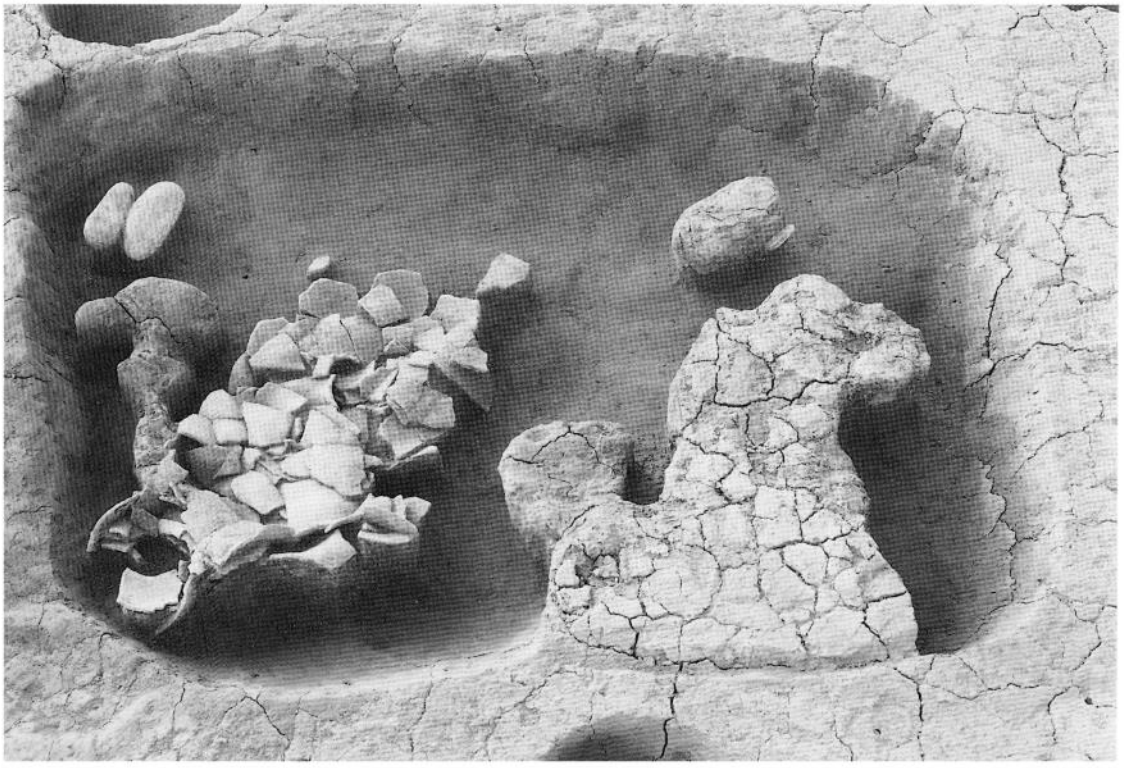
1　16号住居跡
（北から）

2　同上
カマド検出状況
（南から）

3　同上 カマド
（南から）

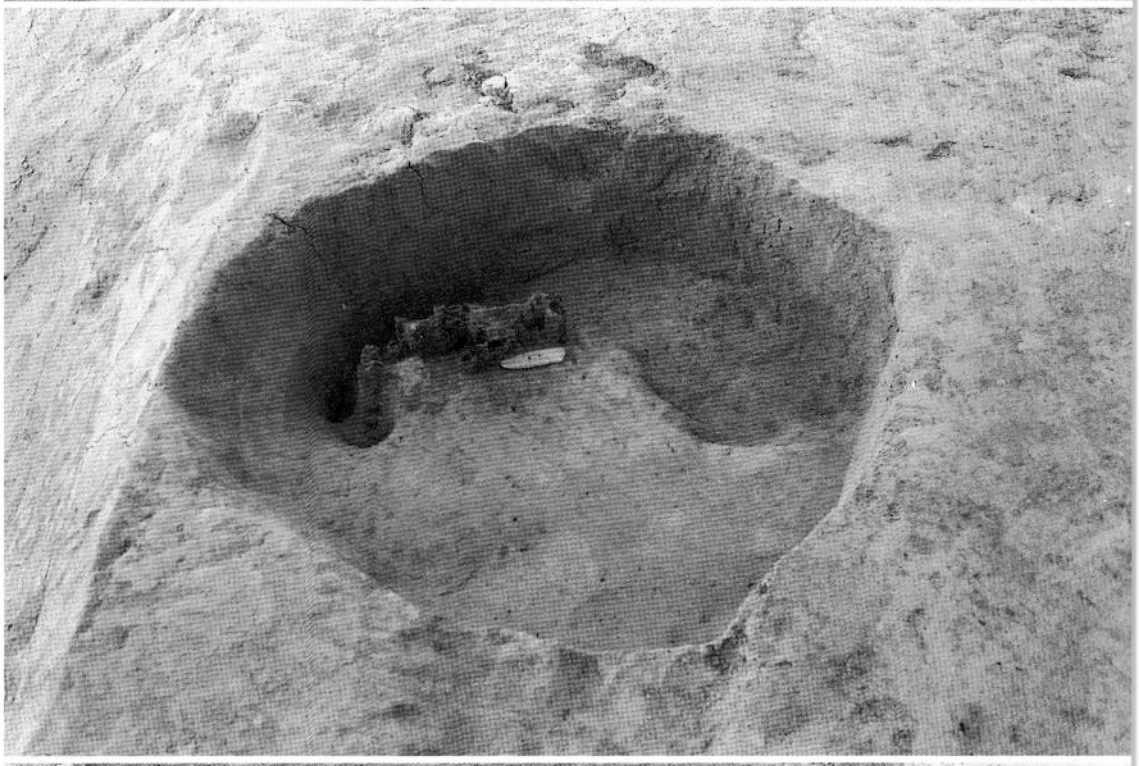
1　17号住居跡
（東から）

2　20号土坑
（北から）



3　22号土坑
（東から）

1　29号土坑
（北から）



2　30号土坑
（北東から）

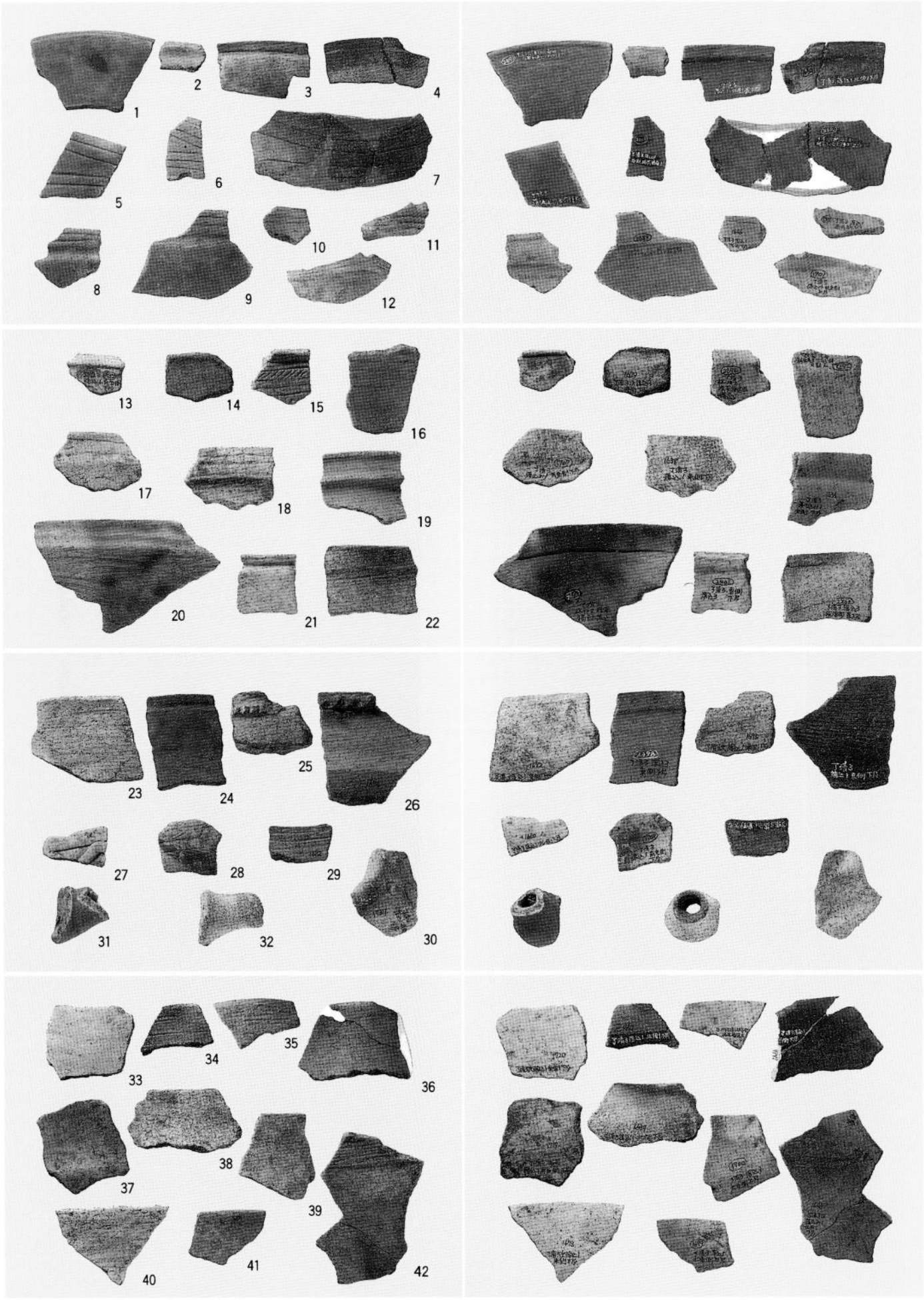
3　同上
遺物出土状況
（北西から）

図版16

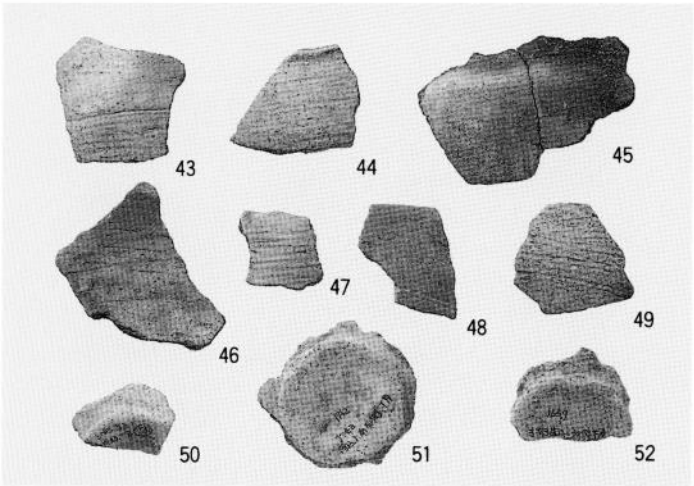
1　43号土坑
（南から）

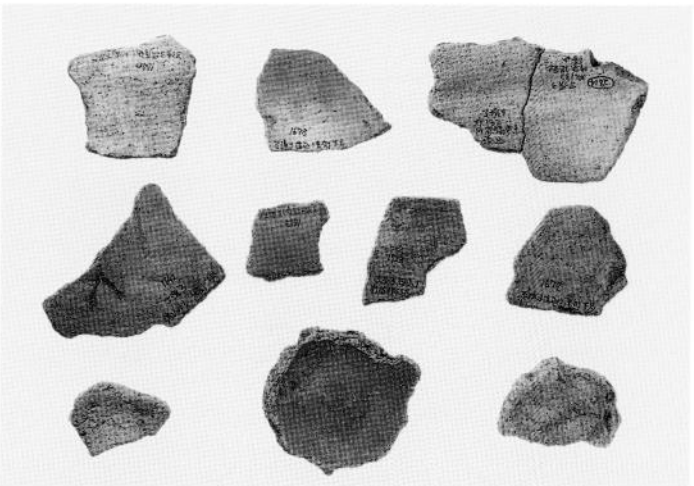
2　44号土坑
（西から）

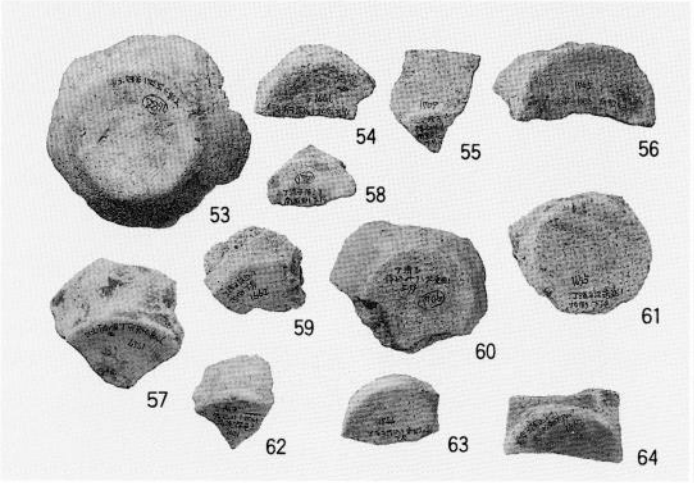
3　45号土坑
（南から）

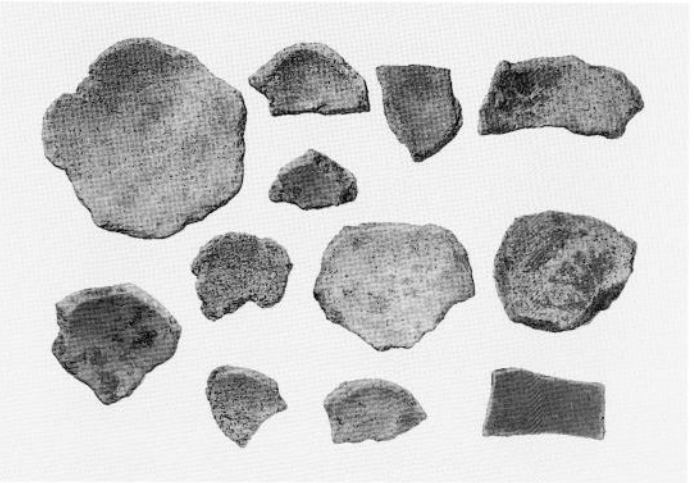


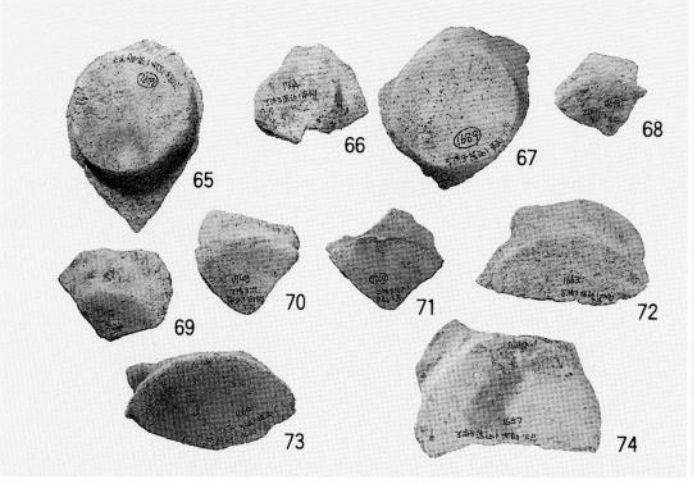
1号落込状遺構出土土器1

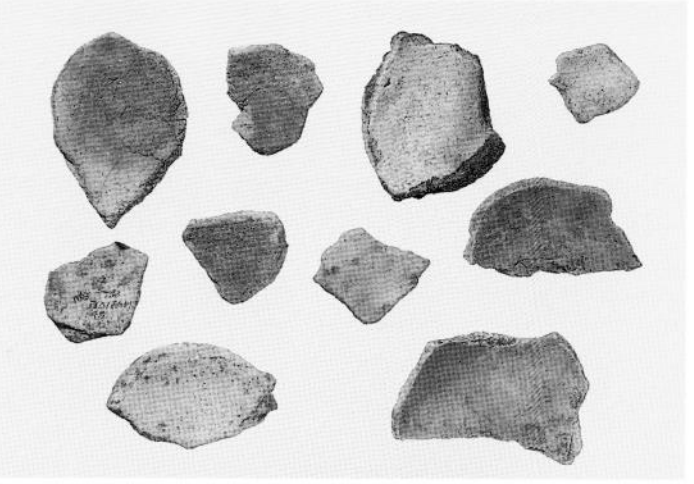




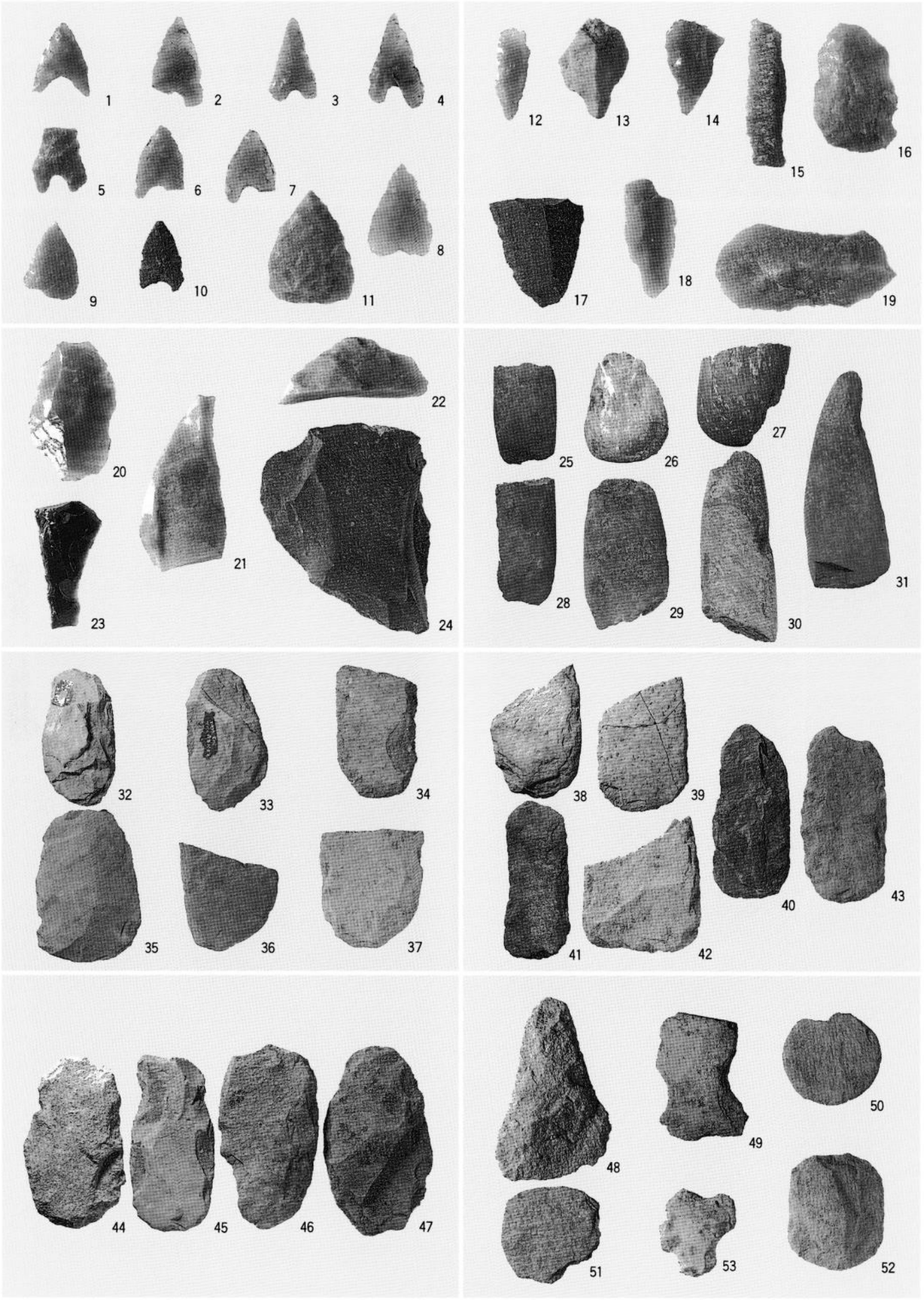




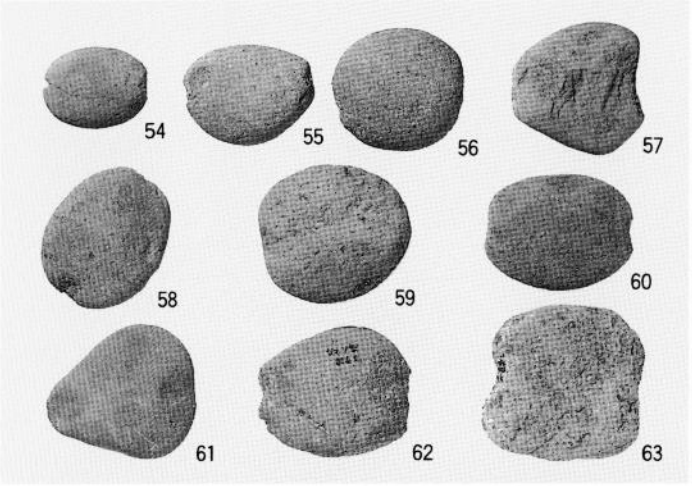


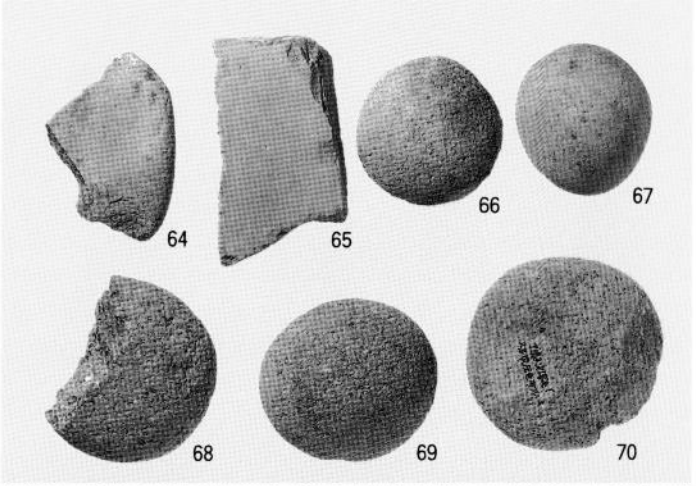


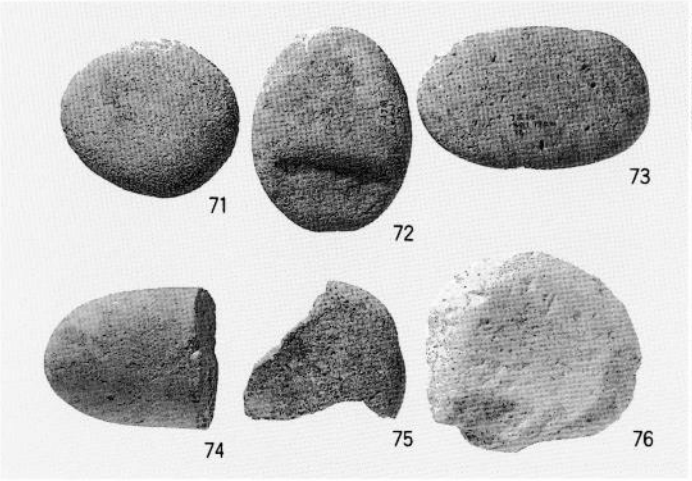
1号落込状遺構出土土器2

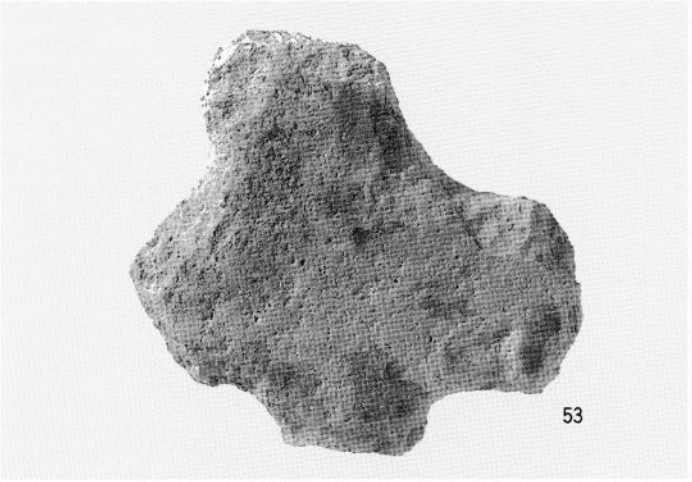


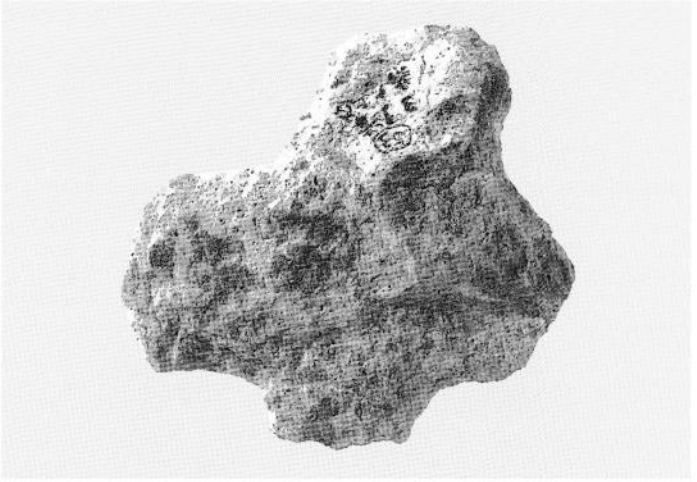
1号落込状遺構出土石器1

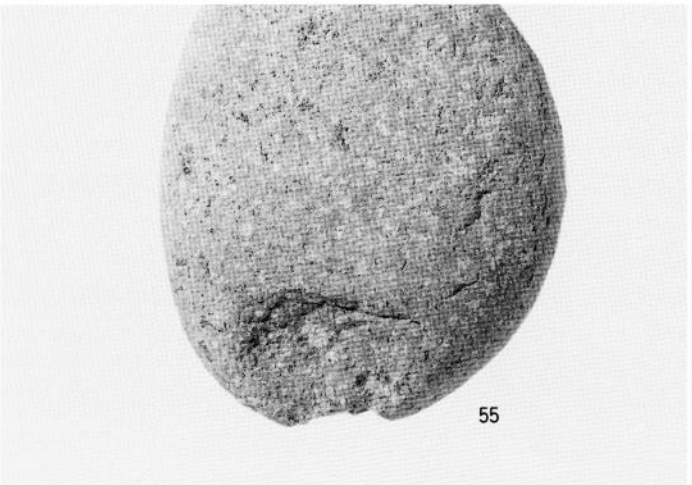


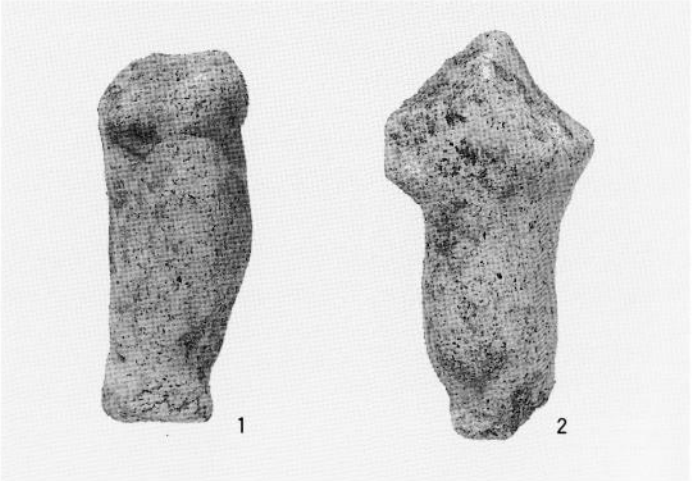




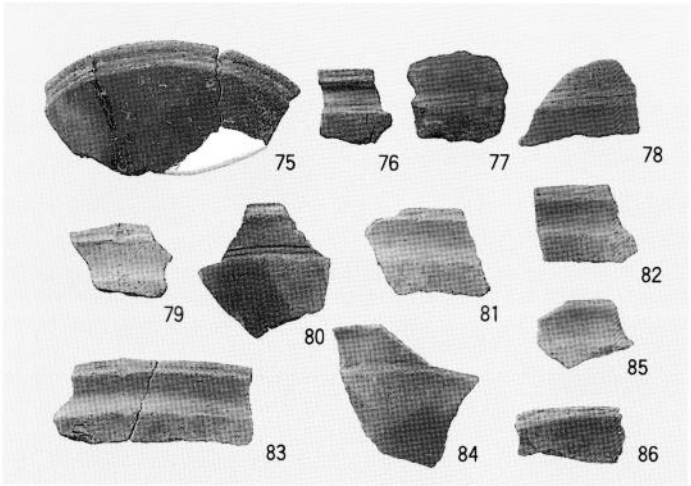


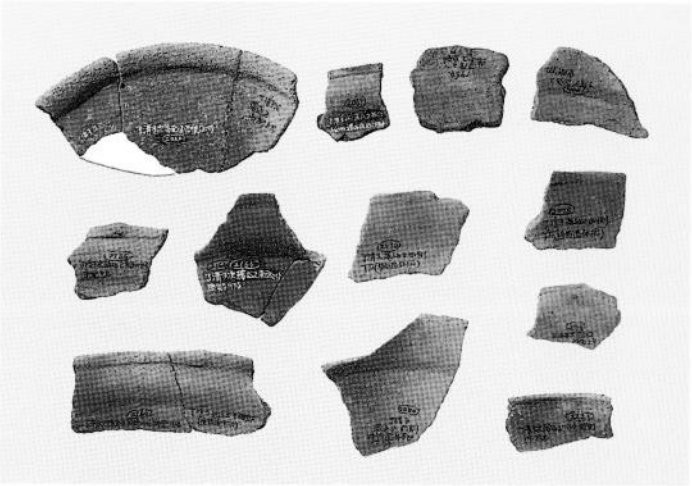


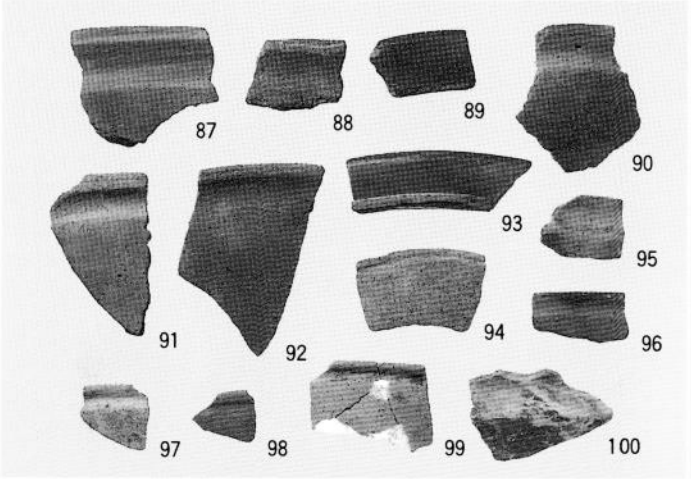


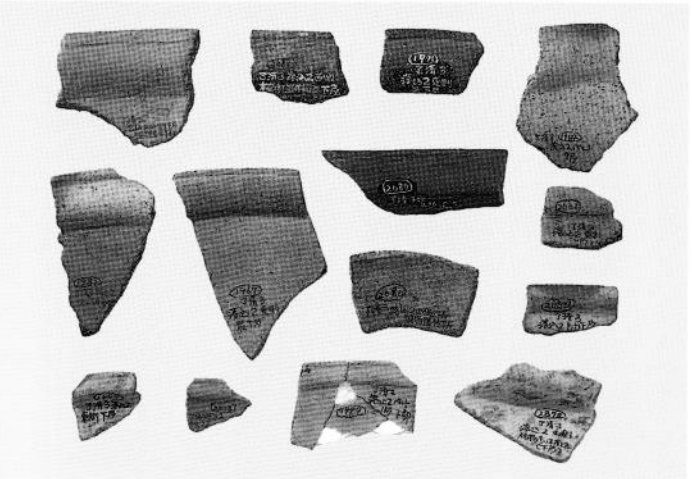


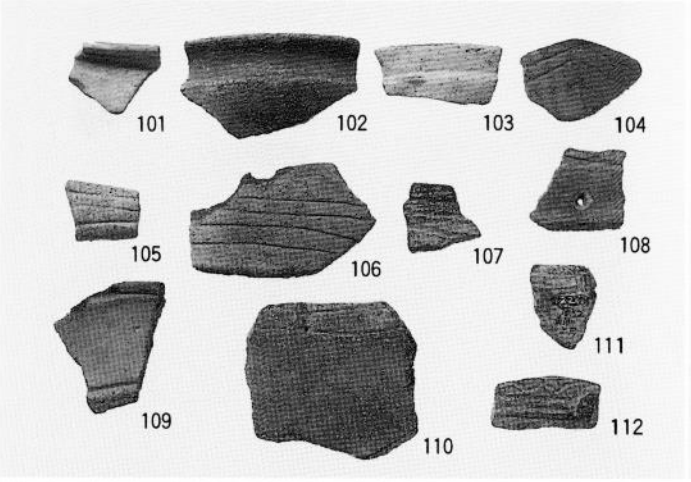
1号落込状遺構出土石器2・土製品

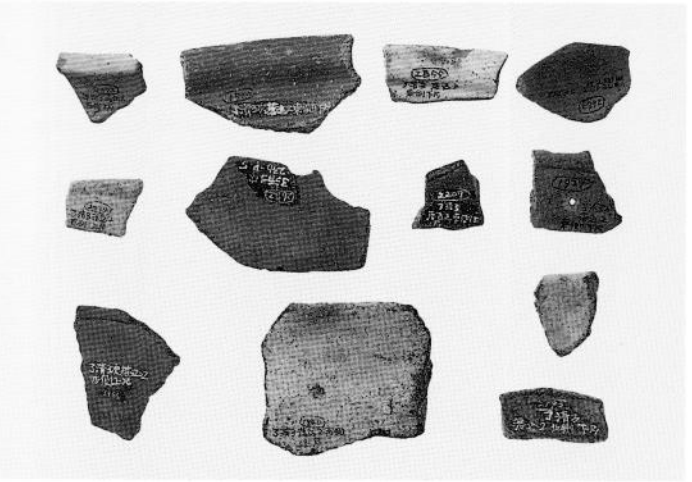


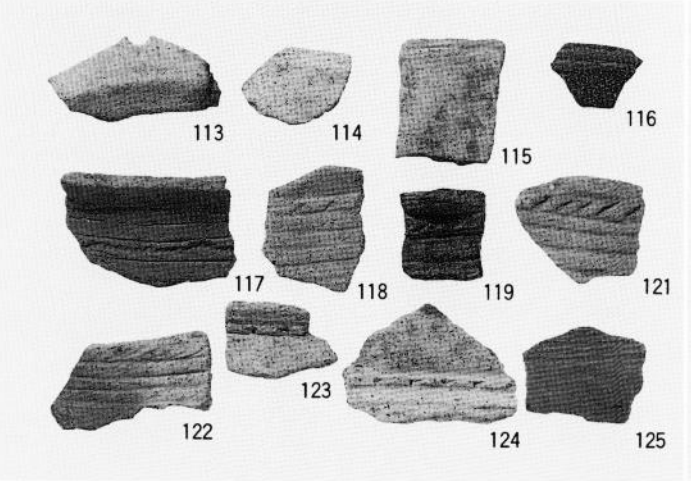




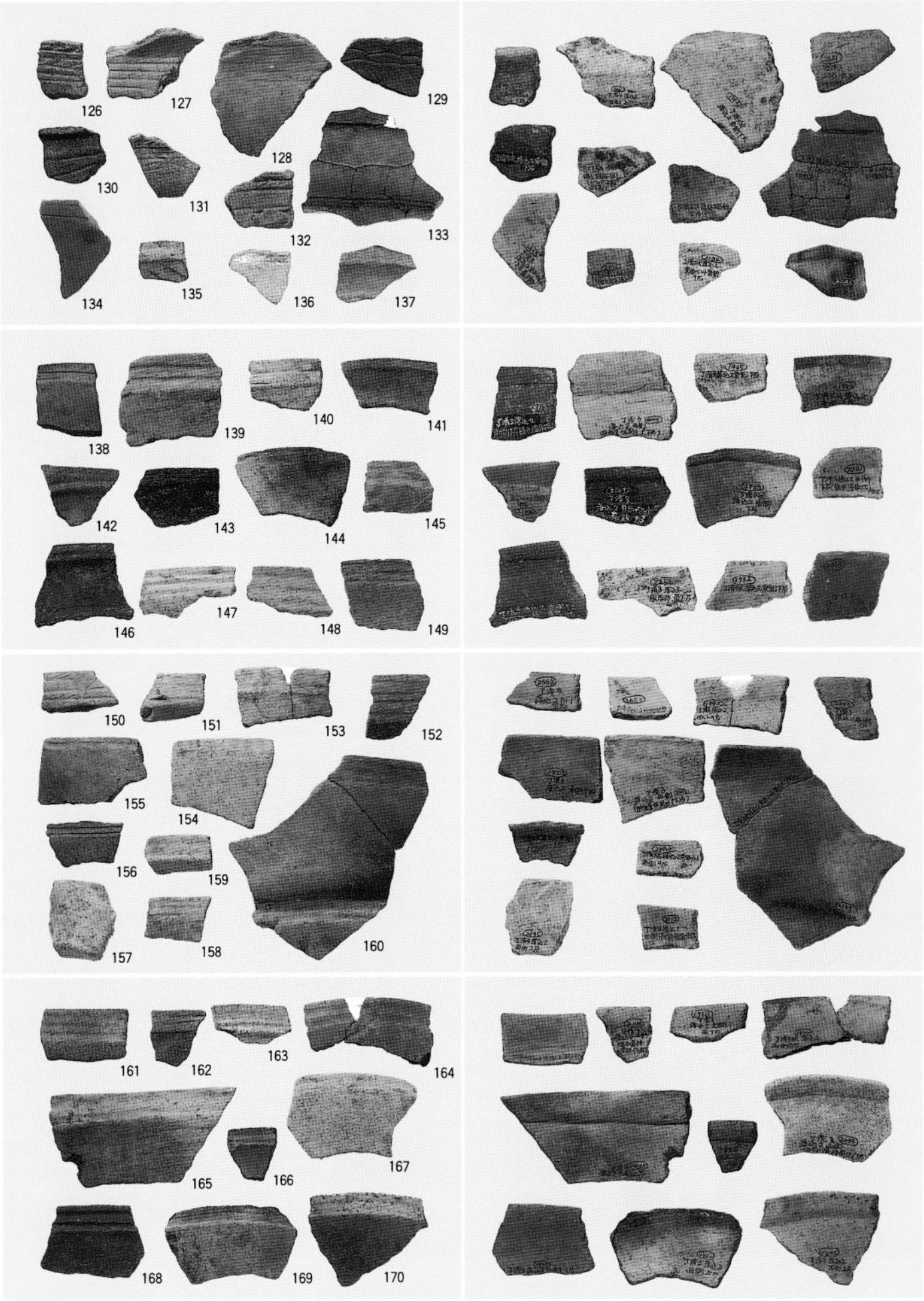




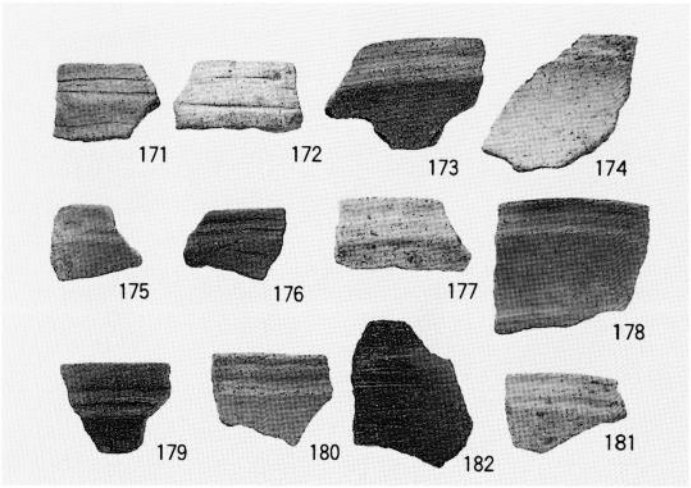


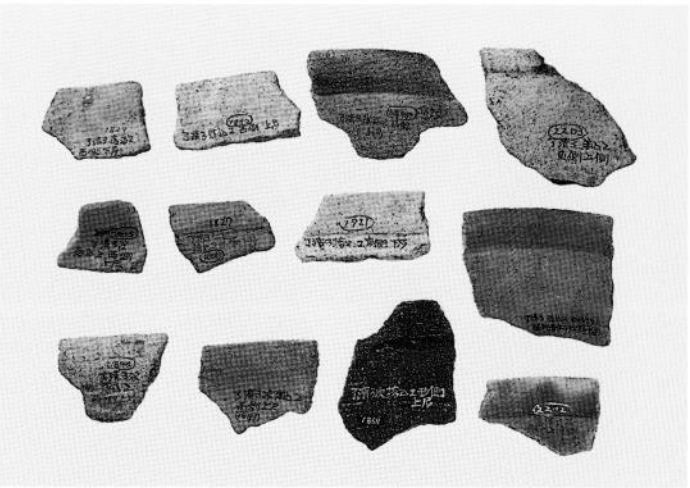


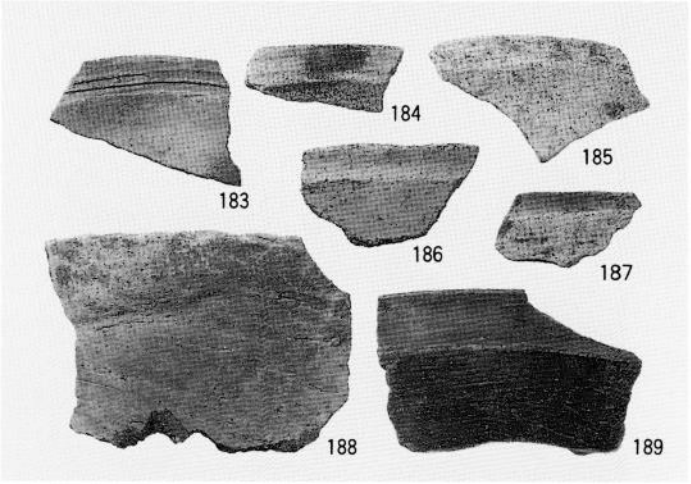
2号落込状遺構出土土器1

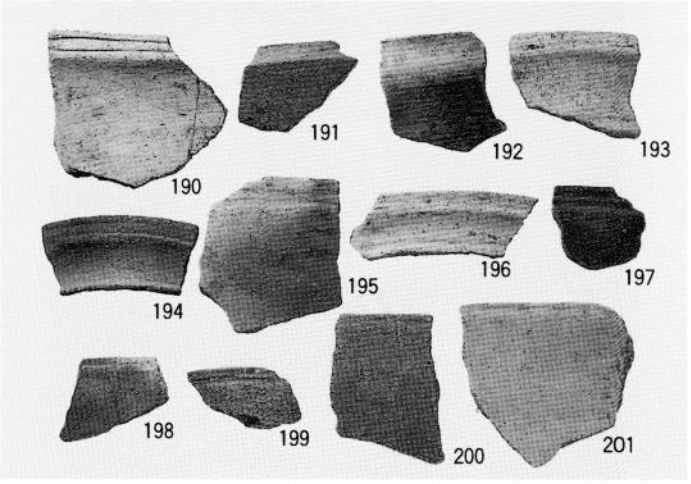


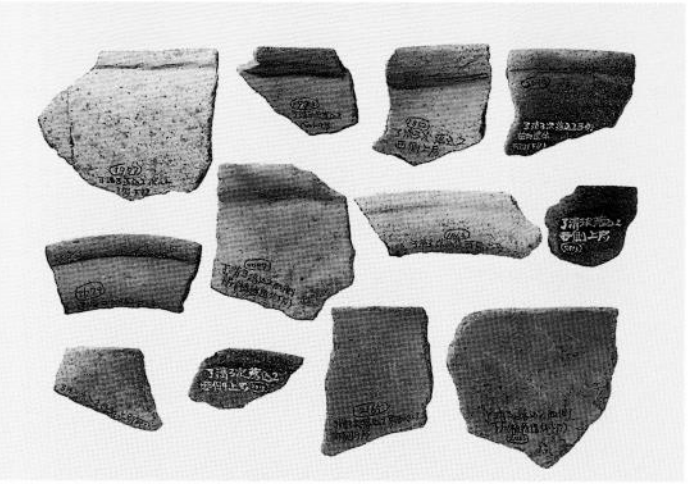
2号落込状遺構出土土器2

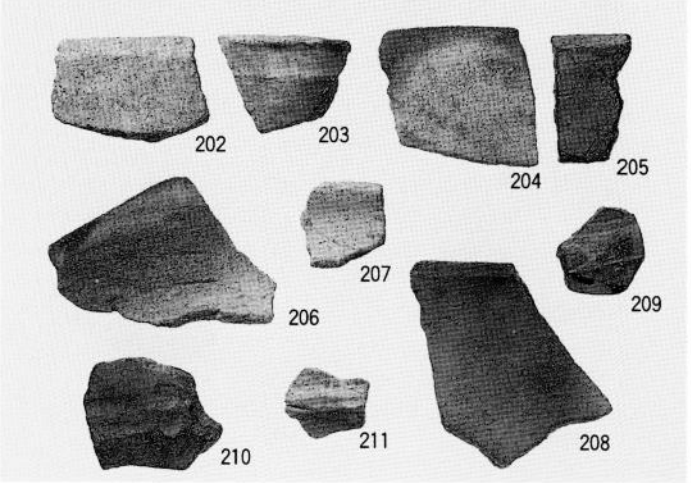




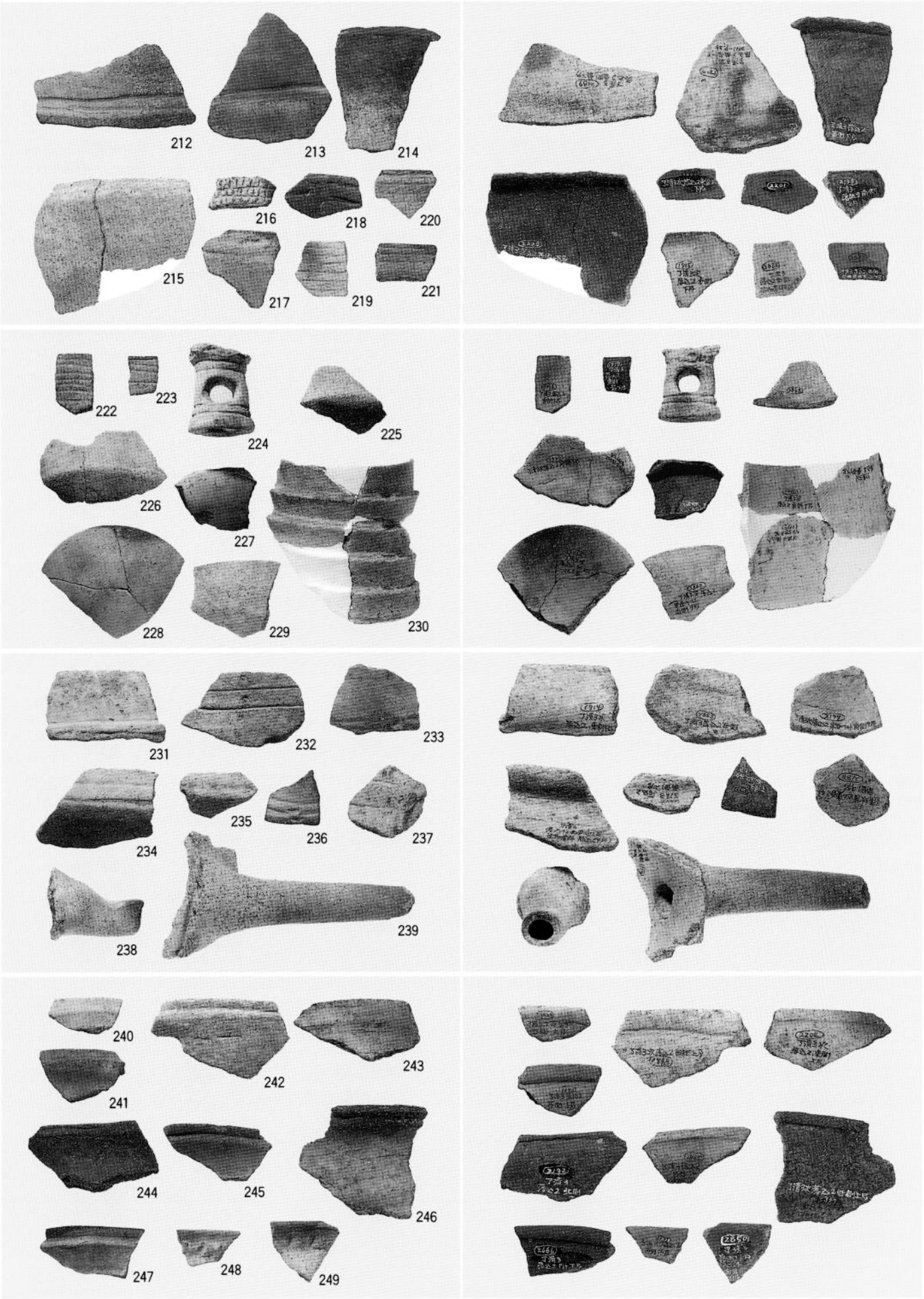




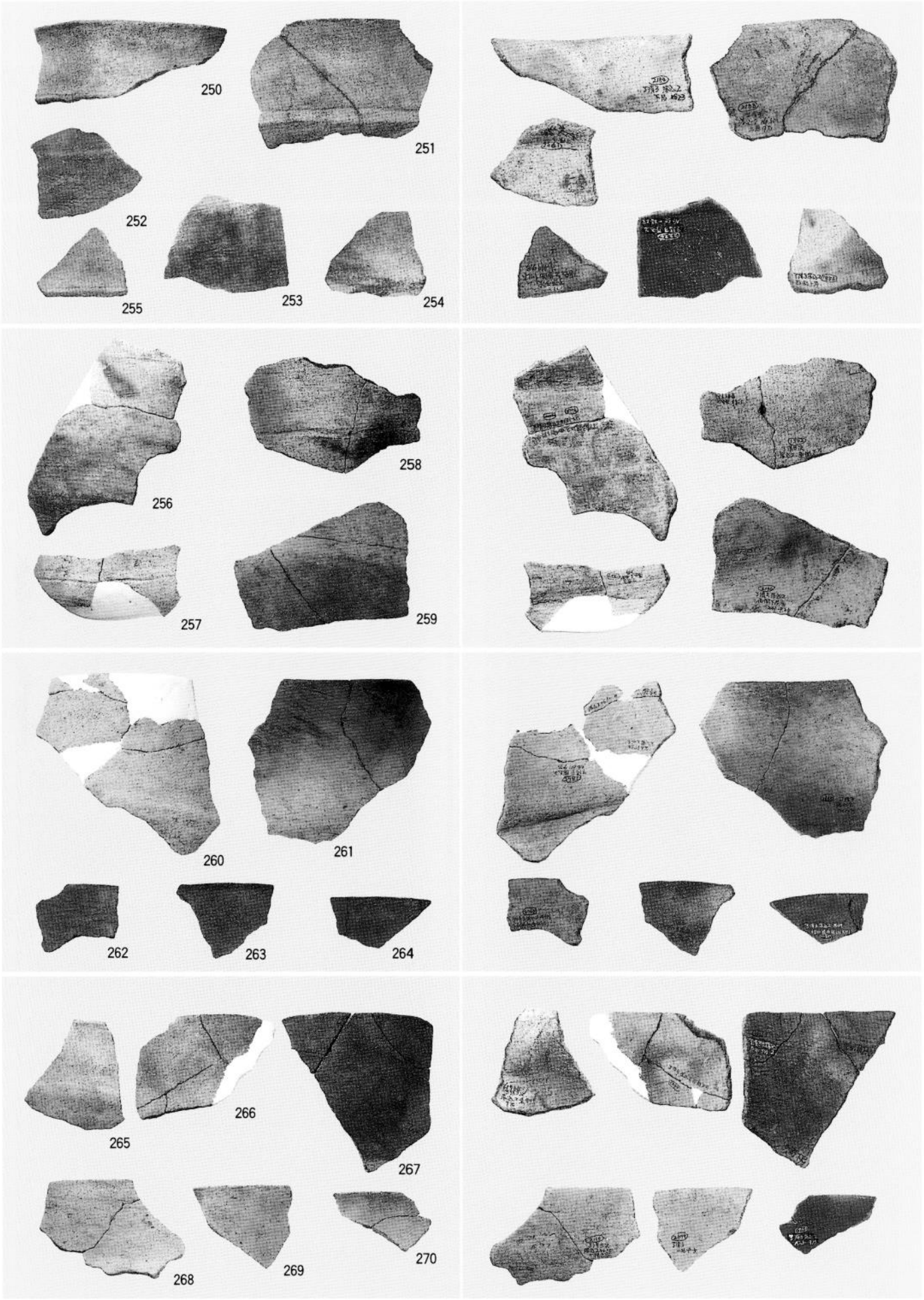




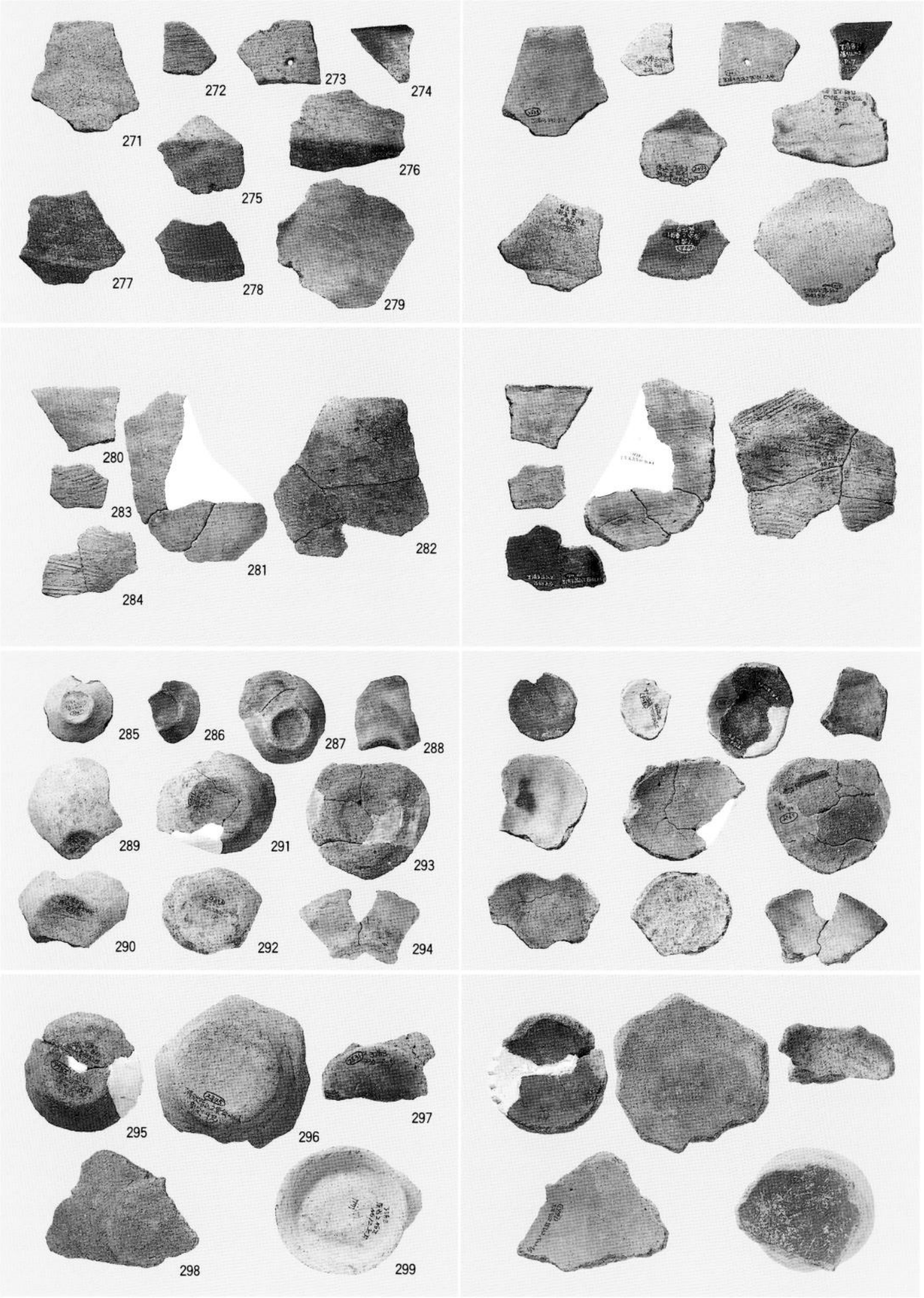
2号落込状遺構出土土器3



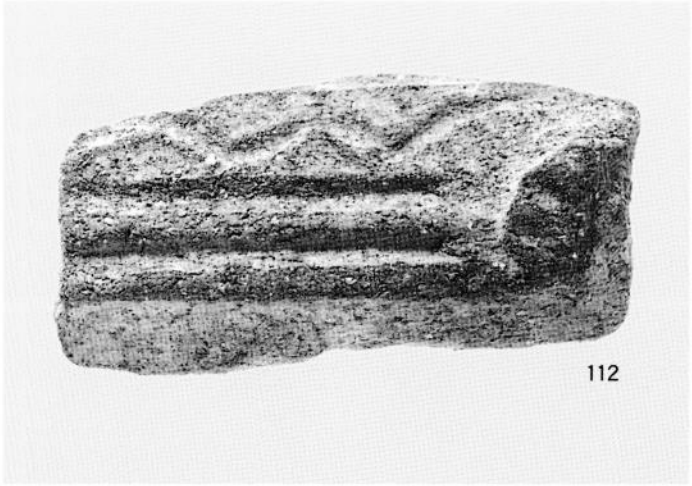
2号落込状遺構出土土器4

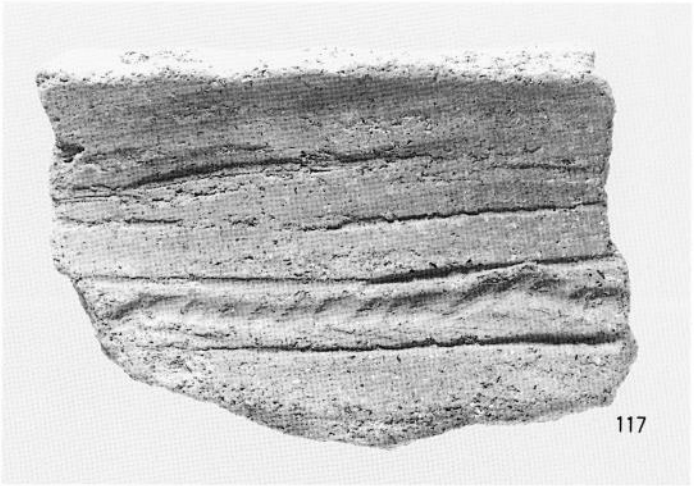


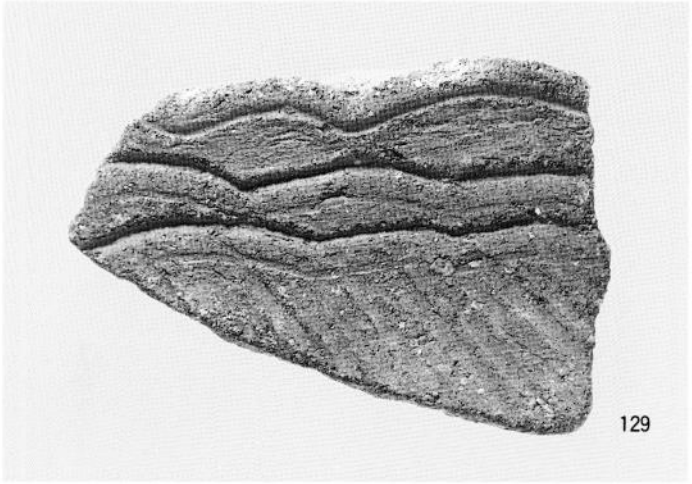
2号落込状遺構出土土器5

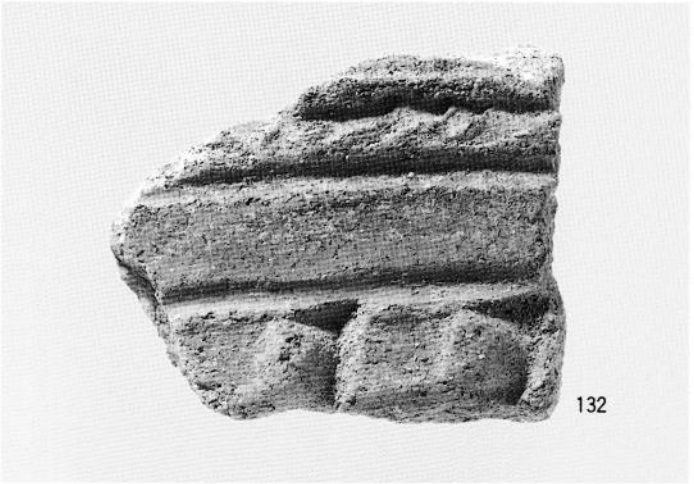


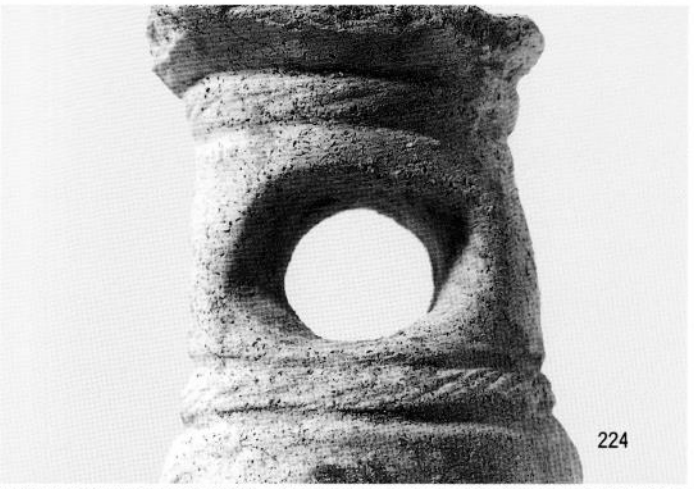
2号落込状遺構出土土器6

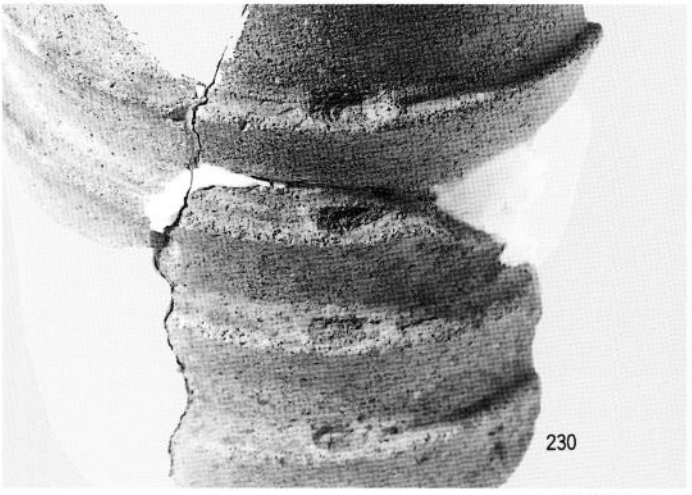




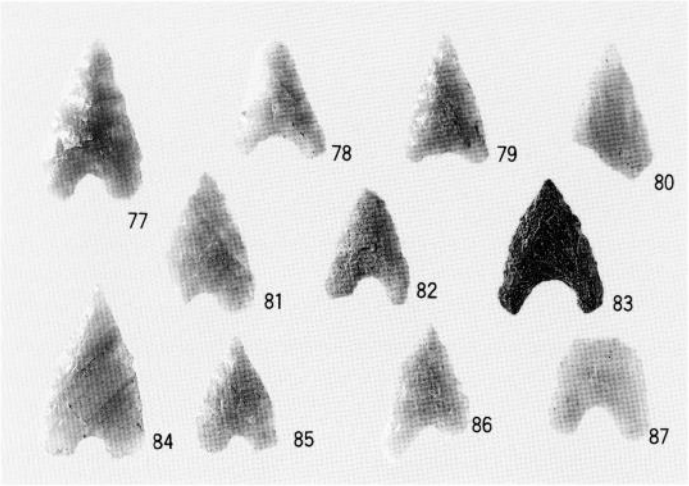


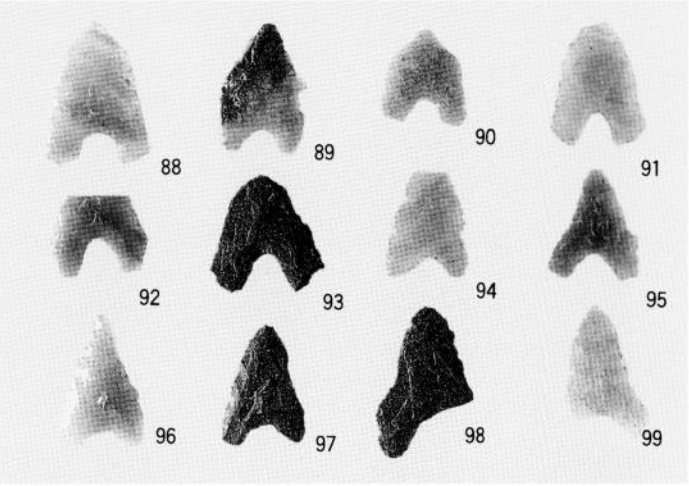


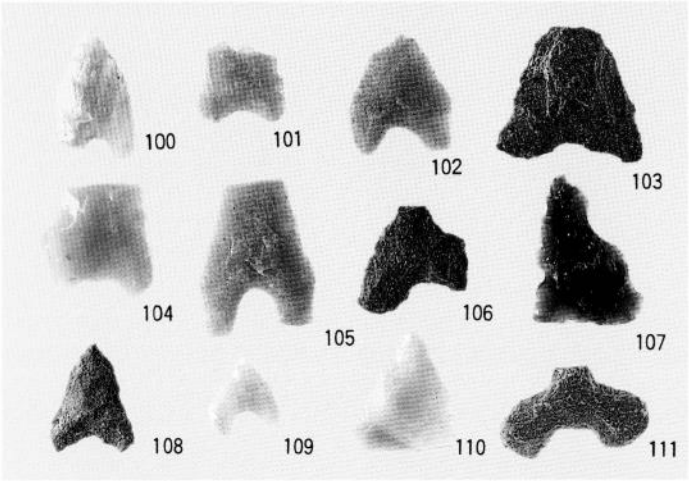


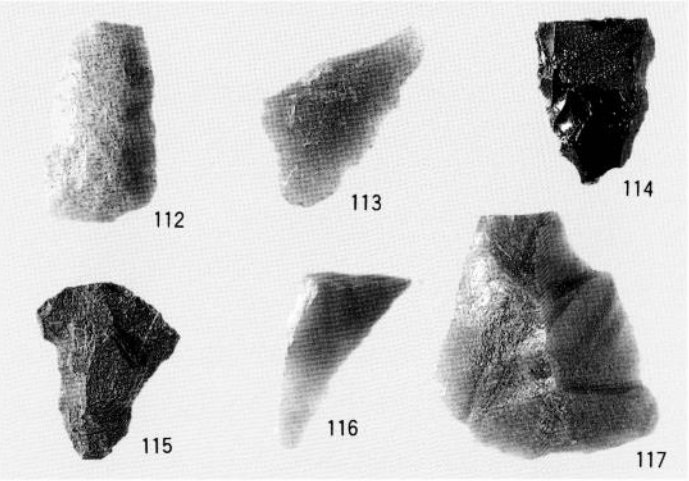


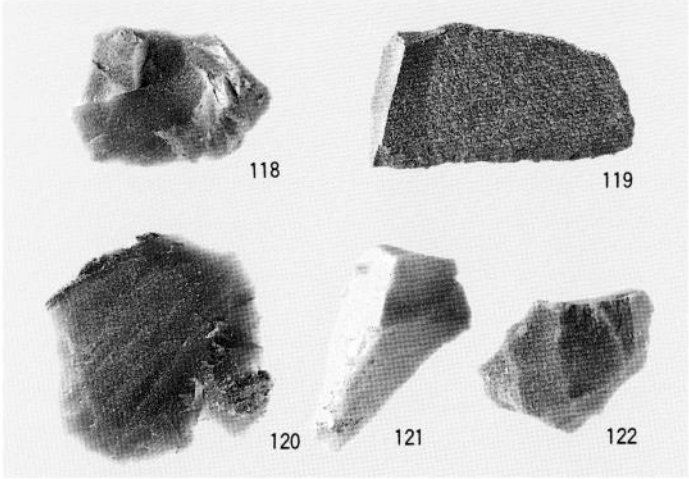
2号落込状遺構出土土器7

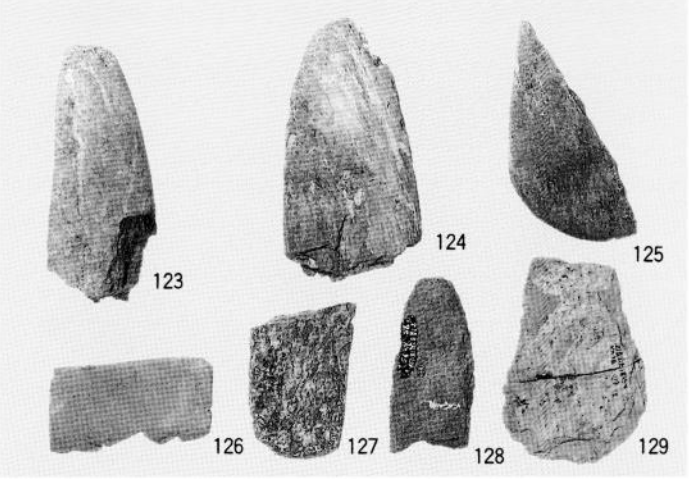


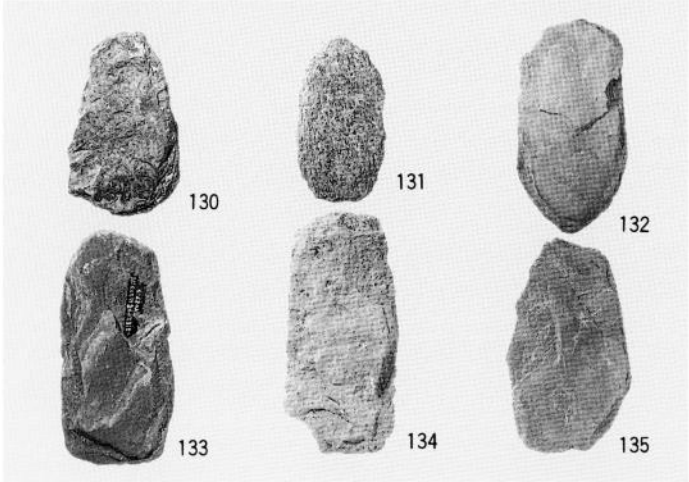


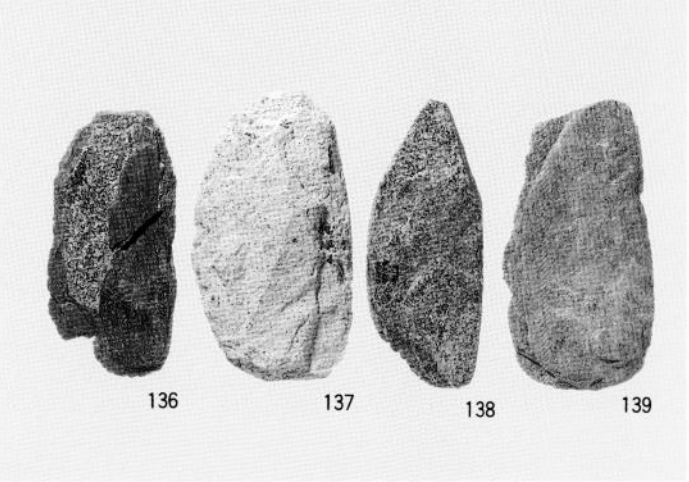




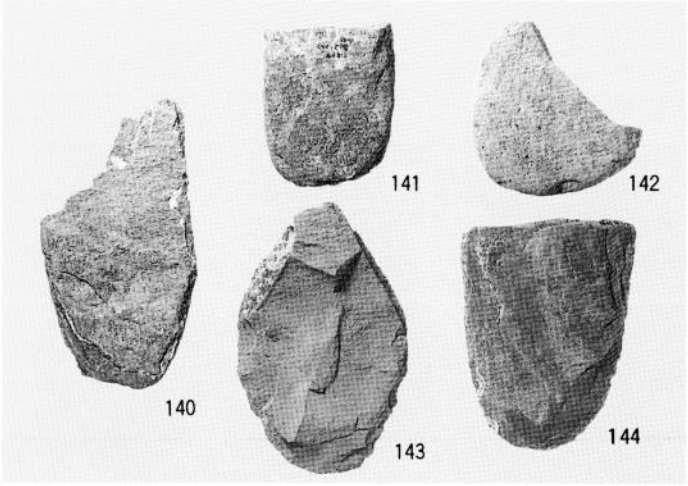


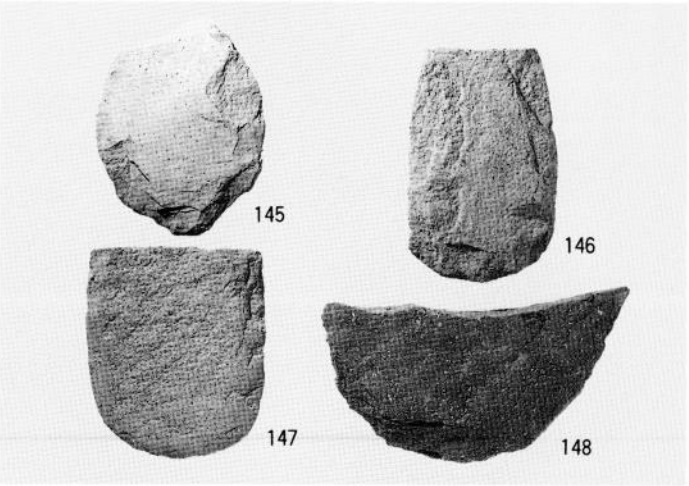


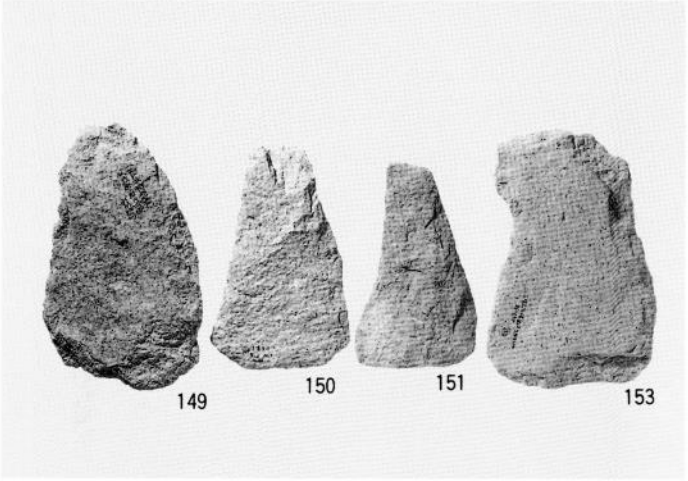


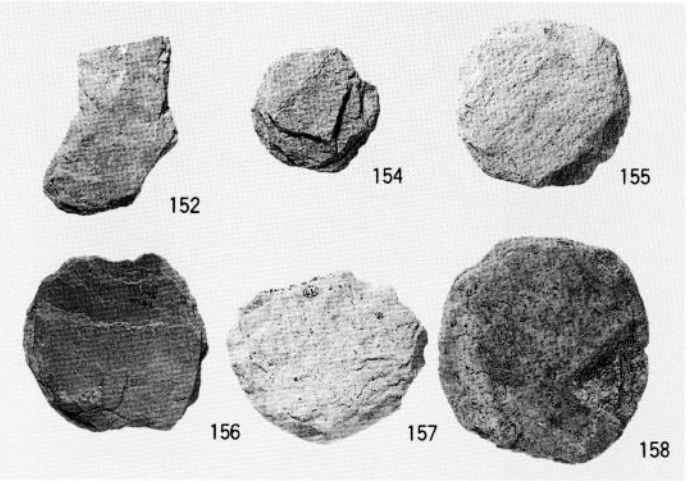


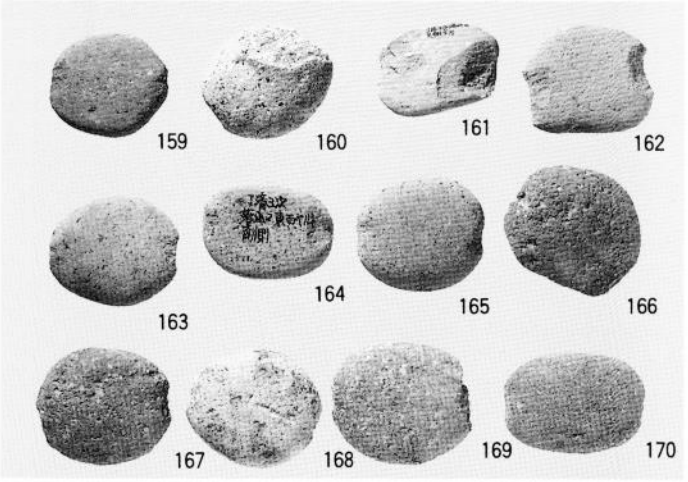
2号落込状遺構出土石器1

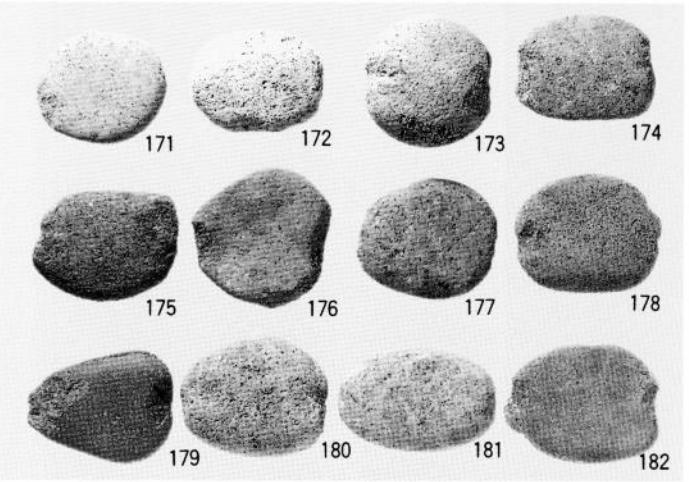


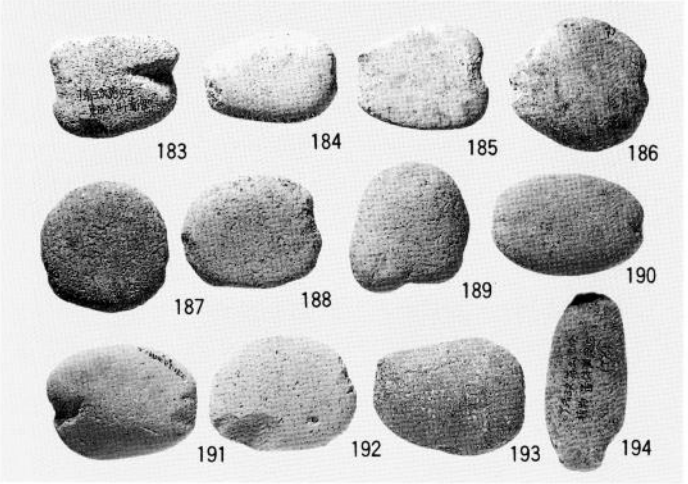


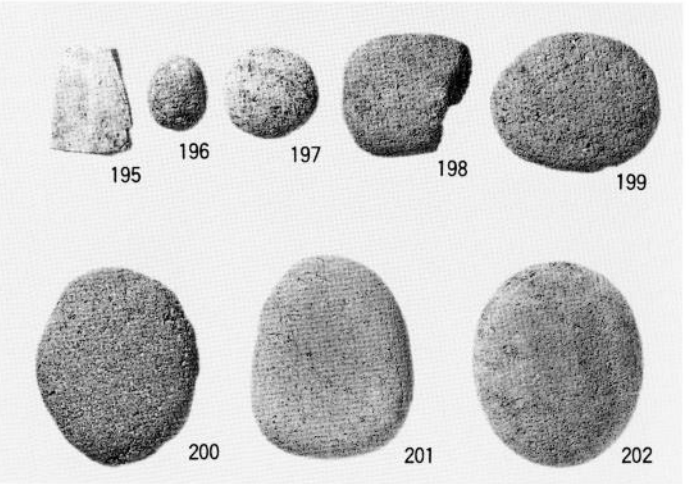




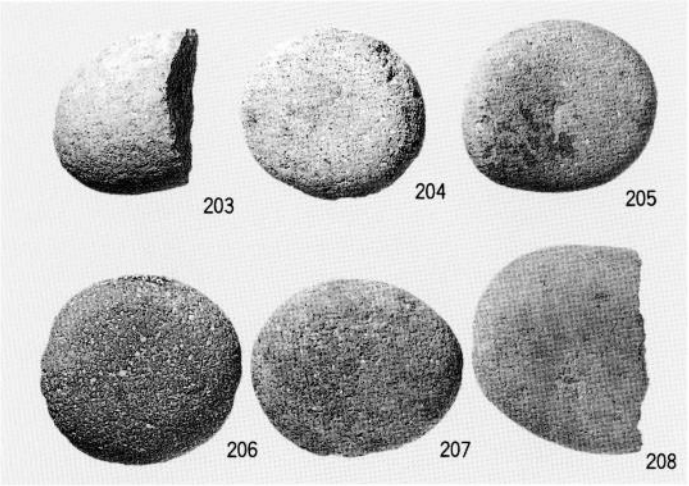


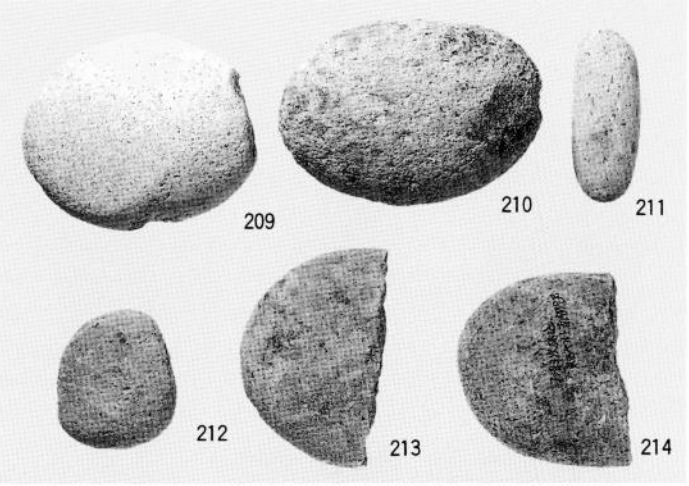


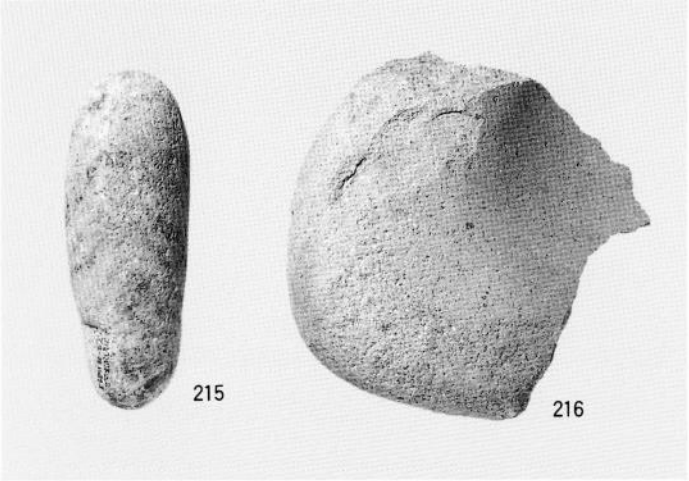


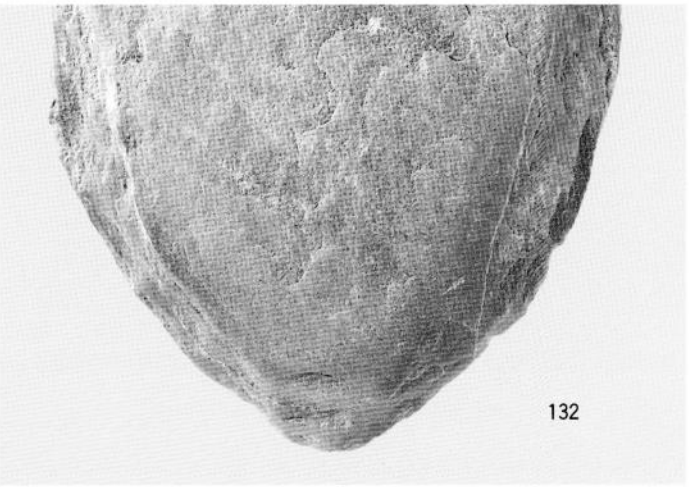


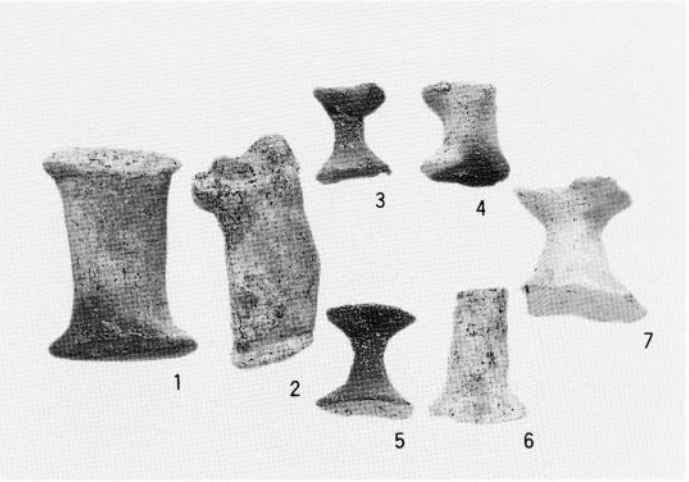
2号落込状遺構出土石器2



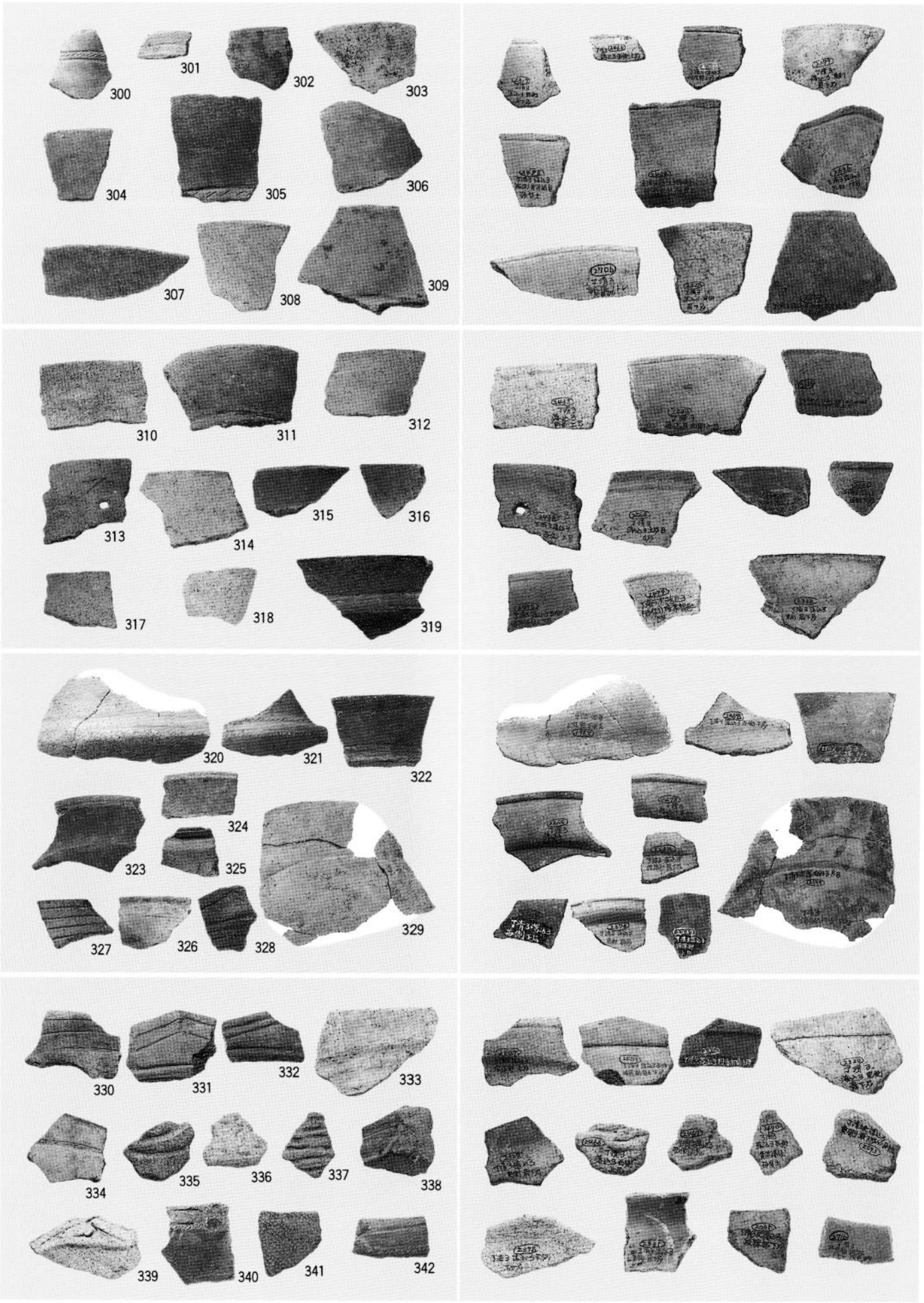




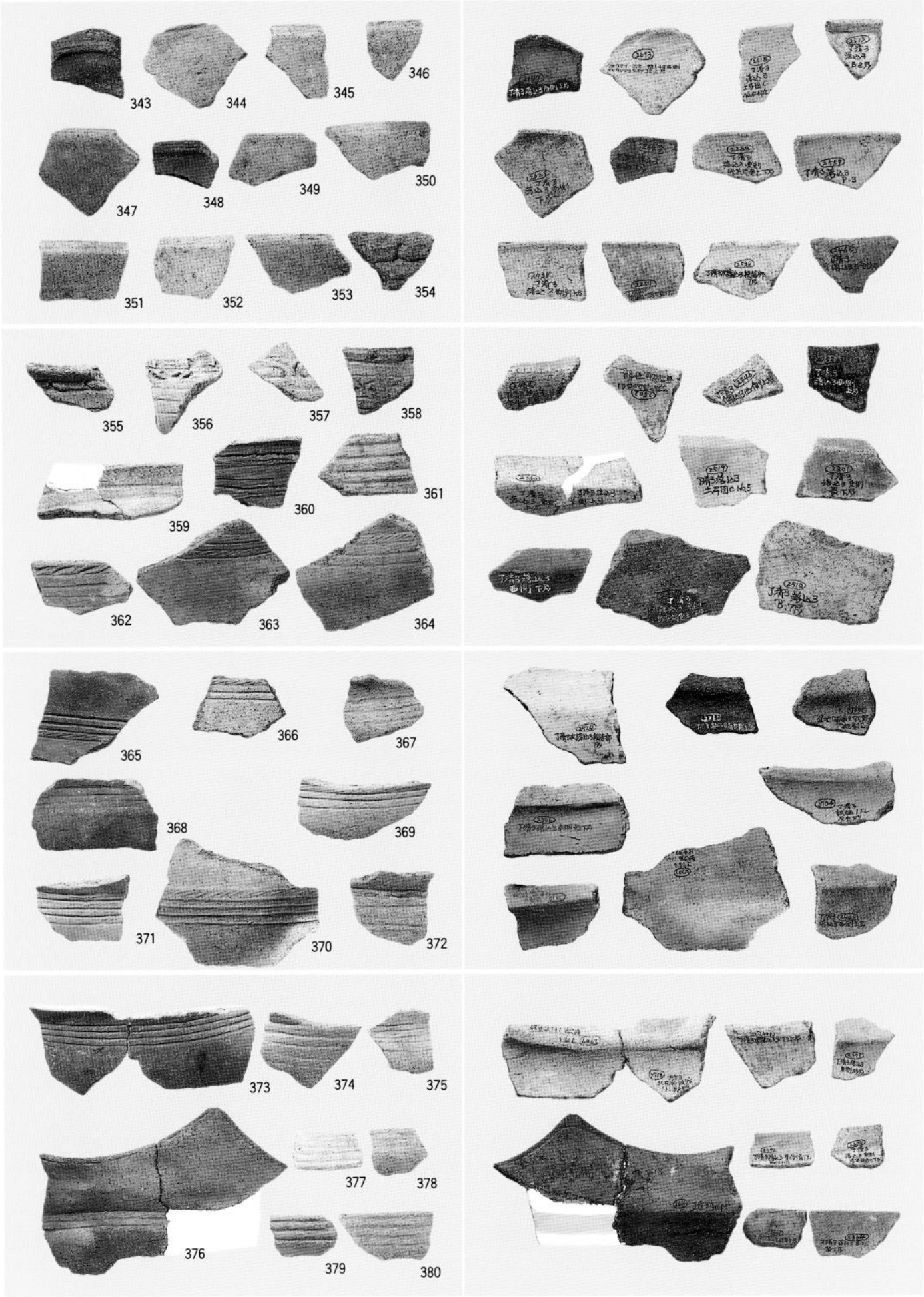




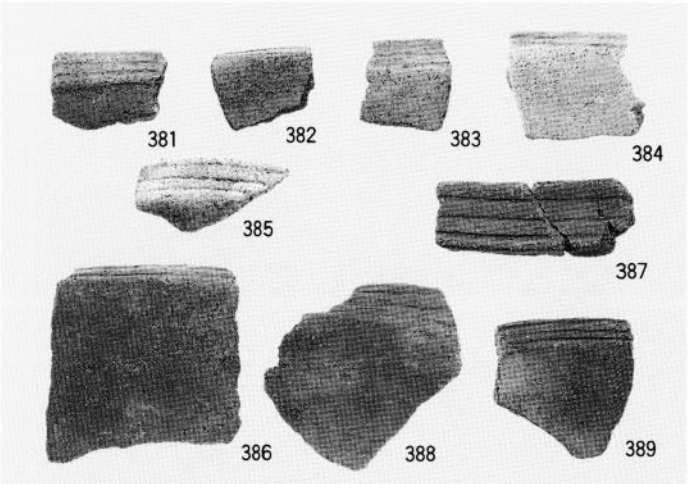
2号落込状遺構出土石器3・土製品・石製品

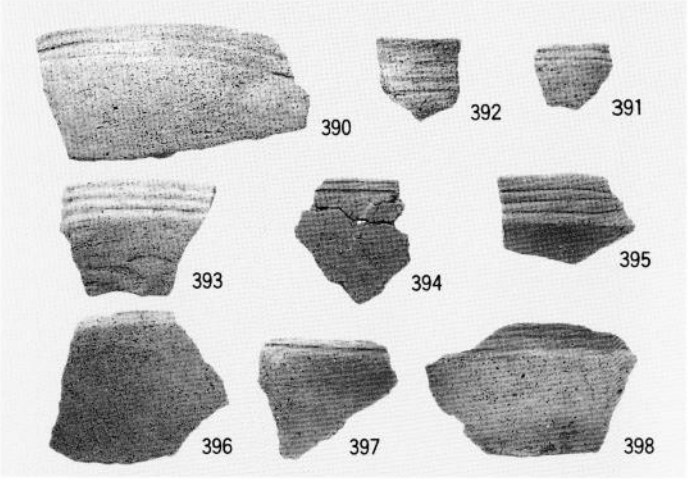


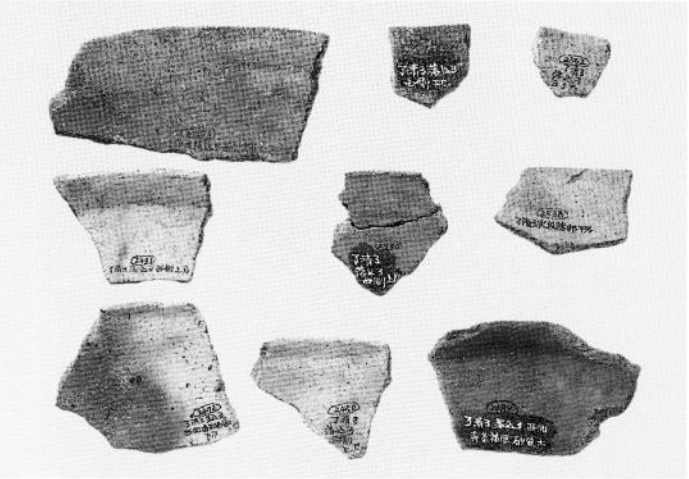
3号落込状遺構出土土器1

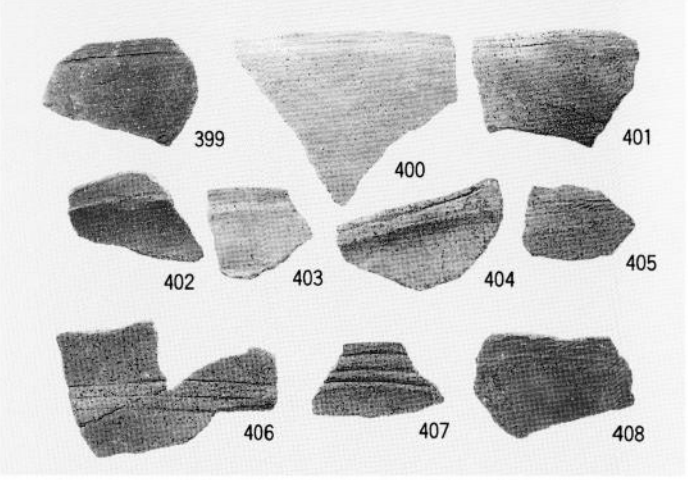


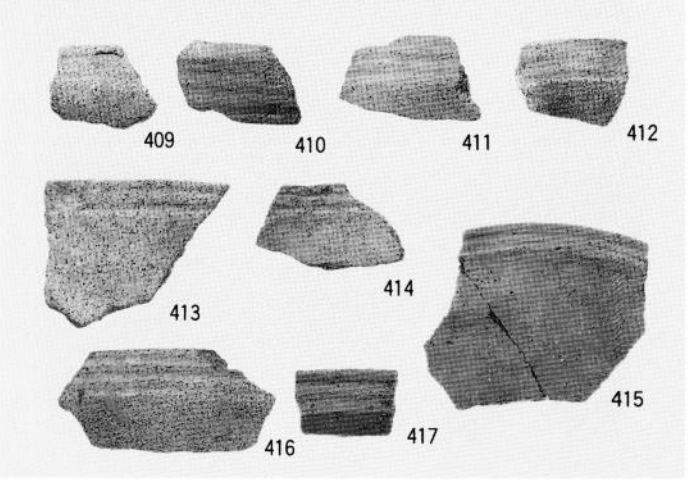
3号落込状遺構出土土器2



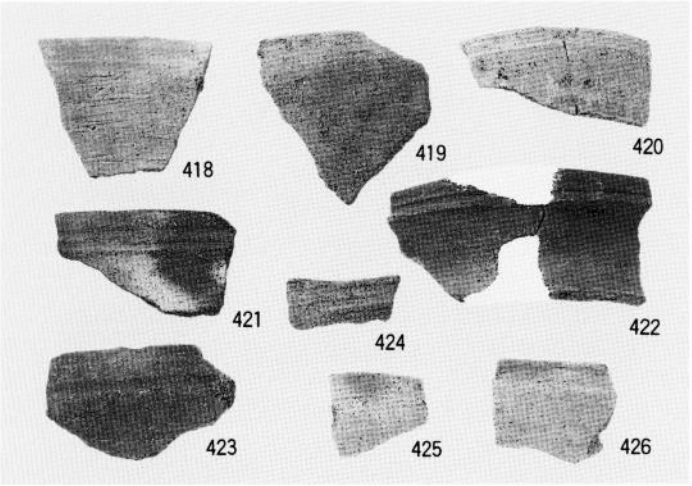


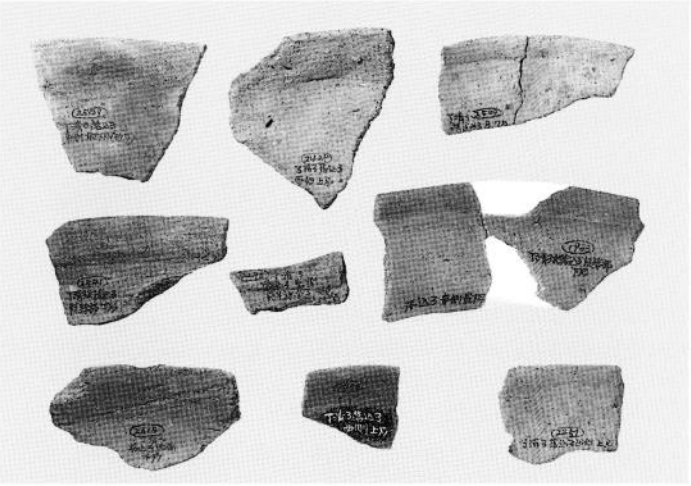


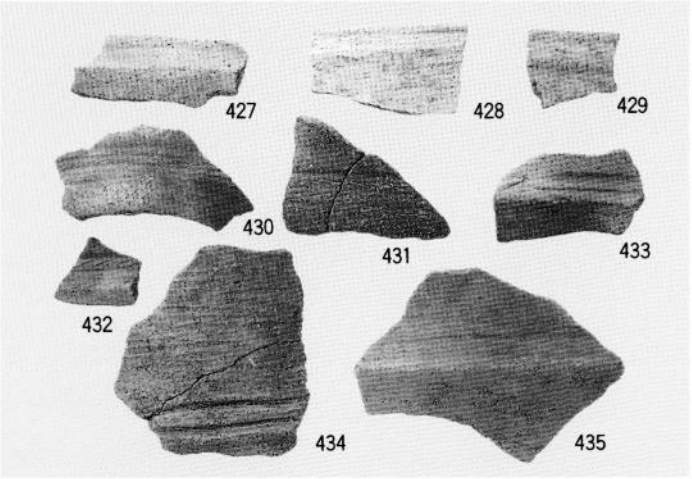


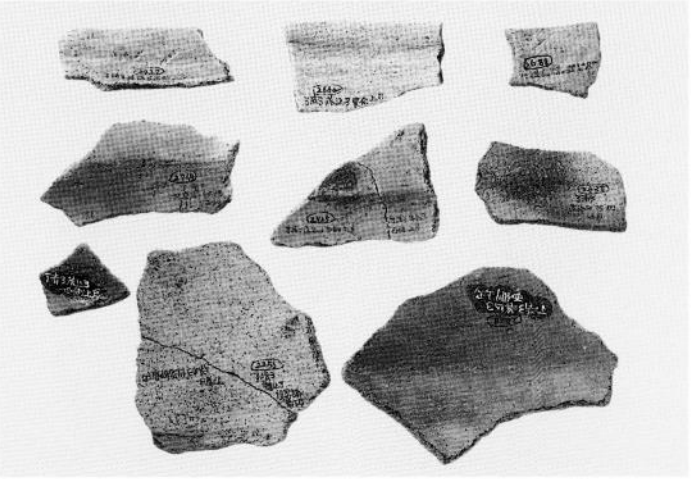


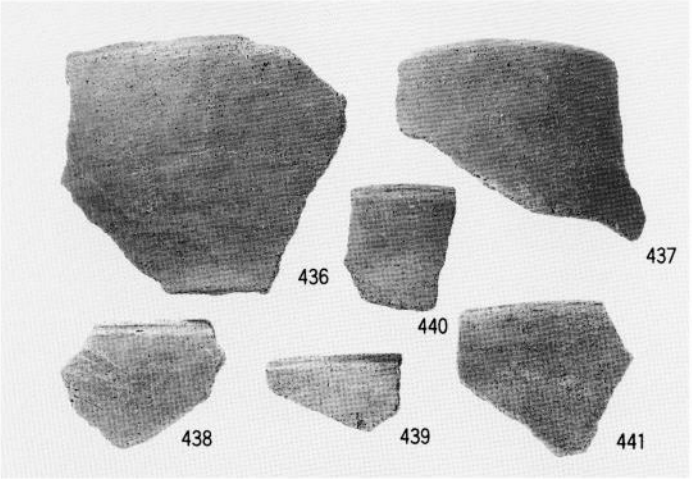
3号落込状遺構出土土器3

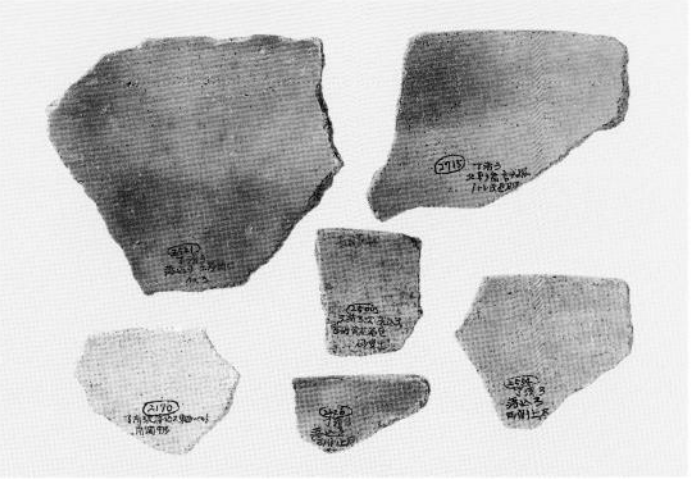


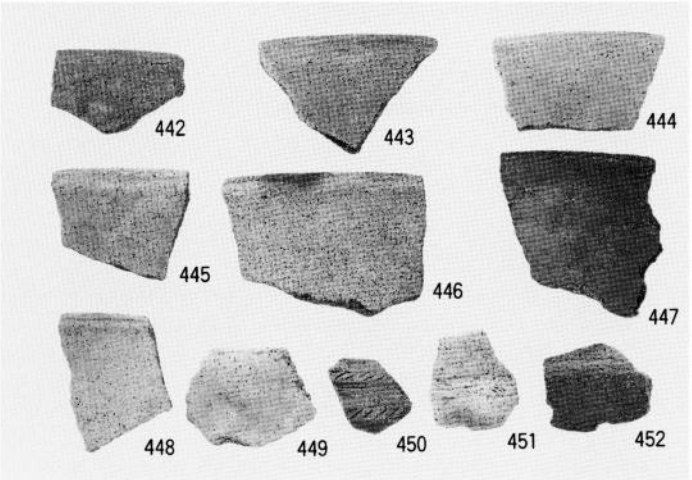


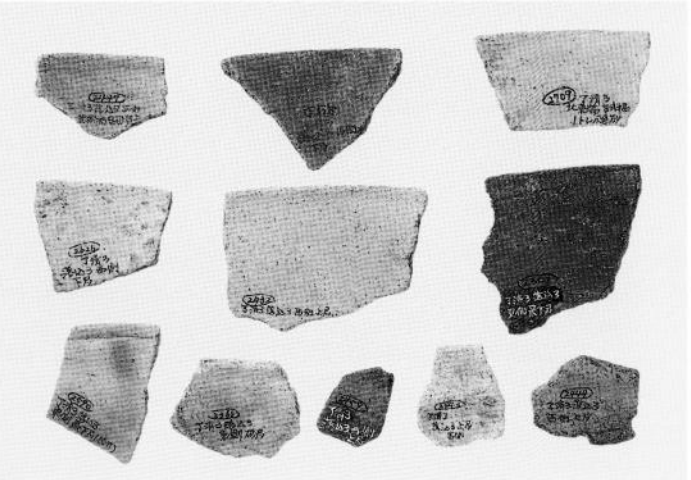




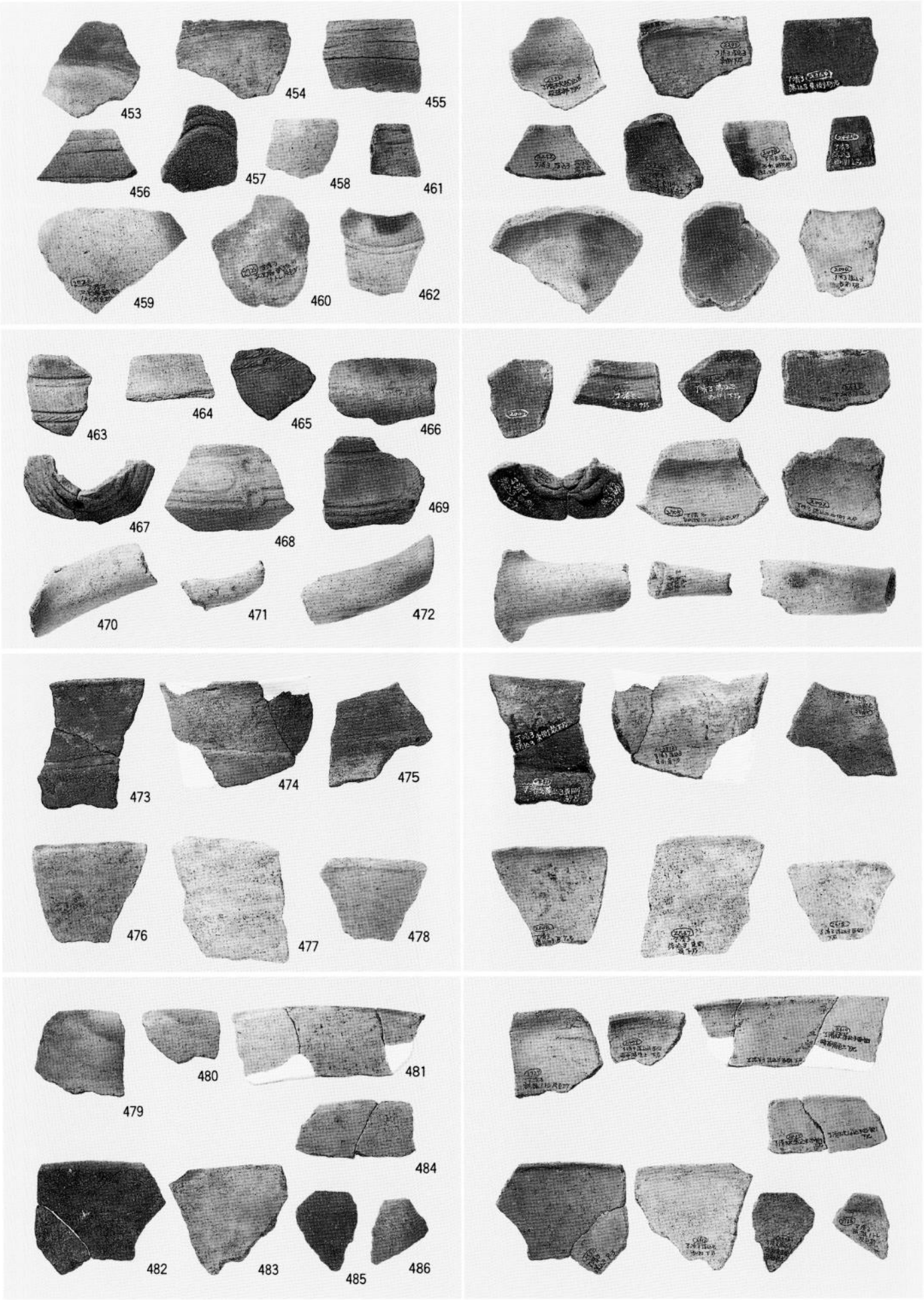




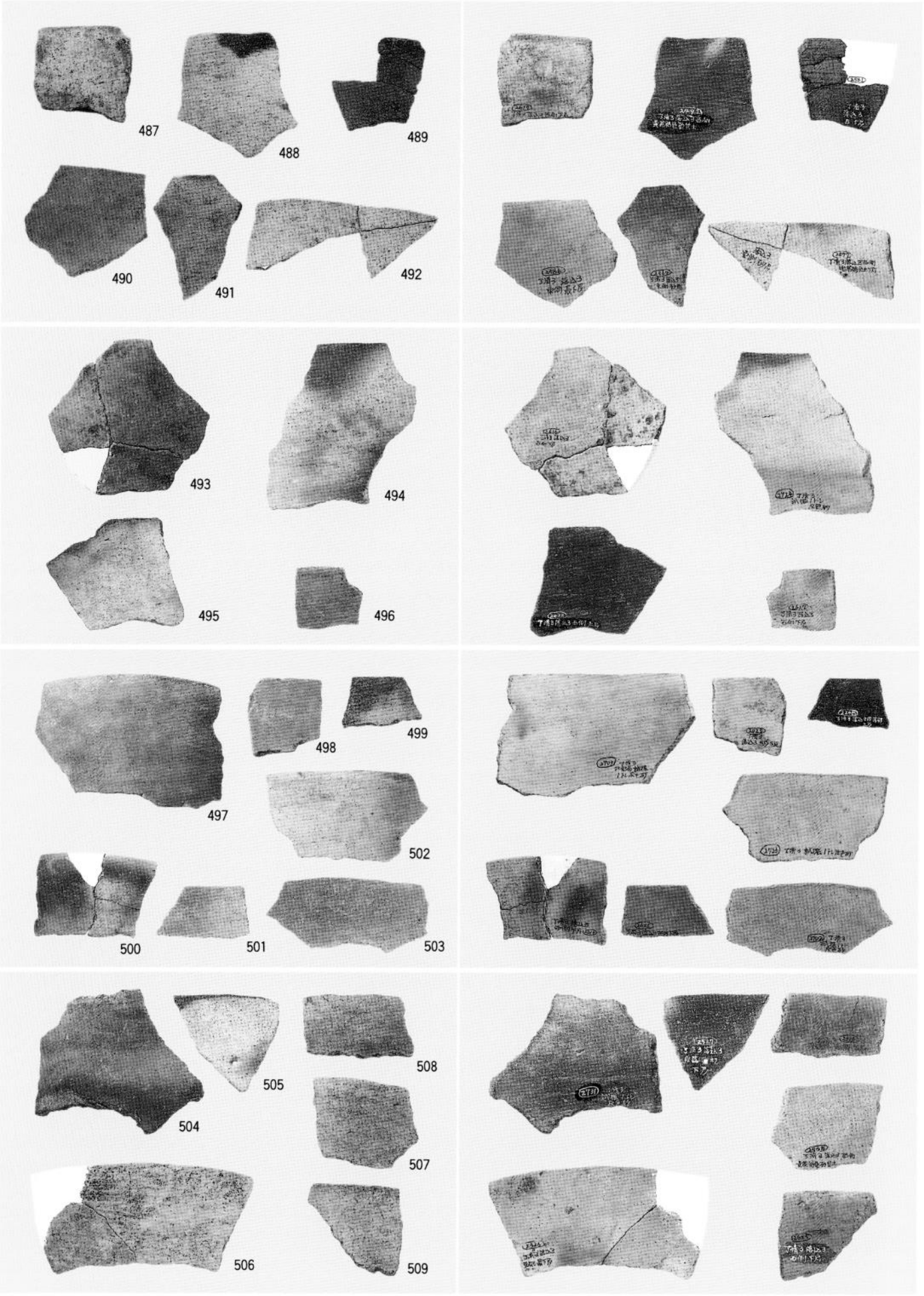




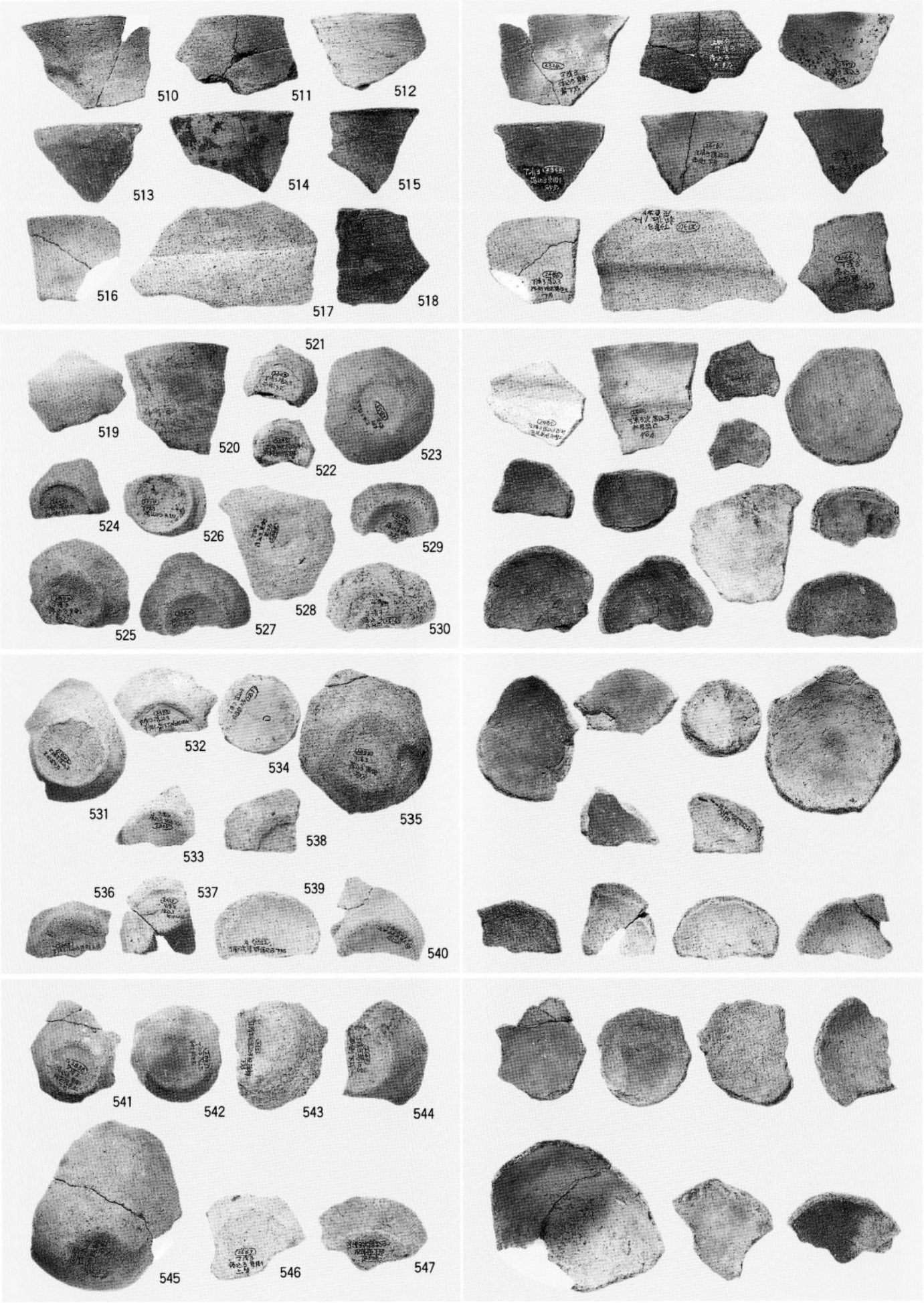
3号落込状遺構出土土器4



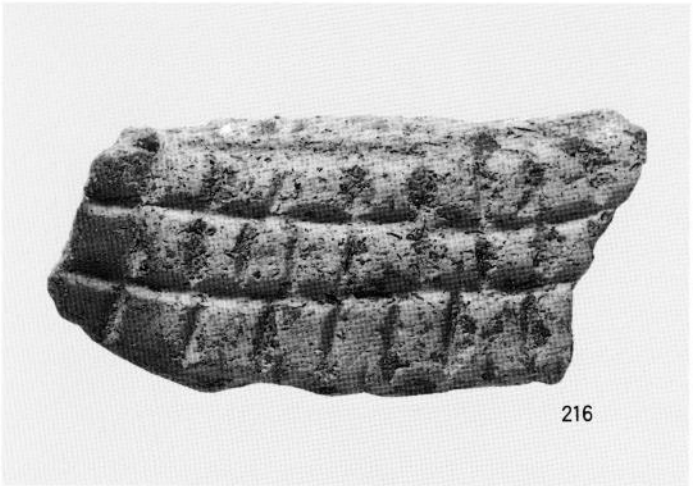
3号落込状遺構出土土器5

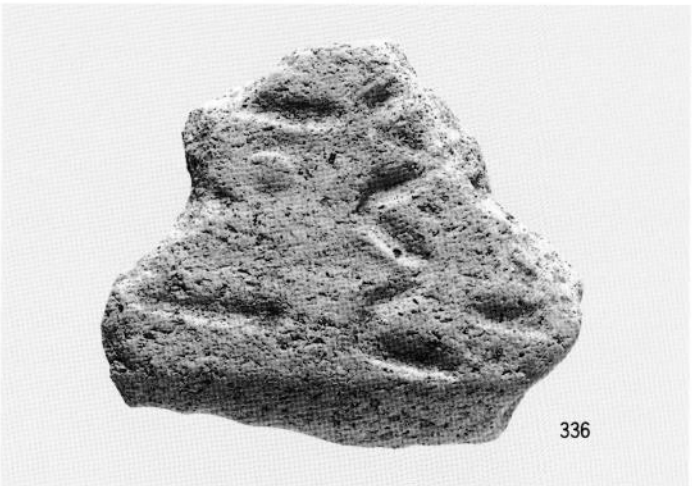


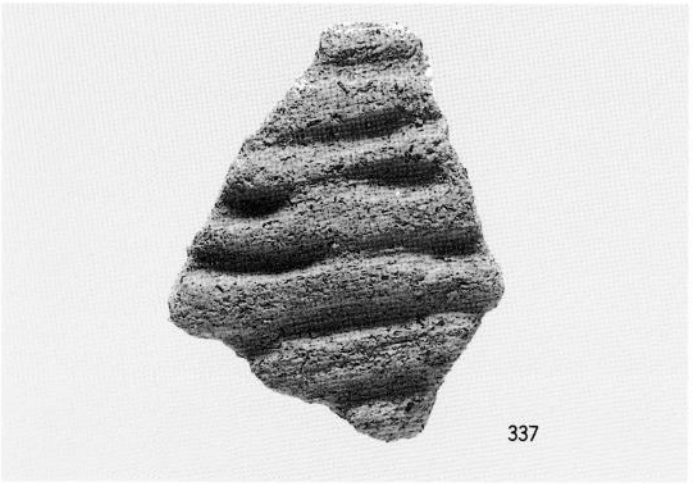
3号落込状遺構出土土器6

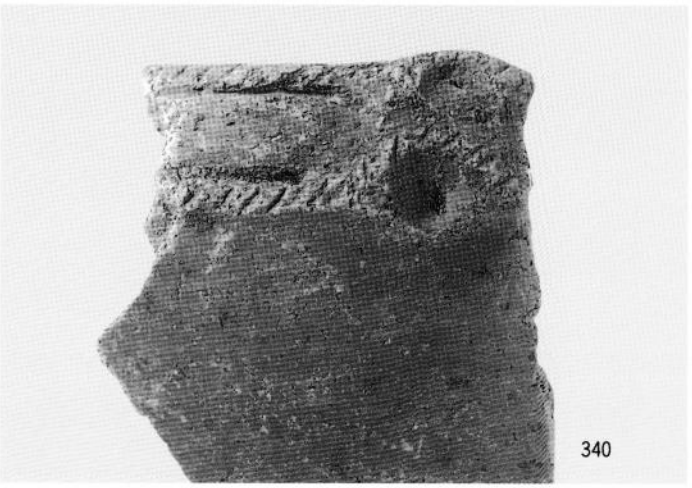


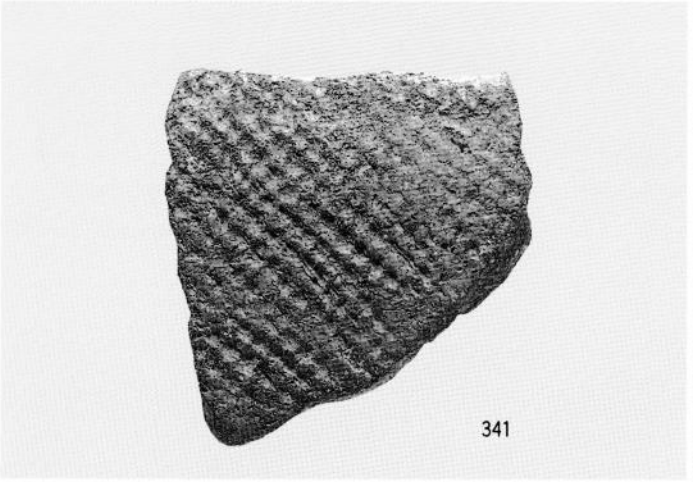
3号落込状遺構出土土器7

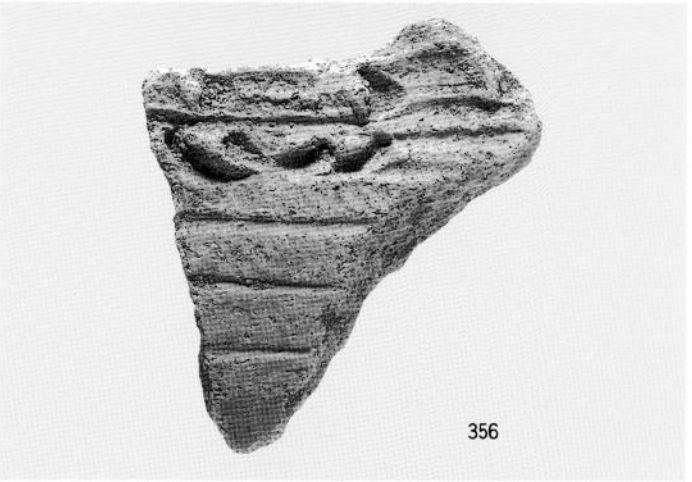


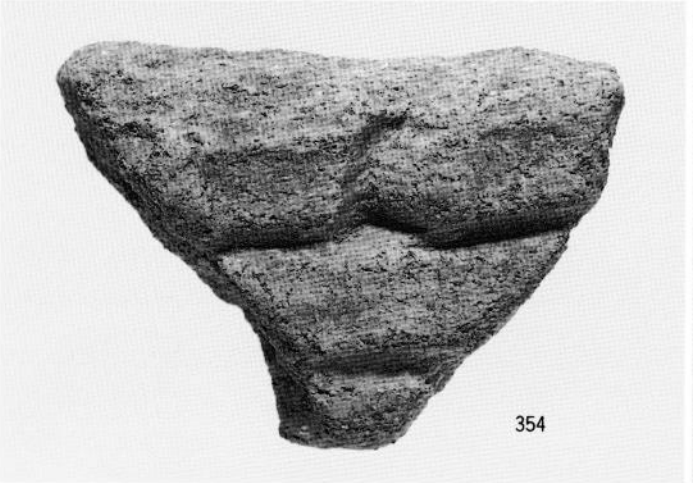




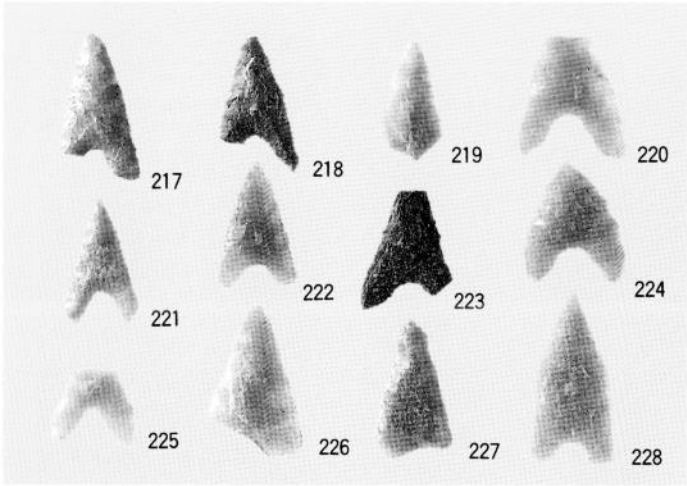


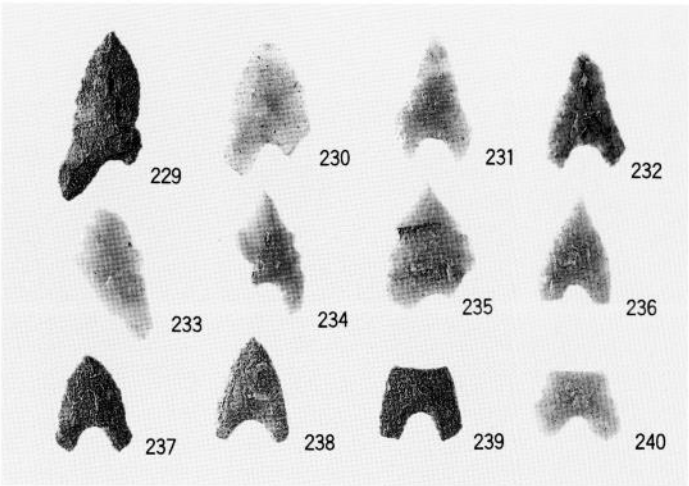


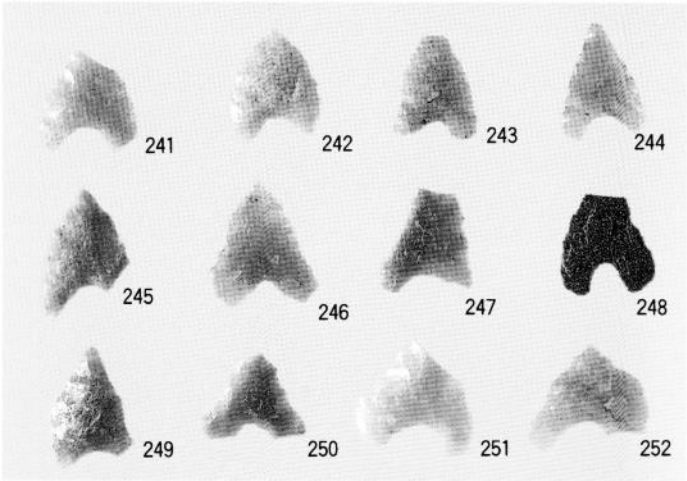


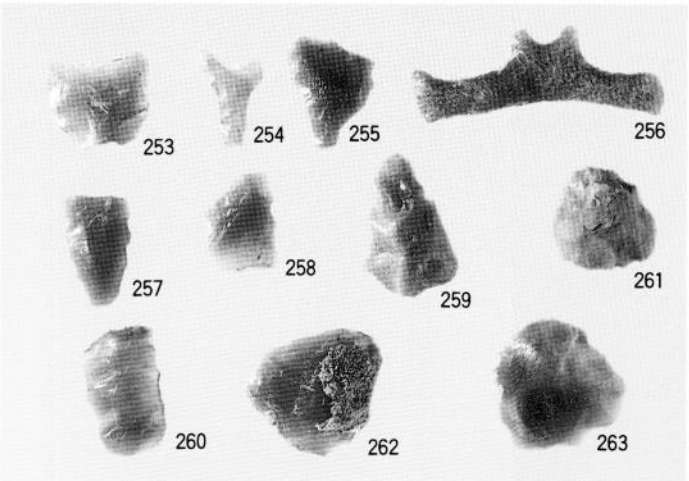


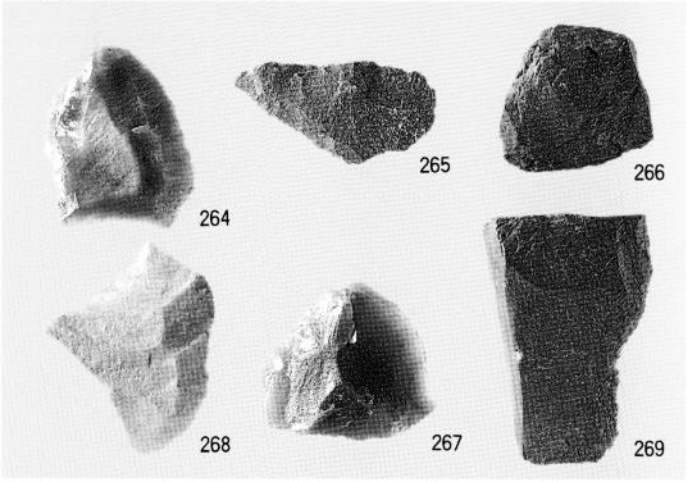
3号落込状遺構出土土器8

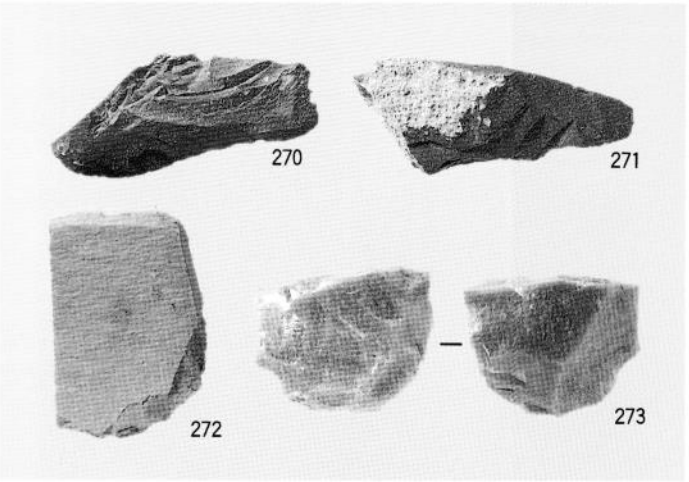


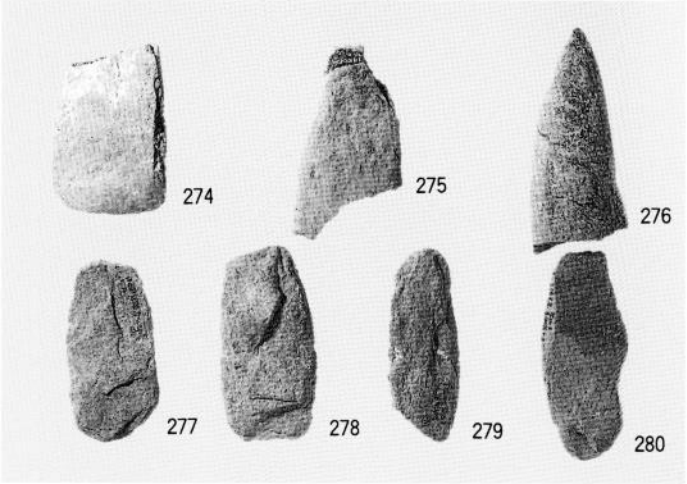


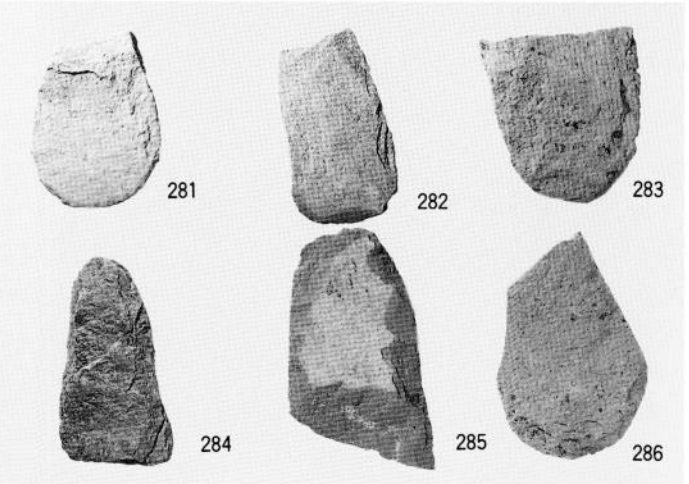




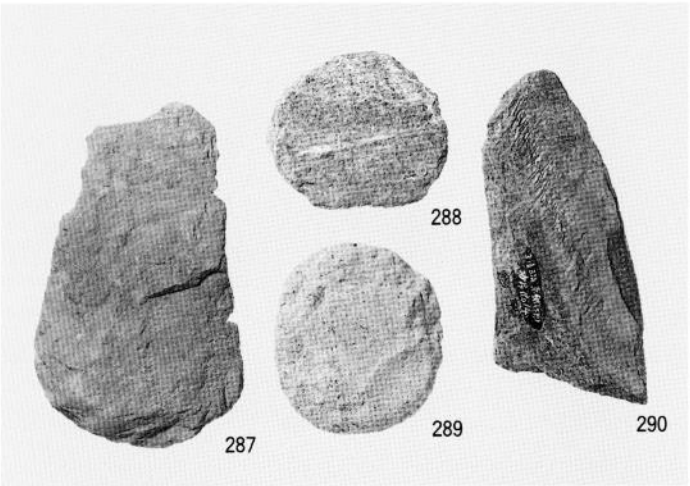


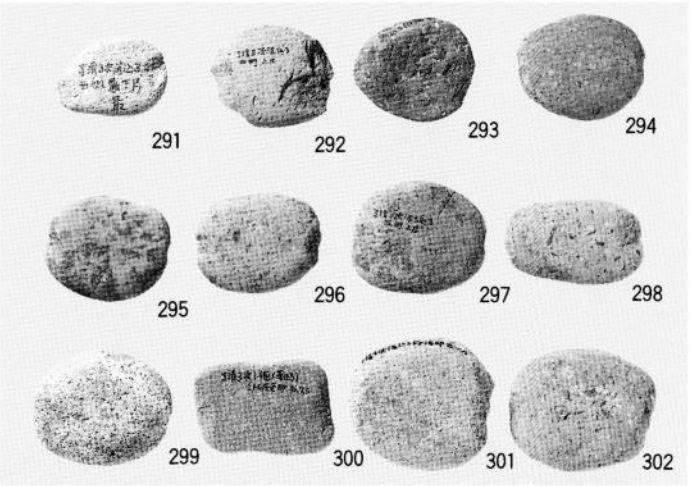


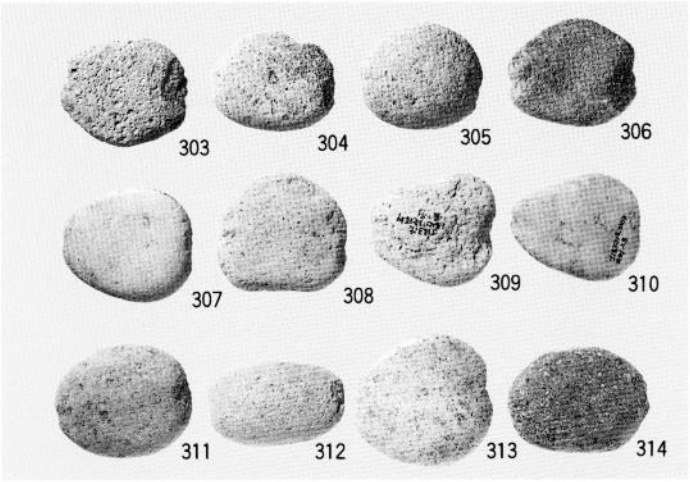


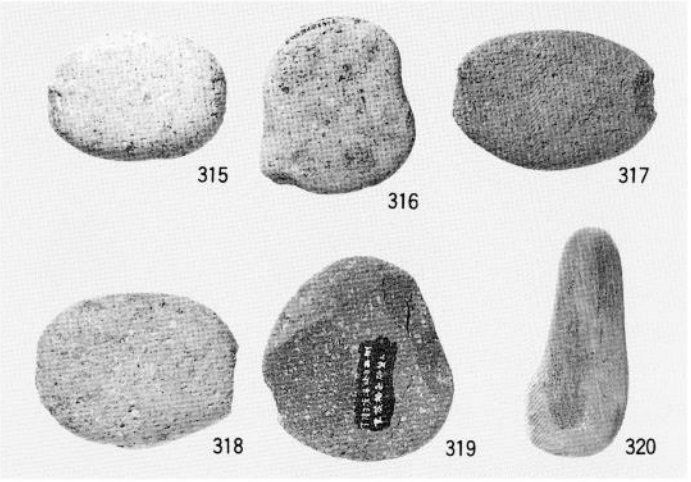


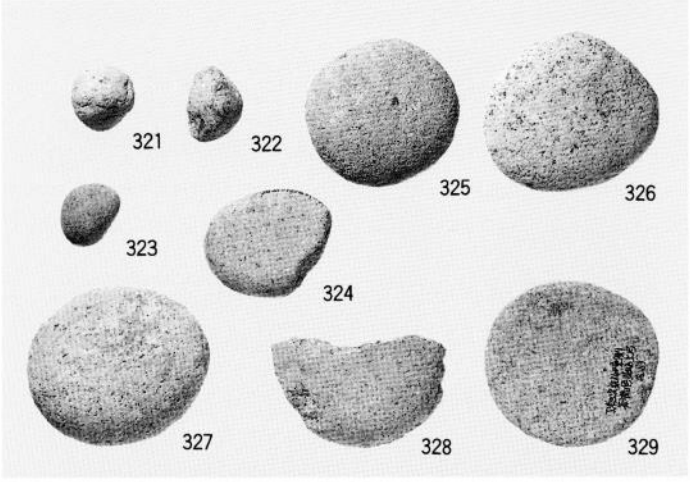
3 号落込状遺構出土石器 1

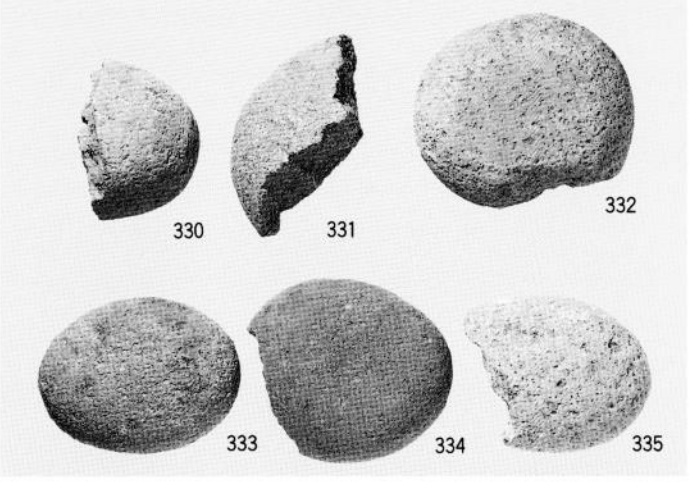


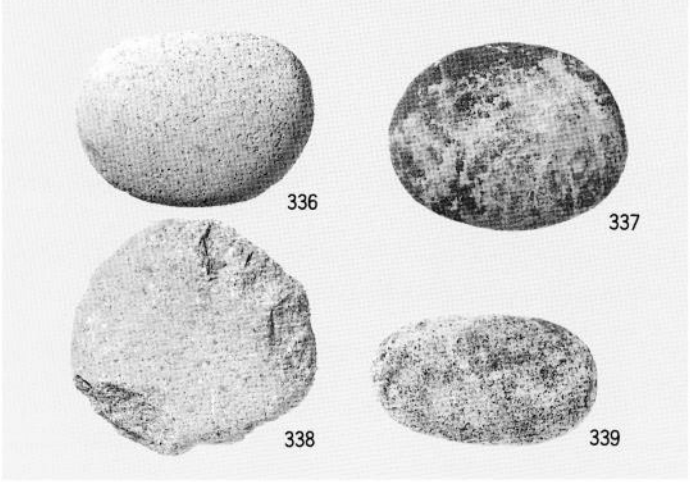


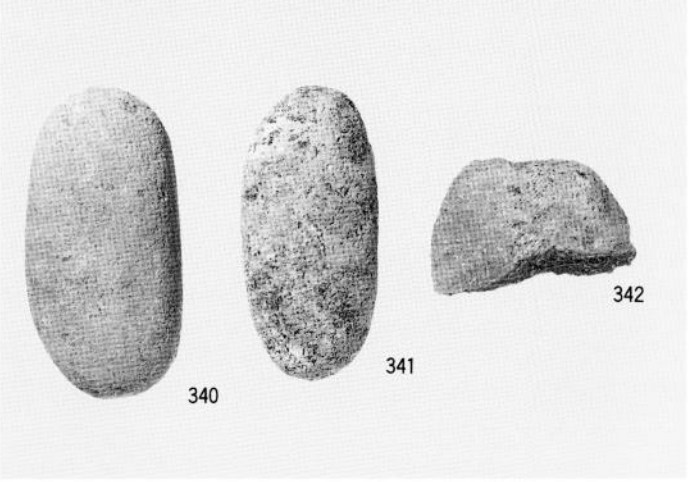




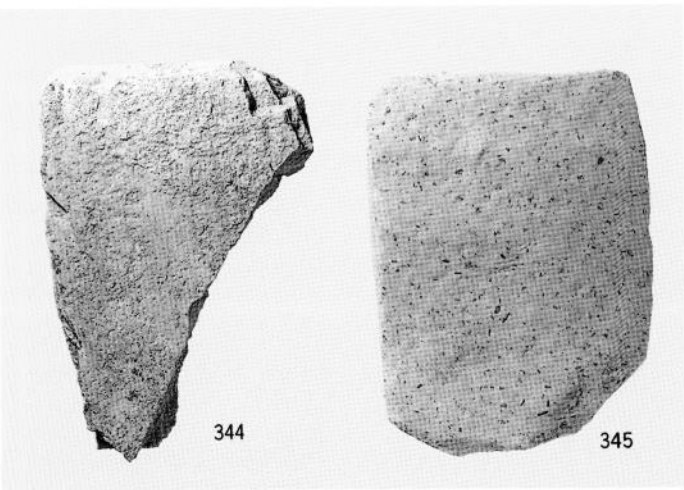


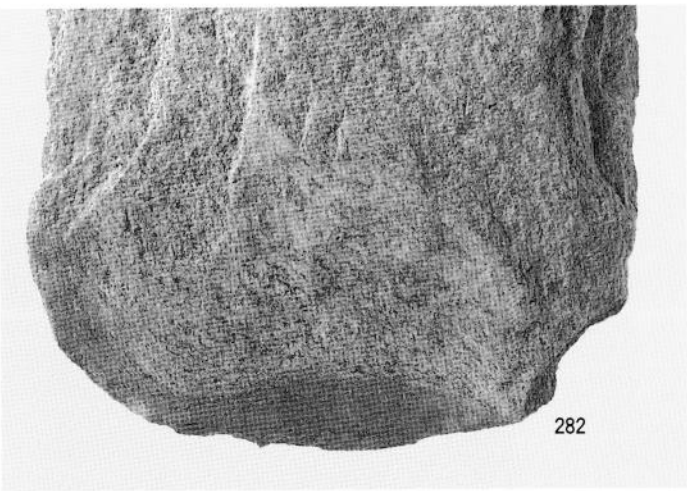


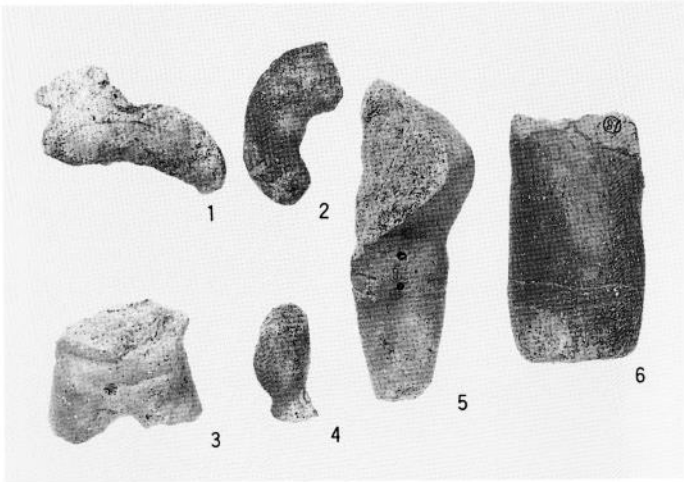


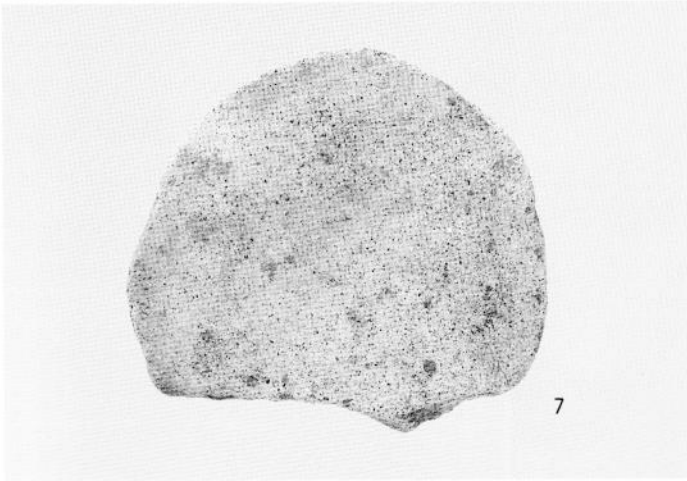


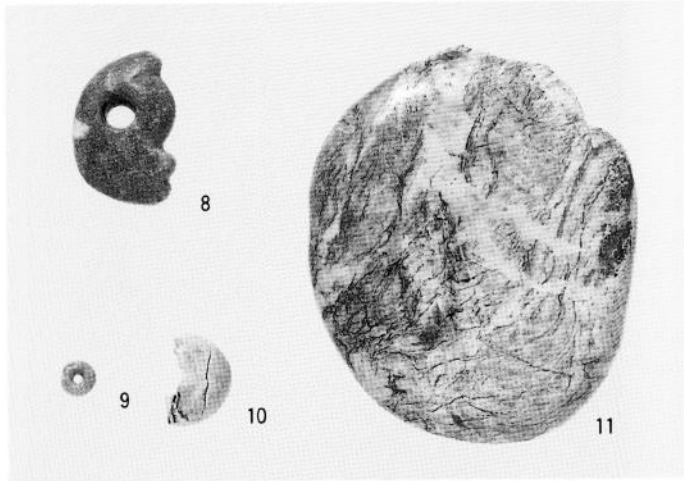
3号落込状遺構出土石器2

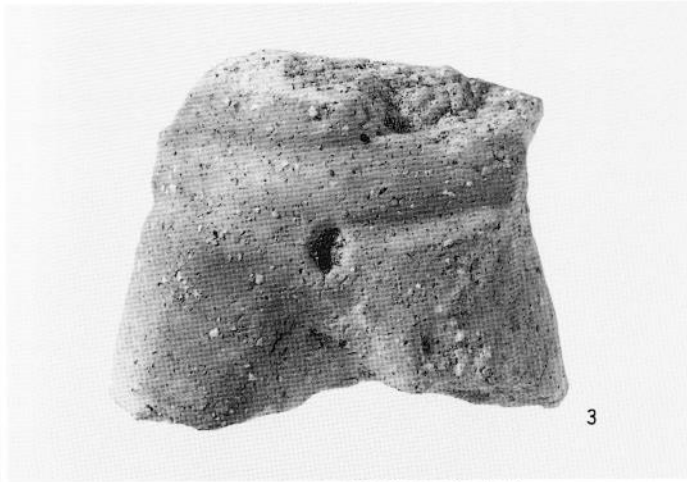


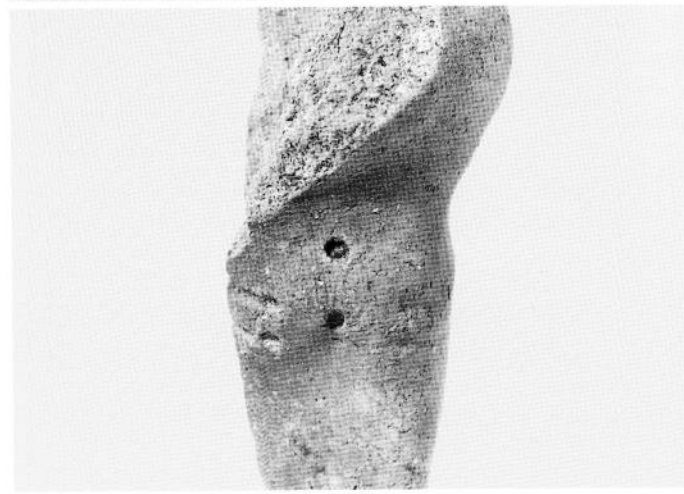


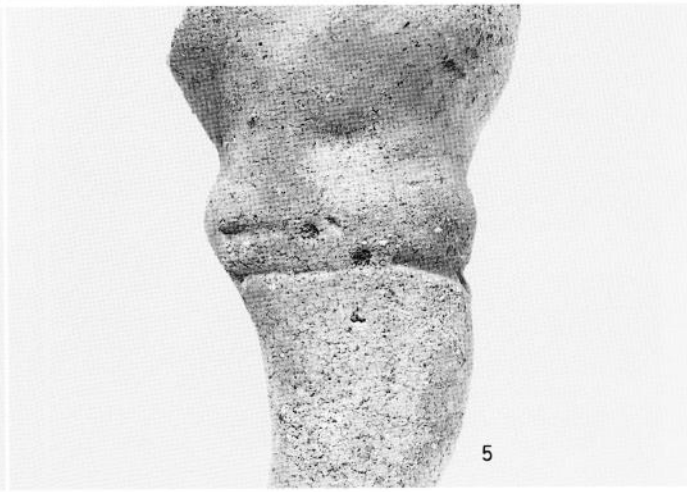




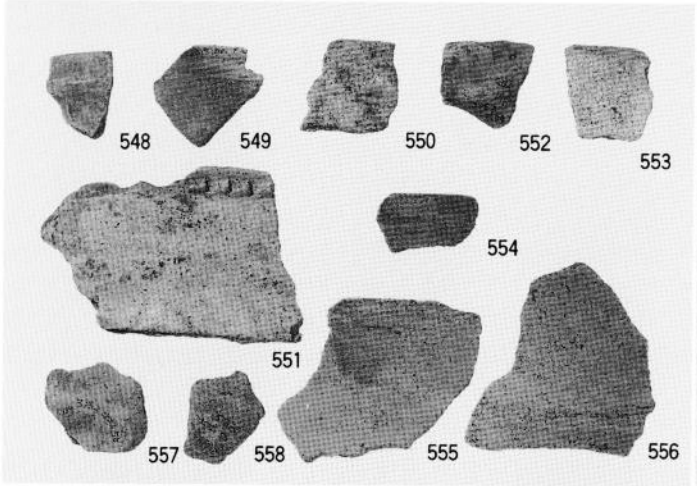


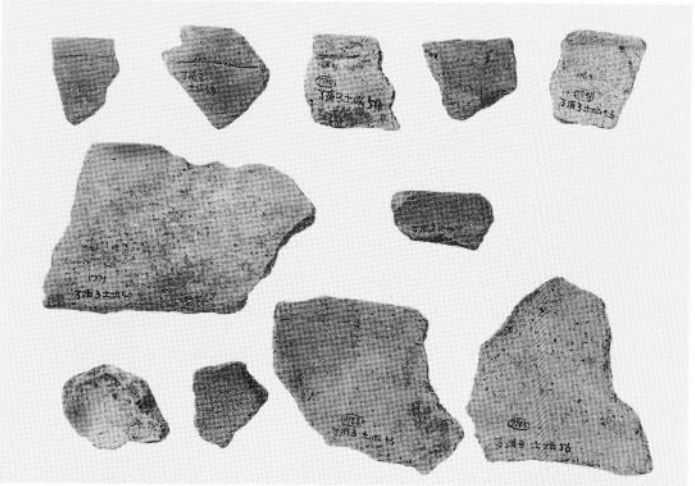


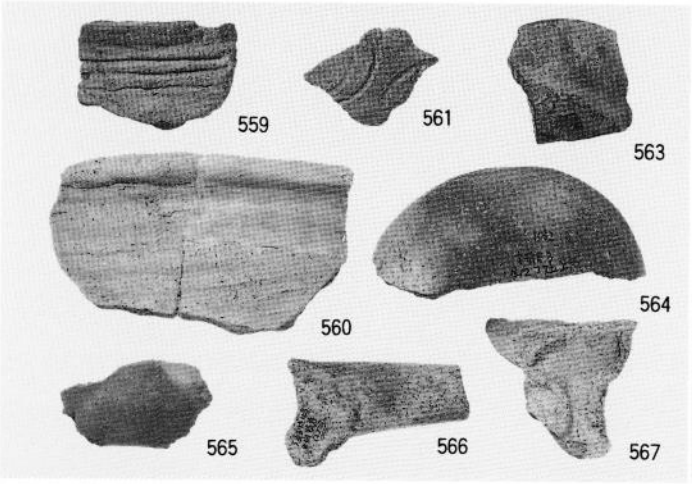


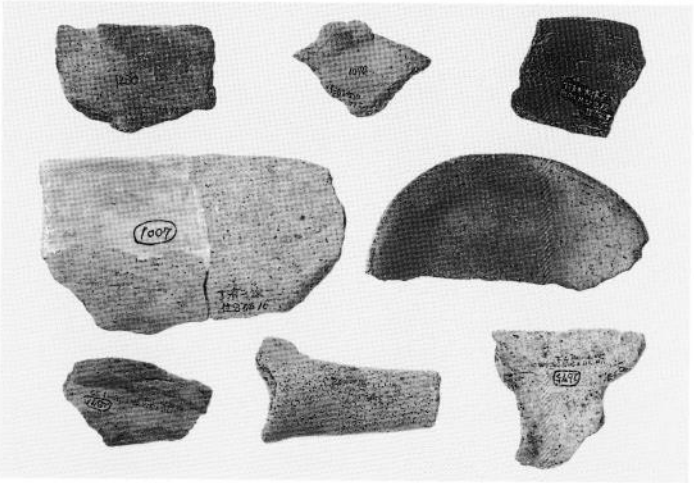


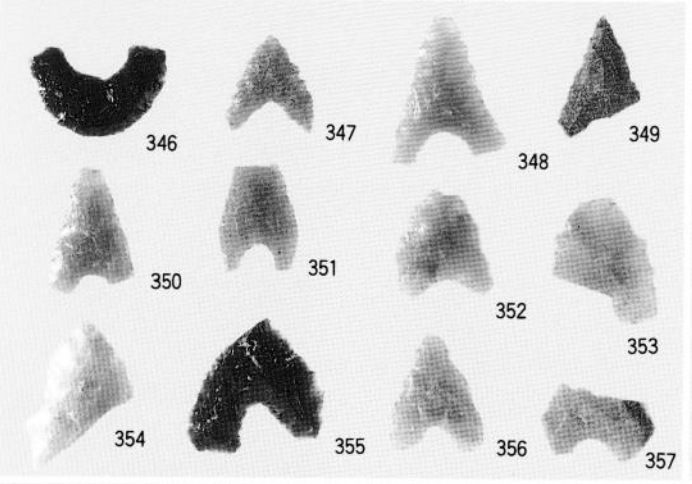
3号落込状遺構出土石器3・石製品・土製品

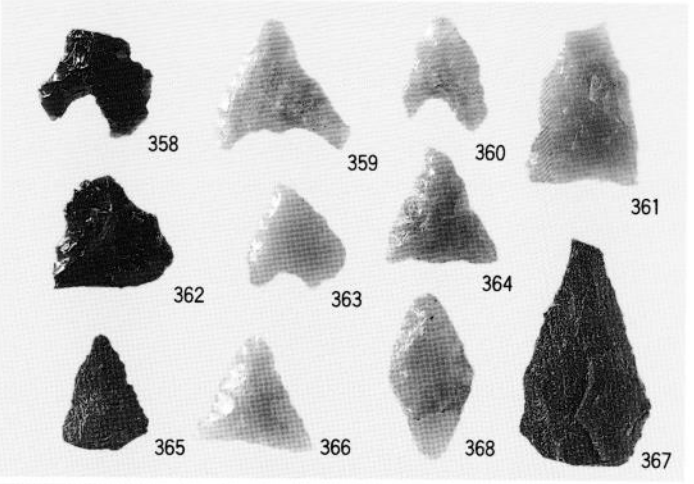


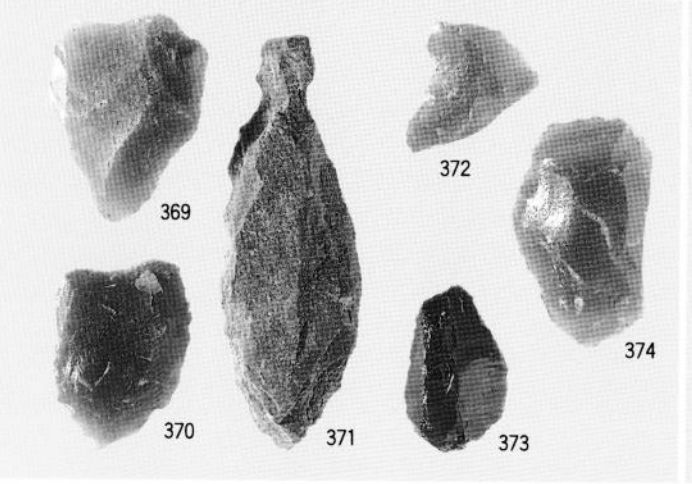


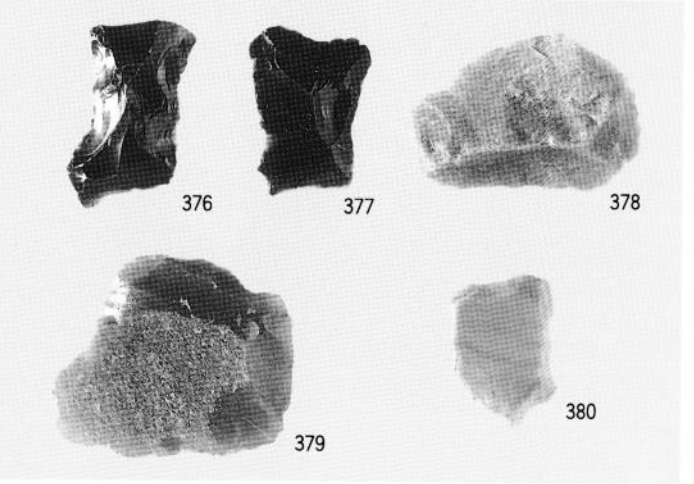




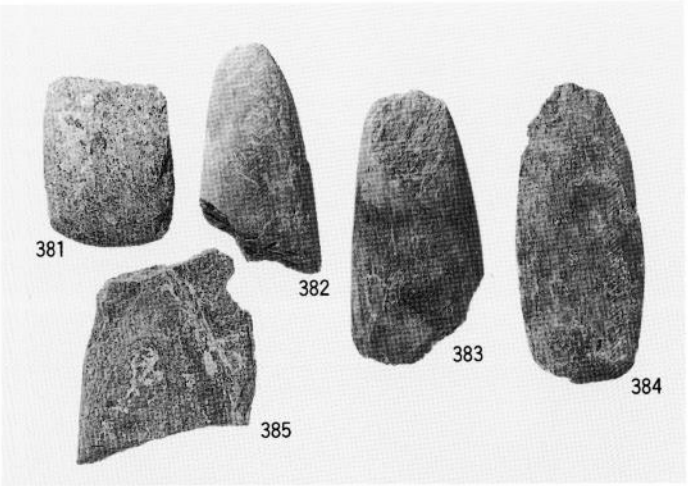


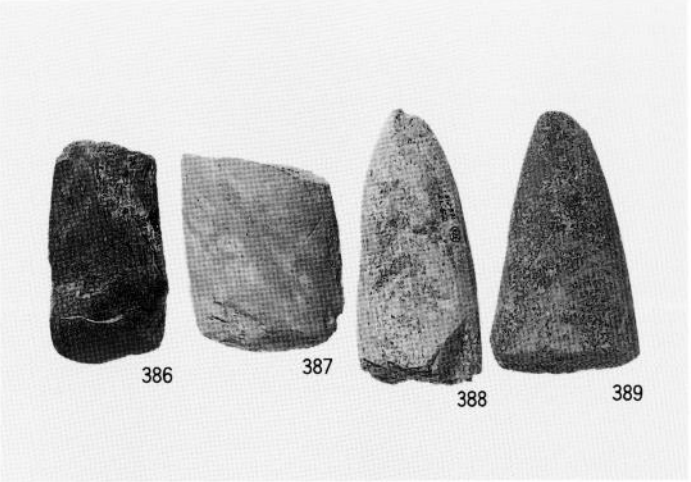


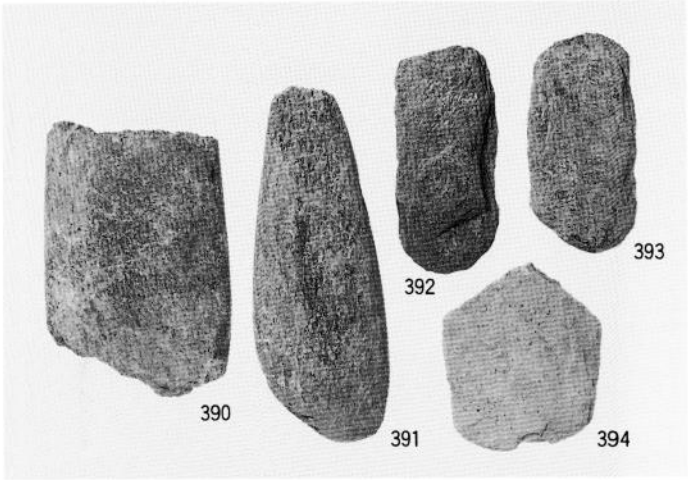


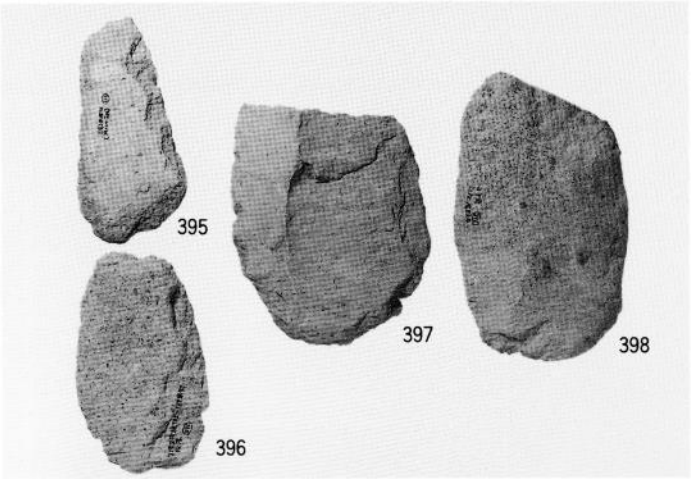


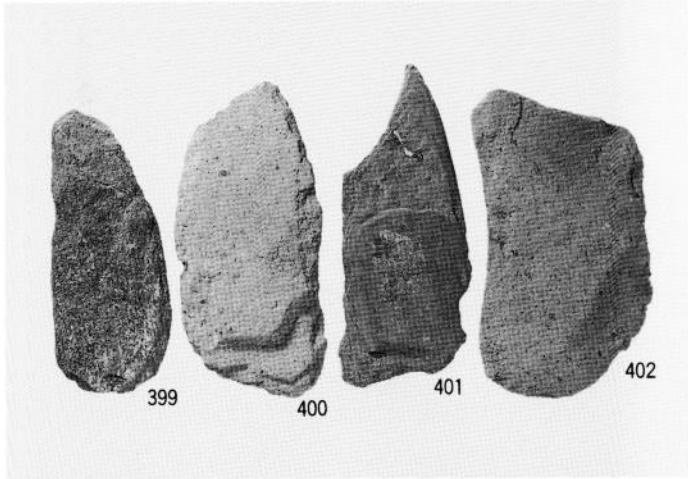
その他の遺構・層位出土遺物１

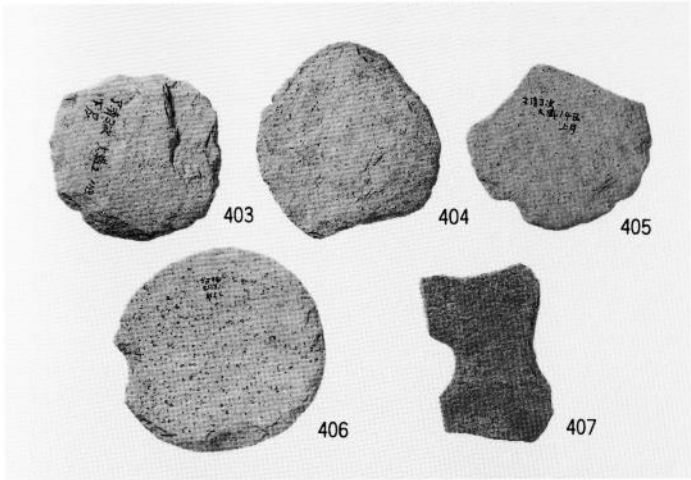


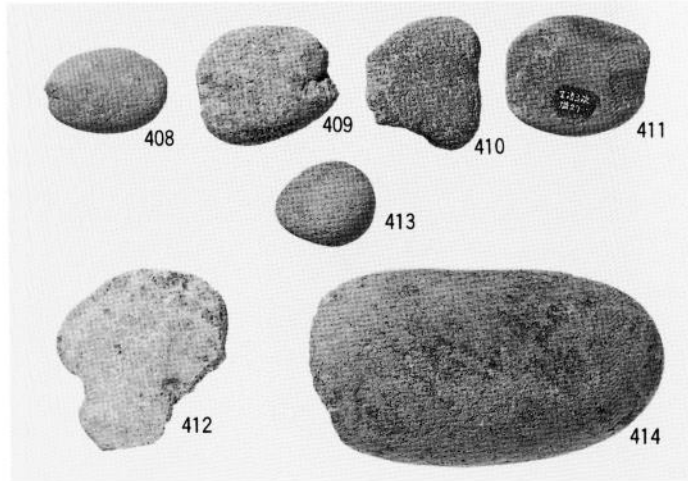


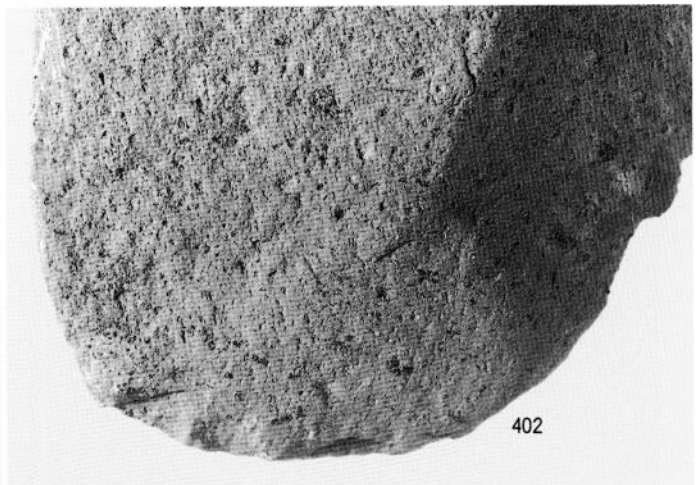




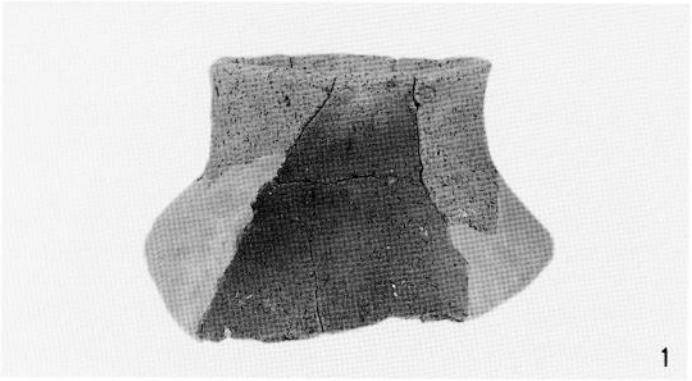


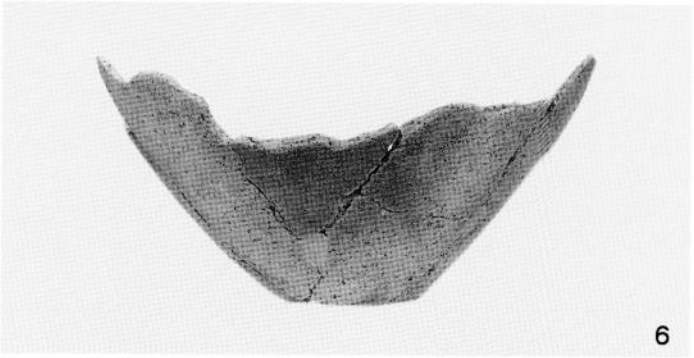


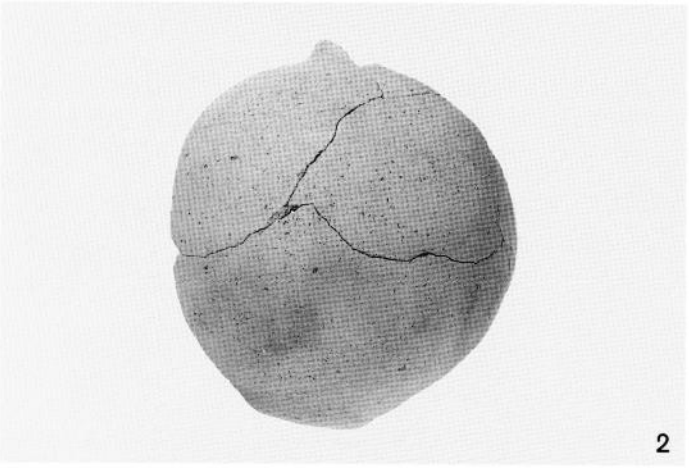


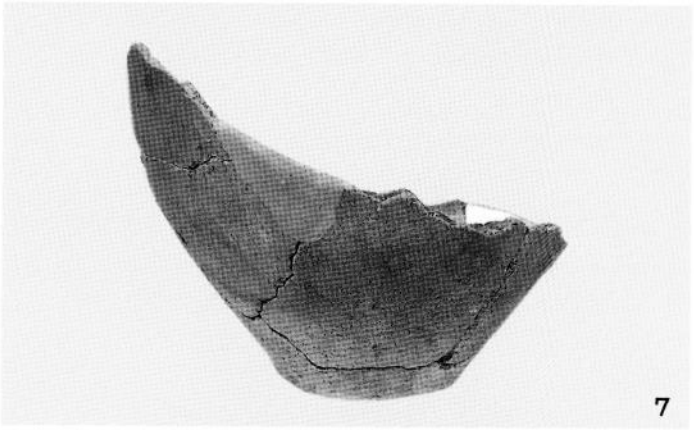


その他の遺構・層位出土遺物２


1

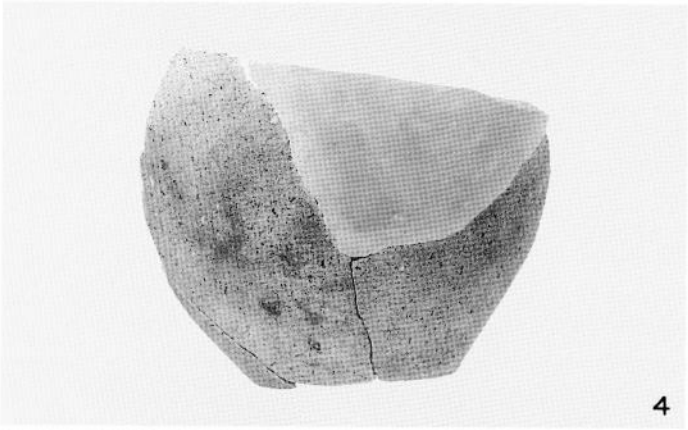

6

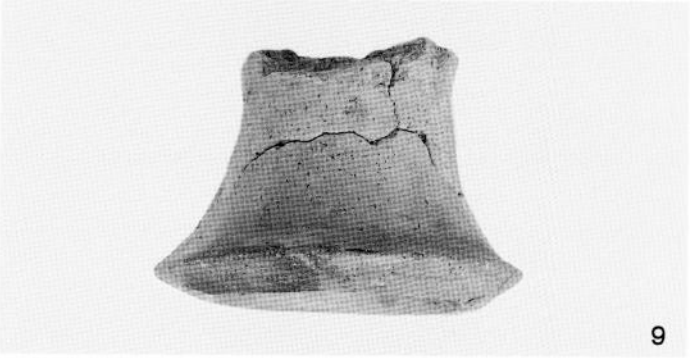

2

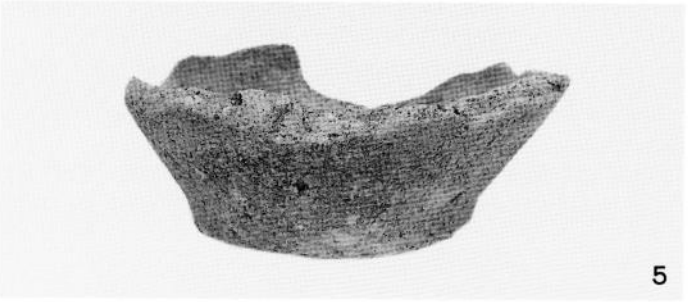

7

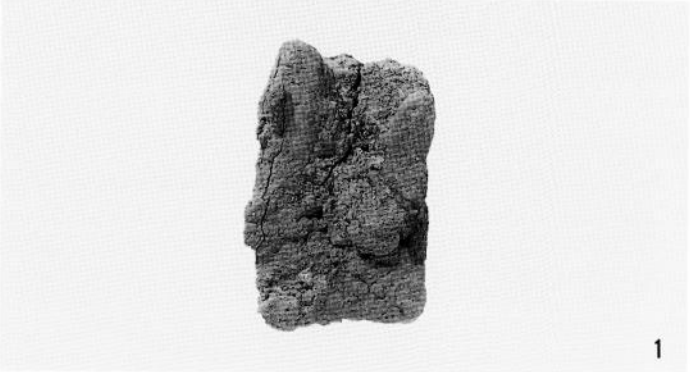
3

8

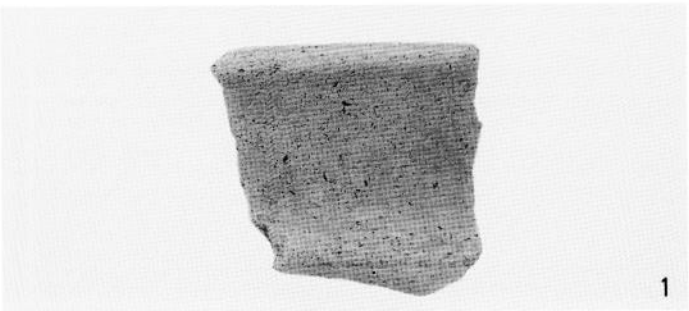

4

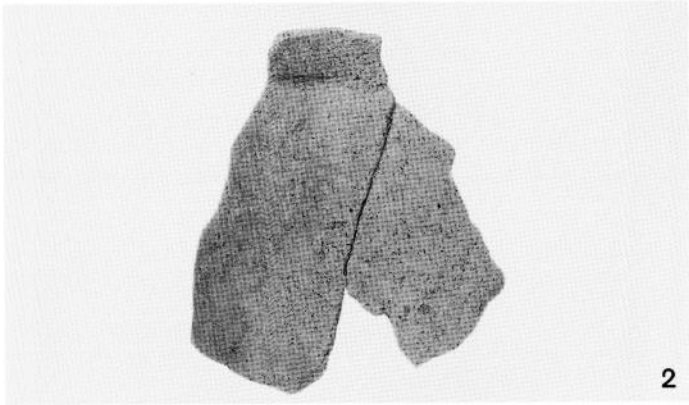

9

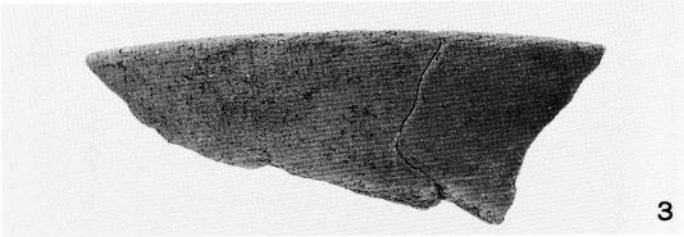

5

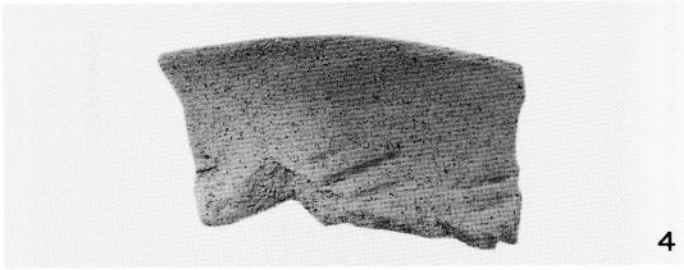

1

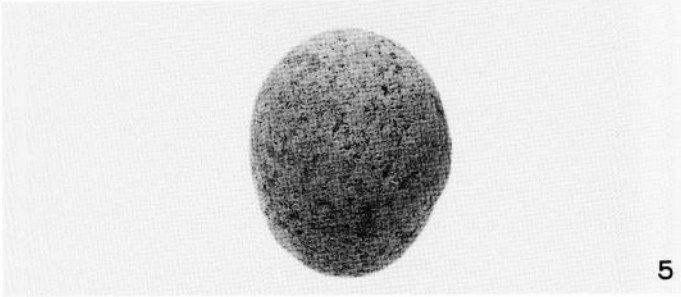
1・4号住居跡出土土器・鉄器

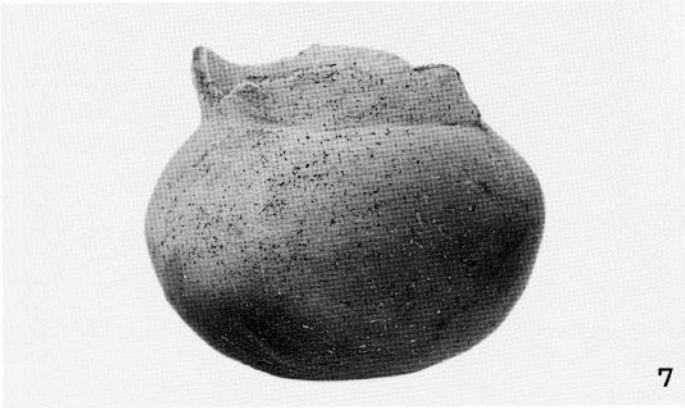


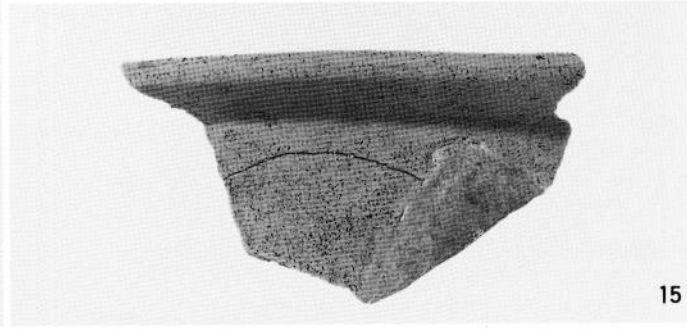




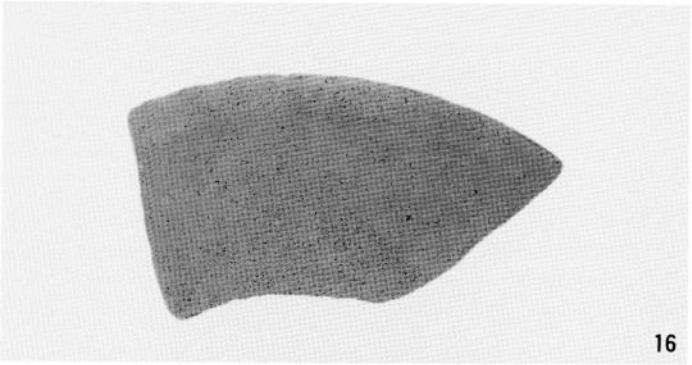


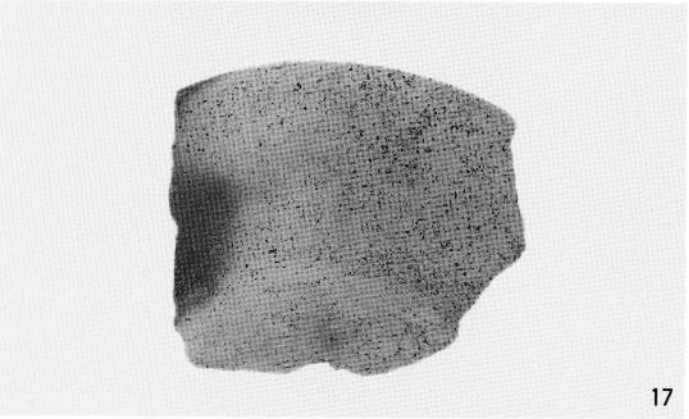


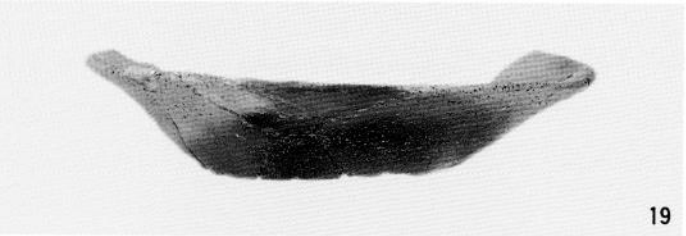




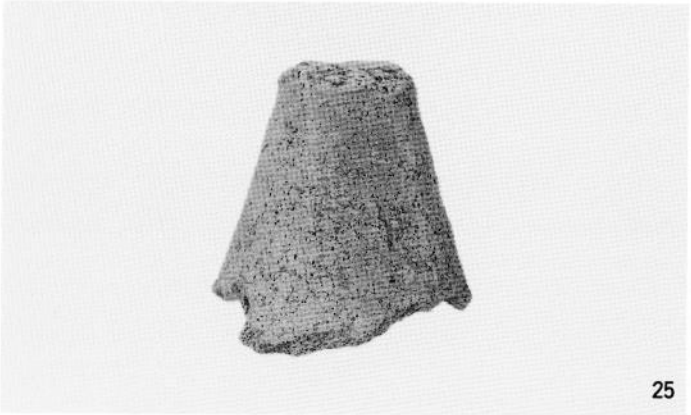
7・8号住居跡出土土器・石器

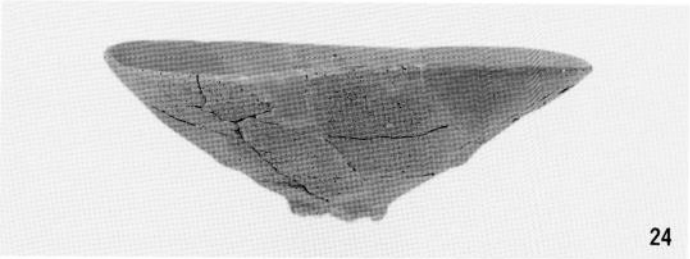

16

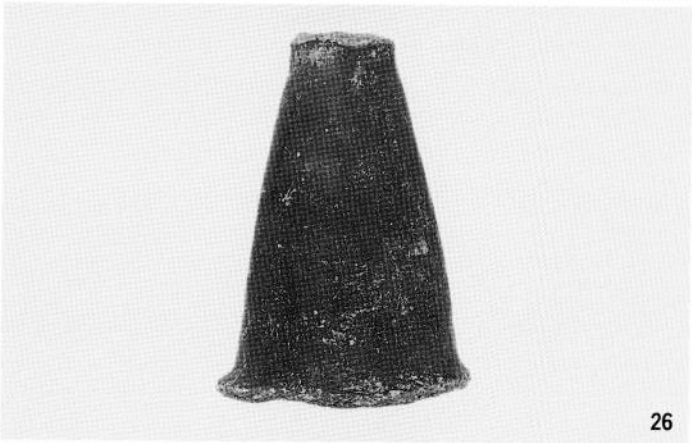

17

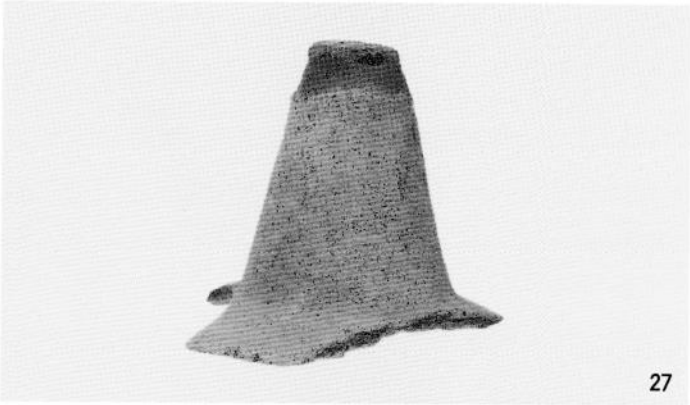

19

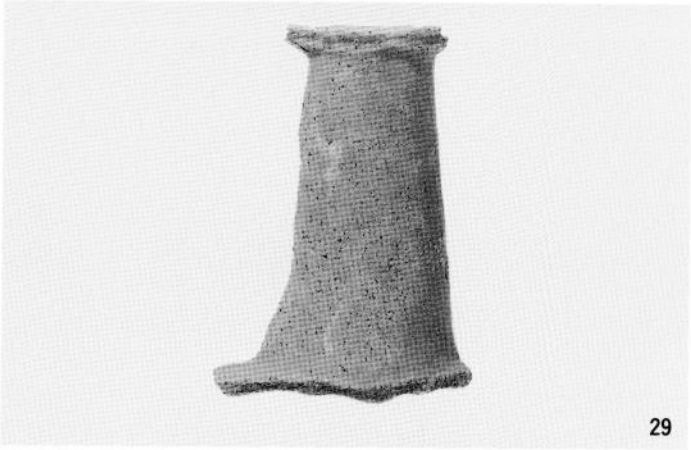
22

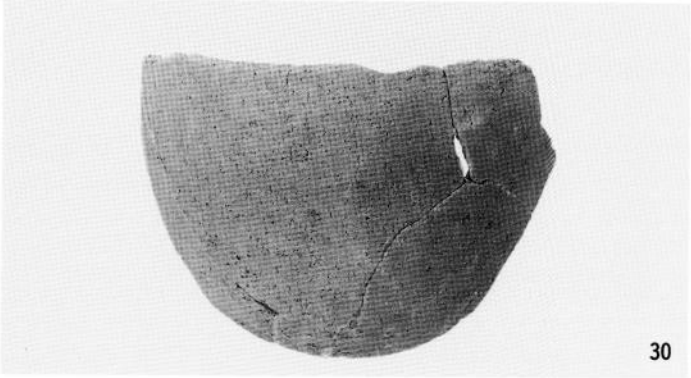

25


24


26

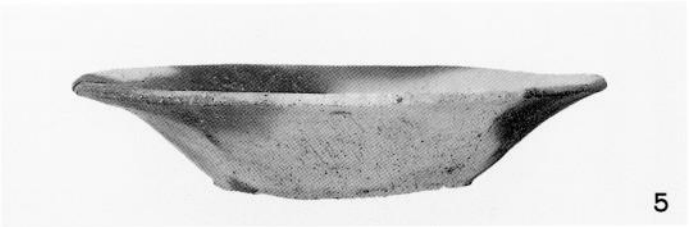

27


29


30

8号住居跡出土土器

1


5

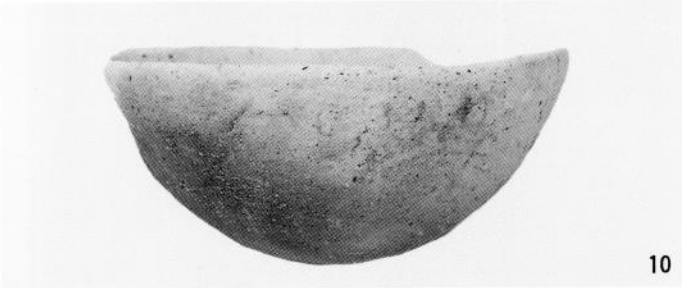
6

2

8

3

9


10

4

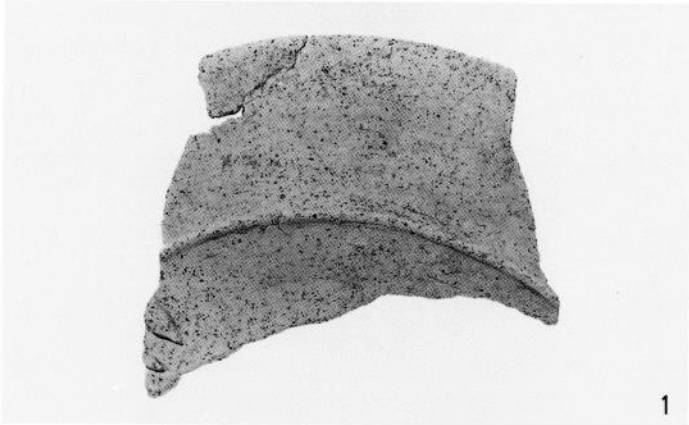
11

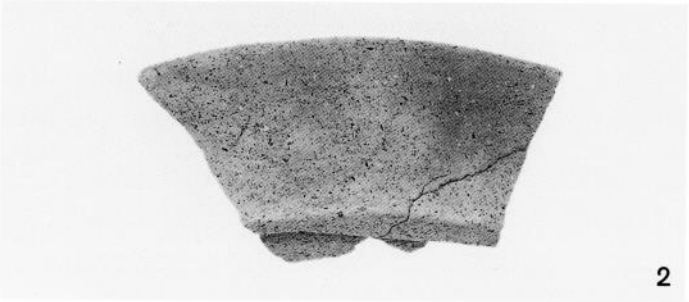
9号住居跡出土土器

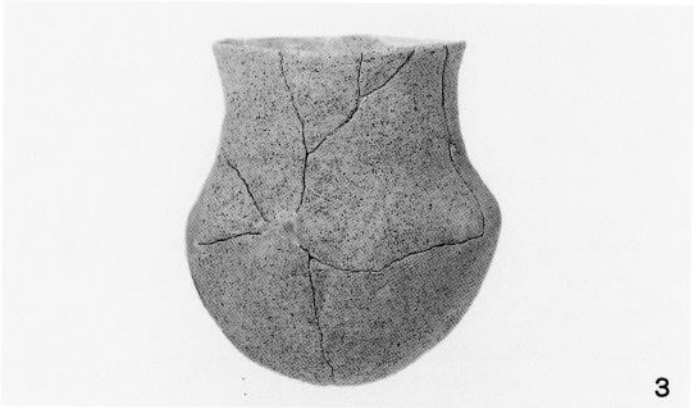
12

13

14


1


2


3

4

5

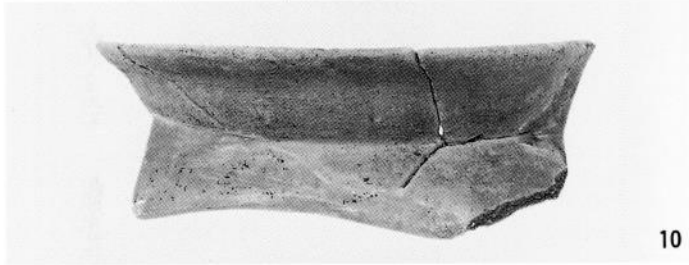
6

7

9・11・12号住居跡出土土器

8

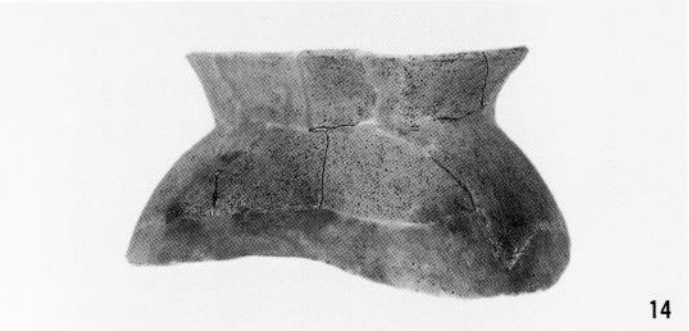
9


10

11

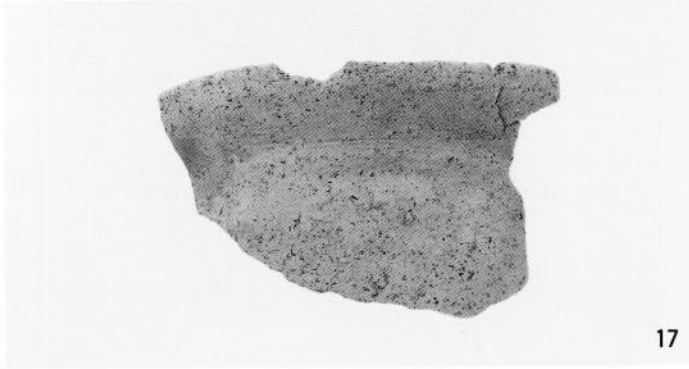
12

13

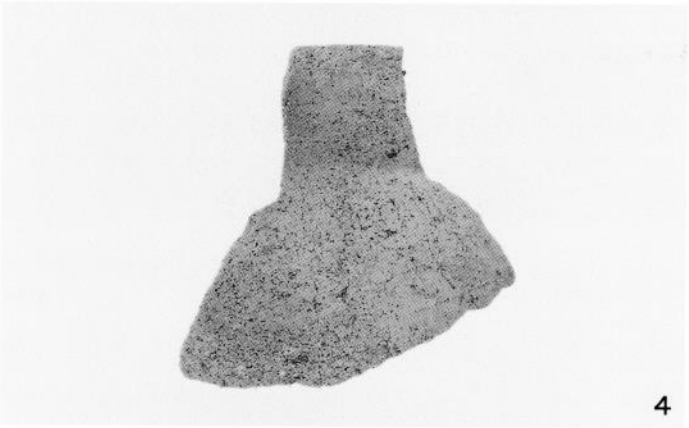

14

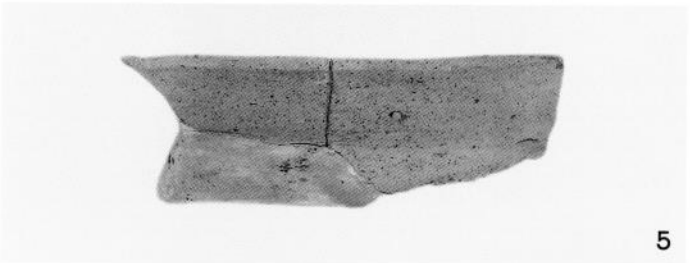
15

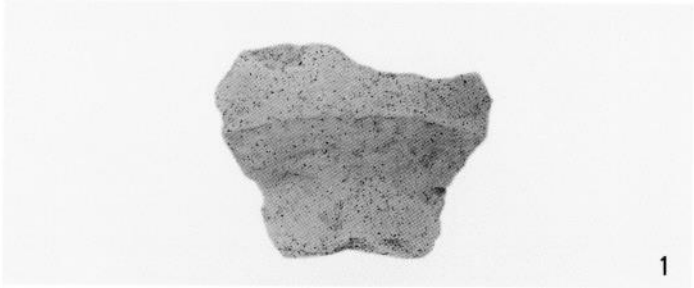
16

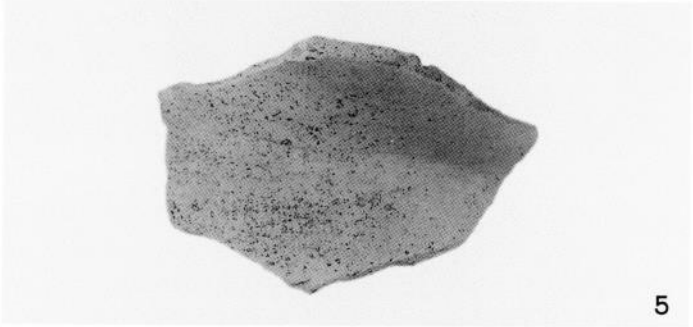

17

12号住居跡出土土器

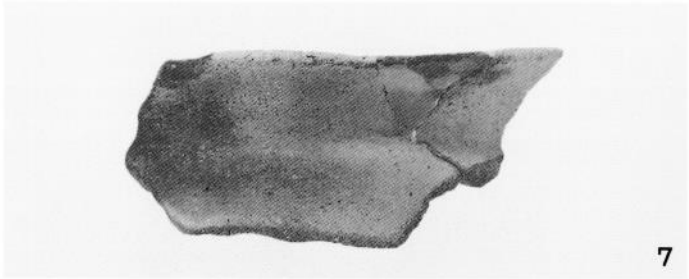








12・15・16号住居跡出土土器・鉄器

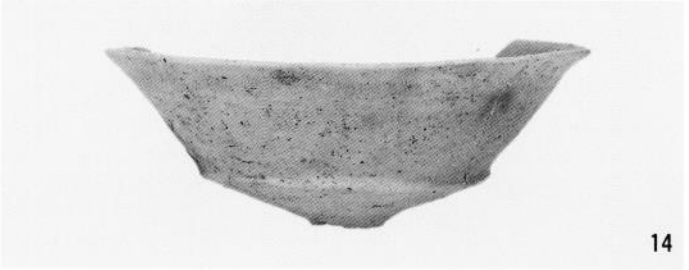

7

8

10

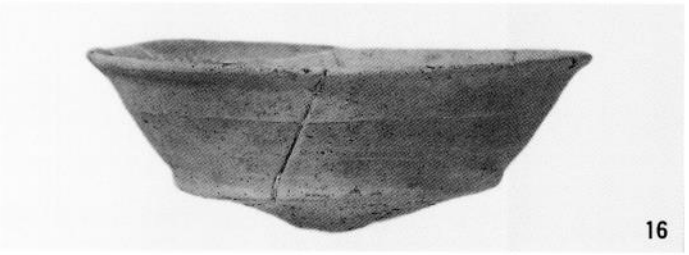
11

12


14

13

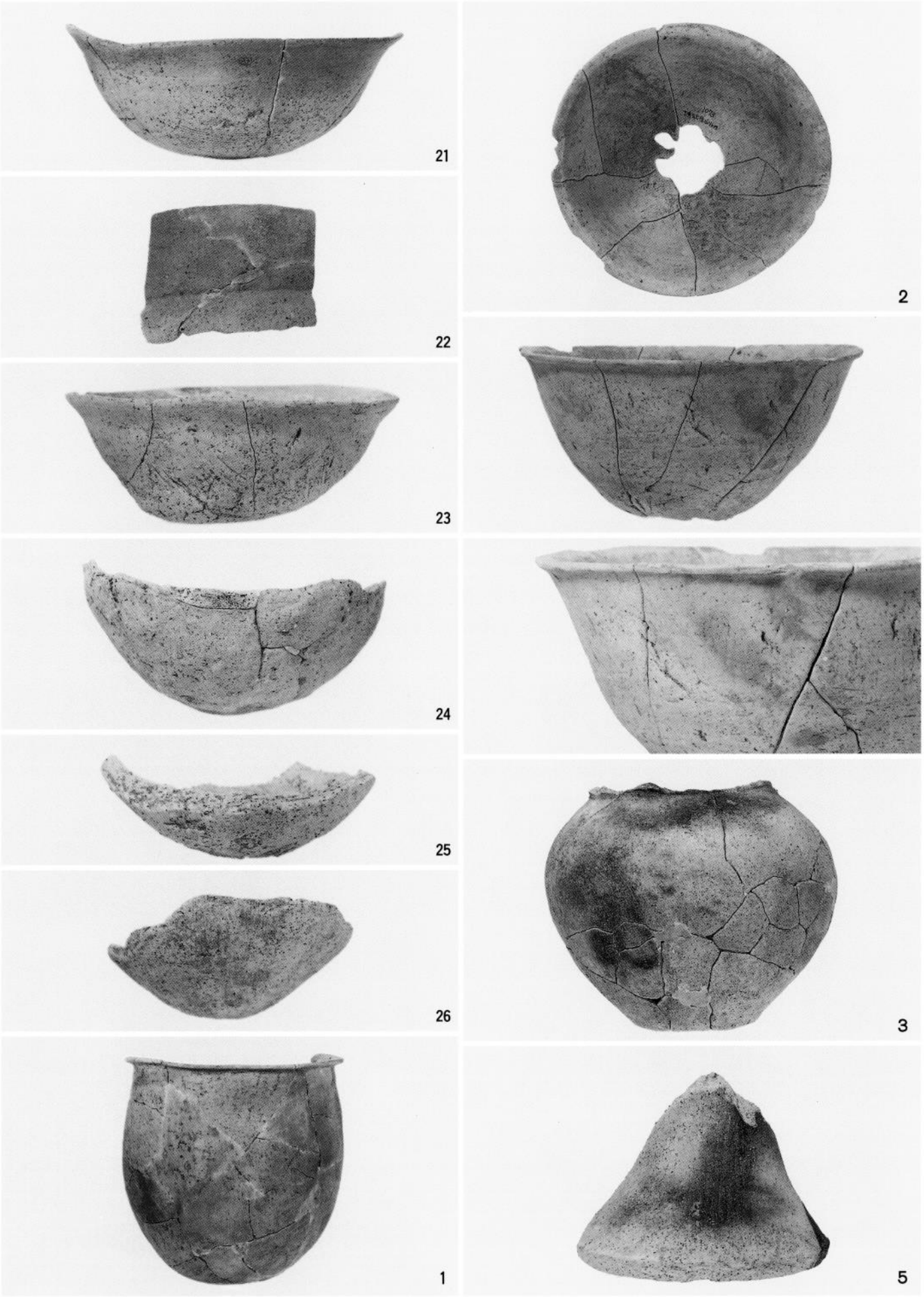
15


16

17

19

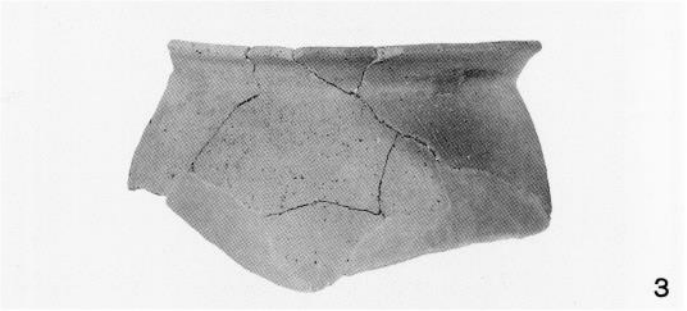
16号住居跡出土土器



16・17号住居跡出土土器

1

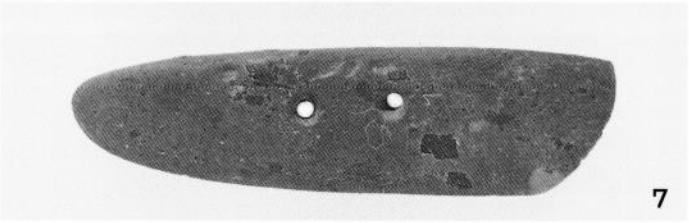
2


3

4

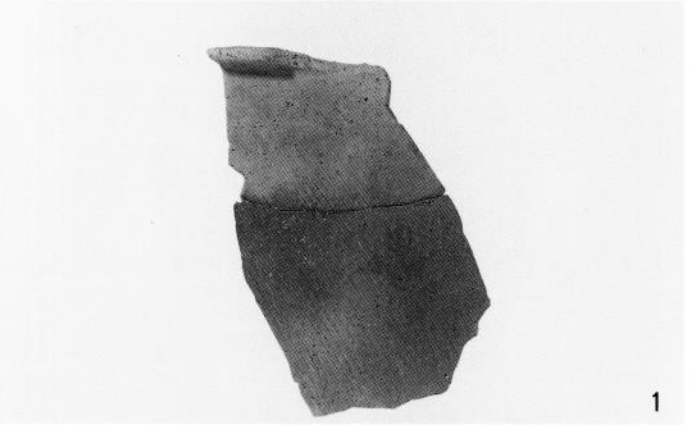
5

6


7

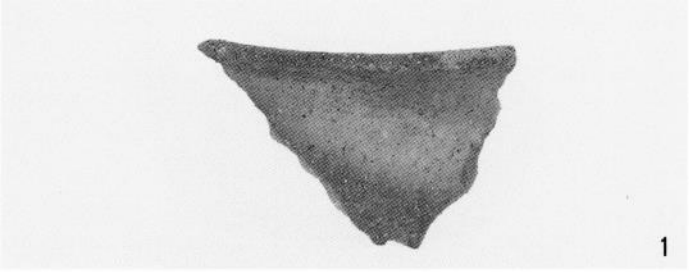
8

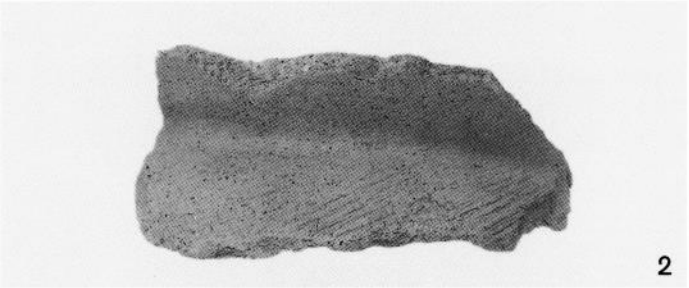
9

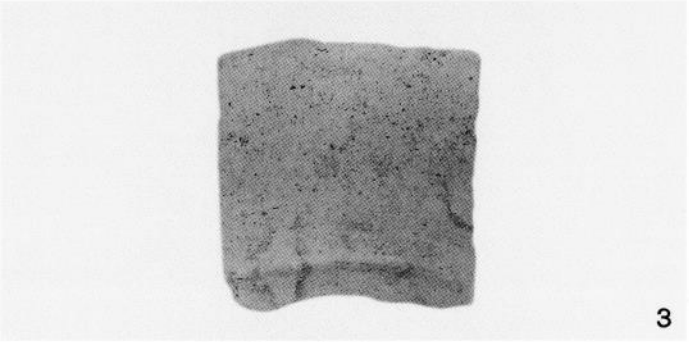

1

2

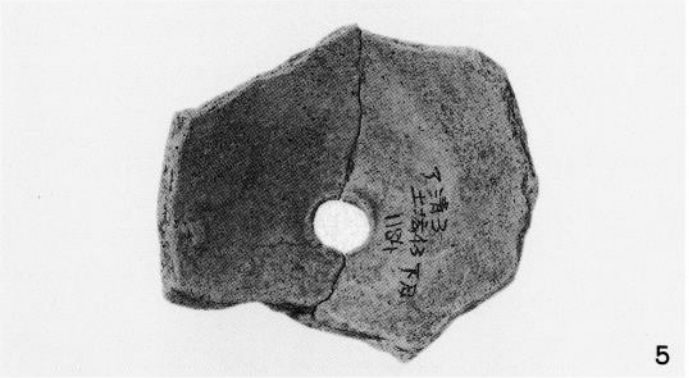
22・29・30・41号土坑出土土器・石器


1

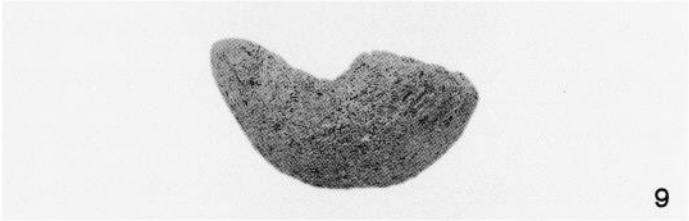

2

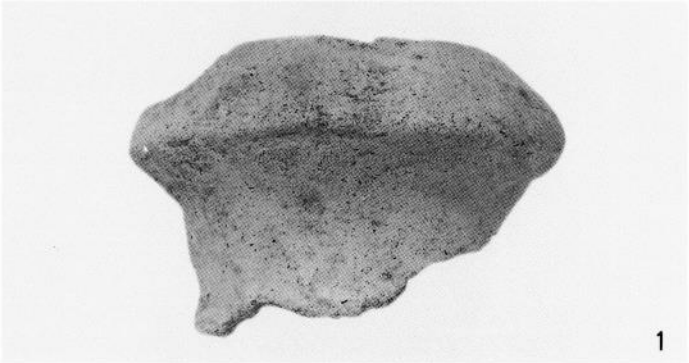

3

4


5

7


9


1

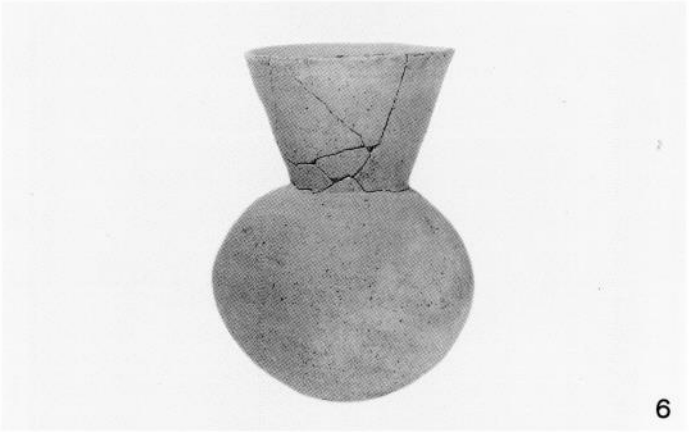
2

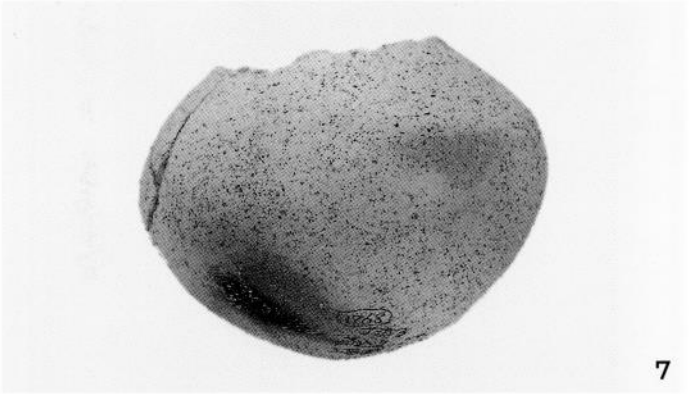
3

4

43・45号土坑、その他の遺構・層位出土土器1

5

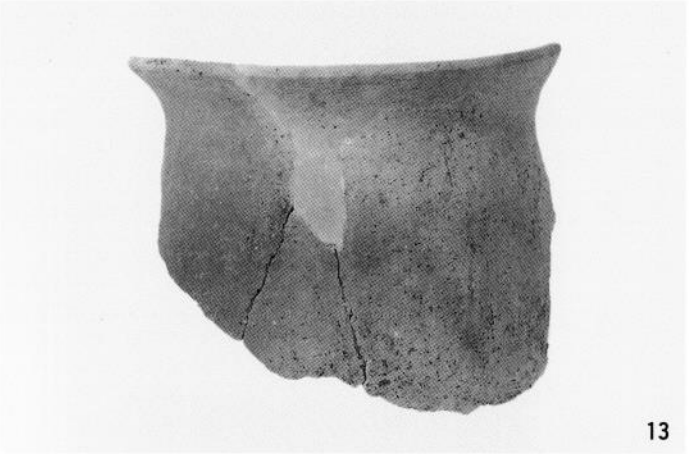

6


7

9

11

10


13

14

15

その他の遺構・層位出土土器 2

16

21

18

23

19

24

20

25

22

30

その他の遺構・層位出土土器３

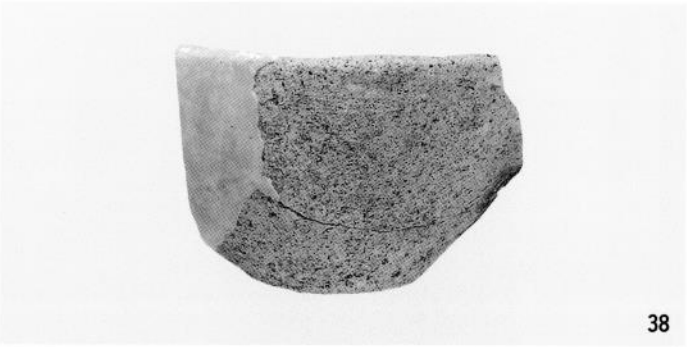
31

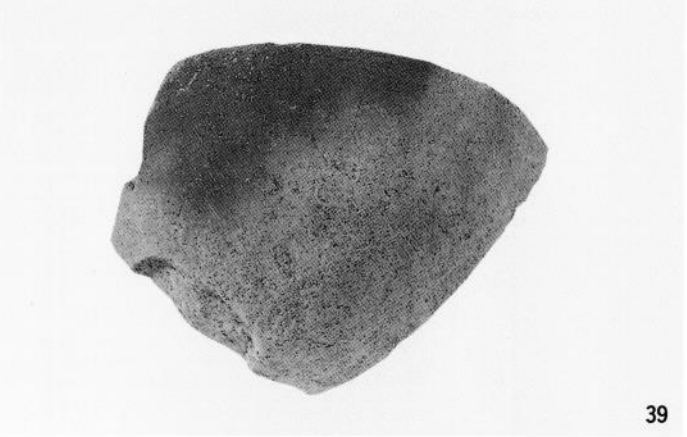
34

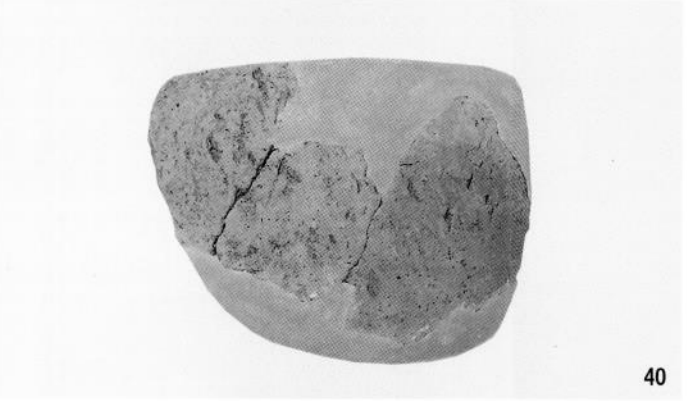
35

36

37


38


39


40

41

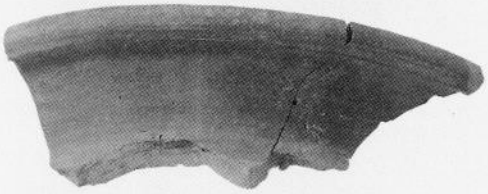
42

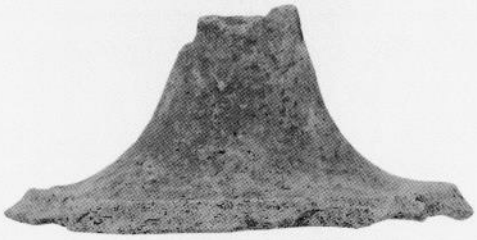
その他の遺構・層位出土土器 4

43

44

45


46


47

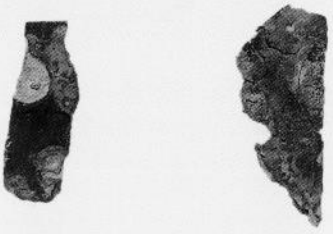
48

49

a

b

52


c

その他の遺構・層位出土土器5・鉄器・青銅器

報告書抄録

ふりがな	かみとうばるりょうせい いせき
書名	上唐原了清遺跡Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	5
編著者名	吉村 靖徳
編集機関	福岡教育委員会
所在地	〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7番7号
発行年月日	西暦2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみとうばるりょうせいいせき 上唐原了清遺跡	ふくおかけんちくじょうぐん 福岡県築上郡 たいへいむらおおあざかみとうばる 大平村大字上唐原 あざりょうせい 字了清	40645	960194	33° 33′ 50″	131° 11′ 30″	第2次調査 19950823 ～ 19951221 第3次調査 19960603 ～ 19970124	12,400㎡	山国川 堤防改 築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上唐原了清遺跡	集落	縄文時代	落込状遺構・土坑	土器・石器・土偶・勾玉	遺物多量
		弥生時代	住居跡・土坑・溝	土器・石器・鉄器	
		古墳時代		土師器・須恵器	

Kamitoubaru-Ryôsei Site

福岡県行政資料	
分類番号 ＪＨ	所属コード ２１３３０５１
登録年度 11	登録番号 13

一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告

第 5 集

上唐原了清遺跡

平成12年３月31日

発 行 福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園７番７号

印 刷 株式会社マツモト
北九州市門司区社ノ木1丁目2番1号

一級河川山国川築堤関係
埋蔵文化財調査報告 5

上唐原了清遺跡 II

付図 上唐原了清遺跡遺構配置図(1/400)

付図　上唐原丁清遺跡遺構配置図（1/400）